好評発売中!!

プレイステーション®必勝法スペシャル

PlayStation

戦國夢幻

無数の軍勢が割拠する戦乱の世を生き抜く!

シナリオ①~⑥を完全攻略
全1321人の武将データ掲載!!

プレイステーション必勝法スペシャル　戦国夢幻　ケイブンシャ

ISBN4-7669-3845-3
C0076 ¥1500E
9784766938456

1920076015007
●定価:本体1500円+税

表紙イラスト　丹野 忍

人間五十年
下天のうちを比ぶれば
夢幻の如くなり
ひとたび生を得て
滅せぬもののあるべきか

第一章　システム紹介
・コマンド解説　・戦国指南

兵種ごとの攻撃力の違いや、武将の能力が向上する条件など、ゲームだけでは分からないマスクデータを一挙公開!

第二章　大名列伝
全大名の攻略を武将数、石高、兵士数のデータを元に充実解説!　また、歴史上の人物のエピソードも紹介してある

第三章　データベース
・武将列伝　・武将データベース
・シナリオ別浪人リスト
・国力データベース
・全国最大石高・特産品図
・データランキング
・イベント発生条件

全武将、全城、全浪人、全イベントを掲載。忠臣属性や能力値が上がりやすい武将、最大石高などマスクデータも公開!

好評発売中!!

株式会社 勁文社 発行　平成13年7月10日 初版

プレイステーション® 必勝法スペシャル

無数の軍勢が割拠する
戦乱の世を生き抜く！

シナリオ①〜⑥を完全攻略
全1321人の武将データ掲載!!

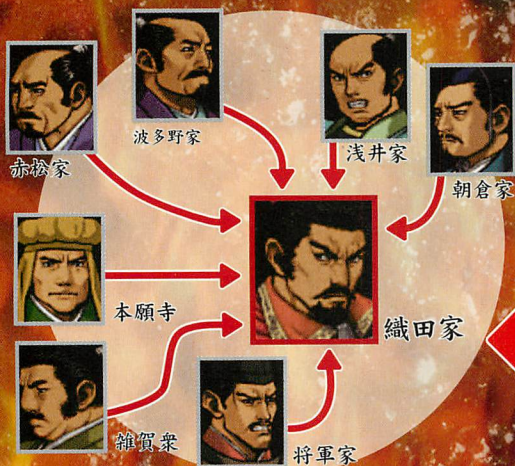
S E N G O K U　M U G E N

プレイステーション必勝法スペシャル

戦國夢幻

戦国夢幻
せんごくむげん

一四六七年一月十八日。山名宗全、細川勝元の政権争いから端を発した応仁の乱は、京都全土を瓦礫の焦土に変えた。弱肉強食、力が全て。利も義も智もなく、ただ総領の座のために同族が殺し合う不毛な時代、それは弱者を強者に変えた。家来を王に、僧侶を法王に、農民を大王に——下剋上の時代である。プレイヤーはその時代の大名の一人となり、戦国に終止符を打つのだ。

リアルタイム制を導入した新感覚の戦国SLG
(シミュレーションゲーム)

このゲームではリアルタイム制を導入している。これは従来のターン制とは違い、四方の強敵が一度に攻め寄せてくるシステムだ。強力な織田家と言えども油断はできない。

武田家

同時に押し寄せる強敵たち
君は信長包囲網を切り抜けられるか!?

登場大名96家！

プレイヤーが選択できる大名は全九六家。織田家、武田家、上杉家などはもちろん、願証寺、早川家、高橋家など歴史の陰に埋もれた大名家も選択できる。総シナリオ数は六つ。最後の一つは斎藤道三、羽柴秀吉、伊達政宗、朝倉宗滴らがそれぞれ大名として独立している夢のシナリオ、「戦国夢幻」そのものである。

登場武将1321人！

全てのシナリオを多彩に彩る武将たちは総勢千三百二十一名。歴史の水泡に消えた者、栄光を手にした者、悪評と引き替えにお家の存続を確保した者。いずれも全知全能を尽くして混乱した時代を生きた武将たちである。プレイヤーは彼らを率い、様々な手段を使って勝利を手にするのだ。

シンプルで奥が深いゲームシステムを知り

乱世の覇者となれ!!

川中島の合戦
KENSHIN　UESUGI
永禄四年九月。関東管領上杉謙信と信濃守護職武田信玄は四度、川中島の大地に対陣した。上杉軍は妻女山に布陣。これに対し武田軍は海津城に入城した。その位置たるや北に武田軍、南に上杉軍、お互いがお互いの退路を断つという奇妙極まりない対陣である。
この均衡に対し、武田家軍師の山本勘介は斬新な挟撃策「啄木鳥戦法」を提案した。信玄はこれを採用し、別動隊を上杉軍の背後に派遣する。
しかし、謙信は武田軍の作戦を看破、すぐさま全軍をもって武田軍本隊に突撃を敢行したのである。本隊と別動隊に二分していた武田軍はその本隊を突かれ、混乱した。それにより武田信繁、諸角豊後守、山本勘介など、名だたる名将が戦死。その時上杉謙信は自ら刀を振るい、敵陣に切り込んだと言う。謙信対信玄。有名な一騎打ちの伝説は、こうして戦いの流れの中の一場面と
イラスト/井上智代

して生まれたものであった。川中島最大の激戦、八幡原の戦い。それは当初、完全な上杉軍の勝利によって幕を開けたのである。

だが、武田軍別動隊長の武田義信は、独自の判断により上杉軍の背後を急襲。これが効を奏し、山本勘介と共に雲散霧消したと思われた啄木鳥の策が蘇り、上杉軍は退却を余儀なくされたのであった。

シナリオ①

戦国乱世

下剋上の嵐

1561年5月

甲州で武田信玄が父親を追放して当主に。関東では北条氏康が立つ。毛利家の隆盛も始まった。

東北

南部家が隆盛 伊達家・最上家は未だ黎明期にあり

有力大名

伊達晴宗

後に伊達政宗を輩出した名家。金山を保有するものの、家臣の数があまりにも少なすぎる。天下を狙うには、まだ力不足だ。

南部晴政

奥州にいる古豪。石高、兵士数、家臣の数と共に奥羽随一と言ってもいい程の国力を持つ。奥羽統一の実力を有する大名の1つ。

城名	所属	ランク	タイプ	特産
松前城	蠣崎家	D	平山	
浪岡城	南部家	D	平山	馬
三戸城	南部家	D	山	馬
高水寺城	南部家	D	平	馬
檜山城	安東家	D	平山	馬
横手城	小野寺家	D	平	馬
山形城	最上家	D	平	馬
岩出山城	大崎家	D	山	金+、馬、
岩切城	伊達家	D	平山	金、馬、
米沢城	伊達家	C	平	馬
二本松城	葦名家	D	山	馬
黒川城	葦名家	C	平山	馬

関東

三代目氏康立つ！

城名	所属	ランク	タイプ	特産
宇都宮城	宇都宮家	C	平	
水戸城	佐竹家	C	平	
結城城	結城家	C	平	
佐倉城	里見家	D	平	
久留里城	里見家	C	平山	
沼田城	上杉家	D	山	馬
厩橋城	上杉家	C	平	馬、強
唐沢山城	上杉家	C	山	
河越城	北条家	C	平	
江戸城	北条家	C	平	
滝山城	北条家	D	平山	
玉縄城	北条家	D	平	
小田原城	北条家	B	平山	

有力大名

北条氏康

この時期、北条五代のうちで最も優秀と言われる三代目氏康が当主となった。経済力と軍事力が高い。

東海・中部

義元栄え 晴信立ち 美濃の蝮が全盛

有力大名

斎藤道三

名門土岐家を追放し、自らが当主となって国を立てた。豊富な人材と国力、そして立地条件を備えている。

武田晴信

父親を追放し、当主となった、武田晴信（後の武田信玄）が虎視眈々と甲斐から信濃に狙いを定めている。

今川義元

駿河、遠江の他に三河を得て、大いに栄えている強豪。「東海一の弓取り」と呼ばれた名門中の名門だ。

城名	所属	ランク	タイプ	特産
岡崎城	今川家	C	平	強
那古屋城	織田家	B	平	
岩村城	斎藤家	C	山	
郡上八幡城	斎藤家	D	平山	
稲葉山城	斎藤家	B	山	

城名	所属	ランク	タイプ	特産
躑躅ヶ崎館	武田家	D	平山	金+、馬、強
林城	小笠原家	C	水	馬、強
木曽福島城	小笠原家	D	山	馬、強
興国寺城	今川家	D	平山	
駿府城	今川家	C	平	金
掛川城	今川家	C	平	
曳馬城	今川家	C	水	
長篠城	今川家	C	平山	強

※ランクは、石高、町の規模、城の規模を総合してA、B、C、Dの4段階で評価しています。
※タイプは、火攻、水攻、干殺の効果と関係します。

九州

島津家と大友家

城名	所属	ランク	タイプ	特産
門司城	大内家	D	水	
中津城	大内家	C	平	
府内城	大友家	C	平	
臼杵城	大友家	D	平山	
岡城	阿蘇家	D	山	馬
立花城	大内家	C	山	
久留米城	少弐家	C	平	
佐嘉城	少弐家	C	平	強
玖島城	少弐家	C	平山	
隈本城	相良家	C	平山	強
人吉城	相良家	C	山	強
県城	伊東家	D	平山	
都於郡城	伊東家	C	平	
出水城	島津家	C	平山	強
内城	島津家	C	平山	強
高山城	肝付家	C	平	強

有力大名

大友義鑑

南北朝時代から栄えている名門。当主は平凡だが、その宿老には後の大友宗麟がいる。

島津貴久

鎌倉時代から栄えている名門で、まだ島津4兄弟の時代ではないが、この時点でも精強を誇っている。

中国・四国

大内家全盛時代

城名	所属	ランク	タイプ	特産
竹田城	山名家	C	山	金
姫路城	赤松家	B	平山	
岩屋城	尼子家	D	平山	
岡山城	浦上家	C	平山	
鳥取城	山名家	C	山	
月山富田城	尼子家	C	山	
赤穴城	尼子家	D	山	
三原城	三村家	C	水	
吉田郡山城	毛利家	C	山	
山吹城	大内家	D	平山	金+
富田若山城	大内家	C	山	
山口城	大内家	C	平山	
洲本城	三好家	D	平山	
十河城	三好家	C	水	
勝瑞城	三好家	C	平山	
白地城	三好家	C	山	
岡豊城	長宗我部家	D	平山	強
中村城	一条家	C	平山	
湯築城	河野家	C	平山	
黒瀬城	河野家	D	平山	

有力大名

大内義隆

南北朝時代以来の名門。この時代にはまだ衰退していない。

毛利元就

中国地方随一の勢いを持つ。この年、尼子晴久を破って大いに飛躍。

北陸

景虎の兄、晴景が長尾家を治め西には名門朝倉家

有力大名

朝倉孝景

北陸の名門。名将・朝倉宗滴がまだまだ存命であり、宿老の数も多い。その国力は最盛期とさえ言える程だ。

長尾晴景

越後一国を掌握している強国。長尾景虎、後の上杉謙信は兄の元で宿老として、忍従の時を送っている。

城名	所属	ランク	タイプ	特産
新発田城	長尾家	D	平	金、馬、強
栃尾城	長尾家	C	平山	馬、強
春日山城	長尾家	C	山	金+、馬、強
葛尾城	村上家	C	水	馬、強
小諸城	村上家	C	平山	馬、強
松倉城	姉小路家	C	平山	馬
富山城	神保家	C	平	
七尾城	畠山家	C	山	
金沢御坊	一向宗	C	平山	
一乗谷館	朝倉家	C	山	
大野城	朝倉家	D	平山	
金ヶ崎城	朝倉家	C	山	

畿内

旧細川領から出現した危険な二つの勢力

有力大名

三好長慶

旧主の細川家から下剋上し、成り上がった。畿内の大領を得て、その経済力は全国でも有数であり、人材も多い。

松永久秀

三好家から離脱し、独自の行動を取り始めている。謀将は一体、どこまで勢力を伸ばせるだろうか……。

城名	所属	ランク	タイプ	特産
長島城	北畠家	C	水	
亀山城	北畠家	C	平山	
安濃津城	北畠家	C	平	
朽木城	将軍家	D	平山	
小谷城	浅井家	C	山	強
観音寺城	六角家	B	山	
日野城	六角家	C	平山	
二条城	将軍家	C	平	
信貴山城	松永家	B	平	
雑賀城	雑賀衆	C	平山	強
石山城	三好家	B	水	
芥川城	三好家	B	山	
八上城	波多野家	C	山	
建部山城	一色家	C	平	

シナリオ②

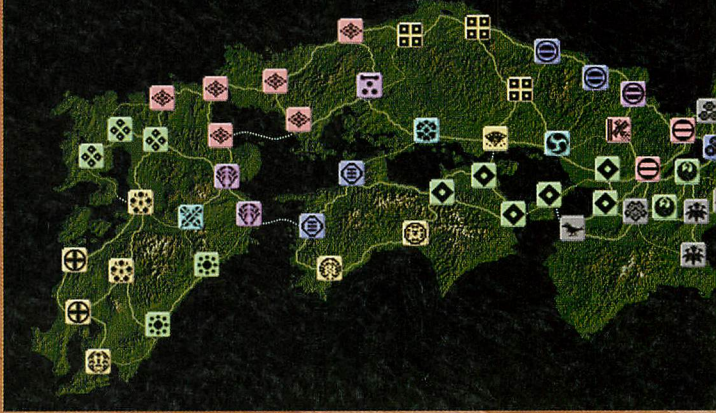
群雄割拠

運命の谷間

1560年7月

前年、九州の名門少弐家が竜造寺家に取って代わられた。道三も倒れ、時代は桶狭間の前夜に。

東北

奥羽情勢は動かず南部家と伊達家が隆盛

有力大名

伊達晴宗

城の数は変わらないが、石高が増え、家臣の数も大幅にアップしている。南部家との国力差はかなり減っているぞ。

南部晴政

状況はほとんど変わっていないが、精強であることには変わりない。奥羽を統一する最有力の大名と言えるだろう。

城名	所属	ランク	タイプ	特産
松前城	蠣崎家	D	平山	
浪岡城	南部家	D	平山	馬
三戸城	南部家	D	山	馬
高水寺城	南部家	D	平	馬
檜山城	安東家	D	平山	馬
横手城	小野寺家	D	平	馬
山形城	最上家	D	平	馬
岩出山城	大崎家	D	山	金+、馬
岩切城	伊達家	C	平山	金、馬
米沢城	伊達家	C	平	馬
二本松城	葦名家	D	山	馬
黒川城	葦名家	C	平山	馬

関東

氏康の全盛時代

城名	所属	ランク	タイプ	特産
宇都宮城	宇都宮家	C	平	
水戸城	佐竹家	C	平	
結城城	結城家	C	平	
佐倉城	里見家	D	平	
久留里城	里見家	C	平山	
沼田城	上杉家	D	山	馬
厩橋城	上杉家	C	平	馬、強
唐沢山城	上杉家	C	山	
河越城	北条家	C	平	
江戸城	北条家	C	平	
滝山城	北条家	D	平山	
玉縄城	北条家	D	平	
小田原城	北条家	B	平山	

有力大名

北条氏康

名将・北条氏康の元、順調に領土を増やしている。頼りになる息子たちも続々と成人してくる。

東海・中部

強豪揃いの東海天下人はここから生まれるか？

有力大名

織田信長

当主は信長の代に代わっているが、今川家の上洛が始まろうとしている。桶狭間の奇跡を再現できるか？

武田信玄

信濃統一に成功。その奥には関東管領を継いだ名将・上杉謙信が立ちはだかる。戦うか、それとも和睦か。

今川義元

いよいよ運命の年を迎えた。三国同盟のため、後顧の憂いはなく、一直線に京を目指せる位置にある。

城名	所属	ランク	タイプ	特産
岡崎城	松平家	C	平	強
清洲城	織田家	B	平	
岩村城	斎藤家	C	山	
郡上八幡城	斎藤家	C	平山	
岐阜城	斎藤家	B	山	

城名	所属	ランク	タイプ	特産
躑躅ヶ崎館	武田家	C	平山	金+、馬、強
上原城	武田家	C	水	馬、強
飯田城	武田家	D	山	馬、強
興国寺城	今川家	C	平山	
駿府城	今川家	C	平	金
掛川城	今川家	C	平	
曳馬城	今川家	C	水	
長篠城	今川家	C	平山	強

※ランクは、石高、町の規模、城の規模を総合してA、B、C、Dの4段階で評価しています。
※タイプは、火攻、水攻、干殺の効果と関係します。

九州

少弐家滅亡

城名	所属	ランク	タイプ	特産
門司城	大友家	D	水	
中津城	大友家	C	平	
府内城	大友家	B	平	
臼杵城	大友家	D	平山	
岡城	阿蘇家	C	山	馬
立花城	大友家	C	山	
久留米城	大友家	C	平	
佐嘉城	竜造寺家	C	平	強
玖島城	竜造寺家	C	平山	
隈本城	相良家	C	平山	強
人吉城	相良家	C	山	強
県城	伊東家	D	平山	
都於郡城	伊東家	C	平	
出水城	島津家	C	平山	強
内城	島津家	C	平山	強
高山城	肝付家	C	平	強

有力大名

大友宗麟

大友宗麟の全盛期である。国力は竜造寺家、島津家を大きく引き離しており、猛将も揃っている。

竜造寺隆信

名門少弐家を滅ぼして西九州を手中に収めた。毛利家とも同盟していて、家臣も優秀である。

中国・四国

毛利家台頭

城名	所属	ランク	タイプ	特産
竹田城	山名家	C	山	金
姫路城	赤松家	B	平山	
岩屋城	尼子家	D	平山	
岡山城	浦上家	C	平山	
鳥取城	尼子家	C	山	
月山富田城	尼子家	C	山	
赤穴城	毛利家	D	山	
三原城	毛利家	C	水	
吉田郡山城	毛利家	C	山	
山吹城	毛利家	D	平山	金+
富田若山城	毛利家	C	山	
山口城	毛利家	C	平山	
洲本城	三好家	D	平山	
十河城	三好家	C	水	
勝瑞城	三好家	C	平山	
白地城	三好家	C	山	
岡豊城	長宗我部家	C	平山	強
中村城	一条家	C	平山	
湯築城	河野家	C	平山	
黒瀬城	河野家	D	平山	

有力大名

毛利元就

大内家を滅ぼした陶晴賢を倒し、中国地方のほぼ全土を掌握した。

長宗我部元親

元親が立ち、土佐半国を掌握した。家臣は武勇を誇る強者が多い。

北陸

関東管領を継いだ景虎は上杉謙信として軍威を誇る

城名	所属	ランク	タイプ	特産
新発田城	上杉家	D	平	金、馬、強
栃尾城	上杉家	C	平山	馬、強
春日山城	上杉家	B	山	金+、馬、強
海津城	武田家	D	水	馬、強
小諸城	武田家	C	平山	馬、強
松倉城	姉小路家	C	平山	馬
富山城	神保家	C	平	
七尾城	畠山家	C	山	
金沢御坊	一向宗	C	平山	
一乗谷館	朝倉家	C	山	
大野城	朝倉家	D	平山	
金ヶ崎城	朝倉家	C	山	

有力大名

朝倉義景

当主が代わり、宗滴もすでに亡いが、大国であることには変わりがない。戦略次第では畿内制覇も可能だ。

上杉謙信

長尾家から上杉家となった北の大国。家臣、領土共に大幅に増え、信玄、氏康の両巨頭と戦端を構える。

畿内

一向宗の嵐が吹き民衆の力の権化、本願寺が姿を現す

城名	所属	ランク	タイプ	特産
長島城	願証寺	C	水	
亀山城	北畠家	C	平山	
安濃津城	北畠家	C	平	
朽木城	将軍家	D	平山	
小谷城	浅井家	B	山	強
観音寺城	六角家	B	山	
伊賀上野城	六角家	C	平山	
二条城	将軍家	C	平	
信貴山城	松永家	B	平	
雑賀城	雑賀衆	C	平山	強
石山本願寺	本願寺	B	水	
芥川城	三好家	B	山	
八上城	波多野家	C	山	
建部山城	一色家	C	平	

有力大名

本願寺顕如

大坂の大地に根を張る宗教国家。経済力、軍事力共に優れ、戦い方次第では畿内制圧も決して夢ではない。

三好長慶

石山城を失い、石高は激減したが、まだ逆襲の余地はある。優秀な宿老と豊富な経済力は畿内最強の実力。

シナリオ③

信玄上洛

信長が震えた年

1572年10月

信長の急成長に対し、包囲網が成立した。その巨魁、武田信玄の騎馬軍団の足音が迫っている。

東北

南部家の衰退 伊達家と最上家が台頭す

有力大名

伊達晴宗

総石高24万石、全武将23人という、奥羽随一の国力を誇る。奥羽統一への機は確実に熟しつつあると言えるだろう。

最上義光

山形の謀将・最上義光が立ち、家臣も優秀。伊達家に迫る勢いを見せている。奥羽の覇権を握る有力な大名の中の1つだ。

城名	所属	ランク	タイプ	特産
松前城	蠣崎家	D	平山	
浪岡城	津軽家	D	平山	馬
九戸城	九戸家	D	山	馬
高水寺城	南部家	D	平	馬
檜山城	安東家	D	平山	馬
横手城	小野寺家	D	平	馬
山形城	最上家	D	平	馬
岩出山城	大崎家	C	山	金+、馬、
千代城	伊達家	C	平山	金、馬、
米沢城	伊達家	C	平	馬
二本松城	葦名家	C	山	馬
黒川城	葦名家	C	平山	馬

関東

北条家駿河、下総に進出

城名	所属	ランク	タイプ	特産
宇都宮城	宇都宮家	C	平	
水戸城	佐竹家	C	平	
結城城	結城家	C	平	
佐倉城	北条家	D	平	
久留里城	里見家	C	平山	
沼田城	上杉家	D	山	馬
厩橋城	上杉家	C	平	馬、強
唐沢山城	上杉家	C	山	
河越城	北条家	C	平	
江戸城	北条家	C	平	
滝山城	北条家	D	平山	
玉縄城	北条家	D	平	
小田原城	北条家	B	平山	

有力大名

北条氏政

氏康倒れ、氏政立つ。今川家、里見家の領土を併合し、関八州をほぼ手中に収めた。

東海・中部

武田家と徳川家が対峙し 信長最大の危機

有力大名

松平元康

武田軍の矢面に立たされ、油断が死を招く状況にある。優秀な家臣団、忍者、同盟を駆使して劣勢を跳ね返せ。

織田信長

武田家をはじめ、凄まじい敵対勢力に囲まれている。浅井家、朝倉家、そして武田家の上洛を防げるか。

武田信玄

上洛軍を編制した武田家。後背の北条家とは強固な同盟関係にあり、後顧の憂いなく西上を進められる。

城名	所属	ランク	タイプ	特産
岡崎城	徳川家	C	平	強
清洲城	織田家	B	平	
岩村城	織田家	C	山	
郡上八幡城	織田家	C	平山	
岐阜城	織田家	B	山	

城名	所属	ランク	タイプ	特産
躑躅ヶ崎館	武田家	C	平山	金+、馬、強
上原城	武田家	C	水	馬、強
飯田城	武田家	D	山	馬、強
興国寺城	北条家	C	平山	
駿府城	武田家	B	平	金
掛川城	徳川家	C	平	
浜松城	徳川家	C	水	
長篠城	武田家	C	平山	強

※ランクは、石高、町の規模、城の規模を総合してA、B、C、Dの4段階で評価しています。
※タイプは、火攻、水攻、干殺の効果と関係します。

九州

大友家全盛

城名	所属	ランク	タイプ	特産
門司城	大友家	D	水	
中津城	大友家	C	平	
府内城	大友家	B	平	
臼杵城	大友家	D	平山	
岡城	大友家	C	山	馬
立花城	大友家	B	山	
久留米城	大友家	C	平	
佐嘉城	竜造寺家	C	平	強
大村城	竜造寺家	C	平山	
隈本城	相良家	C	平山	強
人吉城	相良家	C	山	強
県城	伊東家	D	平山	
都於郡城	伊東家	C	平	
出水城	島津家	C	平山	強
内城	島津家	C	平山	強
高山城	肝付家	C	平	強

有力大名

竜造寺隆信

旭日の勢いの大友家に押され、圧迫されている。智将、猛将の力を借り、戦局を打開したい。

島津義久

島津4兄弟の結束の元、その戦意は高い。いち早く南九州を統一し、大友家を打倒したい。

北陸

西と東を同盟で固めた謙信 一向宗には鉄砲隊

有力大名

下間頼照

下間家の人材が前線に立ち、その勢力は勢いづいている。戦略次第では、北陸一帯に布教することも可能だ。

上杉謙信

西の神保家に東の宇都宮家、佐竹家と同盟を結び、一気に武田家、北条家を潰せる態勢を整えている。

城名	所属	ランク	タイプ	特産
新発田城	上杉家	D	平	金、馬、強
栃尾城	上杉家	C	平山	馬、強
春日山城	上杉家	B	山	金+、馬、強
上田城	武田家	D	水	馬、強
小諸城	武田家	C	平山	馬、強
松倉城	姉小路家	C	平山	馬
富山城	神保家	C	平	
七尾城	畠山家	C	山	
金沢御坊	一向宗	C	平山	
一乗谷館	朝倉家	C	山	
大野城	朝倉家	D	平山	
金ヶ崎城	朝倉家	C	山	

中国・四国

中国の覇者、大毛利

城名	所属	ランク	タイプ	特産
竹田城	山名家	C	山	金
姫路城	赤松家	B	平山	
岩屋城	毛利家	D	平山	
岡山城	宇喜多家	C	平山	
鳥取城	毛利家	C	山	
月山富田城	毛利家	C	山	
赤穴城	毛利家	D	山	
三原城	毛利家	C	水	
吉田郡山城	毛利家	C	山	
山吹城	毛利家	D	平山	金+
富田若山城	毛利家	C	山	
山口城	毛利家	C	平山	
洲本城	三好家	D	平山	
十河城	三好家	C	水	
勝瑞城	三好家	C	平山	
白地城	三好家	C	山	
岡豊城	長宗我部家	C	平山	強
中村城	一条家	C	平山	
湯築城	河野家	C	平山	
黒瀬城	河野家	D	平山	

有力大名

毛利輝元

元就没し輝元立つ。尼子家を駆逐し、中国地方の全土を支配下に。

宇喜多直家

中国地方唯一の反毛利家。直家の謀略により毛利に対抗できるか？

畿内

一向宗強し 本願寺と雑賀衆が信長に立ち向かう

有力大名

本願寺顕如

大坂を牙城とする。部隊のほとんどを鉄砲隊に編制。経済、軍事、人材共にバランスが取れている。

鈴木佐大夫

名将・雑賀孫市を擁し、鉄砲隊も編制可能。居城は強兵属性でもあり、当面の敵は将軍家になるだろうか。

城名	所属	ランク	タイプ	特産
長島城	織田家	C	水	
亀山城	織田家	C	平山	
安濃津城	織田家	C	平	
朽木城	織田家	D	平山	
小谷城	浅井家	B	山	強
観音寺城	織田家	B	山	
日野城	織田家	C	平山	
二条城	織田家	C	平	
多聞山城	将軍家	B	平	
雑賀城	雑賀衆	B	平山	強
石山本願寺	本願寺	B	水	
伊丹城	織田家	B	山	
八上城	波多野家	C	山	
建部山城	一色家	C	平	

シナリオ④

本能寺の変

駆けよ秀吉！

1582年6月

本能寺の変にて魔王倒れ、柴田、羽柴、滝川ら織田家の遺臣が打倒明智軍の弔い合戦を始める。

東北

にらみ合う奥羽の二巨人 覇権は誰の手に

有力大名

伊達輝宗

当主は輝宗に代わったが、経済、軍事、人材における優位は変わっていない。名将・片倉景綱も登場し、伊達政宗の元服も近い。

最上義光

当主である義光の他、バランスの取れた家臣団が最上家を支える。伊達家を滅ぼせば、奥羽統一の日も近くなるだろう。

城名	所属	ランク	タイプ	特産
松前城	蠣崎家	D	平山	
浪岡城	津軽家	D	平山	馬
九戸城	九戸家	D	山	馬
高水寺城	南部家	D	平	馬
檜山城	安東家	D	平山	馬
横手城	小野寺家	D	平	馬
山形城	最上家	D	平	馬
岩出山城	大崎家	C	山	金+、馬
千代城	伊達家	C	平山	金、馬
米沢城	伊達家	C	平	馬
二本松城	葦名家	C	山	馬
黒川城	葦名家	C	平山	馬

関東

大北条家の完成

城名	所属	ランク	タイプ	特産
宇都宮城	宇都宮家	C	平	
水戸城	佐竹家	B	平	
結城城	結城家	C	平	
佐倉城	北条家	C	平	
久留里城	里見家	C	平山	
沼田城	真田家	D	山	馬
厩橋城	北条家	C	平	馬、強
唐沢山城	北条家	C	山	
河越城	北条家	C	平	
江戸城	北条家	C	平	
滝山城	北条家	D	平山	
玉縄城	北条家	D	平	
小田原城	北条家	B	平山	

有力大名

北条氏政

新たに厩橋城、唐沢山城を併合し、強兵を手に入れた。総石高は百万石を大きく超えている。

東海・中部

徳川家が武田家の遺領を併合、そして信長の遺児二人

有力大名

北畠信雄

織田家の遺児。史実では家康と組んで打倒秀吉に回った。光秀打倒は、ぜひとも実子の手で果たしたい。

神戸信孝

織田家の遺児の中では最も恵まれた位置にあり、配下に有能な家臣もいる。光秀に対して天誅の軍を起こせ。

徳川家康

武田家の領地を手に入れ、家康がいよいよ天下取りの表舞台に躍り出た。石高は138万石で、全国1位だ。

城名	所属	ランク	タイプ	特産
岡崎城	徳川家	C	平	強
清洲城	北畠家	A	平	
岩村城	神戸家	C	山	
郡上八幡城	神戸家	C	平山	
岐阜城	神戸家	A	山	

城名	所属	ランク	タイプ	特産
府中城	徳川家	C	平山	金、馬、強
上原城	徳川家	C	水	馬、強
木曾福島城	徳川家	D	山	馬、強
興国寺城	北条家	C	平山	
駿府城	徳川家	B	平	金
掛川城	徳川家	C	平	
浜松城	徳川家	C	水	
長篠城	徳川家	C	平山	強

※ランクは、石高、町の規模、城の規模を総合してA、B、C、Dの4段階で評価しています。
※タイプは、火攻、水攻、干殺の効果と関係します。

九州

大友家衰退

城名	所属	ランク	タイプ	特産
門司城	大友家	D	水	
中津城	大友家	C	平	
府内城	大友家	B	平	
臼杵城	大友家	D	平山	
岡城	阿蘇家	C	山	馬
立花城	立花家	B	山	
久留米城	竜造寺家	C	平	
佐嘉城	竜造寺家	C	平	強
大村城	竜造寺家	C	平山	
隈本城	竜造寺家	C	平山	強
人吉城	相良家	C	山	強
県城	島津家	D	平山	
都於郡城	島津家	C	平	
出水城	島津家	C	平山	強
内城	島津家	B	平山	強
高山城	島津家	C	平	強

有力大名

竜造寺隆信

一時は北九州を制圧する勢いだった大友家の衰退に乗じ、勢力を拡大した。九州随一の国力を誇る。

島津義久

南九州をほぼ制圧し、九州全土を掌握する勢いを見せる。家臣が総じて優秀で、強兵属性を持つ。

北陸

軍神の去った大地に　その後嗣　織田家の猛将君臨

有力大名

柴田勝家

打倒光秀の最右翼的存在。優秀な一族と前田利家、佐々成政らを輔翼として、一気に逆臣を討ち果たせ！

上杉景勝

謙信が倒れ、景勝が立っている。城の数は3つに減り、昔の勢いはない。優秀な人材を使い再建の道を歩もう。

城名	所属	ランク	タイプ	特産
新発田城	上杉家	D	平	金、馬、強
栃尾城	上杉家	C	平山	馬、強
春日山城	上杉家	B	山	金+、馬、強
上田城	真田家	D	水	馬、強
小諸城	真田家	C	平山	馬、強
松倉城	姉小路家	C	平山	馬
富山城	柴田家	C	平	
七尾城	柴田家	C	山	
金沢城	柴田家	C	平山	
北ノ庄城	柴田家	C	山	
大野城	柴田家	D	平山	
敦賀城	柴田家	C	山	

中国・四国

目指せ中国大返し

城名	所属	ランク	タイプ	特産
竹田城	羽柴家	C	山	金
姫路城	羽柴家	B	平山	
岩屋城	羽柴家	D	平山	
岡山城	宇喜多家	C	平山	
鳥取城	羽柴家	C	山	
月山富田城	毛利家	C	山	
赤穴城	毛利家	D	山	
三原城	毛利家	C	水	
吉田郡山城	毛利家	C	山	
山吹城	毛利家	D	平山	金+
富田若山城	毛利家	C	山	
山口城	毛利家	C	平山	
洲本城	丹羽家	D	平山	
十河城	十河家	C	水	
勝瑞城	長宗我部家	C	平山	
白地城	長宗我部家	C	山	
岡豊城	長宗我部家	C	平山	強
中村城	長宗我部家	C	平山	
湯築城	河野家	C	平山	
黒瀬城	長宗我部家	D	平山	

有力大名

毛利輝元

羽柴秀吉の侵攻により領土は減っている。しかし、依然強国だ。

羽柴秀吉

光秀打倒の大穴的存在。同盟を活かし中国大返しを実現せよ！

畿内

畿内のほとんどは　逆臣の手に落つ　東には滝川家

有力大名

滝川一益

伊勢を拠点に光秀の首を狙う。配下には滝川一族と、九鬼嘉隆がおり、打倒光秀も決して夢ではない。

明智光秀

北条家をも凌ぐ大領を手にした男。三日天下の汚名を振り払い、天下人への道を切り開けるだろうか？

城名	所属	ランク	タイプ	特産
長島城	滝川家	C	水	
亀山城	滝川家	C	平山	
安濃津城	滝川家	C	平	
坂本城	明智家	C	平山	
佐和山城	明智家	B	山	
安土城	明智家	C	山	
日野城	蒲生家	C	平山	
二条城	明智家	B	平	
多聞山城	筒井家	B	平	
雑賀城	雑賀衆	C	平山	強
堺城	丹羽家	B	水	
有岡城	池田家	B	山	
丹波亀山城	明智家	C	山	
田辺城	細川家	C	平	

シナリオ⑤

関ヶ原前夜

閲ぎ合う利と義

1598年8月

天下人秀吉の死後、天下は再び争乱となった。天下を取るのは徳川家か、それとも豊臣家か？

東北

伊達家に政宗立ち上杉家がこの地に転封される

有力大名

上杉景勝

越後から東北に転封されたが、領内には未だに強兵属性がある。優秀な家臣団を使って、昔日の栄光を取り戻せるだろうか？

伊達政宗

岩出山城と千代城を持ち、依然奥羽随一の勢力を誇る。当主には名将・伊達政宗がなり、東北に戦乱の嵐を巻き起こす。

城名	所属	ランク	タイプ	特産
松前城	蠣崎家	D	平山	
浪岡城	津軽家	C	平山	馬
三戸城	南部家	D	山	馬
盛岡城	南部家	C	平	馬
檜山城	秋田家	D	平山	馬
横手城	小野寺家	D	平	馬
山形城	最上家	C	平	馬
岩出山城	伊達家	C	山	金+、馬、
千代城	伊達家	C	平山	金、馬、
米沢城	上杉家	C	平	馬、強
二本松城	上杉家	C	山	馬
会津若松城	上杉家	C	平山	馬、強

関東

徳川家が出現

城名	所属	ランク	タイプ	特産
宇都宮城	蒲生家	C	平	
水戸城	佐竹家	B	平	
結城城	結城家	C	平	
佐倉城	徳川家	C	平	
久留里城	徳川家	C	平山	
沼田城	徳川家	D	山	馬
厩橋城	徳川家	C	平	馬、強
唐沢山城	徳川家	C	山	
河越城	徳川家	C	平	
江戸城	徳川家	B	平	
八王子城	徳川家	D	平山	
玉縄城	徳川家	D	平	
小田原城	徳川家	B	平山	

有力大名

徳川家康

北条家の遺領は徳川家が継いだ。天下の豊臣家を向こうに回して、天下人への道を羽ばたく。

東海・中部

織田の遺臣と豊臣の遺臣そして三法師

有力大名

織田秀信

歴史の表舞台から消えていた織田家が、三法師こと織田秀信の元、再び脚光を浴びる。その領内には関ヶ原。

福島正則

旧織田家領を引き継いだ豊臣家の猛将。目指すは大坂方の滅亡か。あるいは逆臣徳川家康への天誅か!?

池田輝政

小牧・長久手の合戦で戦死した父に代わり家督を継ぐ。史実では東軍に属したが、徳川家を倒すことも可能。

城名	所属	ランク	タイプ	特産
岡崎城	池田家	C	平	強
清洲城	福島家	A	平	
岩村城	織田家	C	山	
郡上八幡城	織田家	C	平山	
岐阜城	織田家	A	山	

城名	所属	ランク	タイプ	特産
甲府城	浅野家	C	平山	金、馬、強
高島城	森家	C	水	馬、強
飯田城	京極家	D	山	馬、強
興国寺城	中村家	C	平山	
駿府城	中村家	B	平	金
掛川城	堀尾家	C	平	
浜松城	堀尾家	C	水	
吉田城	池田家	C	平山	強

※ランクは、石高、町の規模、城の規模を総合してA、B、C、Dの4段階で評価しています。
※タイプは、火攻、水攻、干殺の効果と関係します。

九州

三強、崩れる

城名	所属	ランク	タイプ	特産
小倉城	黒田家	C	水	
中津城	黒田家	C	平	
府内城	早川家	C	平	
臼杵城	太田家	D	平山	
岡城	加藤家	C	山	馬
名島城	小早川家	B	山	
柳川城	立花家	C	平	
佐嘉城	鍋島家	C	平	強
大村城	鍋島家	C	平山	
隈本城	加藤家	B	平山	強
人吉城	小西家	C	山	強
県城	高橋家	D	平山	
都於郡城	島津家	C	平	
出水城	島津家	C	平山	強
内城	島津家	C	平山	強
高山城	島津家	C	平	強

有力大名

島津義久

大友家、竜造寺家亡き今、九州最大の国力を誇る。果たして大島津の時代がやって来るのか？

黒田官兵衛

豊臣家の代替わりと共に、往年の策謀を再び巡らす大軍師。勝者は西か東か、あるいは黒田家か。

北陸

加賀百万石と西軍最大の謀将の家系

城名	所属	ランク	タイプ	特産
新発田城	堀家	D	平	金、馬、強
栃尾城	堀家	C	平山	馬、強
春日山城	堀家	B	山	金+、馬、強
上田城	真田家	D	水	馬、強
小諸城	森家	C	平山	馬、強
飛騨高山城	金森家	C	平山	馬
富山城	前田家	C	平	
七尾城	前田家	C	山	
金沢城	前田家	B	平山	
北ノ庄城	丹羽家	C	山	
大野城	丹羽家	D	平山	
敦賀城	豊臣家	C	山	

有力大名

真田昌幸

石田三成の命を受けて、徳川家西上を阻む機略の家。真田親子と真田十勇士を使い、東軍の首領を撃滅せよ。

前田利家

北陸地方随一の勢力を誇るが、その当主・利家に寿命が迫っている。果たして豊臣家の将来を守れるのか？

中国・四国

西軍側の2ヵ国

城名	所属	ランク	タイプ	特産
竹田城	豊臣家	C	山	金
姫路城	豊臣家	B	平山	
岩屋城	宇喜多家	D	平山	
岡山城	宇喜多家	C	平山	
鳥取城	豊臣家	C	山	
月山富田城	毛利家	C	山	
赤穴城	毛利家	D	山	
三原城	毛利家	C	水	
広島城	毛利家	B	山	
山吹城	毛利家	C	平山	金+
富田若山城	毛利家	C	山	
山口城	毛利家	C	平山	
洲本城	豊臣家	D	平山	
高松城	生駒家	C	水	
徳島城	蜂須賀家	C	平山	
大西城	蜂須賀家	C	山	
浦戸城	長宗我部家	C	平山	強
中村城	長宗我部家	C	平山	
伊予松前城	藤堂家	C	平山	
板島城	藤堂家	C	平山	

有力大名

毛利輝元

史実では西軍総帥となる毛利家だが、天下取りの好機はまだある。

宇喜多秀家

史実では関ヶ原の戦いに西軍として参加。無類の活躍を見せる。

畿内

石田三成が支える太閤の遺命を継いだ人々

城名	所属	ランク	タイプ	特産
長島城	福島家	C	水	
亀山城	滝川家	C	平山	
安濃津城	富田家	C	平	
朽木城	豊臣家	D	平山	
佐和山城	豊臣家	B	山	
大津城	豊臣家	B	山	
伊賀上野城	筒井家	C	平山	
二条城	豊臣家	C	平	
大和郡山城	豊臣家	B	平	
和歌山城	豊臣家	C	平山	
大坂城	豊臣家	A	水	
有岡城	豊臣家	B	山	
福知山城	豊臣家	C	山	
田辺城	細川家	C	平	

有力大名

豊臣秀頼

現時点では天下人で、同盟国も多い。配下には石田三成、大谷吉継、島左近など、関ヶ原西軍の名将たちが揃っている。306万石の大領土から軍団を編制し、東の逆賊を討伐せよ！

シナリオ⑥

戦国夢幻

全ては夢の中に

年代不詳1月

戦国夢幻オリジナルシナリオ。織田家、豊臣家、加藤(清正)家などが乱立し、天下を争う。

東北

九戸一族を率いる南部家と伊達家の二大強豪

有力大名

伊達政宗

伊達政宗の元、かつての伊達家の主君や元老たちが勢揃いしている。渋いところでは伊達家の基礎を築いた稙宗もいるぞ。

南部晴政

戦国に輝きを放っていた南部家を彷彿とさせる陣容。九戸政実がいるところがアツい。電撃的に東北北部を統一しよう。

城名	所属	ランク	タイプ	特産
松前城	蠣崎家	C	平山	
浪岡城	津軽家	D	平山	馬
三戸城	南部家	D	山	馬
盛岡城	南部家	C	平	馬
秋田城	秋田家	C	平山	馬
横手城	小野寺家	D	平	馬
山形城	最上家	C	平	馬
岩出山城	大崎家	C	山	金+、馬、
仙台城	伊達家	B	平山	金、馬、
米沢城	伊達家	C	平	馬
二本松城	相馬家	D	山	馬
会津若松城	蘆名家	C	平山	馬

関東

大北条家が君臨

城名	所属	ランク	タイプ	特産
宇都宮城	宇都宮家	C	平	
水戸城	佐竹家	C	平	
結城城	結城家	C	平	
佐倉城	里見家	C	平	
久留里城	里見家	C	平山	
沼田城	真田家	D	山	馬
厩橋城	長野家	C	平	馬、強
唐沢山城	長野家	C	山	
河越城	北条家	C	平	
江戸城	北条家	A	平	
滝山城	北条家	D	平山	
玉縄城	北条家	D	平	
小田原城	北条家	B	平山	

有力大名

北条氏康

北条一門だけで14人もの宿老がいる強国。江戸城では鉄砲・大筒が生産可能。まさに関東の覇者。

東海・中部

今川家、武田家、織田家の三つ巴まるで強国の巣

有力大名

織田信長

羽柴秀吉、明智光秀、蒲生氏郷などはいないが、それでも優秀な武将が目白押しで揃っている。宿老も多い。

今川義元

栄光に満ち溢れた黄金時代の面々。太原雪斎もバリバリ現役だ。懸念は猛将不足だが、いないわけでもない。

武田信玄

甲斐1国だけとはいうものの、優秀な武田一門衆が6人もいる。三国同盟は存在しないが、どこと結ぶか。

城名	所属	ランク	タイプ	特産
岡崎城	徳川家	B	平	強
清洲城	織田家	A	平	
岩村城	斎藤家	C	山	
郡上八幡城	斎藤家	C	平山	
稲葉山城	斎藤家	B	山	

城名	所属	ランク	タイプ	特産
新府城	武田家	B	平山	金+、馬、強
林城	小笠原家	C	水	馬、強
木曽福島城	木曽家	D	山	馬、強
興国寺城	今川家	C	平山	
駿府城	今川家	B	平	金
掛川城	今川家	C	平	
浜松城	今川家	C	水	
長篠城	徳川家	C	平山	強

※ランクは、石高、町の規模、城の規模を総合してA、B、C、Dの4段階で評価しています。
※タイプは、火攻、水攻、干殺の効果と関係します。

九州

小勢力乱立の地域

城名	所属	ランク	タイプ	特産
門司城	大内家	D	水	
中津城	黒田家	C	平	
府内城	大友家	B	平	
臼杵城	大友家	C	平山	
岡城	阿蘇家	C	山	馬
立花城	立花家	B	山	
久留米城	竜造寺家	C	平	
佐嘉城	竜造寺家	C	平	強
玖島城	竜造寺家	C	平山	
熊本城	加藤家	B	平山	強
人吉城	加藤家	C	山	強
県城	伊東家	D	平山	
都於郡城	伊東家	C	平	
出水城	島津家	C	平山	強
内城	島津家	B	平山	強
高山城	肝付家	B	平	強

有力大名

加藤清正

清正は豊臣家ではなく、熊本城主として登場。家臣はそれなりに精鋭が揃っている。

島津義久

島津４兄弟の他、優秀な一門衆と家臣団が揃い踏みしている。塚原ト伝がいるのにも注目したい。

北陸

猛将の宝庫と言える上杉家と宿老支える朝倉家

城名	所属	ランク	タイプ	特産
新発田城	上杉家	D	平	金、馬、強
栃尾城	上杉家	C	平山	馬、強
春日山城	上杉家	B	山	金+、馬、強
葛尾城	村上家	C	水	馬、強
砥石城	村上家	C	平山	馬、強
松倉城	姉小路家	C	平山	馬
富山城	神保家	C	平	
七尾城	畠山家	C	山	
金沢御坊	一向宗	B	平山	
一乗谷館	朝倉家	C	山	
大野城	朝倉家	D	平山	
金ヶ崎城	朝倉家	C	山	

有力大名

朝倉宗滴

主君は何と朝倉宗滴!! 玉石混淆の10人の朝倉一門衆を従えて、お家の悲願、上洛を果たしたいところ。

上杉謙信

戦闘Ａ以上だけで６人もいる強国。人材もバランスよく揃っている。宇佐美定満が病死しないのが嬉しい。

中国・四国

毛利黄金時代

城名	所属	ランク	タイプ	特産
竹田城	山名家	C	山	金
姫路城	赤松家	B	平山	
岩屋城	尼子家	D	平山	
岡山城	宇喜多家	B	平山	
鳥取城	山名家	C	山	
月山富田城	尼子家	C	山	
赤穴城	尼子家	D	山	
三原城	毛利家	C	水	
広島城	毛利家	B	山	
山吹城	大内家	C	平山	金+
富田若山城	大内家	C	山	
山口城	大内家	C	平山	
洲本城	三好家	D	平山	
十河城	十河家	C	水	
勝瑞城	三好家	C	平山	
白地城	三好家	C	山	
岡豊城	長宗我部家	C	平山	強
中村城	一条家	D	平山	
湯築城	河野家	C	平山	
黒瀬城	河野家	D	平山	

有力大名

毛利元就

毛利両川を筆頭に、優秀な一門衆に彩られている。

長宗我部元親

結束の固い一門衆の他、このシナリオだけに吉田孝頼がいる。

畿内

豊臣家と明智家 犬猿の仲の二家が君臨している

城名	所属	ランク	タイプ	特産
長島城	北畠家	C	水	
亀山城	北畠家	C	平山	
安濃津城	北畠家	C	平	
朽木城	足利家	D	平山	
小谷城	浅井家	B	山	強
観音寺城	六角家	B	山	
日野城	蒲生家	C	平山	
二条城	足利家	B	平	
多聞山城	松永家	B	平	
雑賀城	雑賀衆	B	平山	強
大坂城	豊臣家	A	水	
芥川城	豊臣家	B	山	
丹波亀山城	明智家	C	山	
田辺城	細川家	C	平	

有力大名

明智光秀

堅城の丹波亀山城に拠って天下を窺う。二条城を落とせば、それも夢ではない。配下は武勇の者が多い。

豊臣秀吉

加藤清正がいないのは痛いが、福島正則はいる。賎ヶ岳七本槍に五奉行、関ヶ原西軍系の人材もいるぞ。

戦國夢幻

目次

第一章　システム解析

このゲームの全コマンドの詳細な解説と、「内政」「外交」など、各ジャンル別のレクチャーを行っていく。「騎馬隊と足軽隊の攻撃力の差」など、ゲームだけでは知ることのできない情報が満載されているので、じっくりと読んで参考にして欲しい。

イラスト/井上智代

コマンド解説

ゲーム上の全コマンドの解説を行っていく。マスクデータに関しては優先して載せてある。また、実戦でのサンプル例も記載。

コマンド要覧

本書ではコマンドを大名、自城、敵城、野戦、攻城戦というように分類してある。

大名コマンドとは、ユニットなどのない場所を押した時に出るコマンド群。自城コマンドとは、自分の保有する城を押したときのコマンド群。敵城コマンドは敵の城でのコマンド群。野戦・攻城戦コマンドは、それぞれ合戦の時のコマンド群である。

大名コマンド

分類	コマンド	効果	ページ
情報	大名	全ての大名の各種一覧が見られる	二一
	城	大名家の所持する城の一覧が見られる	二一
	軍団	大名家の出陣中の軍団一覧が見られる	二一
	武将	大名家の全武将の一覧が見られる	二一
人事	身分	功績値の貯まった武将の身分を上げる	二一
	知行	武将に知行地を与える	二一
	追放	武将を追放する	二一
税率	徴税	税率を三割にする	二二
	軽税	税率を四割にする	二二
	平税	税率を五割にする	二二
	重税	税率を六割にする	二二
布告	婚姻	他の大名家か配下に姫を嫁がせる	二三
	破盟	他大名家との同盟を破棄する	二三
	出家	城の人気が上昇し、一揆が発生しなくなる	二三
	切支丹	全ての町が楽市になり、町の規模が+1される	二三
	布武	条件を満たすとゲームクリアとなる	二三

自城コマンド

分類	コマンド	必要能力	効果	ページ
移動	武将		武将を他の城に移動させる	二四
	軍団		他の大名勢力へ攻め込むための軍団を編成する	二四
	輸送		兵糧・傭兵を他の城に輸送する	二四
内政	開墾	内政	城の石高が上昇する	二五
	商業	内政	町の規模が上昇する	二五
	治水	内政	治水度と人気が上昇する	二五
	築城	内政	城の規模が上昇する	二五
	警戒	謀略	城で工作している武将を捕まえる	二五
軍備	徴兵	外交	傭兵を募集する	二六
	足軽		足軽に兵種変更する	二六
	騎馬		騎馬に兵種変更する	二六
	鉄砲		鉄砲に兵種変更する	二六
	大筒		大筒に兵種変更する	二六
人事	身分		功績値の貯まった武将の身分を上げる	二七
	知行		武将に知行地を与える	二七
	登用	外交	浪人を登用する	二七
計略	内応	謀略	敵将を裏切らせる	二八
	足止	謀略	進軍途中の敵軍を足止めする	二八
	混乱	謀略	進軍・包囲中の敵軍の士気を下げる	二八
布告	動員		農繁期の民兵数が三倍に増える	二九
	本城		本城をその城に移動する	二九
	楽市		町の規模が3以上に成長する	二九
	検地		石高の一割分、収入増	二九
	刀狩		石高の一割分、収入増	二九

敵城コマンド

分類	コマンド	必要能力	効果	ページ
情報	情報		城の情報が見られる	三〇
移動	移動		武将を移動させる	三〇
外交	交流	外交	大名家との友好度を上昇させる	三〇
	援軍	外交	同盟中の大名家に援軍の出陣を要請する	三〇
	登用	外交	浪人を登用する	三〇
兵種	足軽		足軽に兵種変更する	三一
	騎馬隊		騎馬に兵種変更する	三一
	鉄砲隊		鉄砲に兵種変更する	三一
	大筒隊		大筒に兵種変更する	三一
工作	不穏	謀略	敵城の士気を低下させる	三二
	破壊	謀略	敵城の規模を低下+兵糧を減らす	三二
	一揆	謀略	敵城に一揆を誘発する	三二
計略	内応	謀略	敵将を裏切らせる	三三
	足止	謀略	進軍途中の敵軍を足止めする	三三
	混乱	謀略	進軍・包囲中の敵軍の士気を下げる	三三

野戦コマンド

分類	コマンド	必要能力	効果	ページ
	武将		部隊の入れ替えを行う	三四
	前進		全部隊を前進させる	三四
	後退		全部隊を後退させる	三四
	休憩		待機し、士気を回復する	三四
自動	鶴翼		両翼を厚くした陣形	三四
	平陣		バランスの取れた陣形	三四
	魚鱗		中軍を厚くした陣形	三四

攻城戦コマンド

分類	コマンド	必要能力	効果	ページ
情報	敵城		敵城の情報を見る	三五
	味方		味方軍団の情報を見る	三五
攻撃	包囲	戦闘	敵城を包囲する	三五
	強襲	戦闘	敵城を力押しする	三五
	火攻	謀略	敵城に火を放つ	三五
	水攻	謀略	敵城を水攻めにする	三五
	干殺	謀略	敵城を兵糧攻めにする	三五
計略	勧告	謀略	敵城に降伏勧告をする	三五
	内応	謀略	敵城の武将に引き抜きを仕掛ける	三五
	乱破		乱破を放って謀略の成功率を上げる	三五
	戻る		戦略画面に戻る	三五

大名コマンド

情報

大名ごとの情報を確認

どの大名と同盟するか、あるいは戦うかなどを決めるには、情報が不可欠だ。正確な情報は、敵城コマンドの「情報」で見た方が詳細だが、全体的な情報を見たければこれらのコマンド群を使おう。ゲーム開始直後には、必ず諸情報を確認しておきたい。

大名 ～だいみょう～

全国の大名の総石高、総兵糧、総兵士、友好度などが見られる。だいたいの兵士数が分かるのがうれしい。

城 ～しろ～

自国の城の石高、武将数、兵士数、城と町の規模、武将一覧などが見られる。プレイ開始直後は必見だ。

軍団 ～ぐんだん～

現在活動中の軍団の情報を見られる。遠くに置き忘れていたり、城に入れなくて困っている軍団を探せる。

武将 ～ぶしょう～

プレイヤー大名の全武将が見られる。戦闘要員、内政要員、謀略要員などを適切に判断しよう。R1ボタンでソート（並べ替え）も可能だ。

他国の情報を見るには？

武将をその城に移動させれば見られる。その道中にいれば、城には入らなくてもOK。

大名コマンド

人事

武将を育成できる

功績値が規定の値に達した全武将の身分を上げたり、全城と全武将の知行を編制したりと、全体的な武将のレベルアップが図れる。身分と知行は自城コマンドでも上げられるが、各城単位でしかできないので、全体的に操作ができる分、こちらが便利だ。

身分 ～みぶん～

その武将が得た功績によって、全武将の身分を一気に上げることができる。身分を上げるメリットは大きいが、デメリットはほとんどないので、欠かさないようにしたい。

武将の功績値は毎年一月に1ずつ貯まっていくので、新年を迎えたらこのコマンドで身分を上げる習慣を付けておくといいだろう。

もちろん、身分を上げたら知行を増やすのも忘れずに。

知行 ～ちぎょう～

全城の知行を、全武将の中の誰かに与えられる重要なコマンド。知行を増やすと、その武将の民兵が増える。だいたい十万石で三千の民兵というのが目安だ。民兵は、たとえ0になっても二百日で自動的に最大値まで回復する。その上、傭兵の倍の強さを誇り、軍の根本として活用できる。また、もし強兵属性を持つ国の知行を与えたならば、傭兵の三倍の強さの兵を手に入れることができるのだ。しかし、農繁期には兵力が三分の一に低下するので注意。

傭兵・民兵・強兵の強さ比

傭兵	民兵	強兵
32	64	100

追放 ～ついほう～

武将を追放するコマンド。しかし、追放された武将の身分が高い程、他の武将の忠誠度が低下。さらに、その武将の血縁の人物が残っていた場合は、謀反を起こす可能性もある。

大名コマンド

税率

収入を取るか発展を取るか

税率は、四つの種類から選べる。軽い税率を選べば、石高や町が発展しやすくなり、重い税率を選べば収入は増えるが、人気が下がり、一揆が起こりやすくなる。

どちらを選ぶかは状況次第だ。ここでは、その状況について解説していこう。

多くの大名は平税を選んでいるが、一向宗系の大名は重税である。その他、史実通りに北条家も軽税だ

微税（びぜい）・軽税（けいぜい）・平税（へいぜい）・重税（じゅうぜい）

微税を選ぶべき状況は開墾、商業など開発に重きを置く時期だ。城が十～二十程併合できた段階で全領土で開発を行えば、一年間で相応の石高が上昇する。ここに微税効果が加われば、さらなる経済力・軍事力の増強が望める。一年間開発すると割り切るなら、そういう使い方をしよう。なお、微税と重税の効果の違いは左の表と図を参考にして欲しい。

また、ゲーム開始直後で町の規模が3の場合は楽市を開き、微税にして商業を開発し、鉄砲技術を得るのもいい方法だ。

重税を選ぶべき状況は、一～二城しか領土がなく、しかも資金不足で傭兵も貯められない弱小大名を選んだ場合。その場合でも人気の低下は軍の士気に影響が出るため多用はしない方が無難だ。

微税にして開発する場合は、△ボタンを押してゲーム進行のスピードを早めよう。早送りすることによって、どんどん石高が高くなっていくのが実感できるはずだ。一年後が楽しみである

税と収穫高

税種	税収	人気	発展
重税	6割	下降	停滞気味
平税	5割	停滞	ゆるやか
軽税	4割	上昇	はやい
微税	3割	急上昇	急成長

重税と微税の比較

7月
総石高 61万2000石
総兵糧 21万1900石
平均人気 50

9月

	重税	微税
総石高	61万4000石	62万4000石
総兵糧	33万2500石	28万1610石
平均人気	41.6	70.8

一揆について

一揆

毎月十五日に発生。城の人気が50以下だったり、敵の間者の一揆工作が成功すると、一揆が発生。一揆発生時の一揆側の兵力は、人気の低さと石高に比例する。

一向一揆

一五五五年以降、五月二五日と九月五日に25％の確率で発生。左の表の城では一向一揆の可能性あり。発生すると、全ての城で約25％の確率で一揆が起こる。本願寺、雑賀衆、一向衆、願証寺が滅亡していれば発生しない。

一向一揆が起こる城

富山城（越中）、松倉城（飛騨）、七尾城（能登）、金沢御坊（加賀）、一乗谷城（越前）、大野城（越前）、金ヶ崎城（越前）、郡上八幡城（美濃）、稲葉山城（美濃）、岩村城（美濃）、岡崎城（三河）、長篠城（三河）、那古屋城（尾張）、長島城（伊勢）、小谷城（近江）、観音寺城（近江）、朽木城（近江）、石山本願寺（河内）、雑賀城（紀伊）、芥川城（摂津）、姫路城（播磨）

布告

大名コマンド

切り札となるコマンド

政略結婚、同盟破棄、出家することによって全領土の人気上昇、切支丹になることによって全領土の町の規模上昇、天下布武など、ゲームをクリアする上で奥の手となるコマンドが揃っている。

このコマンド群を使いこなせれば、強力な一手になるだろう。

切支丹大名になれば、いきなり町の規模+1。ゲーム開始直後に鉄砲隊を編制することも可能だ

婚姻 ~こんいん~

相手大名との友好度を50アップし、多くの場合同盟になる。また、自分の武将に与えれば、裏切らなくなり、後継者にもできる。

友好度が敵対や険悪になっている大名には姫は送れない

破盟 ~はめい~

同盟の破棄。相手の友好度が下がる。武将の忠誠度低下のようなデメリットはない。

また、同盟中の城に不穏工作で士気を0にしてから軍を敵城の上におき、破盟→攻城で簡単に城を奪うという悪魔的な攻略もないことはない。

出家【還俗】 ~しゅっけ げんぞく~

その利点・欠点は左図の通り。人気の上昇は兵の士気向上＝軍団の強化に繋がる。一回だけなら還俗すれば通常に戻ることも可能。一揆が起こらないので、重税もOK。友好度は切支丹大名が-30。

出家の損得

- 全ての城が人気上昇
- 一揆が発生しない
- ※敵の謀略成功時を除く

↕

- 検地、刀狩、楽市、布武、動員ができなくなる

主な出家大名

- 本願寺顕如
- 願証寺證恵
- 鈴木佐大夫

切支丹 ~きりしたん~

その利点・欠点は左図の通り。町の規模3の城で実行すると、いきなり鉄砲隊が編制可能。ただし、一五四九年八月十五日以降でないと実行できない。友好度は仏教国-30、大名-10、切支丹国+30。

切支丹の損得

- 切支丹大名との関係強化
- 全ての城が楽市になる
- 全ての城の町の規模+1

↕

- 無信仰大名との関係悪化
- 出家大名との関係悪化
- 検地・刀狩・布武ができなくなる

主な切支丹大名

- 大友宗麟
- 黒田官兵衛
- 小西行長
- 蒲生氏郷

布武 ~ふぶ~

左図の条件を満たしていると、ゲームがクリアとなる。ただし、天下を武力のみで同盟国もなく統一していれば五百年（何と現代も統一中!!）、同盟家があれば三百年治世が続くとされるが、天下布武でクリアした場合、百年しか持たないようだ。とはいえ、クリアには変わりないので、畿内からスタートする武将は積極的に狙っていこう。序盤の有利さが欲しい場合は出家するか、あるいは切支丹大名となって鉄砲・大筒を求めた方がいいだろう。

布武の条件

◆総石高が400万石以上
◆二条城を支配している
◆上の2条件を3年維持

↓

ゲームクリア

移動

自城コマンド

人材・物資の移動

人材と物資を一ヵ所に集中、あるいは的確に分散する作業。それが移動だ。

武将移動では武将と民兵を、軍団の移動では武将、傭兵、兵糧の移動を、輸送では傭兵と兵糧の移動ができる。それぞれ、状況によって使い分けていこう。

武将を移動させている画面。ゲームスタート時はバラバラの武将を、うまく集中させて使おう

武将 ～ぶしょう～

武将を移動させるコマンド。同じことは軍団の移動でもできるが、兵糧が減らない分、こちらを使った方が賢い。また、他国を刺激しないのも利点だ。

知行（大名コマンド）、婚姻、輸送と共に、ゲーム開始時、領城が複数ある場合は、まず実行したいコマンドだ。

基本的には四つ城があった場合、三つの城に千五百程度の傭兵を残し、後の兵力を一つの城に集中させるという配置がお勧めだ。もし三つの手薄な城に敵が攻めてきた場合は、集中させた第一軍をもって撃滅し、そのまま追撃して攻城戦に挑めるからだ。

軍団移動よりも「武将+輸送」

移動する要素は三つしかない。武将と兵糧と傭兵だ。武将は武将コマンドによって移動でき、兵糧と傭兵は輸送コマンドによって移動できる。しかし、軍団コマンドを使えば、その三つを一度に移動できる。とはいえ、その不利点は下の表の通り。兵糧消費は十日だと一万石。特に序盤では贅沢な移動手段なのだ。

武将+輸送	軍団（兵1万）
兵糧消費 0 石/1日	兵糧消費 1000 石/1日

軍団 ～ぐんだん～

軍団を編制し、自分の城や敵城に移動させるコマンド。敵城に移動した場合は合戦を意味する。ただ移動させた場合は士気は下がらないが、細い道を進軍させた場合は一日に1ずつ士気が減っていく。また、敵領土内を進んでいる時も士気が減少してしまう。

軍団コマンドによって出撃した時の軍団の士気は、

50＋城士気／4＋城人気／4

という計算により割り出される。要は、士気と人気に比例するのだ。野戦を有利に戦いたいならば、士気が100の時に人気の高い城から出撃しよう。

敵城への軍団移動は、すなわち合戦を意味する。兵力を蓄えて必勝態勢を整えた上で、慎重に選択しよう。一敗地にまみれれば滅亡が待つ

輸送 ～ゆそう～

兵糧と傭兵を移動するコマンド。大量の城を抱えている場合は、一年に一回は前線の城に兵糧を輸送したい。輸送において気を付けたいのは、敵が自分の城を囲んでいる時に自分の城に兵糧や傭兵を送ると、それらの物資は全て敵のものになることだ。籠城している城の兵力を送りたい場合は、知行の多い武将を移動させ、民兵の活躍に期待するしかない。

雪と行軍

東北地方と北陸地方は、冬になると雪が降る。その時に軍団が移動すると、路上で毎日士気が一日に1ずつ減っていく。

また、天災イベントで大雪が降ると、その城を繋ぐ道にいる軍団の士気は一日に八分の一か十六分の一と、急激に士気が低下する。

主な降雪国

松前城、波岡城、三戸城、高水寺城、檜山城、横手城、山形城、岩出山城、岩切城、米沢城、二本松城、黒川城、新発田城、栃尾城、春日山城、葛尾城、小諸城、松倉城、富山城、七尾城、金沢御坊、一条谷城、大野城、金ヶ崎城

内政

必要か不必要か

自城コマンド

内政は、全体的に急激な発展を望めるわけではなく、開墾で三万石上げるよりも、七万石の城を取りたいプレイヤーにとっては、不用の存在かもしれない。しかし、内政が有効な状況も確実に存在する。

以下ではその状況を解説していこう。

シナリオ②の織田家の清洲城は町の規模3。優秀な内政担当もおり、一年後には鉄砲隊の編制ができる

開墾 ～かいこん～

必要能力 内政

開墾の成果は最大石高、開発度（一九八ページ参照）、武将の身分と内政と数、税率、隣城によって変化。効果と隣城については下表と左図参照。なお、開墾中の武将がいると収穫高が最高25％多くなる。

隣城別開墾効果比

条件	効果比
隣城の中でその城が最高石高	2
隣城(敵)にその城より高い石高がある	3
隣城(同盟者・自城)にその城より高い石高がある	4

能力値別石高上昇率表

内政A×3人	内政B×3人	内政C×3人
2年後	2年後	2年後
石高+2.4万石	石高+1.9万石	石高+1万石

商業 ～しょうぎょう～

必要能力 内政

商業の成果は武将の身分と内政と数、税率によって変化する。商業も開発中の武将がいると収穫高が最大25％多くなる。年間にすると、万単位で変わることもあるので無視できない。また、楽市コマンドを実行すると、町の規模が3以上に上昇可能になる。伝来後なら4で鉄砲隊、5で大筒隊が編制できる。費やす日数と効果は左図参照。

町の規模を1つ上げるための日数

※町規模3→4の場合

内政A×3人	内政B×3人	内政C×3人
334日	553日	1026日

治水 ～ちすい～

必要能力 内政

治水の成果は武将の内政と人数によって変化する。税率は関係ない。城の人気と災害回避率が上がるが、一城単位なので使用頻度は少ない。その代わりに上昇率は高いので、最終決戦前に士気アップを見込んで治水を行ってもいい。

築城 ～ちくじょう～

必要能力 内政

築城の成果は武将の内政と人数、現在の規模によって変わる。城規模が一つ違うと、日数はほぼ倍かかる。

城の規模を1つ上げるための日数

※城規模3→4の場合

内政A×3人	内政B×3人
96日	123日

警戒 ～けいかい～

必要能力 謀略

相手が謀略要員をこちらの城に送ってきた場合、それを捕獲するためのコマンド。成功率はかなり高い。捕獲した武将は捕虜となり、数カ月すると仕官してくることも多い。つまり、タダで謀将を手に入れられるお得なコマンドだ。自分の城で！マークが点灯しているなら、それは間諜がいる印。全ての作業を一旦ストップして警戒し、捕獲してしまおう。

羽柴秀吉を捕獲した。能力値的にも素晴らしい人材だ！

軍備

自城コマンド

傭兵と兵種変更

徴兵は、民兵ではなく傭兵のみを雇うコマンドだ。外交能力が高い武将程集められる兵数が多い。敵国との外交の時期が終わり、することがなくなった外交要員に実行させたい。どこか安全な国に十〜二十人程徴兵させて、前線に傭兵を送らせてもいい。

鉄砲隊は足軽隊より実質一・五倍の攻撃力を持つ。できれば早めに実戦配備したいところだ

徴兵 〜ちょうへい〜

必要能力 外交

兵糧と引き替えに傭兵を雇うコマンド。傭兵一人につき兵糧が十石必要なので、一万人の傭兵を雇うには十万石が必要となる。なお、武将一人当たりに一回に雇える兵数は九九九九人。徴兵の効果は左の図にある通り、武将の外交によって左右される。ただし、他のコマンドのように身分に左右されることはないため、外交だけが取り柄の地侍などを一ヵ所にまとめて常に徴兵させておくなどの手が有効だ。なお、傭兵千人を1ヵ月維持するには二百石、一万人なら二千石かかる。

100日徴兵をして得られる兵力

外交A ×3人	外交B ×3人	外交C ×3人
100日	100日	100日
1500人	1200人	900人

足軽〜あしがる〜・騎馬〜きば〜・鉄砲〜てっぽう〜・大筒〜おおづつ〜

兵種を変えるコマンド群。左表を見てもらえば分かる通り、野戦では足軽隊→騎馬隊→鉄砲隊の順に強くなる。また、大筒隊は攻城戦において凄まじい破壊力を誇ることが分かるだろう。

これらの兵種は、武将が最初から編制されている場合もあるが、多くの場合は、自城で編制する。騎馬隊は騎馬の産地、鉄砲隊は町の規模4以上の城、大筒隊は町の規模5以上の城でしか生産できないが、それぞれ侵略や商業開発をしてでも確保したいところだ。

それ以外にも、同盟国や敵国に武将を派遣して、そこで兵種を変更することもできる。費用は二〜三倍かかるが、手早く編制できる。兵が百二十人しか持てない地侍も、一万二千人持てる宿老も、費用は同じ。兵糧に余裕があるなら、軍の中核となる宿老だけでも鉄砲隊にしておきたい。その場合のお勧めは雑賀城か堺城。ここなら多くのシナリオで鉄砲隊が編制可能だ。宿老三人なら費用は十五万石。将来への投資だと思って派遣してみてはどうだろうか？

兵種の能力比

	移動力	攻撃力	攻城力	防御力
足軽	100%	100%	100%	100%
騎馬隊	200%	120%	80%	50%
鉄砲隊	50%	150%	120%	33%
大筒隊	33%	75%	800%	50%

兵種変更にかかる費用と期間

	産地	期間	自国	同盟国	敵国
足軽	全て	1日	0	0	0
騎馬隊	馬	1ヵ月	5000	10000	20000
鉄砲隊	鉄砲	2ヵ月	10000	30000	50000
大筒隊	大筒	3ヵ月	10000	30000	50000

主な鉄砲生産国

(S=シナリオ)

岐阜城	(S4~5)
観音寺城	(大津城:S5)
岩切城	(仙台城:S6)
堺城	(石山本願寺、大坂城:S4~6)
雑賀城	(和歌山城:S3~6)
清洲城	(S4~6)
内城	(S4~6)
二条城	(S6)
府内城	(S3~4、6)

主な大筒生産国

(S=シナリオ)

江戸城 (S6)

人事

自城コマンド

大名コマンドの方が便利

大名コマンドだけではなく、自城コマンドでも身分や知行は上げられる。しかし、選択している城一つ分なので、全体的な知行のやりくりはできない。新しい城を入手して、そこで家臣の知行を上げるなど、限定された使い方になるだろう。

知行をどう与えるかで、軍の強弱が決まってしまう。役割ごとにうまく配置したいところだ

身分 ～みぶん～

身分については大名コマンドでも触れた。自城コマンドとの違いは大名領全体単位か各城単位かということだけだ。ここでは身分自体についての解説を行おう。

身分は功績値によって上昇する。身分が上がる程能力値にも補正がかかり、例えば内政Aの地侍と内政Cの奉行がいた場合、その内政効果は奉行の方が高い。これについては、四八ページで詳しく解説している。また、身分が高い程与えられる知行の最大値が高く、与えた知行が高い程率いられる兵士数は高い。二十万石を与えられる宿老の場合、民兵（農繁期）六千、傭兵六千で最大兵士数一万二千人になる。ちなみに、どうすれば功績値が上昇するかも、四八ページで触れているので参照して欲しい。

身分と兵士数

身分	最大知行値	最大兵士数	必要功績値
地侍	2千石	120人	0
馬廻	5千石	300人	1
組頭	1万石	600人	4
部将	2万石	1200人	7
与力	4万石	2400人	10
重臣	6万5千石	3900人	20
奉行	10万石	6000人	40
家老	15万石	9000人	80
宿老	20万石	12000人	100
主君	25万石	15000人	–
剣豪	2千石	120人	0
忍者	2千石	120人	0

知行 ～ちぎょう～

大名コマンドとの違いは身分コマンドと同じく、大名領全体単位か、各城単位かということだ。城を獲得した後、帰順した将軍や今まで知行が少なかった武将に知行を割り振る時に使う。それ以外は大名コマンドのものを使おう。知行の割り振りテクニックについては、四二ページを参照して欲しい。なお、城の石高を武将に与えても与えなくても、収穫高とは全く関係ない。

新しく十万石の城を落としたとすると、民兵は三千増える計算になる

登用 ～とうよう～

必要能力 外交

自領内にいる浪人を配下にするコマンド。成功率は実行武将の外交に左右される。左表でお勧めの浪人をピックアップしてみたが、一九六ページにはより詳細な浪人リストが掲載してあるので参照して欲しい。

なお、浪人を登用した直後は留保状態で、知行を与えないと命令できない。武将数が多いと忘れがちなので注意。

お勧め浪人リスト

- 百地三太夫（伊賀上野城:S2～4、6）
- 風魔小太郎（二条城:S5）
- 近衛前久（二条城:S2～6）
- 加藤清正（那古屋城:S3）
- 島左近（大和郡山城:S3）
- 福島正則（那古屋城:S3）
- 後藤又兵衛（姫路城:S1～4）
- 以心崇伝（二条城:S3～6）
- 山中鹿之介（二条城:S3）
- 大谷吉継（府内城:S3）

（S=シナリオ）

計略

自城コマンド

敵が攻めてきたら

敵が包囲してきた時や、その進軍中に仕掛けられるコマンド。

内応は敵を寝返らせる。足止めは進軍中の敵を何日か足止めできる。混乱は包囲・進軍中の敵軍団の士気を下げられる。いずれも、「敵が攻めて来た場合」だけに有効で、使用頻度は比較的少ない。

侵略してきた敵に混乱を仕掛ければ、退却してくれることもある。謀将一人が一城を救うのだ

内応
~ないおう~

必要能力 謀略

敵軍団がこちらの城に向かって進軍中、あるいは包囲中に仕掛けることができる。両家の総石高が自軍の方が多い場合、兵力が敵以上の場合、内応対象の武将の忠臣属性が低い場合は成功率がアップする。

成功率はあまり高くない。むしろ謀略要員が捕まる可能性が高いので注意が必要だ。余程よい条件が揃っていない限り、仕掛けない方が無難

忠誠心が低い武将	
明智光秀	上条政繁
松永久秀	津軽信牧
宇喜多直家	九戸政実
陶晴賢	葛西晴信
黒田官兵衛	有馬晴信
藤堂高虎	姉小路頼綱
木曽義昌	
荒木村重	
石川数正	
本庄繁長	
新発田重家	

足止
~あしどめ~

必要能力 謀略

進軍してくる相手の軍団を足止めするコマンド。成功すると、その日一日の進軍を止めることができる。成功率は、実行した武将の謀略の高さと、対象の敵軍団の謀略の高さによって変わる。ただし、捕獲される可能性が高く、あまりお勧めではない。

使用するとすれば、シナリオ②の松平家の場合。今川家に攻め込まれる可能性が高く、松平家には忍者や謀臣が揃っていて、敵である今川軍の謀略が低いため足止を実行すれば、ほぼ確実に成功するだろう。しかし、その場合でもむしろ混乱コマンドを使った方が効率がいい。

たとえ足止めに成功しても、2～3日程現状が維持されるだけだ。捕獲される可能性も高く、余程の状況でなければ使う必要はない

混乱
~こんらん~

必要能力 謀略

進軍してくる敵軍団か、包囲中の敵軍団に対して使用できる。成功すると、一日あたり士気を1低下させられる。遠くの城を囲まれて、しかも援軍が間に合いそうにないのなら、とりあえず謀将を派遣して混乱させ続けよう。うまくいけば撤退、最悪でも援軍が着いた時に野戦で相手の士気が下がった状態で戦うことができる。

とはいえ、やはり派遣した武将が捕獲される可能性が高いので、頼りになる援軍が用意できるならば使わないにこしたことはない。

うまくいけば、混乱させるだけで相手を撤退させられる。捕獲される危険がない忍者がいるなら、急場しのぎに使用してもよいだろう

布告

自城コマンド

状況次第で効果発揮

農繁期の兵士数を農閑期と同じ（三倍）にする動員コマンド、兵糧五万で本城を変更できる本城コマンド、町の規模を3以上に拡大できる楽市コマンド、収入を10％上げる検地・刀狩コマンドなど。メリットとデメリットが大きく、使用するタイミングが重要となる。

検地・刀狩を行えば実収入にして約二倍の兵糧が見込める。戦闘系でない武将でまとめて行おう

動員 ～どういん～

兵士数が低下する農繁期のみで有効。民兵が三倍になる。その代わり、秋の収入は半減してしまう。シナリオ④で中国大返しをする前の羽柴家など、どうあっても野戦で負けられない状況で使用するコマンドだ。

動員をかけると、その年の収入が半分以下になってしまう

本城 ～ほんじょう～

兵糧五万石で、本城を移動できる。しかし、現在の本城より城の規模か石高が高い城にのみ有効。また、包囲中や孤立中にも無効となる。

楽市 ～らくいち～

町の規模が3に達している場合に実行すると、商業開発によって町の規模を4以上にできる。デメリットは少なく、町の規模3の城は絶対に実行すべきコマンドだ。逆に言うと、楽市コマンドを使わなければ、鉄砲隊・大筒隊も編制不可能。なお、出家していると楽市は実行できない。

主な町規模3の城リスト

小田原城(S1～6)	観音寺城(安土城:S1～3、6)
江戸城(S5)	大和郡山城(信貴山城:S1～6)
春日山城(S2～6)	芥川城(伊丹城:S1～6)
駿府城(S1～2)	石山本願寺(石山城、大坂城:S1～3)
那古屋城(清洲城:S1～3)	吉田郡山城(広島城:S5～6)
稲葉山城(岐阜城:S1～3、6)	山口城(S1～6)
一乗谷城(一乗谷館:S1～3、6)	内城(S1～3、5)
小谷城(佐和山城:S4～5)	府内城(S1～2)
二条城(S1～5)	立花城(S1～6)

(S=シナリオ)

検地 ～けんち～

その利点・欠点は左図の通り。石高10％アップ相当だが、民兵が弱くなってしまう。あらかじめ内政、外交、謀略担当の武将は特定の城でしか知行を割り振らず、その城だけ検地コマンドを使用しよう。

石高10%アップ相当

検地の効果

- ◆民兵の強さが傭兵なみに
- ◆強兵の強さが傭兵なみに

民兵の弱体化はやはり痛い。取り消し不可能なので、使用は慎重に

刀狩 ～かたながり～

その利点・欠点は左図の通り。民兵が使いものにならなくなる可能性もある。内政、外交、謀略担当の武将の知行城のみで実行したい。検地と刀狩を同時に行えば、石高にして20％相当アップする。

石高10%アップ相当

刀狩の効果

- ◆農閑期の兵数2/3ダウン
- ◆動員不能

江戸城に内政担当などの知行を集めて検地+刀狩。収入は三万石上昇した

敵城コマンド

情報

武将を移動して探る

敵城の情報を見るためには、武将をその城に派遣すればいい。この時、相手の城まで武将が達する必要はなく、自城を出発した瞬間にその敵城の情報を見ることが可能だ。情報が見たいだけなら、この方法で情報を見よう。

チェックすべきなのは士気、兵士数、人気（野戦時の敵の士気に影響）だ。城の規模も攻城戦時に強く影響するので覚えておきたい。武将の忠誠度などもチェックしておこう。

敵武将の知行が最大値の半分以下の場合は内応しやすい。石川数正は狙い目

遺臣はどこで留まるか分からない。どこまでも追え！

敵城コマンド

移動

敵城から撤収

敵城から引き上げるコマンド。不穏工作中に敵が警戒コマンドを多人数でしていることに気が付いた場合や、あまりにも捕獲される謀略要員が多い場合などは、見切りを付けて撤収しよう。被害は最小限に抑えるべきだ。

他国の浪人を追いかける時にも使用する。里見家、松平家、将軍家は早期に滅亡する可能性が高い。その本城に人を派遣し、滅亡したら遺臣を追って登用するのも上策だ。

敵城コマンド

外交

強敵とは結べ！

敵対や険悪などの関係により、同盟が結べない場合は外交の出番となる。優秀な交流要員を何人か差し向ければ、半年もあれば友好状態まで回復する。また、同盟を結んでいてもしばらくすると破盟されてしまうので、何人か外交要員を派遣しておくと安心だ。

あの武田家でも、誠意を尽くした交流を行えば上杉家と同盟できる。これで後方は安全になった

交流

～こうりゅう～

必要能力 外交

ゲームスタート時、敵対や険悪関係で同盟が結べない強敵がいる場合は、交流コマンドの出番だ。何名か外交が高い武将に、相手の本城で交流させておけば、半年もあれば友好関係にまで修復してくれる。それから婚姻を結べば、問題なく同盟関係を結べる。

また、同盟は意外に相手から破棄してくる場合が多いので、保険のために強敵とは随時交流しておきたい。

突然同盟を破棄されると後背を突かれる。保険的な交流は欠かさずに

援軍

～えんぐん～

必要能力 外交

同盟国から援軍をもらえる。成功するかどうかは友好度と、使者の外交能力の高さが関係する。成功すると最大で城の兵力の半分を貸してもらえるが、可能性はかなり低い。

援軍成功！ しかし、ここまでに2年の時を費やしている……

登用

～とうよう～

必要能力 外交

弱小大名の救世主的コマンド。武将を他国に移動して浪人をかき集めたり、滅亡した大名の遺臣を追いかけて登用したりできる。人材補強に欠かせないコマンドだ。

兵種

敵城コマンド

敵城で兵種変更

敵城の馬や鉄砲・大筒の産地でそれぞれの兵種を変更できる便利なコマンド。軍の中核となる武将の部隊を強化するなら積極的に活用したい。二六ページでも触れたが、鉄砲隊の敵城での編制は雑賀城か堺城がお勧めだ。

足軽・騎馬隊 鉄砲隊・大筒隊

費用は倍以上かかるが、あまり苦労せずに兵種を変更できるのが嬉しい点だ。大名や宿老などを派遣して強力な部隊を編制していこう。

兵種変更にかかる費用と期間

	期間	自国	同盟国
足軽	1日	0	0
騎馬隊	1ヵ月	10000	20000
鉄砲隊	2ヵ月	30000	50000
大筒隊	3ヵ月	30000	50000

天災

人間の英知をもってしても避けることのできないもの。それが天災だ。しかし、予備知識があれば、被害を最小限に抑えられるだろう。

地震

一年中発生。日本全国どこでも発生する可能性がある。発生した城の規模は1ランク低下し、それに隣接する城も1/8の可能性で城の規模が1ランク低下する。効果は三日間続き、この間は軍団は移動できなくなる。石高や町の規模には影響を与えない。

台風

八、九月に発生。平均五～六日、最大十九日間猛威を振るう。南で発生して、主に北東方面に移動。移動距離は一日に一城分で、台風の被害を受けた場合は、その年の収入が一日の被害ごとに二割も減ってしまう。治水をしていれば、被害は最小限で収まる。

凶作

今年の収穫が凶作であるかどうかは、毎年八月十五日に判明する。発生すると日本全国に影響を及ぼし、全ての城で収穫高が1/2になる。特に序盤では被害を受けたくない天災と言える。

石高や人気には特に影響を与えない。

干ばつ

六、七月に発生。日本全国どこでも発生する可能性があるが、特に東北地方に発生しやすい。

干ばつが発生した城は、その城を中心とした二街道以内の城の収穫高が全て少なくなり、人気も10下がる。石高や町の規模には影響は及ぼさない。

豊作

今年の収穫が豊作であるかどうかは、毎年八月十五日に判明する。発生すると日本全国に影響を及ぼし、全ての城で収穫高が二倍になる。序盤で発生したら、好調なスタートダッシュを切ることができるだろう。

石高や人気には特に影響を与えない。

大雪

十二～三月に発生。日本全国どこでも発生する可能性がある。大雪が起きた城とそれに隣接する城は豪雪地帯と同様に移動制限（一日につき士気-1）。また、大雪が発生した城の隣接街道沿いにいた部隊の士気が毎日1/8か1/16低下する。効果は約一週間続く。

工作

謀略要員大活躍

敵城コマンド

合戦と並ぶ敵城併合への二大要素、それが工作だ。不穏は最短百日で敵の士気を0にすることができ、破壊は敵の城の規模や兵糧を低下させる。一揆の工作に成功すれば、相手の大軍をそちらに誘導することも可能だ。それぞれ重要なコマンドなので、詳細に解説。

不穏工作に成功し、士気が0になった城。後は城の上に軍団が移動するだけで、敵城は併合だ

不穏 ～ふおん～

必要能力　謀略

敵城の士気を下げるコマンド。成功率は実行武将の謀略の高さ、全武将を総合しての敵城の謀略の低さ、敵武将が警戒コマンドを実行しているかが関係する。一日ごとに成功率、危険度が判定され、成功すると士気が1下がる。敵城の士気が100の場合、最短でも百日で士気が0になるという計算だ。また、不穏を実行している間は成否と関係なく敵城の士気が回復しない。

城の士気が下がると、軍団の士気も下がるので、相手が迎撃してきても野戦での勝算は高い。工作コマンドの中で、最も使用頻度の高いコマンドだ。

シナリオ②の織田家での不穏の成果

不穏工作のメンバー（カッコ内は謀略能力）

羽柴秀吉(A)　簗田広正(B)
丹羽長秀(B)　林秀貞(B)
滝川一益(B)　織田信広(B)

期間	対斎藤家	対願証寺
1ヵ月	75	79
2ヵ月	53	56
3ヵ月	24	27

破壊 ～はかい～

必要能力　謀略

敵城の規模を下げ、兵糧数を低下させるコマンド。成功すると1/32の確率で城の規模低下、31/32の確率で兵糧の数が低下する。低下する兵糧の数は、実行武将の謀略と身分によって異なる。どちらの効果も、城を取った後に問題はあるが、強敵相手なら積極的に使っていこう。

◀城の規模を1まで落とすことに成功！　これで攻城戦がやりやすくなった。しかし、併合後はそれが弱点に……

▶敵の兵糧を徹底的に削減した。後は城を包囲すれば簡単に落ちる。しかし、当然落城後に手に入るはずの兵糧はない

一揆 ～いっき～

必要能力　謀略

領民を扇動し、一揆を誘発するコマンド。敵城の人気も下がるので、野戦時の敵士気を低くできる。危険度は、不穏や破壊よりもやや低い。発生率は、**(100－人気)％の3乗**と通常の倍となる（通常は6乗）。強敵への後方撹乱に使用したい。

◀一揆工作が成功し、敵の主力があわてて引き返してきた。領土を広げている敵の後方を狙って仕掛けると、足止になる

▶不穏工作で士気を、一揆工作で人気を下げた上に野戦を仕掛けた。敵の士気は50と低く、この後幸村鉄砲隊が3倍の敵を撃破

計略

敵城コマンド

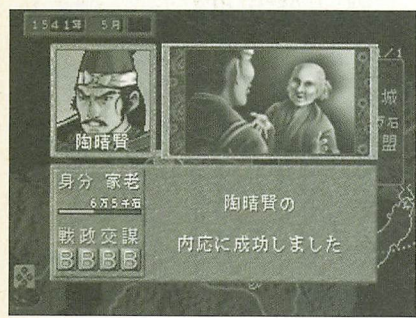
内応は重要だ

計略には敵武将を寝返らせる内応や、自城コマンドにもあった足止と混乱がある。基本的に、内応以外は使用頻度は少ないだろう。内応は条件さえ揃えば、高い確率で相手が寝返ってくれる。謀略要員と、絶好の条件を持つ対象武将がいるなら、積極的に狙っていこう。

シナリオ②の毛利家で、毛利元就、毛利隆元、小早川隆景を派遣したところ、鍋島直茂の内応に成功！

内応 ～ないおう～

必要能力 謀略

敵武将を寝返らせる。敵城にいる武将の他、進軍中の軍団、包囲中の軍団にも仕掛けられる。成功率は、実行武将の謀略が高い、対象武将の忠臣属性が低い、対象武将の能力がその仕える大名よりも高い、謀略の能力が低い、総石高がその敵の総石高より多い、などの場合に高くなる。また、対象武将の知行が、最大知行の半分以下、包囲中、相手よりも自分の方が兵力が多いなどの条件でも成功率は上がる。なお、城を陥落させると敵将の忠誠度が下がるので狙い目だ。

シナリオ①で、陶晴賢の内応に成功！　知行と忠臣属性が低く、彼の能力が大名より高かったことが勝因

足止 ～あしどめ～

必要能力 謀略

自城コマンドと効果は同じ。敵軍を足止できる。自国から遠い場所の兵も足止できるのが利点だ。

シナリオ⑤の豊臣家の東進はまさに脅威だ。筒井領辺りで足止しておこう

混乱 ～こんらん～

必要能力 謀略

自城コマンドと効果は同じ。敵軍の士気と兵糧を下げる。自国から遠い場所の兵も混乱させられるので、シナリオ⑤の豊臣家、徳川家の大進撃を止めることも可能だ。

便利なキー操作

ソフトリセット

スタート＋セレクト＋Ｌ１、Ｌ２＋Ｒ１、Ｒ２でタイトル画面に戻る。

R1・R2 ボタン

城を包囲された時、その城を選択して押せばコマンドが切り替えられる。包囲下の城でも出撃可能に。

城を包囲されても、通常のコマンドが入力可

△ボタン

ゲームの進行速度を早送りできる。不穏工作中や攻城戦中などではありがたい。

□ボタン＋↑↓

↑で地図拡大、↓で縮小。補給の時などは多くの城が画面に入り、操作しやすい。

セレクトボタン

武将を全選択できる。徴兵の時などはいちいち全武将を選ばずに済む。

野戦

野戦コマンド

敵軍を砕く野戦

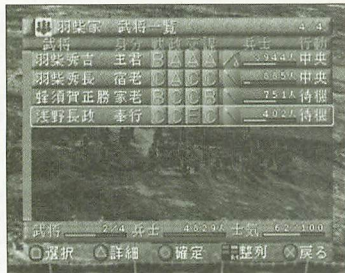
野外決戦で正面衝突し、雌雄を決する。それが野戦だ。

野戦の利点は、相手の兵力を0にできること。これによって籠城時の相手兵力を減らし、攻城戦を優位に展開できるのだ。

ここでは、その野戦のコマンド群を解説していこう。

兵士数が一定数少なくなると1/4で死亡、1/4で捕獲、1/2で負傷する。戦闘が高い程、高確率で逃走する

武将 ～ぶしょう～

左翼・中軍・右翼で武将の入れ替えを行うコマンド。出陣させなかった武将を出陣させることも可能。交戦中はたえず三軍の士気、兵力に気を配り、脆そうな部隊を見つけたらすかさず武将の配置転換を行おう。温存していた武将がいるなら、参陣させることで士気も高まる。また、兵力が0になりそうな武将を引っ込めることもできるので、討ち死する前に撤収させよう。

左翼が今にも崩れそうな時は、中軍か右翼の軍から移動させよう

前進 ～ぜんしん～

前進とは、突撃のこと。とにかく前に進めば勝てる程の士気・兵士数・戦闘力があるならば、前進で一気にケリを着けてしまおう。

後退 ～こうたい～

後退とは、突出してしまった部隊を本陣方向に向かって戻すこと。また、左翼・右翼ですでに崩した敵に見切りをつけ、後退して敵の中軍を叩く時などにも使用する。

休憩 ～きゅうけい～

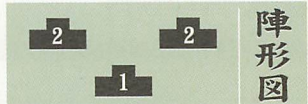
その場に留まることで、士気を回復する。ただ、休むだけではなく、目前に敵がいれば攻撃してくれる。というわけで、むしろ迎撃という意味に捉えた方が分かりやすい。鉄砲隊による迎撃は強力だ。

陣形 ～じんけい～

鶴翼

両翼を膨らませることで、敵を包囲殲滅する陣形。中軍が手薄になるのが弱点。ちなみに中軍に対する両翼の攻撃力はほぼ二倍である。戦力に余裕がある時の陣形だ。

陣形図

2	1	2

平陣

中軍を強固にし、両翼を程よく配置したバランスの非常によい陣形。戦力が拮抗している時はこの陣形を選ぶとよい。両翼の攻撃力も有効に使えるので、お勧めだ。

陣形図

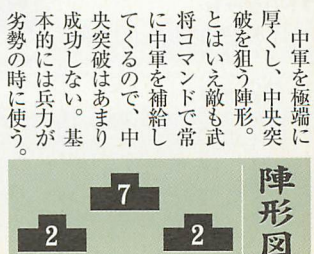
4	3	4

魚鱗

中軍を極端に厚くし、中央突破を狙う陣形。とはいえ敵も武将コマンドで常に中軍を補給してくるので、中央突破はあまり成功しない。基本的には兵力が劣勢の時に使う。

陣形図

2	7	2

※「陣形図」の中の数値は、兵士数の比率です。

戦闘の委任

敵を殲滅できないのが難点

野戦は委任することも可能だ。しかし、余程の兵力差がない限り敵は全滅しない。また、兵力が少ないと、軍の戦闘能力で自軍が勝っていたとしても、負けることが多い。

使い分け方としては、戦力差がある場合は委任し、大事な決戦は、自分で勝利を勝ち取った方がいいだろう。

攻城戦

攻城戦コマンド

城を陥落させ領土を拡大

幾重もの包囲網の中に城塞を取り囲み、士気が0になったらその城を得られる。それが攻城戦だ。攻城法にはいろいろあるが、その中でも重要なのが強襲と勧告になる。

もちろんその他のコマンドも、状況によって縦横無尽に使いこなしたい。

降伏勧告に成功すれば、城の無血開城となる。そのためには大軍と軍の謀略能力が必要だ

情報 ～じょうほう～

敵城・味方

敵戦力と味方戦力が見られる。敵戦力に関しては武将の質以外あまり参考にならないが、味方の情報は戦闘、謀略などをチェックしておこう。

攻撃 ～こうげき～

必要能力 戦闘・謀略

包囲

敵城を包囲し、じわじわと士気を減らす。効果は自軍と敵軍の戦力比に比例。

包囲に限らず、攻城戦中は敵城には収穫が入らず、収入の半分が包囲側の手に入る。この効果を利用すれば、毎年九月～十月に出兵して兵糧を奪い続けることが可能だ。

時間はかかるが、敵軍よりも兵力が多く兵糧も多いなら、最も安全に陥落させられる方法と言えるだろう。

強襲

包囲よりも急激に敵味方の士気と兵力が下がる攻城法。しかし、火攻、水攻、干殺もそうだが、城の規模を落としてしまうこともあるので落城後は注意が必要だ。ただし、強襲しても武将の死亡率が高くなるということはない。

火攻

軍団の総合謀略により成功率が変わる。成功すると城兵の1/10を倒す。その代わり、失敗すると1/2の確率で軍団の兵糧が10日分消費される。乱破が潜入していれば、成功率は10%程アップ。また、敵城が平山城だと成功率が高い。

水攻

軍団の総合謀略によって成功率が変わるが、成功すると敵の士気が3低下する。失敗時は1/2で軍団の兵の1/20が減る。乱破の潜入が成功していれば成功率は10%程アップ。敵城が水城だと、成功率が高い。

干殺

軍団の総合謀略により成功率が変わる。成功すると敵城の兵糧を十日分減らす。失敗時は1/2で軍団の士気が2低下。乱破が潜入していれば成功率は10%程アップ。敵が山城だと、成功率が高くなる。使い勝手は火攻・水攻よりよい。

計略 ～けいりゃく～

必要能力 謀略

勧告

敵城に降伏を呼びかけるコマンド。成功率は意外に高い。軍団の総合謀略が高く、四～八倍の兵で攻め寄せていれば、かなりの確率で勧告に応じてくれる。しかし、勧告に失敗すると、敵の士気が10回復してしまう。

とはいえ、勧告は一日ごとにできるので、何度か挑戦してみた方がよい。

勧告により本城が落城した場合は、その勢力の全武将が帰順する。

内応

城の武将に引き抜きを仕掛けるコマンド。自城コマンド、敵城コマンドとは違い、正否はすぐに判明する。成功すると、その武将はそのままの身分で配下になるが、失敗すると五日分の兵糧を消費する。一日一回しか行えない。

乱破

乱破を潜入させて、火攻、水攻、干殺、勧告の成功率を高める。効果は数日間続き、成否によらず五日分の兵糧を消費する。乱破が成功するかしないかは、軍団の総合謀略では変化しないが、成功率はそれなりに高い。

攻城戦の委任

攻城戦を委任すると、必ず包囲となり、強襲や火攻はできない。それらを行いたい時は、自分で攻城戦をするしかない。兵糧や兵士に余裕があり、必勝を期せる時のみ委任しよう。

戦国指南

このゲームには、さまざまなコマンドが存在する。どう組み合わせれば勝利の道が開けるのか、ここではそれを伝授しよう。

第一段階

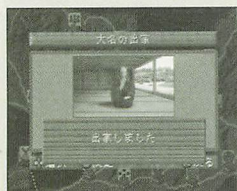
初めてゲームをやると、どのコマンドから始めるのが効率的なのか分からないことが多い。そこで、序盤～終盤にかけて必要なコマンドを解説していこう。

ゲームをスタートしてまずすべきことは、大名コマンドの知行だ。だいたいの大名の場合、知行は余っているので、これを全て武将に分け与える。次に武将を移動させて、適切な位置に配置しよう。適切な位置とは、①合戦部隊（徴兵）、②謀略要員（不穏）、③外交要員（交流、徴兵）、④内政要員（開墾、商業開発）だ。敵城なり領城に配置し、それぞれの仕事に従事させよう。その時、兵力は合戦部隊のいる一ヵ所に集中させて、その他の城には千～二千の兵力を残しておくことが肝心だ。

以上の配置を整えた上で、敵城の士気が0になったらいよいよ合戦だ。野戦は士気の差によって勝てるはず。攻城戦は士気が0なので即落ちる。

第二段階

城を陥落させたら、その城の知行を武将に割り振る。戦闘要員に優先的に与えるのが、基本だ。そして、また徴兵↓不穏↓内政を繰り返し、合戦となる。この繰り返しにより、多くの領土と、それに伴う石高、兵力が得られる。こうなれば、大軍を編制して必勝態勢を築けるだろう。

もちろん、それぞれ大名によって事情は違う。出家したり切支丹にならなければ生き残れない大名もいるのだ。それらについては五一ページからの「大名列伝」を参照して欲しい。

他にも、出家、切支丹、検地、刀狩など、考える要素はいくつもある。とりあえず、上の要点だけは押さえておこう

ゲームの流れ

ゲームスタート

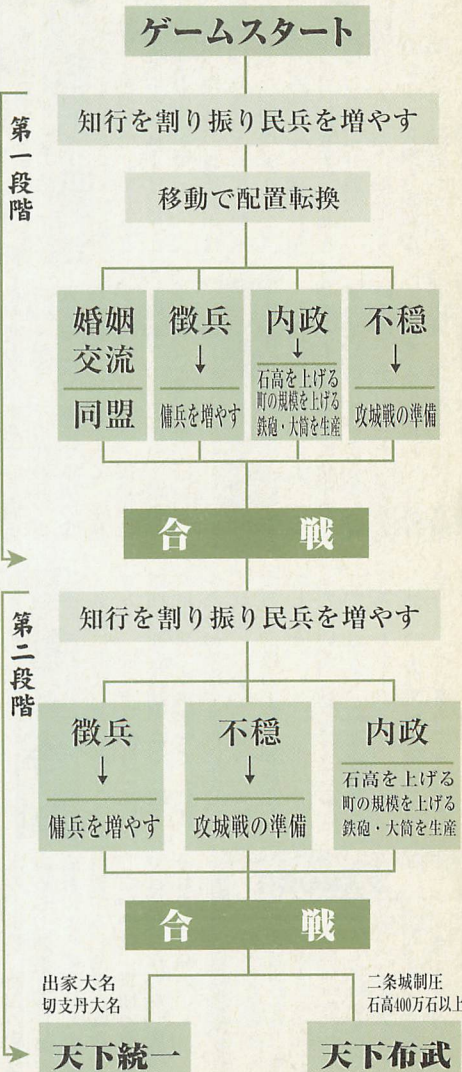
第一段階

- 知行を割り振り民兵を増やす
- 移動で配置転換
- 婚姻・交流 → 同盟
- 徴兵 → 傭兵を増やす
- 内政 → 石高を上げる／町の規模を上げる／鉄砲・大筒を生産
- 不穏 → 攻城戦の準備
- **合戦**

第二段階

- 知行を割り振り民兵を増やす
- 徴兵 → 傭兵を増やす
- 不穏 → 攻城戦の準備
- 内政 → 石高を上げる／町の規模を上げる／鉄砲・大筒を生産
- **合戦**

出家大名・切支丹大名 → **天下統一**

二条城制圧・石高400万石以上 → **天下布武**

人材活用術

英傑たちを使いこなせ！

織田信長

貴様らそんなことも知らんのか。いいか、一度しか言わんぞ！

講師データ

安土時代を創った織田家の当主。羽柴秀吉には調略や合戦、明智光秀には京都外交、柴田勝家には遠征と、効率的な人材活用を行った。

人材を使いこなすには、それぞれの適性を知り、適切な仕事をさせるのが第一だ。そこで、独創的な家臣の活用を行った織田信長から、人材の使いこなし方について学んでいこう。

戦闘型の人材

この奴らの適性は合戦だ。知行を惜しまず、優先的に多くの知行を与えて民兵を養わせ、武者働きをさせる。それがこ奴らの本分というものだ。その代わり、合戦がないときはヒマをもて余して博打ばかりしておる。そういう不心得者には徴兵でもさせておけ。

この堅物に知行を与えれば敵なしだな

例：柴田勝家

外交型の人材

この能力が一番使えんなぁ。力のない時なら信玄の元にでも出して同盟維持のため頭を下げ続けさせるというところか。諸国に出して浪人を集めさせてもよいな。いずれも最悪の弱点は居場所を忘れやすいことか。まぁ何もすることがなければ兵でも集めさせい。

この二重アゴあたりが適任だろうな

例：前田玄以

内政型の人材

商業、あるいは開墾に精を出す者たちだ。商業は、鉄砲や大筒の開発のためと考えた方が近いであろうな。開墾は、信玄などは一途にやっているようだが、無駄と言う他ないな。二万石開墾するよりも十万石の城をかすめ取った方がはるかに早いわい。

このハゲに任せれば鉄砲隊も組織できよう

例：松井友閑

謀略型の人材

人間として問題のある奴が多いが、敵城に放って不穏工作をさせたり、城を包囲してきた敵軍に放って混乱させたりと極めて使い勝手のいい連中だ。その上、軍団を任せれば勧告が成功しやすい。序盤は間諜として、後半は総大将として活躍させてやれ。

このにやけチヨビ髭がいい例だ。使える

例：羽柴秀吉

内政術

二年後三年後を見越そう

内政をしなくても城は取れる。しかし、これを行うことによってよりゲームの幅が広がることも確かだ。関東随一の領土を誇る、北条氏康に内政の極意を聞いてみよう。

信長殿は内政がお嫌いのようだ。だが、民は国の宝とも申す

北条氏康

講師データ

三代目北条家当主。北条早雲以来の四公六民政策を受け継ぎ、領内に大規模な検地や税制改革を行う。広大な関東を統治した名将である。

知行のための開墾

確かに内政は収入のためだけでは意味がない。その効果には三通りある

わしの場合、開墾とは知行、収入、強兵という三種類の観点から考えておる。まず、知行のための開墾とは、例えば宿老のために、二十万石の城を作るという意味だ。シナリオ②の北条家の場合は、江戸城（十八万石）、河越城（十七万石）が候補地になる。これらを二十万石まで上げれば、六千の民兵の組織が可能だ。

▶敵の城を奪ったら、20万石まで上げたいところだな。厩橋城（15万石）はその上強兵属性が付いているので、最優先で開墾すべきだ

◀開墾している武将がいると、収入が上がる。収入がある9月になったら、徴兵などをストップして全員開墾に回すという手もあるな

収入のための開墾

左の表は、実際に半年間開墾してみての成果の差だ

表から分かることは、集中して開発するよりも分散して開発した方が総収入がいいということだ。また、最大石高、開発度によってかなり成果が違うことも分かる。江戸城（最大石高45万石、開発度25）は抜群の伸びであった。ただ収入を上げたい開墾の場合は、一城につき一武将で開墾した方が能率的だということだな。

1城に内政担当を集中して開墾した場合		
小田原城	14.1万石	14.8万石(+0.7)
合計	66.3万石	67.3万石(+1)

3城に内政担当を分散して開墾した場合		
小田原城	14.1万石	14.6万石(+0.5)
江戸城	18万石	19.4万石(+1.4)
河越城	16.6万石	16.9万石(+0.3)
合計	66.3万石	68.5万石(+2.3)

5城に内政担当を分散して開墾した場合		
小田原城	14.1万石	14.4万石(+0.3)
玉縄城	5.5万石	5.7万石(+0.2)
滝山城	12.1万石	12.9万石(+0.7)
江戸城	18万石	19.4万石(+1.4)
河越城	16.6万石	16.9万石(+0.3)
合計	66.3万石	69.3万石（+3）

減税の効果

四公六民には理由がある

我が北条家は、早雲寺殿以来伝統的に年貢を四公六民に保っておる。

軽税は、下の表を見てもらえば分かる通り、開墾の成果が極めて高いのが、最大の利点だ。この効果は商業においても同様である。また、領民の人気が高まることによって軍の士気も上がるため、我が軍は強豪上杉家、武田家とも対等に渡り合えているのだ。

石高18万石の江戸城で半年間開発した場合の結果		
重税	19.8万石	+1.8
平税	19.8万石	+1.8
軽税	20.1万石	+2.1
微税	20.5万石	+2.5

強兵のための開発

最も使用頻度が高いのが、この開墾かもしれんな

強兵の城は、えてして石高が低い国が多いものだ。とはいえ、傭兵の三倍の強力さを持つ強兵は、できるだけ多い方がよろしかろう。そこで必要なのが強兵を持つ城の開墾である。シナリオ②の北条家の場合、北の隣国上杉家の強兵がぜひ欲しい。わしがこれらを手に入れたら、栃尾城、新発田城などの諸城は、全てを開墾せずにはおれぬだろう。

なお、開墾の成果は開発度によって、かなり左右される。それぞれの城のシナリオごとの開発度は、198ページの表を参考にするとよい

石高以外の収入

商業の開発は、信長殿もわめいていたようだが、鉄砲や大筒の開発のためと考えた方がよい。我が小田原城の場合、最初から町の規模が3もあるので、鉄砲隊の編制は間近だ。これがあれば武田家、上杉家の騎馬軍団とも渡り合えるであろう。

鉄砲技術開発の瞬間。町規模ごとの収入は下の表の通り。規模5にすると、約6万石相当の収入が得られる。むろん、知行にはならないが

町の規模と収入		
規模	楽市実行時	通常時
1	―	500石／月
2	(400石／月)※	1000石／月
3	1000石／月	1500石／月
4	2500石／月	(要楽市)
5	5000石／月	(要楽市)

※町規模1の時に「切支丹」コマンドを実行した場合のみ

我が北条家とは無縁の存在だが、武田家や上杉家はそれぞれ金山を保有している。彼らの金山は六万石相当で、大いに財政を助けておろうな。また、石高が少なく、よって収入も少ない東北諸国にとって、岩切城の金山は垂涎の的だろう。

武田家の躑躅ヶ崎館には豊かな金山がある。その町収入は何と5937だ。同盟国ながら、うらやましいことであるな

全国金山リスト	
金山 (2500/月)	岩出山城（陸奥南）／春日山城（越後）／躑躅ヶ崎館（甲斐）／山吹城（石見）
金山+ (5000/月)	岩切城（陸奥南）／新発田城（越後）／駿府城／竹田城（但馬）／府中城（甲斐）／甲府城（甲斐）

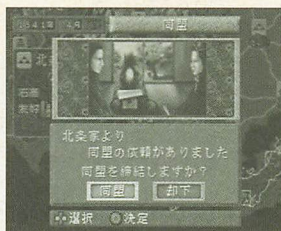
外交術

強国と結び、弱国を併せる

太原雪斎

僭越ながら、三国同盟を成した拙僧が、ご指導つかまつろう

講師データ

今川家の軍師。北上したい武田家、東進したい北条家との利害を一致させ、戦国最大の同盟と言われる甲相駿三国同盟を成立させた人物。

戦国の世には二種類の大名家がある。敵か、味方かだ。全てを敵に回していてはとうてい勝ち目はない。そこで、外交手腕が問われるのである。今川家の大軍師・太原雪斎にお話を伺おう。

同盟について

友好度の目安				
0〜24	25〜49	50〜74	75〜99	100
敵対	嫌悪	友好	親密	同盟

友好度の変化の傾向	
総石高が自国に近い大名家	嫌う
過去1年間に戦闘を行った大名家	嫌う
隣接する城の数が多い大名家	嫌う
自国の2〜3倍程度の総石高を持つ大名家	とても嫌う
総石高が自国より大幅に大きい大名家	友好的
総石高が自国より低い大名家	友好的

人の心は移ろいやすいもの。隣国の友好度は日に日によって変わっておる。それは何も意味なく移ろうわけではない。左の表にもその傾向を抜き出しておくから、参考にして欲しい。いつの世も、隣の金持ちは妬ましいというわけであるな。南無阿弥陀仏、南無阿弥陀仏。同盟を結ぶなら初めのうちに婚姻して成立させてしまうのが賢い。

同盟に不可侵以上の期待はできぬ。他国に援助してもらうですと、喝!!

交　流

交流の効果			
Aチーム 外交A×3人 外交B×10人		Bチーム 外交B×3人 外交C×10人	
	親密度	Aチーム	Bチーム
	敵対➡嫌悪	約10日	約15日
	嫌悪➡友好	約15日	約40日
	友好➡親密	約30日	約50日
	親密➡同盟	約45日	5年たっても不可能

敵対している勢力と同盟を結びたい場合は、交流する他ない。左の表ではその交流の効果を調べ、紹介してある。優秀な外交団を派遣すれば、六十日で婚姻できる。また、何もせずに放っておくと、一年程で同盟を破棄されてしまう。後背を襲われ、一気に滅亡することもあるのじゃ。交流を欠かした罰というわけじゃな。南無阿弥陀仏。

情を欠いた外交を成す者は、地獄に墜ちるのが早きこと矢を射るが如し

兵なくして国を盗るには……

謀略術

松永久秀

初めまして。拙者、松永と申す者でござります。どうぞよしなに

講師データ

極悪人。三好家に仕え、足利義輝を暗殺、三好義興を毒殺、安宅冬康を謀殺、三好長慶、三好義賢、十河一存も暗殺した疑いがある。

力押しだけでは、乱世に翻弄され、衰弱していく運命にある。力のないうちは、頭脳も必要だ。それらのことを、戦国の世を太くたくましく生き抜いた松永久秀から学んでみよう。

不穏、破壊、一揆

拙者が思うところによりますと、謀略とは最強の手段にござりまするな

まず第一に、全ての謀略において成功率は99%、危険度は2が最高でござります。それ以上にはならないので、宿老か忍者で謀略がAならば一人で十分にござります。次に考慮すべきことは、対象の大名の謀略、そして警戒コマンドを実行している武将の数です。これを確認しておかないと、すぐに捕虜になってしまいますなぁ。

▶不穏で士気を0にした画面は、いつ見てもほれぼれいたしまする。これにて、この城はすでに我が方のものになったも同然なのですから……

◀広大な領土を持つ大名の後方で一揆を起こさせれば、相手方の軍団はあわてて引き返して行きますぞ。それにしてもいい気味ですなぁ～

謀略軍

終盤になってくると、不穏工作で百日待つのは時間の無駄でござります。その時は、謀略の高い人材で構成した一軍をお作りなさい。降伏勧告、忍者の進入、火攻、干殺と、高い汎用性を見せてくれますぞ。ただし、謀略が高い武将は謀反を起こしやすい傾向にあります。お気をつけ召されよ。

警戒し、謀将を配下に

もし、自城に！マークが点灯したら、間諜は間違いなく侵入しております。見つけたら全武将で警戒し、捕虜になさいませ。やがて仕官し、我が方の手足となってくれましょう。

内応

人は裏切る。これは絶対的な真理なのでござりまする

これが成功する条件としては、①石高が敵大名より高い、②対象武将の忠臣属性が低い、③対象武将が、その仕える大名より能力が高い、④約束する知行が高い、⑤対象武将の知行が最大値の半分以下、⑥忠誠度が低い、⑦内応実行武将の謀略が高い、が挙げられまする。拙者が見るところでは竜造寺家の鍋島直茂、徳川家の石川数正、斎藤家の明智光秀などは、口説き方ひとつで何とかなりそうですなぁ。

軍事術

合戦は準備によって決まる

合戦に勝利するためには、兵力、武将の頭数、兵糧、兵種など様々な要素がある。ここは、羽柴秀吉の軍師である竹中半兵衛の知恵を借りてみよう。

「算多きは勝ち、算少なきは勝たず」。お分かりですかな?

竹中半兵衛

講師データ

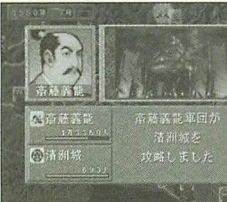
天下の名城と言われる稲葉山城を16人で陥落させた名軍師。羽柴秀吉の数々の功績の裏には、彼の存在があったとされる。

知行の割り振り(民兵増加)

民兵には三つの利点がございます。①自動的に兵力が回復する、②強い、③維持費がない、の三点にございます

知行の割り振り方は「各身分の最大石高を与える」が基本で、奉行以上で戦闘の高い者から優先して与えていきましょう。

この時、他国の石高=誰に知行を与えられるかを考えます。つまり、二十万石の城を見たら宿老用。十万石の城を見たら奉行用というように計算して、周りの城を落としていくのでござります。左の表では、石高ごとの最大値にできる身分を掲載しましたので、ご参照くだされ。

▶城を落とす=知行を与えられる=民兵の増加でござる

◀30万石の城を落とした。民兵が9000も養えまする

石高に割り振れる人材の数(身分別)

石高	組頭	部将	与力	重臣	奉行	家老	宿老
5万	5人	2.5人	1.2人	–	–	–	–
10万	10人	5人	2.5人	1.5人	1人	–	–
15万	15人	7.5人	3.7人	2.3人	1.5人	1人	–
20万	20人	10人	5人	3人	2人	1.3人	1人
25万	25人	12.5人	6.2人	3.8人	2.5人	1.6人	1.2人
30万	30人	15人	7.5人	4.6人	3人	2人	1.5人

徴 兵(傭兵の増加)

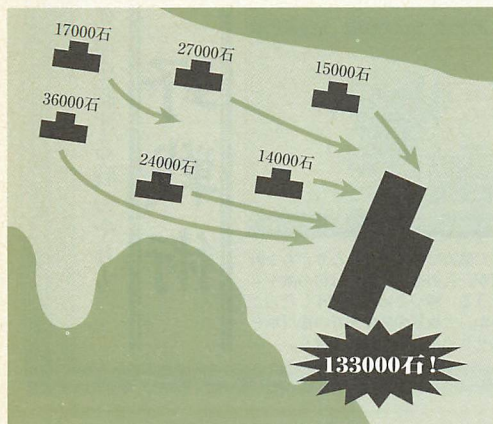
傭兵は日々、集めておきましょうぞ

傭兵を集めるタイミングと日数には三種類がございます。①不穏実行中にしている時、残り敵城士気分の日数、②敵城を陥落させた後に士気の回復を待っている時、残り士気回復量分の日数(現在士気が60ならば40日分)、③地侍や組頭を一ヵ所に集めて恒久的に徴兵する、といったところでございましょうか。時間は無駄にするなということですな。

攻城戦の後は士気が下がっております。この場合だと士気が60ですから、四十日間徴兵できるわけです

補　給（兵糧の確保）

腹が減ってはいくさができぬ。これは至言にござりまするな。補給は欠かさずなさいませ

17000石
27000石
15000石
36000石
24000石
14000石
133000石！

絶えず前線に兵糧を絶やさないようにする。これは基本にござります。徴兵、兵種変更、合戦と、兵糧がなくては軍は機能いたしませぬ。収穫期が終わったら、全ての城から前線に兵糧を送る習慣を常にお付けあそばせ。

また、収穫高を上げるために内政、外交、謀略担当の武将の知行は一～三ヵ所にまとめ、その城に検地、刀狩を施すと収穫が倍違います。

鉄砲隊と大筒隊

最新技術の開発は早めに行われますよう

ゲームを開始なされましたら、まず最初にしておきたいことは商業開発にござります。それにともなう鉄砲・大筒の開発は、天下を両手に治める上で欠かせない新兵器です。いささか値は張りますが、身分の高いお方から兵種変更していけば一回で五千以上の鉄砲隊・大筒隊が持てまする。その攻撃力は、天下太平への道を短くしてくれましょう。

兵糧に余裕があるなら、主君、宿老クラスをまとめて雑賀城や堺城などに送り、鉄砲隊にするのも手でござります。一気に戦力アップですな

裏切り

部下が反旗を翻す時

武将の裏切りについて語っておきましょう。忠誠度には良好(50～100)、不満(20～49)、注意(5～19)、危険(0～4)の四種類があり、裏切りには内応、独立、出奔の三種類がござります。まず内応は、敵に武将が寝返る行動のこと。これは武将一人のことなので、あまり問題にはなり申さぬ。しかし、独立は、今同じ城にいる武将の大半を殺戮し、城ごと乗っ取られるというお家の一大事、絶対に避けなければなりませぬ。出奔は、浪人となって去っていくだけなので危険性はござらん。

忠誠度は、知行を下げた比率分減少し、上げた比率によって毎月1～4上昇。また、毎年1ずつ上昇いたしまする。危険を避けるためにも、知行は惜しまないのが得策にござりまするな。

武将が裏切るタイミング

●判定は毎月／●大名(主君)が交代した時に忠誠心63以下になった場合／●武将の忠誠度が0になった場合

裏切りに影響する条件

① 武将の忠臣属性が低い
② 「内応」の影響
③ 武将の忠誠度の低下
④ 主君交代時に後継者が一門衆ではない
⑤ 現在の大名の能力値が低い

裏切りの種類

内応 敵大名に寝返る

独立 城将を倒して挙兵する

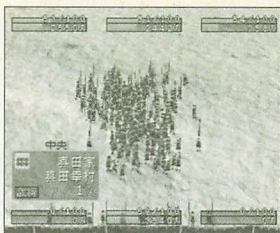
出奔 野に下る

死命を制する戦のやり方 野戦術

真田幸村

野戦とは相手の主力を撃滅させうる唯一の方法だ。心せよ

講師データ

関ヶ原の戦いでも活躍。大坂冬の陣では真田丸に籠城して東軍を圧倒。夏の陣では家康の本陣に奇襲をかけ、壊乱状態に落とした名将。

ただ眺めているだけになりがちな野戦だが、兵の運用次第では倍の敵をも破りうる。勝つためにはどうしたらよいのか、大坂夏の陣で20万の徳川軍を壊乱せしめた真田幸村に学ぼう。

戦国夢幻 野戦に持ち込むためには?

敵を野戦の場に引きずり出すことが、まずは必要だ。それにはいろいろな策がいるのだ

正攻法

敵城の情報を探り、その全兵力から千五百を引いた数が、だいたいの相手の野戦用兵力だ。こちらはそれよりも五百〜千上の兵力で攻撃すれば野戦に持ち込める。相手が出撃しなければ、兵力を調整する。これは、軍団の戦闘能力で勝っている場合に有効だ。

後詰め作戦

支城に千の傭兵を残しわざと相手に出撃させ、本城の主力で叩く。これが後詰め作戦と呼ばれるものだ。これは城が二つあればできるので、謀略が効かない相手に至極有効である。無論、本城の主力は選りすぐった精鋭であることが望ましいだろう。

戦国夢幻 士気の回復

士気は、兵士の強さを左右する重要な要素だ。左に士気が上下する場合を表にまとめたので参照して欲しい。

また、出家、治水、微税などで城の人気を上げれば、出撃時の士気が高くなり、強力な力を発揮するだろう。

士気の増減	
細道を進軍	-1/1日
豪雪地帯を進軍	-1/1日
孤立中	-1/1日
野戦を委任して勝利	15
野戦を自分で操作	式参照
自城の上にいる	+1/1日

委任しなかった場合の野戦勝利後の士気

＝野戦前〜野戦中の間のランダム値+敵兵士数÷自兵士数×16

戦国夢幻 委任について

野戦は、できるだけ自分で操作するのが望ましい。なぜなら委任にすると相手が退却する恐れがあるからだ。しかし、その利点としては武将が戦死する可能性が低いことが挙げられる。

委任せずに野戦をし、総大将が死ぬと軍は即敗北となる。剣豪がいればこの事態は避けられるが、できれば避けたい。ちなみに総大将になる基準は①一門衆、②身分、③知行、④能力の順に役割や数値の高い者が選ばれる

野戦の実例

親密度	A軍	B軍
鶴翼（突撃）	9386	全滅
平陣（突撃）	8271	全滅
鶴翼（迎撃）	11107	全滅
平陣（迎撃）	10084	全滅
左翼・中軍鉄砲隊、右翼足軽隊（左翼突破）	11636	全滅
両翼鉄砲隊、中軍足軽隊（包囲殲滅）	13654	全滅
委　任	18799	14464

A軍	B軍
・兵力21086 ・戦闘46：士気68 ・兵種は鉄砲6割、足軽4割	・兵力17049 ・戦闘40：士気70 ・兵種は鉄砲8割、足軽2割

野戦の実例を出して、その戦い方を語ろう。左翼・中軍・右翼の兵力操作も重要だ

左の表は「陣形」「用兵」別に同じ戦闘を五度繰り返した時の平均戦果だ。用兵については下で個別解説しているのでそちらを参照して欲しい。この例では、A軍は鉄砲隊中心の軍なので、突撃よりも迎撃に強いという結果になった。左翼突破は騎馬隊の代わりに足軽隊を使ったので効果は今ひとつだ。その代わり、包囲殲滅では高い戦果を生み出している。両翼の鉄砲隊による強力な援護射撃が、この結果を生んだのだ。

用兵例

突　撃

騎馬隊による突撃が最も望ましい。勝負が速やかに決するが、相手が強大だった場合は全滅の危険もある。兵力が均衡しているなら左翼・中軍・右翼の兵士数に気を配り、劣勢な部隊は他から補うといい。

迎　撃

休憩によって待機し、敵を迎撃する用兵術。鉄砲隊による迎撃が最も望ましい。混戦中も士気が回復するので崩れにくく、兵力で劣っていても勝機が見い出せる点が利点。勝つまでに時間がかかるのが難点だ。

左翼突破

右翼に強力な騎馬隊を配して突撃させ、中軍と左翼は迎撃。右翼が敵の左翼を撃破したら、再奥部まで追撃させて敵の士気を0に。その後、後退させ、相手の中軍を挟撃。成功すれば凄まじい戦果を挙げる用兵だ。

包囲殲滅

主に騎馬隊のいない地方で使用する。中軍に足軽隊。両翼に鉄砲隊を配して凹字型に三軍を整え、迎撃。両翼が敵を破ったら、随時、敵の中軍を攻撃させて包囲殲滅するのだ。敵の陣形が魚鱗の時に特に有効だ。

攻城戦術

力攻めは愚策の中の愚策

黒田官兵衛

孫子の兵法にも「力攻めは愚策」とある。城は心を攻めるのだな

講師データ

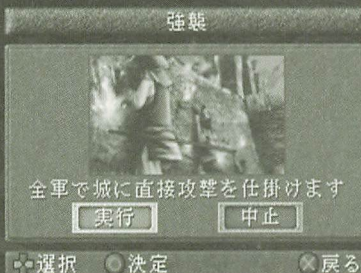
有名な高松城の水攻めや、小田原城包囲中の宴など、奇抜な城攻めを考案した羽柴軍にあって、軍師を務めた人物。

城を取ることは、石高、知行、兵力、武将数を拡大するということだ。乱世を制する上で極めて重要なこの要素を、羽柴秀吉の軍師として奇抜な攻城戦を指揮した黒田官兵衛が解説する。

戦国学舎 攻城戦について

まずは全体的なことをざっと話しておこう。わしが思うには、こうだな

城攻めには序盤の城攻め、中盤の城攻め、終盤の城攻めの三種類がある。序盤には不穏＋強襲。つまり心を攻めて取る。中盤は野戦でおびき出して主力を叩き、しかる後に強攻で落とす。終盤は大軍を催して、その威をもって降伏勧告を呼びかけ諸城を鎮める。この三種類を使い分けることによって領地を拡大していくのだな。

強襲
全軍で城に直接攻撃を仕掛けます
実行 中止
選択 決定 戻る

序盤の強襲は兵力の消耗が激しくお勧めではない

戦国学舎 不穏＋強襲

こいつは序盤に有効だ。まずは士気を0にしてから、一気に叩く

不穏工作をかけて敵城の士気を0にした上で、敵城を落とす攻城法だ。少ない兵力で城の併合が可能なこと、士気が下がっているので、野戦になっても撃破しやすいことが利点だ。難点としては士気を下げるまでに時間がかかることが挙げられる。しかし、力攻めで失ってしまった兵力が回復する時間に比べれば、あっという間だ。

▶不穏工作の成功率は99%、危険度2が最高だ。それ以上にしても人員の無駄。この数字に近づく部隊を何部隊か作っておくとよい

◀シナリオ④だと、①秀吉様、②わし、③蜂須賀殿と家政、④秀長殿と浅野殿、大谷吉継、藤堂高虎。この4隊で4城に不穏工作ができる

戦国夢幻　野戦＋強襲

先程の「野戦術」（四四ページ）で幸村殿が言っていた後詰め作戦を使えば、敵軍を野戦に持ち込むことが可能だ。城を複数持っており、敵の二倍程度の野戦兵力を持っているなら、わざと支城を手薄にしておびき出し、それを野戦によって粉砕した後に追撃→強襲によって城が手に入る。主に中盤で活躍する妙手と言えるな。

戦力が整ったらこの策に切り替えるべきだ。手早く敵城が手に入るぞ

▶一城をわざと手薄にして誘導する。城兵は300程度で傭兵のみでも構わぬ。おびき出したところを、主力で叩け。委任などもっての他じゃ

堺城　移動武将の選択

武将	身分					兵士	状態
福島正則	部将	A	C	C	D	[illegible]	
加藤清正	組頭	A	B	C	D	[illegible]	待機
豊臣秀吉	主君	B	A	A	A	[illegible]	待機
蜂須賀正勝	家老	B	D	D	B	[illegible]	待機
黒田官兵衛	奉行	B	A	C	A	[illegible]	待機
堀秀政	与力	B	B	C	D	[illegible]	待機
大谷吉継	与力	B	A	B	B	[illegible]	待機
新庄直頼	部将	B	D	D	E	[illegible]	待機
高山右近	組頭	B	B	D	D	[illegible]	待機

○選択　△詳細　○確定　□整列　×戻る

◀主力は、①猛将が多い、②強兵属性である、③騎馬か鉄砲隊が中心、④士気が高いなどの諸条件が揃っていることが望ましい

戦国夢幻　降伏勧告

謀将は後半には出番がないかというと、さにあらず。謀将中心の軍を作れば、降伏勧告の成功率が高まる。およそ七倍から十倍の兵力があれば、片っぱしから敵城は門を開いていくだろう。

後半で有効なのはこの一手だな、四万の兵で敵城の門を開いてゆくのだ

主に大領土を持つ国の支城などに有効だ

戦国夢幻　干殺

火攻は平山城に、水攻は水城に対して強いが、こちらも相応の危険が伴う。干殺はその中でも効果が高く、難点も少ない。敵城が山城で、謀略系の主力を作れるのなら、実行してみるのも悪くはない。

わしも三木城攻防戦でやったが、兵糧攻めは山城に絶大な効果がある

干殺
城兵の干殺しを開始します

干殺は、相手の兵が多い時に有効だ

攻城戦TIPS

兵力は5倍〜10倍で攻める

何も策が打てないときは、強襲で城攻めをすることになる。その場合は五倍から十倍をメドに兵を編制せよ。

これぐらいの兵力差があれば、力攻めも愚作ではない

9、10月に攻めて敵の兵糧を奪う

九月〜十月に城を囲めば、敵の兵糧が手に入る。石高の高い城を攻める時や自軍の兵糧が少ない時に有効だ。

九州は九月、東北は十月頃に収穫がある

敵が城から打って出たら全力で叩く

城を包囲していると、時々相手が出撃する。これは委任せず戦いなされ。そのうち負けてしまうぞ。

何回か戦うと、士気が激減する。そこを叩かれるのだ

育成術

強力な人材は育てるもの

人材の育成には、身分の育成と能力値の育成の二種類がある。武田家の総帥として高坂昌信、山県昌景などの名将を育て上げた武田信玄に、その育成術を語ってもらおう。

おおとりを飾るのはわしこそふさわしい。心してお聞きなされ

武田信玄

講師データ

人材をこよなく愛した甲斐の名将。山県昌景、高坂昌信、馬場信房、内藤昌豊のいわゆる四名臣の他、優秀な人材を多数育て上げた。

身分

身分は時に能力値と等価値である

武将の能力は、能力値と身分に比例する。分かりやすく言えば、どんな無能者でも身分が高ければ形が付くと言うことだ。左の表を見れば一目瞭然。能力値Cの宿老は能力値Aの地侍よりも優れるのである。つまり、功績を積ませ身分を高めることこそ、武将の育成につながる。では、どうやれば功績、そして経験値(能力値上昇に関わる)が得られるのだろうか。それは下の表を見なされ。

能力値比換算表

	E	D	C	B	A	S	SS
地侍	1	2	3	4	5	6	7
馬廻	1	2	4	5	7	9	11
組頭	1	2	4	7	9	13	16
部将	1	3	5	8	11	16	20
与力	1	3	6	10	13	20	25
重臣	1	3	6	11	15	23	29
奉行	1	4	7	13	18	27	34
家老	1	4	8	14	21	30	38
宿老	1	4	8	16	24	34	43
主君	1	5	9	17	27	37	48

能力値上昇

経験値が32まで貯まると、能力値が一つ高まる。ただし、B以上の場合は少し上がりにくくなる。経験値を上げるには、相応の時間が必要だ。

多少ごちゃごちゃした表だが、左の表が、コマンド別に経験値、功績値の獲得の確率を記したものだ。ようく眼を通しなされよ

データの見方

例えば開墾の場合、20%×一回の確率で経験値が1手に入る。商業の場合は75%×2の確率で、最大で経験値が2入る。

コマンド		判定時期	対象	能力	入手経験値		入手功績値	
					確率	回数	確率	回数
内政	開墾	石高上昇時	従事武将	内政	20%	1	10%	1
		石高上昇時、隣接城より自城のレベルが高かったら	従事武将	内政	20%	1	−	−
	商業	町規模上昇時	従事武将	内政	75%	2	75%	規模*
	治水	治水度上昇時	従事武将	内政	−	−	5%	1
		功績7以下	従事武将	内政	−	−	90%	1
	築城	城規模上昇時	従事武将	内政	75%	3	75%	規模*
	警戒	武将捕獲時	従事武将	謀略	−	−	50%	1
外交	交流	毎月20日	従事武将	外交	5%	1	3%	1
	援軍	援軍出動時	従事武将	外交	10%	3	50%	1
	登用	登用成功時	従事武将	外交	5%	1	5%	1
謀略	不穏	不穏成功時	従事武将	謀略	5%	1	2%	1
	破壊	破壊成功時(食料)	従事武将	謀略	5%	1	2%	1
		破壊成功時(城規模)	従事武将	謀略	20%	1	4%	1
	一揆	一揆成功時	従事武将	謀略	2%	1	1%	1
		一揆軍出現時	従事武将	謀略	20%	1	5%	1
	内応	内応成功時	従事武将	謀略	30%	1	100%	1
	足止	足止成功時	従事武将	謀略	10%	1	2%	1
	混乱	混乱成功時	従事武将	謀略	10%	1	2%	1
	勧告	勧告成功時	軍団武将	謀略	50%	1	20%	1
			総大将		−	−	100%	4
戦闘	野戦	交戦時	軍団武将	戦闘	5%	1	−	−
		勝利時	軍団武将	戦闘	20%	1	10%	1
			総大将		−	−	100%	1
		勝利時(総大将を倒した時)	軍団武将	戦闘	40%	3	50%	1
			総大将		−	−	50%	1
	攻城戦	城を落城させた時	軍団武将	戦闘	10%	1	10%	1
			総大将		−	−	100%	1
		城を落城させた時、本城	軍団武将	戦闘	−	−	10%	1
その他		毎年1回			−	−	100%	1

※「規模*」は、上昇する数値によって変動することを意味します。

信長包囲網を砕け！

戦国の覇王、四方八方を囲まれた信長。包囲網をいかに突き崩すべきなのか？

シナリオ③の織田家を囲む状況は非常に厳しい。浅井家、朝倉家、本願寺、将軍家、そして武田家という凄まじい強敵たちの包囲網の中におかれており、うかつな行動は死を意味する。

この状況を打開するには「各個撃破」が必要だ。以下、順を追って包囲網の突き崩し方を展開しよう。

まずゲームが始まったら、割り振れるだけの知行を割り振る。織田家の総石高二九六万石という数字は、兵数に換算すると兵七万という動員能力を持つ。これを有効に使わない手はない。知行の割り振りが終わったら、清洲城、長島城、観音寺城の兵力と兵糧を岐阜城に結集させよう。これでゲーム開始直後に三万の兵力が集められる。この第一軍は浅井家、朝倉家、一向宗を倒し、北方を安定させることが任務だ。

一方、日野城、伊丹城、安濃津城（それぞれ傭兵千を残しておく）、亀山城の四城は二条城に兵力と兵糧を集中させ、明智光秀率いる第二軍を編制する。この兵力は足利家、本願寺、雑賀衆、波多野家に対する備えとし、安濃津城や伊丹城が囲まれたら野戦で敵を葬るという任務を受け持つ。第二軍の目的はあくまでも侵略軍の撃退だが、もし本願寺や雑賀衆の兵力を野戦で0にした場合は、即座に攻城戦に移ろう。広大な領土を持つ織田家にとって、最も怖いのが一向一揆なのだ。

その後、第一軍は兵千を残して長島城に移動しよう。すると浅井家は岐阜城に兵を出してくるので、これを即座に三万の兵で叩き、その勢いで小谷城を強攻して陥落させる。そのまま十日程徴兵をしながら士気を回復させ、金ヶ崎城、一乗谷館、大野城、金沢御坊を攻略していく。たとえ相手に兵が九千いようとも、強攻の繰り返しであっさりと陥落させられる。また、兵が二千ぐらいの城を囲んだ場合は、降伏勧告が効くので試してみよう。

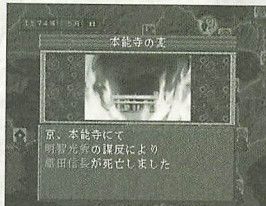
岐阜城を空き城にするとやってくる例の義兄弟。返り打ちにしてやろう

一向宗を倒したら、北陸司令官の柴田勝家ら一万程を残して軍を引き返し、西部戦線の将軍家、本願寺、雑賀衆を倒してしまおう。この時、信長が二条城に入ってしまうと歴史イベント「本能寺の変」が発生して信長が死んでしまうので、注意が必要だ。信長には北陸や関東の戦線を任せ、なるべく二条城へ接近しないようにすべきだ。

この時点で、織田家の動員能力は十万近くなる。一万ぐらいの敵であれば何の問題もなく排除できるはずだ。ひたすら攻め、強攻を繰り返すだけで万事はよいだろう。

歴史的な事実では、北陸担当の柴田勝家、関東担当の滝川一益、中国担当の羽柴秀吉、丹波、九州担当の明智光秀、四国担当の丹羽長秀というように各総司令官が決まっていた。その通りに軍を再編制して各地に侵攻させるのも面白い。

また、畿内制覇を果たした時点で織田家の石高は四百万石を超える。このタイミングで布武を行ってもよい。

▶信長が二条城に入城すると発生する「本能寺の変」イベント。これを避けるためにも、信長には一軍を率いさせて、どこか遠くの場所に遠征してもらいたい

◀雑賀城を落としたら、そこに集められる限りの兵糧を結集しよう。そして、全ての武将を鉄砲隊に再編成するのだ。これで野戦で負ける心配はほぼなくなった

辞世の句

辞世の句というのは、ほとんどは生前にこれはと思うものを用意しておくか、死後に家臣などが主君の句として追贈したものである。その人物の「らしさ」がうかがえるものが多い。

曇りなき
心の月をさき立てて
浮世の闇を
照らしてぞいく
伊達政宗

天下取りには遅れてしまい、以後策謀を尽くすも成功しなかった政宗の、晩年の爽やかな諦観を感じさせる。

捨てただに
この世の他はなきものを
いづくか
つひの住みかなりけん
斎藤道三

現世に対する執着を捨てきれぬまま、非業の最期を前にしての死後に想いを寄せる無念さが滲む。

吹きと吹く
風な恨みそ花の春
紅葉も残る
秋あらばこそ
北条氏政

春の花を吹き散らしてしまう風も恨むまい、花が散ってこそ秋の紅葉が楽しめるのだと達観した感がある。

朧なる月もほのかに
雲かすみ晴れてゆくへの
西の山の端
武田勝頼

移ろい消えていく自然の森羅万象に我が運命を重ねて、甲斐武田家の最期を静かに受け止めている。

昔より
主を討つ身の野間なれば
報いを待てや
羽柴筑前
織田信孝

織田一族をないがしろにし、滅亡させようとする豊臣秀吉への反感を率直に吐露した痛々しい句である。

夏の夜の夢路はかなき
後の名を雲井にあげよ
山ほととぎす
柴田勝家

興亡も時の運という武家の定めを静かに噛みしめながら、せめて名前だけは残したいという切望が伝わる。

去らぬだに
打ちぬる程も夏の夜の
別れを誘うほととぎすかな
お市

愛する夫、柴田勝家の句と呼応する形で、死に別れなければならない悲しみと無情を見事に詠んでいる。

露と落ち
露と消えにし吾が身かな
浪花のことは夢のまた夢
豊臣秀吉

息子、秀頼の行く末を案じながら、どうにもならない辛さをも、我が身の出世とからめて吐露した名句。

先にいく
後に残るも同じこと
連れていけぬを
別れぞと思う
徳川家康

天下人となっての晩年に、死に別れてきた人たちのことにまで想いを馳せる器量がうかがえるような気がする。

限りあれば
吹かねど花は散るものを
心短き春の山嵐(かぜ)
蒲生氏郷

大きな野望を抱きながら、天運に恵まれぬまま早世することになった無念さが滲み出ているように思われる。

筑摩江や
芦間に灯すかがり火と
共に消えゆく
我が身なりけり
石田三成

主家豊臣家の滅亡を食い止めるどころか先に死んでいく身を、夜明けには消えるかがり火に象徴させたもの。

契りあれば
六つの衢に待てしばし
後れ先だつことは
ありとも
大谷吉継

義理に生きた武将の、死を前にしての覚悟の程がうかがえる、勇将ならではの名句と言えよう。

五月雨は露か涙か
郭公(ほととぎす)
我名をあげよ
雲の上まで
足利義輝

名ばかりの将軍として辛い人生を送った義輝の、せめて名前だけでも後世に残したいという切実な句。

名を惜しみ何を恨みん
元よりもこの有様の
定まれる身に
陶晴賢

主君を殺してまで実権を握ったという悪行に、当然の報いが訪れたのだと達観しているのであろうか。

世の中の米と水とを
汲み尽くし
尽くして後は天津大空
島津義久

現世でやれるだけのことはやった、後は天界に飛躍しようという意味か。茫洋とした感に義久らしさがある。

第二章 大名列伝

このゲームに登場する全96家の大名の解説を行っている。章末には、弱小の真田家で強大な徳川家を一気に打倒していくコラムも用意したので、攻略の参考にして欲しい。

イラスト/井上智代

全96家 大名列伝

ここからは、各大名の取るべき戦略を個々に説明していく。その前に、ゲームをクリアする上での基本的な戦い方について説明しよう。

基本戦略

戦国の世を生き抜くには、何よりもまず情報が大切だ。というわけで、ゲームを開始したら大名の情報を見てみよう。隣国と比較しての兵力数。戦闘担当、謀略担当数。絶対にかなわない強敵の姿などが見えてくるはずだ。軍事的に周りを凌いだ力を持っているならスタート直後から電撃的な攻勢をかければよいし、強敵に囲まれているなら同盟を組み、中小大名を併合して国力を蓄える必要がある。せっかく同盟しても、多くの場合一～二年しかもたない。外交能力に長けた武将を派遣して、常に交流をさせておかなければならない。次にすべきことは、知行の割り振りだ。複数の城があるのなら、これをすることで数千～数万単位で民兵の数が変わる。

こうして増強した兵士は、なるべく一つの城に集中させよう。もし、一万の兵があって三つの城を持っているのなら、八千、千、千に割り振って、強力な野戦軍を編制するのだ。

また、内政も重要な課題の中の一つだろう。内政要員がいるなら、まずは町の規模を拡大させたい。収入のこともあるが、町の規模を4まで拡張できれば、強力な鉄砲隊を組織できるのが大きい。ゲーム開始直後から二～三年後を見越して商業を興しておくと、中盤には卓越した部隊を組織できるだろう。最初から町の規模が3ならば、楽市コマンドを実行し、必ず鉄砲隊を組織できるようにしたい。また、強兵属性を持つ城を保有しているなら、なるべく石高を上げ、持てる兵士数を増やしておこう。

戦闘では、戦闘要員と謀略要員の数が揃っているなら、不穏工作と徴兵を同時に行い、敵の士気が下がったところを攻めるのが正攻法だ。もし、いないのならば、一九六ページの「シナリオ別浪人リスト」を参照して、最初の月で登用してしまおう。また、滅びそうな小大名の元には三人程派遣して、滅亡した瞬間に浪人を追いかけ、ヘッドハンティングするのも手だ。特に忍者の百地三太夫は全シナリオを通じて浪人しており、弱小大名にとっては救いの主となる。必ず登用しておこう。

戦力が整ったら、いよいよ外征となる。不穏工作で相手の士気を一桁にしているなら、勝算は高い。相手が野戦を挑んできても士気が低いため、五分五分の兵士数を持っているなら、まず勝てるはずだ。不穏工作ができない状況にある場合は、まずは一つ、手近な小城を手に入れよう。そして小城に小部隊を置いて近隣勢力の軍を誘い、城を囲んできたら別城の大部隊を使い、野戦で撃破。そのまま追撃し強襲によって一気に破る手がよい。以上は、どの大名でも共通する基本戦略なので、活用してほしい。

知行の編制は、最初に行っておくと自然に増加する。知行は、身分の高い者から上げていき戦闘要員にしよう。身分が低い人物には、他の仕事をさせるといいだろう

データの見方

	1	2	3	4	5	6
城	2	2	2	2	2	2
武将	4	11	23	25	23	30
猛将	2	2	4	6	8	10
能吏	1	3	6	6	6	8
外交	2	3	5	4	5	8
謀将	0	1	3	3	4	5
石高	13.1	17.2	24	25.1	34.1	29.1
兵士	0.6	0.49	0.94	0.54	0.67	1.13
姫数	2	3	2	2	3	3

項目	説明
城	保有する城の数
武将	家臣の数
猛将	戦闘B以上の家臣の数
能吏	内政B以上の家臣の数
外交	外交B以上の家臣の数
謀将	謀略B以上の家臣の数
石高	初期の総石高（単位:万石）
兵士	初期の総兵士数（単位:万人）
姫数	初期の姫の数

この章では各大名の石高、武将数などのデータの他、能力値の高い武将の数も掲載している。人数は延べ人数（例えば、戦闘B、内政Bの武将がいた場合、猛将一人、能吏一人で二人と数える）だが、だいたいの家臣の能力は把握できるはずだ。また、友好国と敵対国ではそれぞれ親密度（0～200）を掲載してある。ぜひ活用してほしい。

※友好国と敵対国は、全ての友好度が50のシナリオ⑥では掲載していません。※家譜の生没年はゲームオリジナルです。
※親密度はその家が対象大名に抱いている数値で、2国間の平均値で計算されます。

大名列伝 INDEX

この章で紹介する大名を50音順に並べたINDEX。
大名が掲載されているページはここで調べよう。

伊達家

独眼竜を生んだ北の雄邦
雪と騎馬と黄金の大地

伊達政宗

家譜

①晴宗（一五三五～一五七七）
②輝宗（一五六〇～一六〇八）
③政宗（一五八三～一六三六）

奥羽の覇者

政宗の代には、武力と外交力でも東北地方で最大の大名となるが、天下取りに参加するには遅すぎた。また、彼は豊臣秀吉に謀反の疑いをかけられた時には死装束で出頭するなど、機転にも恵まれた。

シナリオ①の伊達晴宗は、陸奥の弱小大名。家臣数は少なく、領土は二城併せて十三万石しかない。生き残るには、国の礎となる多くの武将が必要だ。中野宗時を関東に派遣し、有能で与える知行の少なくて済む浪人を登用しよう。召し抱えた後は、約束しただけの知行を与えないと、移動しか行えないので注意すること。

シナリオ②になると武将が増えるが、状況は相変わらず厳しい。ここでも関東で人材を確保しつつ、攻め込む機会を窺うしかない。序盤は守勢に回り、開墾（石高アップが目的ではなく、開墾武将がいることで収穫高がアップすることを狙う）と人材発掘をしつつ、一万の兵と十万の兵糧を目標に富国強兵に励もう。また、十月に最上家と大崎家に兵を出し、城を包囲して兵糧を奪うという手もある。

シナリオ③では、大内定綱などの有能な人材が増える。しかし、国が貧しいのは変わらないので、開墾で国力を充実させつつ、軍団を整えよう。大内定綱ら謀略に優れた武将を敵城に送り込み、不穏工作で士気を下げておけば、簡単に城を陥落できる。また、一五七三年に浪人として片倉景綱が千代城に登場するので、必ず登用しよう。

シナリオ④は、シナリオ③とほぼ変わらないが、一五八三年に政宗、一五八四年に成実が登場する。この二人の民兵を増やすためにも、奥羽平定の軍を出すと同時に、内政の優れた遠藤基信などに開墾をさせ、与えられる知行の量を増やそう。大崎家の岩出山城には金山があり、町収益として月々五千石以上の収入がある。奥羽平定の第一歩は、この城の攻略から始めるとよい。

シナリオ⑤で、ようやく伊達政宗が当主となる。天下を狙うには、まずは奥羽を掌握して国力を充実させよう。北進の間、南にいる上杉家に姫を送り同盟を結んでおけば、背後を気にせず奥羽平定に専念できる。松前城を除き、奥羽の城は全て馬の産地となっているが、騎馬隊は馬の産地でしか編制できず、野戦時にはすばらしい破壊力を持つ。奥羽平定後は、騎馬隊のみの軍団を編制して関東になだれ込むのも面白い。

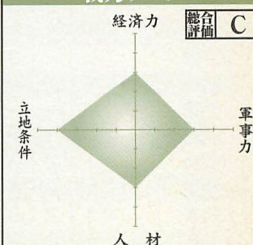
シナリオ⑥では、仙台城、米沢城が領土となる。石高は二十九万石、そして配下には伊達家歴代の家臣団が揃っている。確実に一城ずつ落としていけば、奥羽平定は難しくない。また、仙台城は町規模が4もあり、開始直後から鉄砲隊を編制できる。これを5まで上げ、大筒隊を編制できるようになれば、天下統一も遠い未来のことではないだろう。

戦力データ

総合評価 C

	1	2	3	4	5	6
城	2	2	2	2	2	2
武将	4	11	23	25	23	30
猛将	2	2	4	6	8	10
能吏	1	3	6	6	6	8
外交	2	3	5	4	5	8
謀将	0	1	3	3	4	5
石高	13.1	17.2	24	25.1	34.1	29.1
兵士	0.6	0.49	0.94	0.54	0.67	1.13
姫数	2	3	2	2	3	3

友好国と敵対国

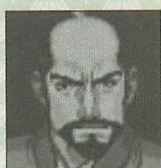
5	4	3	2	1
浅野家 25				

家臣団

武の伊達成実、文の片倉景綱を両輪とする若き家臣団。質量共に奥羽列強を圧倒

伊達成実

戦闘	内政	外交	謀略
A	B	C	C

一五八四年に登場。戦闘、内政に優れる。シナリオ⑤では、政宗と彼だけが貴重な鉄砲隊を所有している。

片倉景綱

戦闘	内政	外交	謀略
B	A	C	B

政宗からの信頼が厚い「伊達の三傑」の一人。右腕として軍団を率いさせ、その力を存分に発揮させたい。

鬼庭良直

戦闘	内政	外交	謀略
A	D	D	C

シナリオ①から④で登場する。伊達家を支えてきた猛将。攻めるにも守るにも常に最前線に置きたい。

大内定綱

戦闘	内政	外交	謀略
B	B	B	B

全ての状況で使える逸材。シナリオ③から登場。身分が低いので、功績値を貯めて身分を上げよう。

遠藤基信

戦闘	内政	外交	謀略
E	A	C	C

家老としてシナリオ②～④に登場する。シナリオ②では内政に優れた武将が少ないので貴重な人材だ。

中野宗時

戦闘	内政	外交	謀略
E	C	B	C

シナリオ①と②の人材スカウト。関東に派遣して有能な浪人を登用していこう。その後は内政にでも。

中島宗求

戦闘	内政	外交	謀略
C	D	B	B

外交、謀略に優れた知将。妨害工作、敵将の内応、浪人の登用など、敵地での活動が期待できる武将だ。

伊達稙宗

戦闘	内政	外交	謀略
B	D	B	C

シナリオ⑥のみ登場。史実では子の晴宗と当主の座を巡り争っていたため、他のシナリオでは登場しない。

伊達家史

伊達家家紋
竪三つ引両

**希有壮大な野心に燃える独眼竜
縦横自在の外交で虎口を脱する**

藤原家の末裔と称する常陸の武家が、奥州に移住して次第に勢力を広げ、戦国時代の晴宗の代には、奥州探題に任命されている。

初めは足利将軍家、後には徳川将軍家の現役の将軍から名を一字もらっている者が多いが、これは外交に熱心だった現れでもある。

晴宗の後を継いだのは輝宗だが、この時は親子で相争う内紛を経ている。その教訓から輝宗は電撃的に息子の政宗に家督を譲り、内紛を未然に防いだ。

この政宗が「独眼竜」と呼ばれた梟雄である。子供のころに病気で片目を失ったが、戦術でも外交でも辣腕を発揮して伊達家の全盛期を築いた。惜しむらくは、歴史舞台への登場が遅かったことで、東北地方を制覇する間に天下が豊臣秀吉のものになってしまっていたことだ。それでも野心は捨てがたく、何度も秀吉に疑われる行動を取っては危機に陥ったが、巧みな外交と奇抜な機転で切り抜けている。また、ローマに支倉常長を派遣し、ヨーロッパとの交易を図ったがこれは実現しなかった。子孫は三家の大名に分かれ、全ての家が明治時代まで存続している。

関八州を統治する超大国
北条早雲以来の伝統の国

北条家

北条氏康

関八州の統一者

北条早雲から始まった関東八カ国の平定を成し遂げ、盤石の地盤を築いた。極めて優れた民政家であると共に三十六戦無敗という優れた軍略家でもある。生涯敵に背を斬られることはなかったという。

家譜

①氏康（一五二一〜一五七一）
②氏政（一五五四〜一五九〇）

シナリオ①の北条氏康の領土は五城もあるが、武将は氏康を含め九人と少ない。これらの武将でやり繰りをするためにも、今川家とは同盟を結び、小田原城を守っていた武将を江戸城に集め、関東平定の軍団を編制するのがよい。軍団の中核は、戦闘の高い氏康、北条綱成で決まりだ。また、開始当初、武田家が内藤昌豊、山本勘助を使って滝山城に破壊工作を仕掛けてくるので、警戒する武将を増やし、捕獲して登用しよう。

シナリオ②の北条家の特徴は、宿老と内政官の充実だ。内政官は江戸城と滝山城、または上杉・武田領の強兵属性のある城を開墾する。そして、二十万石の宿老用の城を開発。その一方で軍を関東・上杉領に出していくのがベストだ。進軍ルートは上杉家の厩林城→関東侵攻→上杉領侵攻という順番がいいだろう。上杉家討滅の暁には、無敵の宿老軍団ができあがる。最強クラスの間諜である風魔小太郎がこの軍団にいるのも心強い。

シナリオ③は氏政が当主となる。シナリオ②と同じように、大道寺政繁、松田憲秀などで開墾を行い、軍団の強化を図ろう。関東平定後は、二本松城を攻略して奥羽に対する守りを固め、上杉家との全面対決に臨む。忍者の風魔小太郎は、決して敵に捕らえられることがない。不穏、破壊工作など、上杉領内で大いに活躍させよう。また、北陸の城は、どこでも騎馬隊を編制できる。上杉家を滅亡させた後は、騎馬軍団で武田家を滅ぼし、畿内の織田家と天下を制する戦いに挑もう。

シナリオ④になると、上杉謙信はこの世を去り、関東を平定する上での大きな障害はなくなった。しかし、上洛を目指すには徳川家との対決は避けられない。関東を手中にするまでは徳川家と同盟を結び、北条氏規を派遣して同盟を維持し続けよう。また、真田家とも同盟を結んでおくと、徳川家との決戦時に北の守りが万全になる。徳川家を滅ぼせば、岡崎城、長篠城、木曽福島城の強兵を手に入れられる。これらを軍団に組み込めば、畿内を平定し、天下に号令するのもたやすくなる。

シナリオ⑥の当主は氏康だ。宿老は総勢十六人、石高は豊臣秀吉に次ぐ五十九万石、江戸城では大筒隊を編制できるという好条件に恵まれている。これら豊かな国力をもってすれば、関東平定は確実だ。内政面では、水戸城、結城城、久留里城、厩橋城、江戸城が三十万石以上になるので、減税＋開墾で石高を上げていきたい。宿老＋大筒隊による強大な軍団を編制できるようになれば、上洛を阻止できる大名は誰もいないだろう。

友好国と敵対国

1	2	3	4	5
武田家 75	今川家 150	武田家 100	徳川家 90	-
	武田家 150	上杉家 15		
	上杉家 25			

	1	2	3	4	5	6
城	5	5	7	9	－	5
武将	9	26	38	40	－	38
猛将	3	9	8	9	－	14
能吏	2	8	8	7	－	8
外交	2	6	5	7	－	6
謀将	1	4	3	4	－	5
石高	59	66.3	94.3	124.7	－	59
兵士	1.67	1.35	2.91	2.2	－	2.38
姫数	3	2	2	2	－	－

戦力データ

総合評価 A

経済力
軍事力
人材
立地条件

家臣団

内紛とは無縁。一致団結の北条家一門衆。
能吏、忍者など均整の取れた家臣団

北条氏政

戦闘	内政	外交	謀略
C	A	A	C

氏康の嫡男。シナリオ②より登場し、シナリオ③からは当主となる。主に後方支援担当となるだろう。

北条氏照

戦闘	内政	外交	謀略
B	C	C	C

氏康の三男。優れた戦闘力を持つ宿老。北条軍の中核を成す存在だ。上杉家攻略は彼なしにはありえない。

北条綱成

戦闘	内政	外交	謀略
A	D	C	C

北条家の猛将。シナリオ①では戦闘の優れた武将が少ないので、突撃隊長として最前線を任せよう。

北条氏邦

戦闘	内政	外交	謀略
B	B	C	B

氏康の四男。ほぼ万能な能力を持つ武将。早めに水戸城辺りに進め、氏照とツートップを組ませたい。

北条幻庵

戦闘	内政	外交	謀略
D	A	B	D

北条早雲の息子。優れた内政を活かして、江戸城や強兵属性のある城を開発し、北条家の兵力を増やそう。

松田康郷

戦闘	内政	外交	謀略
A	D	C	C

シナリオ②より登場。軍団の強化のために、綱成と共に行動させよう。身分を上げて、兵力を増やせ。

大道寺政繁

戦闘	内政	外交	謀略
E	A	E	B

シナリオ②より登場する。内政が優れているので、領土を豊かにするべく内政に従事させるのがよい。

風魔小太郎

戦闘	内政	外交	謀略
B	E	D	A

北条家の忍者。高い謀略と忍者の特性を活かして、敵国で不穏、破壊工作、一揆の扇動などを行おう。

北条家史

北条家家紋
三つ鱗

関東公方、足利氏
関東管領、上杉氏
内紛を繰り返す
室町の亡霊を駆逐し
関八州に覇を唱える

初代は今川家の家臣として歴史に登場する伊勢新九郎長氏。いわゆる北条早雲である。その前半生は謎に包まれており、諸説があるが決定的な資料はない。北条氏を名乗ったのは、一説によれば鎌倉幕府執権の北条氏の子孫の未亡人と結婚したからだと言うが、これも定かではない。三代目氏康の頃が最盛期。室町体制の亡霊である関東公方を河越夜戦に破り、関東の覇権を手にすると、今川家、武田家と同盟を結んで向背の憂いを断ち切った。その後は主に房総半島方面へ触手を伸ばし、安房の里見家と激しく争った。

日本には珍しい城塞都市だった小田原を本拠地とし、後年、天才的戦術家で強敵の上杉謙信に包囲されても決して落城しなかった。しかし、この堅固な城塞都市を本拠地としたことがむしろ災いしたのか、氏康の後を継いだ氏政は豊臣秀吉への対応を誤り、小田原落城、北条氏滅亡という事態を招いてしまった。この時、連日結論の出ない評定を続け、いわゆる「小田原評定」の語源となっている。氏政の嫡子の氏直は一命を許され、後に一万石を領有するも早逝し、本家直系は絶えた。

武田家

正統なる源氏の末裔……名将が率いる戦国最強軍団

武田信玄

家譜

①信玄（一五三七～一五七三）

甲斐国のカリスマ

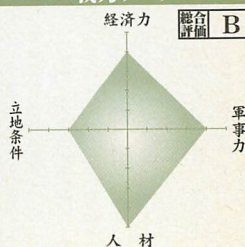
石橋を叩いて渡るような慎重さ、徳川家康が師と仰いだ内政と戦略、戦国武将らしい冷徹さなどをバランスよく持ち合わせた稀代の名将。天運さえあれば天下統一も可能だった。

シナリオ①は、武田晴信（後の武田信玄）をはじめ家臣はみな優秀で、躑躅ヶ崎館は金山、強兵、馬と特産品に恵まれている。しかし、どの方向に進んでも強敵に阻まれるため、誰と同盟を結ぶかが重要となる。今川家とは開始直後から同盟関係にあるので、北条家とも同盟を結び、信濃平定を確実なものとしたい。林城、小諸城を領土とすれば、強力な騎馬軍団を編制できる。その後は北陸の長尾家とも同盟を結び、西に進出したい。長尾家との同盟は一筋縄ではいかないので、外交の高い武田信繁、板垣信方などを総動員してねばり強く交流し、同盟を結ぼう。後方の安全を確保すれば、斎藤家、朝倉家を倒し、京への道を切り開くことができる。

シナリオ②では、国力が充実し、家臣の数も一気に増えた。だが、北陸には宿敵の上杉謙信がいる。これをどうにかしないと上洛の道が見えてこない。上杉家は定期的に海津城に侵攻してくる。守備兵を整えつつ、謀略に優れた内藤昌豊、山本勘助を使い一揆を扇動させるなどの妨害工作を行おう。海津城が包囲された時に厩橋城へ軍団を侵攻させると、包囲を解いて引き返すので、これを繰り返して時間を稼ぐ方法もある。上杉家との小競り合いでもたもたしていると、その間に今川家が版図を広げてくる。信玄を中心とした騎馬軍団を編制して素早く進軍しよう。畿内を平定すれば上杉家を上回る軍勢を整えられる。それから上杉家に攻勢をかければよい。

シナリオ③は、上杉謙信以外に、時間という敵が増えている。信玄の寿命は近い。また、上杉家が二～三万前後の軍団を率いて来襲してくるので、かなりやっかいだ。その上、南の徳川家は服部半蔵などの間者を放ち、城の防御力を低下させたり、一揆を扇動してくる。上杉家はシナリオ②の方法で足止めし、その間に徳川家を滅ぼし、織田家との決戦に臨もう。畿内を押さえる織田家の軍勢は手強い。織田家が浅井家、朝倉家との戦いに疲弊し、士気が下がっている時を狙って決戦を挑もう。

シナリオ⑥では、歴代の家臣が勢揃いしている。内政に優れた大久保長安などは内政に従事させ、謀略を得意とする山本勘助、内藤昌豊などは不穏工作を行う。そして、信玄自らは軍団を率いて敵を粉砕するといった、基本的な形で領土を拡大していけばいいだろう。

シナリオ①と同様、誰と同盟を結ぶかによって今後の方針が決まってくる。村上家、徳川家と同盟を結び、今川家、北条家と熱い戦いを繰り広げるなど、史実とは異なった展開を選ぶのも面白い。

友好国と敵対国

1	2	3	4	5
今川家 150	北条家 150	織田家 5	–	–
		一向宗 100		
北条家 75	今川家 150	雑賀衆 100		
		本願寺 100		
村上家 10	上杉家 15	北条家 100		
		上杉家 10		
小笠原家 40	葦名家 100	朝倉家 100		
		浅井家 100		

	1	2	3	4	5	6
城	1	5	7	–	–	1
武将	13	45	62	–	–	39
猛将	9	18	21	–	–	24
能吏	6	9	10	–	–	10
外交	6	9	11	–	–	9
謀将	5	10	10	–	–	9
石高	16.5	64.8	108.4	–	–	25.5
兵士	0.44	1.2	3.69	–	–	0.92
姫数	3	3	2	–	–	3

戦力データ

総合評価　B

経済力
軍事力
人材
立地条件

家臣団

まさに精鋭中の精鋭。武田騎馬軍団を駆る、一騎当千の猛き甲州の騎将たち

武田信繁

戦闘	内政	外交	謀略
B	B	B	B

信玄の弟。全ての能力が高い万能な武将。兵力が整ったら第二軍を指揮し、信玄と両面作戦を仕掛けたい。

武田勝頼

戦闘	内政	外交	謀略
A	C	B	B

信玄の四男。史実では信玄亡き後、武田家を継いだ。信玄の後継者として十分な能力を持つ武将と言える。

山県昌景

戦闘	内政	外交	謀略
A	C	C	C

武田家を支えた宿将。戦闘の高さを活かし、軍団に力を入れて存分に力を発揮させよう。シナリオ②から登場。

馬場信春

戦闘	内政	外交	謀略
A	B	C	B

シナリオ①から登場する、武田家を代表する猛将。多くの兵を与えて、戦場で存分に働かせたい人材だ。

高坂昌信

戦闘	内政	外交	謀略
B	C	B	B

シナリオ②から登場する。序盤は間諜、後半は猛将として活躍してくれるだろう。まさに万能の人材だ。

内藤昌豊

戦闘	内政	外交	謀略
B	B	C	A

信玄の信頼の厚い武田家の知将。合戦、内政、妨害工作と、何でもこなせる逸材。後半は戦場に投入したい。

真田幸隆

戦闘	内政	外交	謀略
C	C	C	B

謀略に優れた知将。シナリオ①では開始当初から浪人として躑躅ヶ崎館にいる。必ず登用しよう。

山本勘助

戦闘	内政	外交	謀略
A	D	D	A

戦闘、謀略が優れている武田家の軍師。軍師の特殊能力を活かすため、常に信玄と行動を共にさせたい。

武田家史

武田家家紋

武田菱

織田信長が最も恐れた男
信玄と甲州騎馬軍団

甲斐武田氏は、甲斐と信濃の源氏の頭領という、折り紙付きの名門である。甲斐は攻められにくいという地理的優位と、金の産出する経済的優位とを持つ反面、平地が少なく総合的な国力を向上させるのが難しかった。武田家は代々治水工事などの内政に気を配りつつ、米の収穫量の多い信濃を常に狙っていた。

甲斐の完全統一を成し遂げた後、内政をおろそかにして家臣に信望のなかった父、信虎を追放した信玄は、国内の農業生産力向上に努めると同時に精力的に信濃攻略を目指した。しかし、その過程で追放した信濃の豪族たちに泣き付かれ、本拠地近くまで武田家の勢力が迫るのを危惧した上杉謙信と対立、長き間抗争に明け暮れて、天下取りに参加する機会に恵まれなかった。それでも次第に周辺諸国を平定、太平洋に水軍を持つまでにいたり上洛を志すが、その途上で急死した。

信玄の後を継いだ勝頼は優秀な野心家だったが、カリスマ的な信玄に慣れた家臣団には凡庸に映ってしまう。家中の支配を確立しきれないうちに、盛運の織田信長と衝突、瞬く間に滅亡してしまった。

毘沙門天の加護を得た北方の鎮護者

［長尾家］上杉家

上杉謙信

家譜

①晴景（一五二七〜一五四四）
②謙信（一五四六〜一五七八）
③景勝（一五七一〜一六二三）

天兵を駆る神将

源義経と毘沙門天を崇拝し、生涯七十戦して無敗という名将。長尾家当主として戦い、後にはその軍功により関東管領家を継ぎ、上杉謙信と名乗る。その神がかった戦歴により、軍神と讃えられた。

シナリオ①は、長尾晴景が当主だ。晴景自身は凡庸だが、家臣はみな優秀。これらの武将に多くの知行を与えるために、富山城、金沢御坊と侵攻し、豊かな城の多い畿内を目指そう。注意すべき点は、背後から襲われないように、葦名家とは同盟を結び、［山内］上杉家、村上家との同盟を維持し続けることだ。

なお、一五四四年に長尾景虎が加わる。

シナリオ②は上杉謙信が当主となる。石高は七十七万石、武将は五十五人と国内最高だが、勢力を拡大するには、武田家、北条家の二強が相手となる。この両者と争うのは得策ではないので、葦名家と同盟を結び、春日山城の防備を固め、電撃的な素早さで北条領を平らげよう。関東を平定すれば、北と東から武田家を攻め滅ぼせる。

シナリオ③では、宇佐美定満、長野業正がこの世を去っているが、勢いは衰えていない。ここでもシナリオ②と同じように領土を拡大していこう。もしくは、関東では唐沢山城、厩橋城の防備に専念し、豊かな富山城、金沢御坊を攻略して国力を充実させ、先に武田家と雌雄を決するのも面白い。武田家を滅ぼし、さらに国力を増せば、織田家との戦いでも優位に立てるだろう。

シナリオ④では、当主が景勝に代わり、領土、武将が半減してしまう。しかし、領内の三城は、いずれも強兵、馬の特性があり、強力な軍団を編制できる。強敵となるのは西の柴田家だ。葦名家とは同盟を結び、真田家とは同盟関係を保ちつつ、全力をもって柴田家と対決しよう。柴田家を滅ぼし国力を蓄えれば、畿内を制圧し、上洛を果たすことも夢ではない。

シナリオ⑤で、会津若松城、二本松城、米沢城が領土となった上杉家に、かつての勢いはない。北の伊達家、最上家とは同盟を結び、豊かな城を持つ堀家に狙いを絞ろう。その後は来るべき豊臣家との戦いを見据え、徳川家の領土と人材を奪い取るのだ。徳川家を降して関東を領土とすれば、豊臣家との天下分け目の決戦で勝利できるだけの国力を得られるだろう。

シナリオ⑥は、謙信が当主となり、配下にはこれまでの優秀な武将が勢揃いしている。これらの家臣に知行を与えるためにも、初めは豊かな富山城、金沢御坊を攻め落としたい。その後は、葛尾城、砥石城、林城と攻略して畿内を目指す。宇佐美定満、直江兼続など、謀略に優れた武将が八人もいるので、不穏、破壊工作などを駆使しよう。天下統一に向け、休むことなく進軍あるのみだ。

戦力データ

総合評価　A

経済力 / 軍事力 / 人材 / 立地条件

	1	2	3	4	5	6
城	3	6	6	3	3	3
武将	15	55	53	24	18	41
猛将	4	26	27	11	9	26
能吏	1	10	11	5	3	13
外交	2	10	11	5	4	10
謀将	1	7	5	4	3	8
石高	34.1	76.5	89.5	58.5	52.2	50
兵士	1.23	1.66	2.91	1	0.98	1.8
姫数	3	2	2	3	3	2

友好国と敵対国

1	2	3	4	5
上杉家 100	将軍家 200	将軍家 200	真田家 100	小野寺家 100
村上家 100	北条家 20	織田家 80		佐竹家 100
	武田家 20	武田家 10		
	宇都宮家 100	一向宗 5		
	佐竹家 100	宇都宮家 100		
		佐竹家 100		
		神保家 100		
		北条家 15		

家臣団

天兵の如き上杉軍を束ねる驍将群。そして米沢藩の礎を築いた名臣

上杉景勝

戦闘	内政	外交	謀略
B	B	B	C

謙信亡き後の上杉家の後継者。謙信の遺志を受け継ぐにふさわしい、十分な能力を持っている。

直江兼続

戦闘	内政	外交	謀略
A	A	B	B

上杉景勝を支えてきた名将。能力に申し分なく、あらゆる局面でその働きを期待できる。軍師でもある。

本庄繁長

戦闘	内政	外交	謀略
A	C	C	E

上杉家の猛将。忠誠が下がりやすいので、姫を与えて一門衆にしてしまおう。シナリオ②より登場。

北条高広

戦闘	内政	外交	謀略
A	B	D	C

シナリオ②より登場する。戦闘が高いので、本庄繁長、柿崎景家などと共に強兵を与えて活躍させたい。

柿崎景家

戦闘	内政	外交	謀略
A	E	C	D

上杉家を代表する猛将。謙信と共に上杉家の名を天下に轟かせた豪将だ。強兵属性のある城を与えよう。

斎藤朝信

戦闘	内政	外交	謀略
B	C	C	B

戦闘、謀略に優れた武将。上杉家には戦闘に優れた武将が多いので、不穏要員として活躍させてもよい。

宇佐美定満

戦闘	内政	外交	謀略
C	C	B	A

晴景、謙信に仕えた老将。謀略能力が高い不穏要員。軍師の特性を活かすため、主君と共に行動させよう。

小島貞興

戦闘	内政	外交	謀略
A	E	E	E

優れた戦闘を持った猛将だが、シナリオ①では身分が低い。合戦には必ず参加させて出世させよう。

上杉家史

上杉家家紋

上杉笹

上杉家の宰相から
身を起こした強豪
毘沙門天の加護の元
板東の大地に
正義の鉄槌を振るう

長尾家は代々越後の守護大名の家臣だったが、為景の代に独立した。この独立戦争の激しさは、戦いの果てに主君である守護大名及び、その主君の関東管領まで倒すという凄まじさだった。

為景が倒れ、謙信が立つと、長尾家は黄金時代を迎える。長尾家の内紛、家臣の謀反を鎮圧し、越後一国を掌握した謙信は、関東の北条家、甲斐の武田家と血で血を洗う合戦を繰り広げる。それを象徴する一年が一五六一年だった。

三月、謙信は十万の兵を率いて関東平野を南下、関東随一の堅城・小田原城を完全包囲下においた。九月、謙信は信濃に出て武田信玄と対決。世に名高い第四次川中島の戦いだ。そして十一月、大雪の三国峠を越え、再び北条家と死闘を繰り広げたのである。これにより越後の軍神として不動の名声を築き上げた謙信は、関東管領に就任して上杉家を名乗った。

謙信の跡を継いだ景勝は、関ヶ原の戦いで西軍に属す。天下の家康を相手に一歩も引かない徹底抗戦を示すが破れ、減封となった。

今川家

名門今川家の黄金時代の姿
その凋落は大雨の谷間によりて

今川義元

家譜

①義元（一五三五～一五八八）

政略に優れた名君

豪華な輿に乗っていたため文弱な貴族趣味と見られがちだが、むしろ実力を誇示するためであったらしい。

死に際しても最後まで諦めず、阿修羅か鬼のごとく戦ったようだ。

シナリオ①の義元が持つ七十一万石の領土は、三好長慶に次ぐ豊かさだ。本城の駿府城には三万石相当の金山があり、岡崎城、長篠城の民兵には強兵属性がある。このように恵まれた環境にある義元だが、優秀な家臣がほとんどいない。よって、浪人の登用や、合戦で捕獲した捕虜を登用するなどして人材を集めていこう。特に織田家の配下には、柴田勝家、平手政秀など優れた武将が多く、本城の那古屋城には、一五四一年に滝川一益、一五四二年に蜂須賀正勝、一五五二年に羽柴秀吉が浪人として登場する。また、躑躅ヶ崎館には浪人として、山本勘助、真田幸隆が開始直後から登場している。これらの人材、城は可能な限り早く確保したい。それまでは、豊富な財力で徴兵を繰り返し、物量作戦を展開していくしかない。また、上洛するには背後の安全を確保する必要がある。北条家とは同盟を結ぶのがよい。

シナリオ②は、岡崎城が松平元康のものとなり、武田家、北条家とは三国同盟を結んでいる状態から開始する。この同盟によって、背後を気にすることなく上洛を目指せるのだが、国の豊かさに反比例して優秀な人材がいない。特に、戦闘に優れた武将が安部元真一人しかいないのは致命的だ。これは、シナリオ①と同じように解決していくしか方法がない。特に上洛の途中で必ず通過する松平家、織田家の配下には有能な武将が多いので、できるだけ登用して家臣に加えたい。さらに、駿府城で楽市を指定し、町の規模を4まで上げて鉄砲隊を編制できるようにすれば、戦闘に優れた武将の不足をいくらか補ってくれる。清洲城まで進出した後は、豊富な財力を活かして稲葉山城、小谷城、観音寺城、二条城を攻略し畿内を制圧しよう。

シナリオ⑥では、豊臣家、北条家に次ぐ石高を保有するものの、有能な人材の不足は解消されていない。しかも、隣接している北条家、武田家、徳川家はいずれも強敵だ。このまま同数の兵力で野戦を行えば、人材の差で敗北するのは目に見えている。この差を補うには、浪人の登用による人材の確保と、豊富な財力を活かした物量作戦しかない。また、狙いを二条城のある西に絞り、北条家、武田家とは同盟を結び、無用な争いを避けよう。二条城までの順路はシナリオ②の時と変わらない。手堅く徳川家を降しその配下を家臣とすれば、ある程度の軍団を編制できるようになる。そこから清洲城の鉄砲隊、木曽福島城の強兵と馬を手に入れれば、天下統一はより確実なものとなるだろう。

友好国と敵対国

1	2	3	4	5
武田家 150	武田家 150	–	–	–
将軍家 100	北条家 150			
小笠原家 30	将軍家 100			
	松平家 90			
	織田家 10			

	1	2	3	4	5	6
城	6	5	–	–	–	4
武将	13	17	–	–	–	19
猛将	3	1	–	–	–	3
能吏	3	1	–	–	–	2
外交	2	1	–	–	–	2
謀将	2	0	–	–	–	1
石高	70.9	61.2	–	–	–	56.8
兵士	1.88	1.26	–	–	–	1.8
姫数	2	2	–	–	–	3

戦力データ

総合評価 B

経済力
軍事力
人材
立地条件

家臣団

名門を飛翔させた軍師と凡庸極まりない家臣団たち

今川氏真

戦闘	内政	外交	謀略
E	C	C	E

義元の子。凡庸でも、宿老という身分修正が加わり、何をするにしても他の家臣よりは効果があるはずだ。

太原雪斎

戦闘	内政	外交	謀略
C	A	A	B

家老として登場。戦闘以外申し分のない能力の持ち主。軍師として常に義元の側においておきたい老将だ。

安倍元真

戦闘	内政	外交	謀略
B	D	D	C

今川家に三人しかいない戦闘の高い武将の一人。シナリオ②になると、彼だけとなってしまう。

朝比奈泰能

戦闘	内政	外交	謀略
B	C	D	C

戦闘の高い、貴重な武将の一人。人材の乏しい今川家に選択の余地はない。必ず軍団に入れるのだ。

酒井正親

戦闘	内政	外交	謀略
B	C	D	C

朝比奈泰能、安部元真と共に、大切にしたい武将。組頭なので、活躍させて身分を上げよう。

由比正信

戦闘	内政	外交	謀略
C	C	C	C

シナリオ①、②、⑥に重臣として登場。劣っているところがないだけでも、今川家では使える武将だ。

関口氏広

戦闘	内政	外交	謀略
D	C	C	C

シナリオ①は宿老、シナリオ②、⑥は家老に降格となっている。同じ能力なら、位の高い武将を使おう。

松平広忠

戦闘	内政	外交	謀略
C	B	C	B

徳川家康の父。シナリオ①でのみ登場。内政、謀略に優れた数少ない知将として、今川家では重宝する。

今川家史

今川家家紋

二引両

室町時代から続く
血統正しき家系も
下剋上の定めにより
桶狭間に没落した
東海一の弓取り

今川家は足利一門でありながら、顕職とは無縁であった。だが、むしろそれが幸いして戦国大名に脱皮できたとも言えそうだ。今川家は駿河・遠江両国の守護に任じられると、赴いて直接統治した。そのため実権を失わずに済んだ。

今川家の最盛期は義元の代におとずれる。義元は子供の頃に出家していたが、父の氏親の死後家督を継いだ兄、氏輝が早世した後、相続争いに加わり、勝者となった。

家督を継ぐと、ほぼ毎年のように検地を行うなどして経済力の強化に努め、それを軍事力の強化に役立てた。和戦両様のあらゆる手段によって領土を広げ、駿河、遠江、三河の三ヵ国を完全に制圧した。

「東海一の弓取り」と言われるほどの実力者になってからも、万事キメ細かく事を進める慎重さを失わなかった。桶狭間の合戦で織田信長に討たれてしまうが、万全の準備をしてから西上しており、悲運だったとしか言いようがない。義元の死後、急激に衰退して家督を継いだ氏真の代で滅亡した。ただ、名門という理由から子孫は旗本に取り立てられた。

戦国時代の最終勝利者 忠義と精猛の三河武士団

［松平家］徳川家

徳川家康

家譜

①家康（一五五八〜一六一六）

幕を引いた男

今川家と織田家にはさまれて、いつ滅亡してもおかしくはなかった松平家を見事に建て直した。のみならず、克己、長寿、天運によって平和な徳川時代の基礎を作り上げた。

シナリオ②の松平元康は、東に上洛を目指す今川義元、北に若き織田信長に挟まれている。十八万石の岡崎城しかない元康には、すぐに大軍を整えるだけの力はない。そこで、今川家とは同盟を結び、織田家が斎藤家、北畠家と争っている隙に背後から城を奪うのだ。いずれ、今川家は同盟を破棄して攻めてくる。それまでに稲葉山城、観音寺城、小谷城、二条城などの豊かな城を攻略して、今川家に対抗できるだけの国力を手に入れよう。

シナリオ③では、織田家と同盟を結んでいる。そこで、西は織田家に任せ、東を目指そう。ただし、東には豊かな城が少ないので、開墾は欠かせない。また、二十万石を越えている駿府城、躑躅ヶ崎館は確実に領土としたいところだ。家臣の本多正信、服部半蔵など謀略の優れた武将は、複数人で行動させれば、工作の成功率も格段に上がる。不穏工作で敵城の守備兵の士気を下げたり、敵国の後方で一揆を誘発させて前線の敵軍をおびき出したりと、様々な局面で役に立つ。

シナリオ④は、三河、駿河、信濃が領土となる。京では織田信長が謀殺され、旧家臣たちが各地で独立している。関東に比べて、畿内には豊かな城が多い。また、二条城を早い段階で所有しておけば、布武を布告して天下を統一することもできる。ここは北条家と同盟を結び、西へ進軍するのが得策だ。領内には強兵が多く、馬の産地もある。軍事面は申し分ないので、あとは経済力アップだ。清洲城、岐阜城などの豊かな城を手に入れ、税率を微税にまで引き下げ、内政重視で国力を高めていけば、天下統一も難しくはない。

シナリオ⑤は、関ヶ原の戦いの直前から開始される。豊臣家三百七万石に対し、徳川家は百五十万石。国力では到底及ばないが、徳川家には戦乱の時代を生き抜いた有能な家臣団がいる。まずは関東を平定し、同時に内政を重視して国力差を縮めよう。この間にも豊臣家は着実に領土を広げており、いずれ雌雄を決しなければならない。その時までに兵力を整えておけば、天下を二分する合戦にも十分勝利を収めることができる。

シナリオ⑥では、岡崎城、長篠城が領土となるが、北に織田家、東に今川家という強敵に挟まれている。ここではシナリオ②の時と同じように、今川家とは同盟し、織田家を襲撃して畿内の豊かな城を奪っていくのがよい。領土とした城の知行を有能な家臣に与えていけば、強力な軍団を編制できる。そうすれば、今川家との同盟を破棄し、東西への二正面作戦を展開することも決して夢ではない。

友好国と敵対国

1	2	3	4	5
−	今川家 90	織田家 110	明智家 0	佐竹家 100
	織田家 80		北条家 90	

	1	2	3	4	5	6
城	−	1	3	8	10	2
武将	−	11	24	35	59	34
猛将	−	7	13	12	24	19
能吏	−	2	7	10	17	11
外交	−	3	4	5	7	4
謀将	−	3	4	6	4	6
石高	−	18	55.4	137.8	150.4	31.3
兵士	−	0.34	1.61	1.92	2.5	1.05
姫数	−	4	3	4	4	5

戦力データ

総合評価 B

経済力
軍事力
人材
立地条件

家臣団

忠義一徹に戦場を駆け巡る猛将と
百年の大計を胸に秘めたる英知の将

徳川信康

戦闘	内政	外交	謀略
A	D	C	C

家康の嫡男。一五七五年に宿老として登場。高い戦闘を活かして、第二軍を率いさせたい存在である。

本多忠勝

戦闘	内政	外交	謀略
A	D	C	D

シナリオ③から鉄砲隊を所有しているのは貴重だ。出陣時には、榊原康政と共に必ず連れて行きたい。

榊原康政

戦闘	内政	外交	謀略
A	C	D	D

シナリオ③から登場。「徳川家四天王」の一人。シナリオ⑤では鉄砲隊を率いている。軍団の中核にしよう。

井伊直政

戦闘	内政	外交	謀略
B	B	C	C

戦闘、内政に優れ、シナリオ③から鉄砲隊を所有しているのが嬉しい。内政も任せられる猛将だ。

酒井忠次

戦闘	内政	外交	謀略
C	C	B	C

シナリオ②から仕えている重鎮。特にシナリオ②では、様々な状況において彼の外交能力が必要になる。

鳥居元忠

戦闘	内政	外交	謀略
B	C	D	C

シナリオ②より登場。常に家康に従ってきた忠臣。高い戦闘を活かして、最前線で戦わせたい。

本多正信

戦闘	内政	外交	謀略
D	A	B	A

シナリオ②から登場し、常に徳川家を支えてきた。軍師として主君の側におき、内政を行わせよう。

服部半蔵

戦闘	内政	外交	謀略
A	C	D	A

忍者なので存分に妨害工作を行おう。特にシナリオ②では、織田家、今川家に対して仕掛けていきたい。

徳川家家紋
三つ葉葵

徳川家史

織田家と豊臣家の天下を継承 汚名を被るも戦国に終幕を引いた徳川三百年

源氏の名門新田氏の子孫を称したが、露骨な系図買いであったことは当時から公然の事実だった。しかし、それを問題視する者など出なかったのは実力者ゆえの余裕である。

徳川家は本来松平家と名乗り、徳川家康も元は松平元康と名乗っていた。父の松平広忠に運がなく、家康は最初に織田家、次いで今川家の人質に取られて不遇な少年時代を送った。この間、松平家の所領のはずの三河は今川家の属国と化し、収入は横取りされた。今川家の合戦にも家臣団のほとんどが駆り出されて危険な任務ばかり与えられるなど、弱者の辛酸を舐め尽くした。しかし、今川家の合戦で危険な任務ばかり与えられたのは、三河武士を歴戦の勇士集団に鍛え上げるという効果もあり、後の飛躍の原動力となった。家康はこの強力な家臣団の力を背景に、持ち前の忍耐と努力、辛抱強さから得た人望からいつしか天下を嘱望されるようになっていった。そして天運によって戦国時代の最後に遂に天下人となって徳川幕府を開く。なお、意外なようだが家康は松平一族の本家ではなく、本家は旗本になった松平太郎左衛門家である。

中世の魔王を生み出した
風雲の中心を成す新興国

織田家

織田信長

乱世の魔王

自ら「魔王」と名乗った程の実力者。戦術・政策は意外に模倣が多いが、それを徹底して改良し、最大の効果を引き出す才能に恵まれていた。武名は遠くローマまで轟く。

家譜

①信秀（一五一一～一五五一）
②信長（一五五〇～一五九八）
③秀信（一五九六～一六四四）

シナリオ①の信秀の場合、北を斎藤家、東を今川家の二強に挟まれ、滅亡の危機に瀕している。那古屋城の残りの知行を全て信秀に与え、徴兵で兵士を八千まで増やし、攻め込まれないだけの兵力を整えるのだ。そして今川家に姫を送って同盟を結び、平手政秀など数人を派遣して交流を図り、同盟の維持に努めよう。その後、隙をついて長島城、観音寺城を攻略するとよい。琵琶湖の周辺では、北に朝倉家、西に三好家が勢力を広げている。これらの大名に対抗する力を付けるためにも亀山城、安濃津城、日野城へと領土を拡大していけば、今後の展開が楽になる。また、戦闘、謀略に秀でた滝川一益が浪人として那古屋城にいるので、必ず登用しよう。

シナリオ②では信長が当主となる。豊富な人材の存在、斎藤家の弱体化と、状況はやや好転しているが、北に朝倉家、東に武田家という強敵に囲まれている。この状況を打破するには、松平家とは同盟を結び、弱小大名の多い西に狙いを絞るしかない。特に武田家は、確実に京へと進軍してくる。清洲城の防備を固めつつ、隙を見て石高の高い稲葉山城、小谷城、二条城を奪い、軍団を強化しよう。羽柴秀吉、織田信広など、謀略に優れた武将を使い、不穏、破壊工作、一揆の扇動などを駆使して、短期間で領土を拡大するのだ。

シナリオ③では畿内をほぼ手中に収め、徳川家とは同盟を結んでいる。領内の石高、家臣の数は他の追随を許さず、天下統一も手の届くところにまできている。柴田勝家、羽柴秀吉、明智光秀など、戦闘の優れた武将に知行を与え、二つの巨大な軍団を編制し、東西に分かれて進軍しよう。この状況にあって一番やっかいなのは、五月と九月に発生する一向一揆だ。これを起こさせなくするには、一向宗、本願寺、雑賀衆を滅ぼすのが一番。最優先で攻略しよう。なお、石高が三百万石を越し、信長と明智光秀が軍団に属していない状態で信長が二条城に入ると、本能寺の変のイベントが発生する。これには注意しよう。

シナリオ⑥では、斎藤家、徳川家に挟まれているが、シナリオ①の時と同じように一万まで兵力を整えれば、とりあえず攻め込まれる心配はない。ここから先は、強大な大名が少なく豊かな城が多い、西へ向けて領土を拡大していくのがいいだろう。豊臣秀吉、明智光秀など有能な人材が大名として独立しているが、それでも織田家の人材はまだまだ豊富だ。適材適所で謀略、外交を駆使して領土を広げていこう。早い段階で二条城を押さえ、布武を布告するのも悪くない。

戦力データ

総合評価　B

経済力
軍事力
人材
立地条件

	1	2	3	4	5	6
城	1	1	12	－	3	1
武将	12	34	83	－	9	43
猛将	4	15	31	－	0	17
能吏	3	9	18	－	2	12
外交	2	7	14	－	0	10
謀将	3	7	13	－	0	6
石高	24	27.5	232.8	－	52.7	42
兵士	0.68	0.40	5.56	－	0.88	1.3
姫数	3	3	2	－	4	4

友好国と敵対国

1	2	3	4	5
斎藤家 40	松平家 80	徳川家 110	－	丹羽家 100
	今川家 10	浅井家 20		
		上杉家 80		
		本願寺 5		
		雑賀衆 5		

家臣団

新星と言われた織田家を支える、英気に満ち溢れた実力者集団

柴田勝家

戦闘	内政	外交	謀略
A	C	C	C

シナリオ①から登場する織田家随一の猛将。家老なので、兵力が充実したら第二軍を任せてみても面白い。

羽柴秀吉

戦闘	内政	外交	謀略
B	A	A	A

後の豊臣秀吉。平均以上の能力で、どの分野でもこなすことができる。間諜に、合戦にと活躍させよう。

明智光秀

戦闘	内政	外交	謀略
B	A	B	C

城を攻略した後、そのまま内政を任せられる逸材。忠誠が下がりやすいので、姫を与えるのも手だ。

滝川一益

戦闘	内政	外交	謀略
A	D	D	B

戦闘、謀略に優れ、主に軍事面で活躍が期待できる。シナリオ①では、浪人として那古屋城に登場する。

丹羽長秀

戦闘	内政	外交	謀略
C	A	C	B

シナリオ②から登場。内政、謀略の能力を活かし、国力増強、妨害工作など、後方支援に従事させよう。

池田恒興

戦闘	内政	外交	謀略
B	C	D	D

シナリオ②から信長に仕える武将。戦闘に優れているが身分が低いので、出世させて兵力を増やそう。

前田利家

戦闘	内政	外交	謀略
B	B	B	C

謀略以外、優れた能力を持つ武将。様々な局面で使えるが、身分が低いのが欠点だ。シナリオ②から登場。

前田慶次

戦闘	内政	外交	謀略
S	E	D	C

剣豪は身分が固定なので、戦闘は軍団に反映されにくいのだが、それでも戦場に連れて行きたい存在だ。

織田家史

織田家家紋

織田木瓜

尾張の風蕩児から
天下の覇王へ
中世を倒した男
天下布武の理想の元
乱世の中核を成す

尾張国守護代織田大和守の三奉行家の一つだったが、信長の父、信秀の代に巧みな政治手法を発揮して実権を握った。織田家発展の基は信秀が作ったと言える。

信長の代になって天下に王手をかけるまでに飛躍するが、これは信長の類い稀なる才能と不断の努力に加えて、幸運の賜物でもある。盟友の松平元康（徳川家康）が信長の我が儘で冷酷な性格に耐える義理堅い人だったこと、上洛して中央政界の実権を握るのに便利な足利将軍家の義昭が自ら「自分を奉じて上洛してほしい」と言って転がり込んできたこと、強敵が次々と頓死したことなどである。

そして、遂には皇位簒奪まで企てるが、これは老獪な正親町天皇に翻弄されるばかりで珍しく完全な失敗に終わった。

冷酷非情な面ばかりが目立つ信長だが、細川忠興と明智光秀の娘、お玉（ガラシャ）との縁談を取り持ち、披露宴で「雛人形の様に可愛い」と言って祝福するなど、稀に暖かい側面も見せている。本能寺の変で信長が明智光秀に殺されると、以後家は著しく没落したが、三法子（秀信）が継ぎ家系は保たれた。

［羽柴家］豊臣家

戦国最大の出世頭
草履取りから関白太政大臣へ

豊臣秀吉

家譜

①秀吉（一五五二〜一五九八）
②秀頼（一五九八〜一六六二）

神の申し子

一介の平百姓の子から天下人にまで出世したため、「山王日吉神社の申し子」と言われた戦国時代最大の出世人。
　関白太政大臣にまで昇進して、日本の盟主となった。

シナリオ④は、本能寺の変の直後からとなる。織田信長は謀殺され、二条城、安土城、佐和山城、坂本城の四城が明智家の領土となっている。このシナリオの秀吉は、亡き主君の敵を仇つため毛利家など西側の大名と同盟を結んでいる状態から開始されるので、ためらうことなく全軍をもって明智家を討伐しよう。羽柴家には黒田官兵衛、藤堂高虎など謀略に優れた人材が多い。これらの武将三〜五人を謀略部隊として敵城に送り込み、不穏工作で敵城兵の士気を減らしてから攻城戦→強襲とたたみかければ、短期間のうちに明智家を滅亡させることができる。ただし、もたもたしていると同盟国が明智家の領土を奪ってしまうので、休むことなく進軍すること。岐阜城、清洲城まで手に入れた後は、税率を下げて国の発展に力を入れていけば、信長の後継者の地位は揺るぎないものとなるだろう。また、このシナリオでは自国の城が五城になった段階で羽柴から豊臣に改名する。

シナリオ⑤では、秀吉に代わり、秀頼が当主となっている。謀略を得意とする武将が少ないものの石田三成、大谷吉継など有能な人材が多い。ただ、戦闘力の高い武将は軒並み身分が低いので、軍団に属する武将の人数を増やして対処しよう。父の広大な領土を受け継いだ秀頼にとって、天下に号令することはもはや当然のことでしかない。西側の大名とは同盟関係にあるので、全軍を東に集結させて進軍あるのみだ。特に秀頼と石田三成は大筒隊を所有している。秀頼に知行を与えて増兵し、この二人を軍団に加えれば、攻城戦がかなり楽になる。敵の城兵との差が五倍以上なら、勧告によって降伏させることもできる。また、大阪城、大津城は町規模が4もあり、減税＋内政で商業価値を上げていけば、町規模が最大値の5となり大筒隊を編制できるようになる。来るべき徳川領へ大侵攻の日に備え、ぜひとも編制できるようにしておきたい。父の果たせなかった夢を果たすのだ。

シナリオ⑥では、秀吉が当主として、大阪城、芥川城の二城を所有している。両城併せて七十二万石は、開始直後ではどの大名よりも多い。有能な人材も多く、近隣には強大な大名もいないことから、かなり有利な状況と言える。他の大名たちが争っている間に雑賀城、多聞山城、二条城、観音寺城、小谷城と畿内の豊かな城を攻略しよう。特に、雑賀城、二条城は町規模が4もある。減税＋内政で経済の発展に力を入れ、大阪城も含めてこれらの城の町規模を5にすれば、大筒隊を編制できるようになる点も見逃せない。

友好国と敵対国

5	5	4	3	2	1
福島家 100	前田家 100	明智家 0	−	−	−
加藤家 100	浅野家 100	細川家 100			
中村家 100	毛利家 100	池田家 100			
堀尾家 100	宇喜多家 100	丹羽家 100			
生駒家 100	細川家 100	毛利家 100			
小早川家 100	蜂須賀家 100	宇喜多家 100			
小西家 110	黒田家 100				

	6	5	4	3	2	1
城	2	14	4	−	−	−
武将	36	58	46	−	−	−
猛将	11	19	15	−	−	−
能吏	12	10	18	−	−	−
外交	9	12	10	−	−	−
謀将	5	2	6	−	−	−
石高	72	306.5	65.3	−	−	−
兵士	1.64	3.36	1.07	−	−	−
姫数	1	1	1	−	−	−

戦力データ

総合評価　A

経済力
軍事力
人材
立地条件

家臣団

賤ヶ岳七本槍に五奉行。そして、関ヶ原に消えた驍将たち

加藤清正

戦闘	内政	外交	謀略
A	B	C	C

戦闘に優れた猛将。身分は低いが鉄砲隊を率いている。傭兵を多めに与えて活用し、身分を上げよう。

福島正則

戦闘	内政	外交	謀略
A	C	C	C

加藤清正と双璧をなす猛将。こちらも鉄砲隊。この二人は多めの傭兵を与えて戦場に連れていきたい。

豊臣秀長

戦闘	内政	外交	謀略
C	A	C	C

豊臣家の数少ない宿老。内政をさせたいが、多数の兵士を率いられるので、軍団を任せることも多い。

黒田官兵衛

戦闘	内政	外交	謀略
B	A	C	A

外交以外全てに優れており、さらに軍師としての特殊能力も備えている。主君と共に行動させるとよい。

藤堂高虎

戦闘	内政	外交	謀略
C	A	B	A

外交、謀略が高いので、敵国を飛び回ることが多いだろう。様々な工作活動で軍団の進攻を支援させよう。

石田三成

戦闘	内政	外交	謀略
C	A	B	C

内政に従事させたい能力を持つが、シナリオ⑤では大筒隊を所有しているので、軍団に加えてもよい。

島左近

戦闘	内政	外交	謀略
A	C	B	B

内政以外は優れた能力を持っている。しかし、身分が部将なのが辛い。活躍させて早く身分を上げよう。

大谷吉継

戦闘	内政	外交	謀略
B	A	B	B

シナリオ④では部将、シナリオ⑤では重臣として登場。万能な武将だが、身分が低いのが唯一の欠点だ。

豊臣家史

豊臣家家紋
太閤桐

関白太政大臣へと跳んだ猿面の男 平百姓から立身し位人臣を極めた魔王の後継者

尾張中村の平百姓、木下弥右衛門の子、藤吉郎が一代で天下人まで出世して築いたのが豊臣家である。あまりにも桁外れな出世ぶりから、実父が天皇であるとか、元は忍者であったとかいった類いの奇説が絶えない。実際は人一倍努力する気性と、「人たらし」とまで言われた人間的魅力に天運が加わったものである。

本能寺の変が起こり主君の織田信長が横死すると、素早く毛利家と和議を結んで畿内に駆け戻る。有名な中国大返しである。そのまま一気に明智光秀を滅ぼしたことから運が開けた。主君の仇を討ったという功績を活用し、織田家臣団筆頭の地位を手に入れ、以後織田家臣団内のライバルの柴田勝家を倒し、織田家を巧みに弱体化させて、織田信長が王手をかけていた天下を見事に手中に収めた。

泣き所は家臣団で、次代の秀頼を支えられるだけの器量を持った譜代の家臣を持たず、血族にも恵まれなかった。秀頼は自らは一戦もしないまま大坂の陣で散った。ただ、木下家は秀吉の正妻、北の政所（袮）の兄が継ぎ、一万石の大名として明治まで存続した。

毛利家

中国地方を治める強豪 信長を最も苦しめた政権

毛利元就

悪魔の機略と深い信仰

戦場を往来すること二百余回という戦いに明け暮れた人生。武勇でも評価されているが、何と言っても謀略の天才として有名。残忍なまでの謀略の一方で、仏教を深く信仰し、妻を愛した。

家譜

①元就（一五一三〜一五七一）

②輝元（一五六九〜一六二五）

シナリオ①で特筆すべきは、元就の謀略の素晴らしさだ。元就を中心に軍団を編制すれば、攻城戦時の火攻、水攻、干殺の成功率が格段に上がる。特に中国地方は山城が多いので、干殺は効果的だ。開始当初、大内家、三村家と同盟関係にあるが、領土を東に広げていくと大内家が同盟を破棄してくるので、外交に優れた福原貞俊で交流を図り、背後を襲われないよう同盟の維持に努めよう。

シナリオ②では、毛利隆元、吉川元春、小早川隆景の三人の息子が登場する。この三兄弟が極めて優秀な上に、「三本の矢」イベントが起こるとそれぞれ能力値が一つ上昇する。彼ら以外に有能な人材が少ないのが問題だが、元就、隆元、隆景、安国寺恵瓊の四人ならば竜造寺の宿老、鍋島直茂の内応が可能。その後は大友家と同盟を結び、畿内に攻め上がっていけばよい。なお、大友家は何もしないと同盟を破棄してくるので、誰か一人、交流役を派遣しておこう。

シナリオ③では、毛利家の領土はますます広がり、織田家に次ぐ石高を持つまでになる。だが、元就、隆元はこの世を去り、当主は輝元に変わっている。畿内を制圧した織田信長と天下分け目の決戦を繰り広げていくことになるが、その前に大友家と同盟＋鍋島直茂の引き抜きは忘れずに行っておこう。

シナリオ④は、東の羽柴家、宇喜多家、南の河野家と同盟関係にあり、九州の大友家との対決姿勢が鮮明になった。天下に号令をかけるためにも、いずれ羽柴家との同盟は破棄することになるが、その前に九州の主要な城を攻略して国力を充実させよう。特に府内城の鉄砲、岡城の馬は、軍団強化のためにぜひとも手に入れておきたい。

シナリオ⑤になると、家臣の数が減少し、祖父の元就の頃と比べ、その勢いは下降していると言ってよい。不足している人材は、豊富な収入を活かし物量作戦で補おう。基本戦略はシナリオ④と変わらないが、より強大になった豊臣家には、生半可な兵力では太刀打ちできない。九州の大名、黒田家とその家臣はどれも優秀なので、家臣に加えて、対豊臣家の先陣を切らせたい。

シナリオ⑥は、これまで毛利家を支えてきた宿将が揃っている。ここではシナリオ①と同様、大内家と同盟を結び、東を目指そう。中国地方は豊かな城が少なく、特産品は山吹城、竹田城の金山しかない。畿内に出るまでは、財政的に辛い戦いを強いられるだろう。財政を圧迫しないように謀略を巡らし、短期決戦で挑むのがよい。

友好国と敵対国

1	2	3	4	5
三村家 100	尼子家 10	河野家 100	河野家 100	豊臣家 100
大内家 100	竜造寺家 100	宇喜多家 100	羽柴家 100	宇喜多家 100
		竜造寺家 100	宇喜多家 100	小早川家 100

	城	武将	猛将	能吏	外交	謀将	石高	兵士	姫数
1	1	9	3	5	2	2	19.5	0.50	2
2	6	29	6	8	6	4	69.2	1.38	3
3	9	34	7	9	4	2	112.3	2.98	2
4	7	30	5	8	4	2	93.5	1.64	2
5	7	25	5	6	3	1	105.5	1.66	2
6	2	45	10	12	7	4	38.5	1.21	3

戦力データ

総合評価 B

経済力
軍事力
人材
立地条件

家臣団

三本の矢の如く、毛利家を支えた両川。そして、海将、忠臣、怪僧たち

毛利隆元

戦闘	内政	外交	謀略
C	B	C	B

元就の長男。シナリオ①、②に登場。優れた謀略を活かし、敵国に潜入させ妨害工作を行わせたい。

吉川元春

戦闘	内政	外交	謀略
A	C	C	C

元就の次男で、毛利家の猛将。彼に戦闘系の第二軍を率いさせ、元就は謀略系の第一軍を指揮しよう。

小早川隆景

戦闘	内政	外交	謀略
C	A	B	A

元就の三男。戦闘以外が抜きん出ている逸材。敵国での妨害工作に限らず、軍団を率いさせてもよい。

毛利元康

戦闘	内政	外交	謀略
B	B	C	D

元就の八男。シナリオ⑤からの登場となる。鉄砲隊を所有している宿老なので、軍団の貴重な中核となる。

村上武吉

戦闘	内政	外交	謀略
B	C	D	C

村上水軍を率いた戦闘に優れた猛将。シナリオ②より毛利家に加わる。戦闘に海戦がないのが残念だ。

宍戸隆家

戦闘	内政	外交	謀略
B	B	C	C

合戦、内政のどちらもこなせる武将。シナリオ①では戦闘の高さを活かし、軍団に加えて活躍させたい。

清水宗治

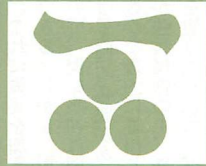
戦闘	内政	外交	謀略
C	B	C	C

羽柴秀吉との戦いで部下の命と引き換えに自害した名将。高い内政を活かして国力増強に貢献させよう。

安国寺恵瓊

戦闘	内政	外交	謀略
D	C	A	B

外交、謀略に優れた武将。シナリオ②から登場するので、交流や不穏工作で諸国を飛び回らせよう。

毛利家史

毛利家家紋
一文字三星

三千貫の小領主から中国十カ国の太守に 秀吉・家康・慶喜 時の政権が恐れ続けた 中国の盟主、大毛利

鎌倉幕府初期の重臣として執権政治を確立させた"黒幕"大江広元の子孫だが、元就が家督を継いだ頃には衰退が著しかった。元就は野心からというより、防衛策が自然と領土拡大に繋がっていった印象が強い。青年期までは孤児同然で、あまりにも惨めな境遇を哀れんだ亡父の側室が育てたと言われる。

相次ぐ合戦と謀略によって安芸国人衆の筆頭格にまでなったが、最大の転機は有名な厳島合戦。その時、既に五十九歳。人生最大の不運は、財政に長けた嫡子の隆元に先立たれてしまったことか……。

毛利本家は元就の嫡孫である輝元が継いだが、元就は七十五歳で病没するまで後見役を務め、その後は吉川元春、小早川隆景の「毛利両川」が補佐を続けた。あまりにも偉大な後見人、補佐役に恵まれたのがむしろ災いしたのか、輝元は平凡な武将にしか育たず、関ヶ原の合戦の際に西軍の総大将に祭り上げられながら、一族の統率すらできず十カ国から二カ国に減封されてしまった。しかし、家は長州藩として明治まで残り、徳川三百年に終止符を打つ革命の中心となった。

長宗我部家

四国全土を制圧した土佐の風雲児

長宗我部元親

家譜

①国親（一五二〇〜一五六〇）
②元親（一五五五〜一五九九）

鳥なき島の驍将

二十歳の初陣前夜に、初めて槍の扱いを学んだと言われる程遅咲きだったが、初陣の武功で家中を驚かせた。織田信長に「鳥なき島の蝙蝠」と呼ばれたが、四国統一を果たし、雄鷹の如く雄飛した。

シナリオ①は国親が岡豊城を治めている。家臣は二人、石高は六万石しかない。唯一の救いは、岡豊城の民兵は強兵属性で、傭兵の三倍の戦闘力を持つということだけだ。まず、強敵の三好家と同盟を結び、攻められないように手を打とう。そして、吉田重俊を畿内に向かわせ、与える知行が少なくて済む浪人を登用し、武将の数を増やすのだ。

シナリオ②は元親が当主となり、家臣も幾分増えた。特に、謀略に優れた久武親直と中島親吉は、不穏工作や一揆の誘発などで活躍が期待できる。ただ、このシナリオの状況も厳しい。東の三好家とは同盟を結び、中村城→黒瀬城の順序で四国の西半分を制圧しよう。また、シナリオ①と同じように浪人を登用して家臣を増やしていくことを忘れずに。

シナリオ③はシナリオ②とほぼ変わらないので、三好家と同盟を結び、西四国から攻略していこう。富国強兵のため開墾が中心となるが、内政に優れた武将が元親一人しかいないので、開墾に従事する武将を増やして対処するしかない。特に、強兵を持つ岡豊城の開墾を重点的に行えば、知行も増え、軍団の強化にも繋がる。

シナリオ④は、領土が五城となり、家臣もそこそこ増えた。開墾と浪人の登用を平行して行い、国力を充実させていけば、四国平定は難しいことではない。四国平定後は、強敵のいる中国、九州より、諸大名が乱立する畿内を目指したい。堺城は石高も豊富で、鉄砲隊の編制ができる。この城を押さえて、畿内侵攻への橋頭堡としよう。

シナリオ⑤では、領土が二城に減り、石高も二十万石に激減した。また、優秀な家臣の不足も解消されていない。ここでも開墾、人材の登用が基本となる。しかし、四国を手中に収めても、天下統一への最大の障害である豊臣家との勢力差はまだ縮まらない。対抗できる国力を得るために、毛利家とは同盟を結び、先に九州を手に入れたい。九州の馬と強兵で軍団を強化できた、その時こそ豊臣家との大決戦に挑むことができるだろう。

シナリオ⑥は、これまでの家臣が勢揃いしているので、人材には恵まれている。特に戦闘に優れた武将が多く、これに強兵を加えれば、強力な軍団が編制できる。しかし、相変わらず岡豊城は貧しいので、開始当初は開墾を重視して、国力の充実を図る必要がある。そして、四国平定後は豊かな畿内に進出したい。特に雑賀城は民兵が強兵属性の上、鉄砲隊も編制できる。天下を狙うためにも、ぜひ手に入れておきたい城だ。

戦力データ

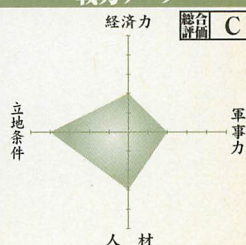
総合評価 C

経済力 / 軍事力 / 人材 / 立地条件

	1	2	3	4	5	6
城	1	1	1	5	2	1
武将	3	11	13	14	15	17
猛将	3	5	5	4	3	11
能吏	1	1	1	1	2	3
外交	0	2	2	2	2	2
謀将	0	3	3	3	2	4
石高	6.0	8.1	11.1	42.4	20.2	15.3
兵士	0.29	0.23	0.47	1.15	0.53	0.65
姫数	3	4	3	3	3	3

友好国と敵対国

1	2	3	4	5
			明智家 100	

家臣団

悲劇の道を歩んだ元親の後嗣と、四国一円を切り取った勇将たち

長宗我部信親

戦闘	内政	外交	謀略
B	C	C	C

元親の嫡男。シナリオ④と⑥に登場する。宿老として多くの兵士を率いられるので、第二軍を任せたい。

長宗我部盛親

戦闘	内政	外交	謀略
B	D	D	D

元親の四男。シナリオ⑤から登場する。鉄砲隊を所有しているので、増兵して強力な軍団を編制しよう。

香宗我部親泰

戦闘	内政	外交	謀略
C	C	B	C

元親の弟。主に畿内に派遣して人材登用を担当する。国力が高まったら二十万石を与えて合戦担当に。

吉良親貞

戦闘	内政	外交	謀略
B	C	D	C

元親の弟。シナリオ②で宿老は彼一人だけなので、第二軍を率いさせる貴重な戦力となってくれる。

吉田重俊

戦闘	内政	外交	謀略
B	C	C	C

吉田孝頼の弟。シナリオ①から長宗我部家に仕えている。常に軍団に入れて戦わせたい猛将だ。

久武親直

戦闘	内政	外交	謀略
B	D	D	B

シナリオ②から登場する知将。兵力が少ない序盤では、中島親吉と共に敵地で暗躍させていきたい。

中島重房

戦闘	内政	外交	謀略
C	B	D	C

中島親吉の子。内政に優れた武将があまりにも少ない長宗我部家には貴重な存在だ。シナリオ⑤で登場。

吉田孝頼

戦闘	内政	外交	謀略
B	B	C	B

ほぼ万能な能力を持つ武将。間諜、合戦に活躍できる。シナリオ⑥でしか登場しないのが惜しまれる。

長宗我部家史

長宗我部家家紋
七鳩酢草

土佐の辺境から四国を手中にした一領具足の雄邦 太閤秀吉に屈し大坂夏の陣に消ゆる

秦氏の子孫、さらには始皇帝の子孫と称するが事実は不明である。土佐国守護七名と言われる、土佐の有力国人領主の一家であったが、一時滅亡。後に旧領を回復し、以後は次第に勢力を広げ、元親の代に黄金時代を迎える。

元親は、兵農分離とは逆行する思想で一種の国民皆兵制度である「一領具足」制度を試行、予想外に成功し軍事力の強化に繋がったので、制度を領土全体に広げた。一領具足と呼ばれる半農の下級武士たちには序列というものがなく、長宗我部家との心理的な結びつきが強かった。元親は、この一領具足たちの強い忠誠心に支えられて各地を転戦、四国を統一した。しかし、畿内に近い四国という地理的条件は天下をも狙えると同時に、天下取りを目指す者には目障りな勢力でもあった。元親も、天下取りを目指して盛運著しい豊臣秀吉に攻められ、臣従を余儀なくされた。

元親の嗣子、信親は豊臣秀吉の九州平定に従軍して戦死、弟の盛親が後を継いだが関ヶ原の合戦で領地没収。大坂の陣で敗走中に捕らえられて刑死し、長宗我部家は滅亡した。

島津家

勇猛果敢な薩摩隼人
九州三強の一角

島津義久

家譜

①貴久（一五三〇〜一五七〇）
②義久（一五四九〜一六一一）

九州の覇王

祖父、忠良が「三州の総大将たる材徳、おのずから備わっている」と評した、生まれながらの大将。琉球にも出兵して属国化し、貿易によって多大な利益を上げた。

シナリオ①は、貴久が当主だ。家臣は五人と少ないが、領土の内城、出水城の民兵には強兵属性がある。戦闘の高い貴久、家老の伊集院忠倉、新納忠元に知行を与えて増兵すれば、強力な軍団を編制できる。高山城→都於郡城と攻め落として地盤を固め、北九州へと進軍しよう。開始直後、塚原卜伝が浪人として内城にいるので登用したい。

シナリオ②では、戦闘に特化した武将がさらに増えた。特に、息子の島津義久、義弘兄弟は優秀だ。南九州は貧しい城が多く、貴久の配下には内政の優れた武将が少ない。領土の拡大と人材の確保は平行して行おう。また、九州には強兵が多い。これを活かすためにも、開墾重視で知行を増やそう。人材では、竜造寺家の鍋島直茂が有能でお勧めだ。

シナリオ③では、当主が義久に代わっている。島津家が京へ進軍するには、北九州では大友家、中国では毛利家、畿内では織田家と戦わなければならない。これら強敵と覇を競うには、軍事力の増強が不可欠だ。岡城の馬府内城の鉄砲は確実に押さえたい。また、島津義弘、島津家久、種子島時尭は戦闘が高く、開始当初から鉄砲隊を率いている。増兵して序盤から活躍させたい。

シナリオ④では、南九州を領土とし、大友家、竜造寺家とで九州を三分割している。内城では鉄砲隊を編制できるようになり、戦闘に秀でた家臣も充実している。特に、宿老の島津義弘、島津家久は、知行を限界まで与えると、農閑期で六千の民兵を率いられる。九州平定後、京を目指す際に、強敵の毛利家とは同盟を結び、四国を経由して畿内に上陸する方法も悪くない。

シナリオ⑤は、鍋島直茂、加藤清正、黒田官兵衛が大名として独立しているので、打ち破った後は確実に登用したい。九州平定後は、中国、または四国を通って、畿内の豊臣家との対決になる。豊臣家は領内が豊かなだけではなく、家臣の数も多い。それに対抗するには、多くの武将を揃える必要がある。ここは毛利家を先に倒し、家臣を増やしてから豊臣家と対峙したい。

シナリオ⑥は、貴久が当主となっている。内城で鉄砲隊が編制できるので、軍事面で問題はないが、内政面での人材不足は、攻略した敵国の捕虜、浪人を登用して補っていこう。九州では、加藤家、竜造寺家が脅威となるが、大筒隊を編制できるようになれば優位に立てる。内政で町の規模を上げていく以外に、キリスト教に改宗し、領内の全ての城の町規模を1ずつ上昇させる方法もある。

	1	2	3	4	5	6
城	2	2	2	5	4	2
武将	6	16	19	23	25	30
猛将	4	10	10	12	12	19
能吏	1	2	2	2	2	3
外交	4	6	5	4	5	9
謀将	0	3	3	2	1	3
石高	21.4	23.3	25.7	56	48.6	28.4
兵士	0.70	0.55	1	1.24	1.01	1.12
姫数	3	3	2	3	2	3

友好国と敵対国

1	2	3	4	5

家臣団

九州に覇権を築いた島津四兄弟と、勇猛果敢な薩摩武士団

島津義弘

戦闘	内政	外交	謀略
A	C	A	C

貴久の次男。シナリオ②から登場し、鉄砲隊を所有している。合戦だけではなく、外交にも使える逸材。

島津家久

戦闘	内政	外交	謀略
A	C	D	D

貴久の四男。一五六三年に登場するので、義弘と共に軍団を率いさせて、最前線で活躍させたい存在だ。

猿渡信光

戦闘	内政	外交	謀略
A	E	D	D

シナリオ②から登場する島津家の猛将。彼と義弘、家久を集めれば、強力な軍団が編制できるだろう。

島津忠恒

戦闘	内政	外交	謀略
B	B	B	E

義弘の次男。島津家には内政に優れた武将が少ないので、合戦に内政にと、大活躍してくれるはずだ。

種子島時尭

戦闘	内政	外交	謀略
B	C	B	D

鉄砲が伝えられた種子島の領主。シナリオ②から鉄砲隊を所有しているのは貴重。軍団に必ず加えよう。

上井覚兼

戦闘	内政	外交	謀略
D	B	C	C

内政に優れた者が少ない島津家にとって、内政を任せられる数少ない武将。シナリオ②から登場する。

伊集院忠朗

戦闘	内政	外交	謀略
C	C	B	C

島津家を支えてきた老臣。諸大名との交流を図るのに適した人材だ。シナリオ①にのみ登場する。

島津歳久

戦闘	内政	外交	謀略
C	C	D	B

貴久の三男。謀略が高いので、妨害工作を行おう。軍団に加えて軍団の謀略能力を上げてもよい。

島津家史

島津家家紋
丸に十文字

鎌倉以来の
名門にして強豪
九州に覇を競う
薩摩隼人の雄名は
大明をも震わす

源頼朝の子孫を称するが、公卿筆頭近衛家の家臣から出たという説が有力。薩摩、大隅の守護だったが応仁の乱以前から戦乱が起きており、一時は酷く衰退していた。

分家の忠良が自分の子、貴久に本家を継がせ、父子で協力して四分五裂していた一族を統一してから急激に成長した。貴久の嫡子の義久の代には九州を統一する勢いだったが、豊臣秀吉に敗れて降伏した。しかし、本領は守り抜き、表向きは義弘に家督を譲りながら、実質的には島津家のトップであり続けた。

義久は、軍神摩利支天の再来とまで言われた義弘など、天才的な弟たちや剽悍な家臣たちを巧みに統率して手足のごとく使いこなした。その見事さは徳川家康をして「日本一の大将」と言わしめた程である。関ヶ原の合戦の後処理も鮮やかで、またしても本領を安堵された。

島津家は朝鮮出兵の後、敵味方問わず戦没者を追悼する慰霊塔を高野山に建立した。その慰霊塔は、明治になってから欧米諸国に日本人の人道性を知らしめ、日本赤十字社の結成を許される理由となった。

南部家

東北地方最大の大名　九戸家の反乱により衰退す

南部信直

南部藩二十万石の祖

南部信直は南部一族の石川高信の子であったが、南部晴政の養嗣子となって南部家を発展させた。時代の趨勢を的確に見極める才に恵まれ、巧みに豊臣家、徳川家と接近、南部藩二十万石を築く。

家譜

①晴政（一五一三～一五八二）
②信直（一五六二～一五九九）

南部家の基本方針は北進だ。敵は蠣崎家、小野寺家など弱小大名ばかりなので、勝算も高い。南からの敵の侵攻は傭兵一千から二千を置くことで対処し、蠣崎家から小野寺家へと北端を回るような形で侵攻する。九戸政実など謀略の高い武将に不穏工作をさせつつ、素早く北進を達成し、返す刀で一気に南下して東北平定を成し遂げよう。

シナリオ③と④の南部家は苦しい。腹心だった九戸が独立し、城の数も一つに減ってしまっている。家臣には多くの宿老がいるが、一万石程度しか与えられないという状況だ。そこで、できるだけ素早く小野寺家を討つ。そして軍備を整えた後に、安東家、九戸家に攻め入ろう。兵糧は一万石程度を残して、全て徴兵に使用。最上家、大崎家と同盟を結び、後顧の憂いをなくすことも忘れないように。シナリオ③の場合は一五七二年一月に千代城に片倉景綱が浪人として登場する。ぜひ手に入れたい人材だ。

奥羽平定後も石高の低さはネックになるが、前線に全ての人員を集中させれば磐石の体制を築くことができるはず。肥沃な関東平野に侵攻し、天下統一のための地盤固めをしてしまおう。

友好国と敵対国

1	2	3	4	5

シナリオ	城	武将	猛将	能吏	外交	謀将	石高	兵士	姫数
1	3	4	2	0	0	1	16.4	0.76	2
2	3	6	3	0	0	2	16.8	0.54	3
3	1	4	2	1	0	1	7.8	0.38	4
4	1	7	3	2	0	0	10	0.25	4
5	2	8	3	3	0	1	18	0.45	3
6	2	8	3	2	0	3	16.2	0.75	3

戦力データ

総合評価　C

南部家史

新羅三郎源義光の子孫。南部晴政の代に家臣を上手く使って勢力を広げるが、男子がなかったため家臣の子を養嗣子に迎えた。しかし、その後になって男子が生まれ内紛となる。養子の信直は自ら身を引き、家督はその男子に継がせて晴継と名乗らせるが、晴継が早世したため結局は家督を継ぎ、南部藩の祖となっている。

南部家家紋
対い鶴

内紛と平穏　凋落と中興　繰り返して　東北の名門は　大いに雄飛

家臣団

九戸政実

戦闘	内政	外交	謀略
A	D	D	B

史実では南部家の家督争いに関係し反乱を起こす。武力が高く謀略も使える貴重な人材。

南部信愛

戦闘	内政	外交	謀略
B	C	C	C

南部家の宿老。戦場では頼りになる存在。多くの石高を与え、戦場での働きを期待しよう。

山形の梟雄により隆盛した伊達家の好敵手

最上家

隣国の伊達家をどうするか。最上家にとって最も頭の痛い問題はこれだ。伊達家は石高、人材共に優秀な強敵。正面からでは到底勝ち目がない。謀略の高い武将による不穏工作で士気を0にしてから戦端を開こう。それでも豊富な石高を背景とする伊達軍の兵力は強敵だが、こちらも傭兵を積極的に徴兵し五千以上の兵力を揃えておこう。この時ばかりは、農繁期の動員も積極的に活用すべきだ。後のことを考えれば葦名家と同盟を結んでおくことも必須だろう。伊達家さえ倒せば人材も石高も他家を圧倒するものが手に入るだけに、この併合は是が非でも成功させたい。シナリオ③の場合は、千代城に登場する片倉景綱を登用する策も必須だ。

問題は最上義光のいないシナリオ①の場合。この状況では一旦、伊達家とは同盟を結び、関東での浪人発掘に力を入れるなどして国力の充実に励むしかない。里見家や結城家の武将は優秀なのでお勧めだ。どちらにしても決して楽な展開ではないが、北の諸国を平定できれば一万五千程の兵力が集められるはず。これだけの数がいれば、そのまま広大な関東平野を一気に駆け下ることも夢ではない。

最上義光

出羽一代の風雲児

家督争いの勝者として最上家を継いだ義光は、まずは家督争いでの敵方の粛正によって家中を固めると、近隣の豪族を次々に降した。以後巧みに戦国の世を泳いで最上家の黄金時代を築いた。

家譜

①義守（一五三七〜一五九〇）
②義光（一五六二〜一六一四）

友好国と敵対国

5	4	3	2	1

	1	2	3	4	5	6
城	1	1	1	1	1	1
武将	2	4	7	7	8	9
猛将	0	1	4	5	6	5
能吏	1	1	0	0	0	1
外交	1	1	1	2	2	3
謀将	0	0	2	2	2	2
石高	8.1	10.1	11	14	16	15.1
兵士	0.26	0.22	0.47	0.28	0.35	0.6
姫数	4	4	3	3	3	3

戦力データ

総合評価 C

経済力
軍事力
人材
立地条件

最上家史

足利一族にあたる斯波氏の一族。独立した領主だったが、一時は伊達家に服従せざるを得なかった。しかし、家督争いを経て家を相続した義光の代になって再度独立。豊臣秀吉、徳川家康と巧みに通じて勢力を広げ、出羽五十七万石の大大名に出世した。子孫は改易されるが、特別扱いの旗本になった。

最上家家紋
二引両

落日を見た
北の名門
巧みな外交で
再び飛翔し
山形五十七万石

家臣団

志村光安

戦闘	内政	外交	謀略
A	C	E	B

優秀な武将の多い最上家の中でも戦闘Aは貴重。奉行まで育てて戦場で中核を担わせよう。

氏家定直

戦闘	内政	外交	謀略
C	B	B	C

最上家の家老。内政、外交面での能力は家中随一。自国の発展のため大いに活躍させたい。

佐竹家

源氏の血を引く関東の名門 義昭、義重により家名を轟かす

佐竹義昭

家譜

①義篤（一五二三〜一五四五）
②義昭（一五四七〜一五六五）
③義重（一五六三〜一六一二）

佐竹家中興の祖

佐竹義昭は佐竹家が豊臣政権時代に五十四万石の大大名にまで出世する糸口を開いた名将である。名門ながら衰微していた佐竹家を建て直し、周辺の国人領主を従えて一大勢力を築いた。

佐竹家の長所はその人材の豊富さにある。城が一つしかないのがやや苦しいが、むしろ本当の問題は関東に覇を唱える北条家の存在だろう。北条家は放置しておくと手が出せない程の強大な勢力になってしまう。とにかく、これを速攻で叩くのが上策だ。狙い目は江戸城と河越城。これを獲れば、国力差は一気に逆転する。まずは謀略の高い武将を四人選び出し、結城城と江戸城で不穏工作を行おう。残りの武将は兵糧の続く限り徴兵。そして、敵の士気が下がった頃を見計らい結城城を落とし、そのままの勢いで江戸城を奪ってしまうのだ。その後も休まず河越城→滝山城と攻略していこう。シナリオ①の場合は武将の数が極端に少なく、江戸城の守備どころか奪取すら不可能だ。このシナリオの場合は、まずは人材の獲得を最優先しよう。幸いなことに隣国の里見家はすぐに滅亡してくれる。北条家が久留里城を囲んできたら一気に佐倉城を叩き、そして急いで全ての武将を久留里城の上に移動させよう。後は里見家が滅亡するのを待ち、浪人を次々と追いかけて誘うのだ。ここで四人程の里見家の遺臣を配下にできれば、佐竹家の運命は開けてくるはずである。

戦力データ

	1	2	3	4	5	6
城	1	1	1	1	1	1
武将	5	19	24	22	22	21
猛将	1	4	7	6	6	8
能吏	2	4	4	2	4	5
外交	1	4	5	5	4	5
謀将	1	2	3	3	4	4
石高	22.0	22.0	25.2	28	32	24
兵士	0.61	0.40	0.88	0.46	0.51	0.91
姫数	3	3	3	3	3	3

友好国と敵対国

1	2	3	4	5
	宇都宮家 100	宇都宮家 100	葦名家 100	上杉家 100
	上杉家 100	上杉家 100	宇都宮家 100	
		里見家 100	里見家 100	

佐竹家史

源平合戦時代から活躍した、清和源氏の名門。浮沈の激しい歴史を持つ。佐竹義篤の子、義昭の代になると飛躍の時代を迎え、その武名から自然と周辺の国人領主たちが服従してきた。その降ってきた国人城寨は七十九ヵ所に及ぶと言う。子孫は関ヶ原の合戦で西軍に付き、減封されるも大名として明治まで残った。

佐竹家家紋
扇に月

正統なる源氏の末裔
戦国に飛躍し明治まで残った常陸の名門

家臣団

佐竹義重

戦闘	内政	外交	謀略
A	C	A	B

伊達家、北条家という宿敵との対決に明け暮れた名将。その戦いぶりは鬼と怖れられた。

真壁氏幹

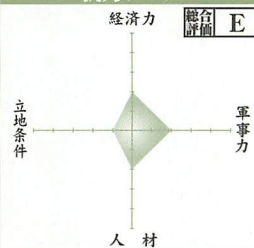
戦闘	内政	外交	謀略
A	D	E	D

一丈程の木杖を手に北条家相手に勇戦した、佐竹家の誇る猛将。戦場では頼りの存在。

名将、信玄を唸らせた関東管領の遺臣たち

長野家

北は上杉家、南は北条家と二つの大国に挟まれている上に、隣国の真田家からは忍者による謀略活動を仕掛けられるという苦しい状況から始まる長野家。ここは開き直って、これらの強敵の全てと同盟を結んでしまおう。常に二～三人に交流させておけば、相手から破棄してくることはまずない。仮想敵は村上家だ。さらに結城家や佐竹家を討てば、その頃には兵数も二万は動員できるようになっているはず。これだけいれば上杉家、北条家とも互角以上に戦える。同盟を破棄し、速攻で勝負を決めてしまえ。

ここで一つ問題になるのは家臣の能力値の低さだ。これを解決するには浪人を積極的に吸収するより他にない。幸い長野家には家臣の数が多い。滅亡しそうな国に対し十人程で移動し、人材を大量に吸収するという手もある。雑賀衆、徳川家辺りの状況には注目だ。また、真田家はゲームが始まると同時に必ず海野六郎を間者として送り込んでくる。同盟を結ぶのを遅らせ、捕らえて家臣にしてしまうのがいいだろう。業正の能力が高いだけに、有能な家臣さえ揃ってしまえば誰も止められない。鉄砲・大筒を産する江戸城を落とし、強力な軍を編制せよ。

長野業正

勇武かつ叡智の忠臣

衰退して傾いた主君、関東上杉家を最後まで見捨てなかった戦国時代には珍しい忠臣である。勇武にして叡智と評された業正の存命中は、周辺の強豪たちも長野家と上杉家を滅ぼせなかった。

家譜

①業正（一五〇七～一五六一）

友好国と敵対国

5	4	3	2	1
－	－	－	－	－

	6	5	4	3	2	1
城	2	－	－	－	－	－
武将	20	－	－	－	－	－
猛将	4	－	－	－	－	－
能吏	1	－	－	－	－	－
外交	3	－	－	－	－	－
謀将	1	－	－	－	－	－
石高	27.1	－	－	－	－	－
兵士	1.07	－	－	－	－	－
姫数	3	－	－	－	－	－

戦力データ

総合評価 E

長野家史

在原業平の子孫を称し、代々関東上杉家に仕えた。

業正の代には上杉家の零落著しく、業政の守る箕輪城も何度も武田信玄や北条氏康に攻められたが、見事に守り切った。

しかし、業正の病死後、子の業盛が継いだものの遂に守りきれず二年後に落城した。なお、業正という名前は業政と記す記録もある。

長野家家紋
檜扇に鷺の羽

武田信玄と
北条氏康
両雄を退け
業正の武威は
天下に轟く

家臣団

小幡信貞

戦闘	内政	外交	謀略
B	C	B	C

人材の乏しい長野家の中では、かなり使える武将。戦闘、外交に積極的に使っていきたい。

長野業盛

戦闘	内政	外交	謀略
B	D	D	D

長野家で唯一の宿老。能力的にも業正に次ぐ戦闘力だ。前線の主力として使っていこう。

葦名家

伊達家と奥羽の覇権を争う会津の強豪

隣国である上杉家は石高も武将の数も日本有数の超大国。葦名家の力では、とてもではないが相手にならない。とにかく開始直後に同盟を結んでしまい、全力で伊達家、大崎家を切り崩していこう。彼らの金山さえ手に入れれば、展望が開けてくるはずだ。

シナリオ①〜③までは伊達家に知謀の高い武将が少ない。盛氏を中心とした不穏工作で意外と簡単に攻略できるはず。しかし、問題なのはシナリオ④。当主が盛隆に代わり、謀略中心の攻め方ができないのだ。ここではとにかく城を包囲して、長期戦覚悟で押し切ってしまおう。まず、ゲームスタート直後の八月に米沢城を囲んでしまう。兵は四千程度でいい。千代城から援軍が来るが所詮は孤軍。簡単に潰すことができるだろう。後は包囲軍の兵糧が切れないように注意するだけ。収穫期には米沢城の兵糧も手に入るので、根負けさえしなければ落城はもはや時間の問題だ。伊達家も米沢城の兵糧が尽きる寸前に野戦を仕掛けてくるが、兵力は四千もいれば、たやすく撃退できる。後は一気に千代城を討ち、伊達家の人材を吸収してしまえば、天下統一への視界は良好と言っていいだろう。

葦名盛氏

家譜

①**盛氏**（一五三七〜一五八〇）
②**盛隆**（一五七七〜一五八四）

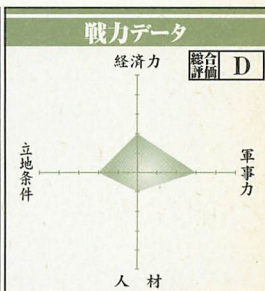
遠交近攻の典型

葦名盛氏は近隣の豪族を次々に降して会津に一大勢力を築いた。さらに全国の有力大名とも積極的に同盟を結んで支持者を増やし、その勢いと援護を頼りに常陸の佐竹家などと激しく争った。

友好国と敵対国

5	4	3	2	1
−	佐竹家 100		武田家 100	

	1	2	3	4	5	6
城	2	2	2	2	−	1
武将	4	9	15	13	−	9
猛将	1	1	2	2	−	1
能吏	0	1	1	1	−	1
外交	0	1	3	3	−	2
謀将	1	1	1	0	−	1
石高	12.6	16.0	20.3	22.1	−	15
兵士	0.58	0.47	0.72	0.57	−	0.64
姫数	3	3	3	4	−	3

戦力データ

葦名家史

南北朝期から会津で活躍した名族。相模の豪族三浦氏の子孫とも言うが不明。

伊達家と血縁関係が濃く、上手に陸奥を住み分けて勢力を拡大、戦国時代の盛氏の代に最盛期を迎えた。しかし、盛氏の後は家督を継いだ者がみな早世して衰退。内紛も起こし見限られた盟友の伊達家に、摺上原の合戦で敗れて滅亡。

葦名家家紋　三つ引両

中興の祖盛氏によって栄えた名族 その後は後嗣夭折が続く

家臣団

相馬義胤

戦闘	内政	外交	謀略
B	D	B	E

盛胤の息子。父同様に高い武力を誇り、騎馬隊も編制している。配備は戦場の前線に。

相馬盛胤

戦闘	内政	外交	謀略
A	D	C	E

葦名家にあって戦闘Aは貴重な人材。身分が与力と低いのは難点だが、戦場の中核は彼に。

真田家

遊撃戦術を得意とする
戦国最強の小大名

真田昌幸

家譜

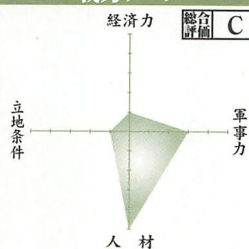
①昌幸（一五六三〜一六一六）

古典兵法の完成者

次男の信繁（通称幸村）共ども奇策の天才と思われているが、実は古典兵法の達人。あまりにも鮮やかなので奇策扱いされた。晩年は流罪となり、配流先の高野山麓九度山村で貧窮のうちに没した。

真田家はとにかく前線を絞り込むことだけに注意したい。その点、シナリオ④では後ろを上杉家が守ってくれるので好条件。安心して関東圏に攻め入ることができる。真田昌幸の不穏を使えば、北条家が相手といえども負けることはないだろう。また、一五八二年には幸村が元服。上田城に猿飛佐助、穴山小助らが浪人として登場する。一五八三年の海野六助と共に絶対に配下にするのを忘れないように。

シナリオ⑤の場合は徳川家、前田家と同盟を結び、当面は堀家に攻め込もう。堀家の城は全て強兵属性なので、それらを併合すれば徳川家とも戦える。徳川家は兵数二万は送り込んでくるので、普段から徴兵を心掛け、浪人もどんどん登用していこう。同盟の破棄はこちらも二万程度まで揃えてからだ。数さえ揃えば徳川家が相手といえども、そうやすやすと負けるようなことはない。大阪の陣で徳川軍を恐れさせた「真田の赤備え」の再現を目指せ。

真田家は武将の質では、どこよりも素晴らしい。外交を上手く使い、当面の敵を一つ一つ倒すようにすれば、自然と勢力は広がっていく。とにかく焦って多方面に敵を作ることだけは絶対に避けよう。

友好国と敵対国

5	4	3	2	1
	上杉家 100	–	–	–

	6	5	4	3	2	1
城	1	1	3	–	–	–
武将	20	14	9	–	–	–
猛将	17	12	6	–	–	–
能吏	3	1	3	–	–	–
外交	3	2	2	–	–	–
謀将	7	5	2	–	–	–
石高	15.1	12.7	37.6	–	–	–
兵士	0.55	0.27	0.7	–	–	–
姫数	–	3	3	–	–	–

戦力データ

真田家史

真田一族は信濃の名族、滋野三家の筆頭海野氏より出て、武田家の家臣となった。武田家滅亡後は独立の大名となり、戦えば強かったが、周囲を有力大名に囲まれていたため何度も臣従先を変えて生き残った。

徳川勢に二度も勝った昌幸の嗣子、信之は関ヶ原の合戦で東軍に付いて十万石に転封され、最も出世した。

真田家家紋
六連銭

六連銭の旗の元
天下人家康を
嘲弄する
真田家は
日本一の強者

家臣団

猿飛佐助

戦闘	内政	外交	謀略
A	E	D	A

十勇士の一人で、謀略がずば抜けて優れている忍者。主君の片腕として働いてくれる。

真田幸村

戦闘	内政	外交	謀略
A	C	B	A

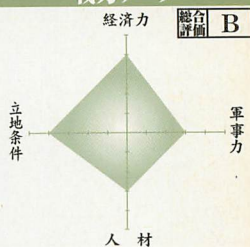
言わずと知れた伝説の武将。家臣の十勇士と共に軍団を率い、戦場を駆け抜けよう。

斎藤家

美濃の蝮が築いた
富国にして強兵の大地

斎藤家の稲葉山城は五つの城と接する交通の要衝だ。それだけに敵から攻められる機会も多く、序盤はどうしても苦戦することが多い。ここは朝倉家、今川家、武田家といった大名とは同盟を結び、小勢力を併合するように侵攻しよう。

織田家はどうしても早い時期に倒してしまいたい存在だ。まともに相手をしていては、浅井家、北畠家といった連中に隙を見せることになってしまうので、ここは侵攻を逆手に取るような作戦を立てるべきだ。織田家が岩村城に攻めた瞬間を見計らって、こちらから那古屋城を包囲してしまおう。後は引き返してきた織田軍に勝てるかどうかの問題。敵は孤軍だが、こちらも浅井家を牽制するための兵を残してきているだけに、ほぼ互角だ。動員などの奇策を駆使して戦おう。織田家を討った後は、浅井家、北畠家を倒し、安全圏を広げるような形で京都上洛を目指そう。ちなみにシナリオ①では松倉城に百地三太夫がいるので、彼に不穏工作をさせても面白い。

近畿地方は石高の多い城が多い上に、街の発展も望める。いち早く鉄砲の生産を行うことができれば、その武をもって天下に号令する日も近い。

斎藤道三

非情狡猾な蝮

一介の油売りから成り上がった父の家督を継いだ謀将。主君を追放してから国内の豪族を束ね「蝮」と恐れられた。しかし、旧主君の落し胤と噂された息子の義龍に反逆され、無残な最期を遂げた。

家譜

①道三（一五一〇〜一五六三）
②義龍（一五四三〜一五六一）

友好国と敵対国

1	2	3	4	5
織田家 40		−	−	−

	1	2	3	4	5	6
城	3	3	−	−	−	3
武将	11	14	−	−	−	28
猛将	5	8	−	−	−	11
能吏	0	2	−	−	−	3
外交	1	2	−	−	−	2
謀将	4	4	−	−	−	5
石高	39.5	46.2	−	−	−	42
兵士	1.23	0.87	−	−	−	1.59
姫数	4	3	−	−	−	3

戦力データ

総合評価 B

経済力 / 軍事力 / 人材 / 立地条件

斎藤家史

諸説あるが、美濃守護土岐家の陪臣となって出世した長井新左衛門尉を祖とするという説が有力。新左衛門尉の息子の道三は、土岐家三奉行の一人にまで出世していた父から家督を継ぐと巧みに主君を追放、美濃の豪族衆をまとめ上げた。しかし、道三は息子の義龍に討たれ、義龍の子、龍興は織田信長に討たれ滅亡した。

斎藤家家紋
二頭立波

賢者の軍略と
悪魔の策略
毒蛇の如き
梟雄が築いた
美濃の強国

家臣団

竹中半兵衛

戦闘	内政	外交	謀略
B	B	B	A

秀吉の軍師として有名。道三亡き後の謀略は彼に。その知謀は万の軍勢に匹敵するだろう。

稲葉一鉄

戦闘	内政	外交	謀略
B	C	C	C

安藤、氏家と共に「美濃三人衆」の一人。戦闘、身分共に高く、斎藤家の中核的人物。

小京都、一乗谷の雄
室町大名の古豪

朝倉家

朝倉家は初期の状態で三つの城を有し、家臣も宿老が多い。最初から大きな兵力を編成することができるだろう。しかし、宿老の数は揃っているものの、凡庸な武将が多いことが難点だ。

まずは斎藤家、一向衆と同盟を結び、全兵力をもって南下。シナリオ①の場合は孝景、宋滴を謀略担当にして不穏工作を行おう。彼らがいないシナリオでは、朝倉家の豊かな国力を背景に敵に倍する戦力を用意し、強攻作戦を主体に敵城を攻略する。

問題なのはシナリオ③の場合。朝倉家を囲む織田家は飛ぶ鳥を落とす勢いだ。石高は二百万石を超える。これを敵に回してしまっては、朝倉家の命運も風前の灯火としか言いようがない。ここは忍従政策とでも言うべき外交態度で臨むべきだ。開始直後の朝倉家と織田家の関係は嫌悪であるが、城の防備に必要な武将以外は全て織田家に送ってひたすら交流に努め、何とか同盟を締結させるのだ。その後は浅井家→一向衆の順に同盟を破棄し、城を奪い取ってしまおう。織田家を相手にするのは、同格の石高を手に入れた後。それまでは玉虫色の外交政策を展開し、小大名家領の併合に奔走しよう。

朝倉義景

一流の文化人大名

足利幕府と関係の深い名門で、そのため京を逃れてきた文化人が多く、また彼らを庇護するだけの実力を備えていた。日本の将棋の歴史の転換期を示す貴重な駒が、城跡から出土している。

家譜

①孝景（一五〇九〜一五五六）
②義景（一五四九〜一五七三）

友好国と敵対国

1	2	3	4	5
浅井家 100	浅井家 100	浅井家 100 武田家 100 一向宗 100	–	–

	1	2	3	4	5	6
城	3	3	3	–	–	3
武将	11	20	20	–	–	23
猛将	3	4	4	–	–	6
能吏	2	2	2	–	–	3
外交	2	2	3	–	–	4
謀将	2	0	1	–	–	3
石高	36	39	42	–	–	41
兵士	1.3	0.79	1.61	–	–	1.44
姫数	3	3	3	–	–	3

戦力データ

総合評価 B

経済力 / 軍事力 / 人材 / 立地条件

朝倉家史

平安時代から活躍した名家で、足利尊氏を助けるなどして越前を領した。畿内における足利幕府の支持勢力として重きをなしたが、戦国期には次第に衰退していった。それでも朝倉義景は近江志賀の陣で織田信長と互角の戦いを演じ、織田信長を窮地に追い込むが、後一歩で逃し、逆に滅ぼされた。

朝倉家家紋
三つ盛り木瓜

雪の小京都を生み出した室町大名の家系
信長に死の淵を見せた古豪

家臣団

真柄直隆

戦闘	内政	外交	謀略
A	E	E	D

朝倉家随一の豪勇を誇る猛将。戦闘は高いが身分が低い。出世させて大軍を任せたい。

朝倉宋滴

戦闘	内政	外交	謀略
B	B	B	B

全ての能力が高く、身分も宿老。朝倉家を支える中心的人物だ。謀略、戦闘は彼を中心に。

柴田家

雪の大地で牙を研ぐ 織田家の名将の政権

柴田家はシナリオ④にのみ大名として登場する。このシナリオは「本能寺の変」直後の状況を再現したものだ。ここで織田家筆頭家老の勝家が負けるわけにはいかない。しかし、柴田勝家の余命は三〜五年しかない。そこで、電撃的な猛進が必要となる。

柴田家の基本方針は明智家への速攻だ。明智家は放っておくと滝川家や羽柴家にどんどんと切り取られてしまう。明智家には豊かな石高を持つ城が多いだけに、この戦いに後れを取ることは許されない。ゲームを始めたらすぐに上杉家、徳川家と同盟を結び、全軍を敦賀城に集結させてしまおう。全ての城の将兵を集めれば、一万五千程の大軍を組織できるはず。さらに集めた兵糧で徴兵を行い、二万五千を目標に上洛軍を組織する。元々の国力が高い柴田家ならば疾風迅雷の速度で明智家を平らげられるだろう。明智家を倒したら、次は羽柴家の番だ。この段階で、徳川家との同盟が生きてくる。神戸家、滝川家との同盟も破棄されないように、交流要員として浪人を積極的に集めておくべきだ。秀吉との天下分け目の合戦に勝利できれば、信長公の遺志を継いだ天下布武も目前だ。

柴田勝家

織田家の柱石

苛烈な軍略により「鬼柴田」の異名を取った織田家筆頭家老。その豪雄から、北陸の併合を任された。本能寺の変後、決戦である賤ヶ岳合戦に破れ、愛姫のお市と共に炎上する北ノ庄城に消えた。

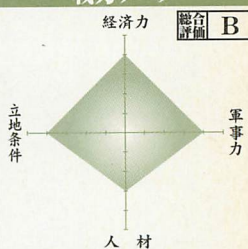
家譜

①勝家（一五三七〜一五八五）

戦力データ

総合評価 B

経済力／軍事力／人材／立地条件

	1	2	3	4	5	6
城	–	–	–	6	–	–
武将	–	–	–	23	–	–
猛将	–	–	–	8	–	–
能吏	–	–	–	2	–	–
外交	–	–	–	3	–	–
謀将	–	–	–	1	–	–
石高	–	–	–	101	–	–
兵士	–	–	–	1.56	–	–
姫数	–	–	–	5	–	–

友好国と敵対国

1	2	3	4	5
–	–	–	神戸家 100 滝川家 100 羽柴家 30 北畠家 100	–

柴田家史

尾張守護斯波氏の一族とも言うが定かではない。代々織田家の筆頭家老の家柄である勝家は、多大な戦功と引き代えに、前田利家や佐々成政らの猛者を率いて北陸征伐を任される。

民政に力を尽くし、領民らと共に赤飯を食べるなどして領国経営に努めたが、本能寺の変後、秀吉との天下分け目の賤ヶ岳の戦いに破れて滅亡した。

柴田家家紋 丸に二雁金

忠烈無双の
織田家筆頭
賤ヶ岳に破れ
愛姫を抱いて
業火に消える

家臣団

佐久間盛政

戦闘	内政	外交	謀略
B	D	C	D

柴田勝家に次ぐ戦闘能力を備えた若大将。身分を上げるため、戦闘には必ず参加させたい。

佐々成政

戦闘	内政	外交	謀略
B	D	E	C

最初から鉄砲隊を率いている。武力もBとまずまずなので、第二軍団長は彼を起用しよう。

前田家

秀吉の親友、勝家の僚友 義を貫いた加賀百万石

前田利家

家譜
①利家（一五五四〜一五九九）

人望厚き温厚な武将

若い頃は勇猛果敢で鳴らしたが、粗暴により一時期織田家を追われた。だが、武勇によって復帰。その後はむしろ温厚な調停役としての才能を発揮し、人望が厚く豊臣政権では大黒柱的存在になる。

前田家当主、前田利家は豊臣家の五大老の一人。ゲーム中でも豊臣家とは同盟関係にある。ここは、その同盟を頼りに進めていくのがよいだろう。

前田家の隣国は堀家と丹羽家。ここで堀家と同盟を結び、丹羽家を叩いてしまおう。利家の寿命が迫っているだけに、速攻で攻める。そのためには、開始直後に七尾城の全兵力を金沢城に送り、その荷駄が到着し次第、全力で北ノ庄城に攻め込もう。丹羽家は野戦に応じてくる確率が高い。兵力はこちらと同格だが、鉄砲武装率の差で押し切れる。そして、そのまま城も落としてしまうのだ。後は士気が回復するのを待って大野城の攻略に乗り出そう。羽柴家との同盟さえ守っていれば後詰めの兵を残す必要はないだけに、ここは大胆に行動できる。

大野城の攻略が終われば、次の標的は織田家だ。進軍ルートは郡上八幡城→岩村城。このルートだと岩村城を囮に岐阜城の兵を誘い、郡上八幡城から兵を出して野戦で殲滅できる。その岐阜城は鉄砲生産もできる優れた城。ここで兵力を整えれば羽柴家、徳川家両家を凌ぐ勢力を蓄えることも、さほど遠い日の話ではない。

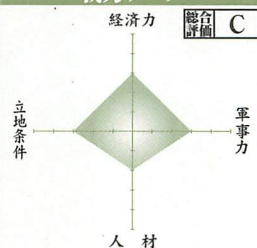
友好国と敵対国

5	4	3	2	1
豊臣家 100	–	–	–	–
金森家 100				

	6	5	4	3	2	1
城	–	3	–	–	–	–
武将	–	13	–	–	–	–
猛将	–	5	–	–	–	–
能吏	–	3	–	–	–	–
外交	–	2	–	–	–	–
謀将	–	0	–	–	–	–
石高	–	66.1	–	–	–	–
兵士	–	1.07	–	–	–	–
姫数	–	3	–	–	–	–

戦力データ

総合評価 C

経済力　軍事力　人材　立地条件

前田家史

菅原道真の子孫を称す。織田一族に仕える小領主であったが、利家が織田信長の近習に取り立てられたことにより運が開けた。

利家は一時は織田家を追放されたりもするが、武勇に加えて巧みな出処進退で、軽輩だった頃からの親友、豊臣秀吉に臣従、次いで徳川家康に接近して加賀百万石の祖となった。

前田家家紋
星梅鉢

加賀百万石の祖は豪勇、前田利家 藤吉郎との友情を貫いて五大老に飛翔

家臣団

前田利政

戦闘	内政	外交	謀略
B	C	C	C

利家に匹敵する戦闘を持った勇将だ。鉄砲隊も所有しており、戦力の要にしたい人物。

前田利長

戦闘	内政	外交	謀略
C	B	B	C

政治、外交は彼に任せよう。戦闘でも弟の利政と共に戦場の主力部隊として使っていける。

堀家

対上杉家の重責を担う豊臣体制の藩屏

堀家の武将はいずれもとにかく凡庸。これでは隣国の前田家、上杉家、徳川家とは到底戦えない。ここはもう一つの隣国である真田家を打ち倒し、その家臣団を併合することを最優先に行動しよう。

堀家の所有城は三つ。全て強兵属性を持つという豪華さだが、堀家の武将はわずかに七人しかいない。前田家、上杉家、徳川家の三国とは同盟を結んで、全ての武将を春日山城に集結させよう。初期状態では新発田城の土地が十万石程空いた状態になっているので、武力Bの堀直政に知行として与えておくこと。真田家は兵力こそ五千程度だが非常に厳しい抵抗をしてくる。兵は一兵たりとも無駄にしてはいけない。九月の半ばに全ての城で動員をかけてから出兵し、そのまま上田城を包囲しよう。僅差で陥落させることができるはずだ。後は真田家から散らばるように離れていく遺臣たちを追いかけ、猿飛佐助、霧隠才蔵などを登用する。できれば昌幸、幸村の真田親子も一緒に仕官させてしまいたい。

旧真田家の謀臣たちは、面白い程敵城の士気を落としてくれる。東海から畿内辺りを征伐し、徳川家や豊臣家に負けないだけの兵力を蓄えよう。

堀秀治

家譜

①秀治（一五九二～一六〇六）

名将、堀秀政の嗣子

文武に才を発揮した名将、秀政の子として大いに期待され、上杉家に対する押さえとして越後春日山城主となった。越後は上杉家の旧領だけあってその統治は困難を極めたが、難事を成し遂げる。

友好国と敵対国

5	4	3	2	1
	–	–	–	–

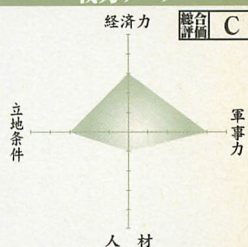
	6	5	4	3	2	1
城	–	3	–	–	–	–
武将	–	7	–	–	–	–
猛将	–	1	–	–	–	–
能吏	–	1	–	–	–	–
外交	–	0	–	–	–	–
謀将	–	0	–	–	–	–
石高	–	45.2	–	–	–	–
兵士	–	0.84	–	–	–	–
姫数	–	3	–	–	–	–

戦力データ

総合評価 C

経済力 / 軍事力 / 人材 / 立地条件

堀家史

対上杉の障壁役を担うも戦国の定め土豪波瀾の盛衰記

美濃の一土豪であったが、秀政の代に織田信長に仕えて運を開いた。秀政は織田信長の死後は豊臣秀吉に仕えて功があり出世するが、惜しくも早世した。

秀政の子、秀治は越後春日山三十万石に封じられたが、その子、忠俊の代に改易、堀家は断絶した。しかし、秀治の弟、親良が翌年取り立てられて三万石弱の大名となった。

堀家家紋　三亀甲

家臣団

堀直政

戦闘	内政	外交	謀略
B	C	C	C

家中で唯一戦闘Bの能力値を持つだけに、彼にはできうる限り、多くの知行を与えたい。

堀直寄

戦闘	内政	外交	謀略
C	B	C	C

内政Bは堀家の中では最高クラス。身分も宿老と高く、内政は全て直寄を中心に据えよう。

守護を追い出し独立した
浄土真宗の共和国

一向宗

下間頼照

家譜

①兼俊（一五〇八～一五八三）
②頼照（一五四〇～一五七五）

集団指導体制の中心

織田信長の凄まじい焼き討ちのため資料が乏しくはっきりしないが、在地有力者と、本願寺出身の僧侶たちによる集団指導体制。有力僧侶集団だった下間一族の中心が頼照と見られている。

どのシナリオで始めても最初の敵は神保家、畠山家だ。シナリオ①、②なら朝倉家と長尾家（上杉家）と同盟。七尾城、富山城を落としたら、奇策を使って朝倉家の三城を落とそう。不穏工作で三城の士気を0にした後に三軍をそれぞれの城の上に配置し、同盟破棄→（敵城に）移動を素早く繰り出すことによって一瞬で勝負が着くのだ。汚い手に思えるかもしれないが、これも仏敵を打ち倒すための方便。不穏はシナリオ①では松倉城にいる百地三太夫、シナリオ②では七里頼周を中心に行おう。シナリオ③の場合は朝倉家の後ろには強力な織田家が控えているため、これまでのような進軍ルートでは危険。ここは最初から上杉家を叩こう。ひたすら徴兵を行い、二万程度の軍を組織して春日山城に攻め込むのだ。農繁期に攻め込み、物量でねじ伏せよう。武将の質でははるかにこちらが劣る。手薄な時を見計らって攻めよう。一五七六年には春日山城に直江兼続、小谷城に石田三成、姫路城に後藤又兵衛が登場する。貴重な戦力だけに絶対に登用しておきたい。

一向衆はどのシナリオでも相当に厳しい。滅亡の憂き目を見ることのないように、戦略は慎重に。

戦力データ

総合評価 E

経済力 / 軍事力 / 人材 / 立地条件

	1	2	3	4	5	6
城	1	1	1	–	–	1
武将	3	5	5	–	–	11
猛将	1	2	2	–	–	5
能吏	2	2	1	–	–	4
外交	0	0	1	–	–	1
謀将	0	1	1	–	–	5
石高	18.0	19.5	23.1	–	–	24
兵士	0.61	0.35	0.78	–	–	0.79
姫数	2	2	2	–	–	2

友好国と敵対国

1	2	3	4	5
	本願寺 100 願証寺 100	織田家 0 本願寺 200 願証寺 200 雑賀衆 200 武田家 150 上杉家 0 朝倉家 100	–	–

一向宗史

一向宗紋
下り藤

南無阿弥陀仏の六字を唱え
守護大名を討滅す
加賀一国は
百姓の持ちたる国

浄土真宗本願寺派第八代法主蓮如が越前吉崎に赴いて精力的に布教を行ったのが功を奏して、浄土真宗は北陸一帯に浸透した。

加賀では結束の固い信徒集団が守護富樫氏の内紛に乗じて一揆を起こし、一度は敗れるが、最終的には勝利して「百姓の持ちたる国」として約一世紀の間、朝倉家などの侵略を斥けて独立を保っている。

家臣団

七里頼周

戦闘	内政	外交	謀略
B	C	C	B

不穏からの城攻めは全て彼を中心に行うことになる。一向衆勢力の中核を担う武将だ。

下間頼廉

戦闘	内政	外交	謀略
A	D	D	B

一向衆最強とも言うべきその高い武力は魅力的。他国侵攻の際には活躍を見せてくれる。

神戸家

反秀吉の象徴的存在 織田家落日の中の光

神戸信孝

家譜

①信孝（一五七四〜一六二三）

雄飛しそこねた鷹

　織田信長と共に行動して武功を立て、四国平定の際の総大将に任じられた。しかし、真の実力を示す機会に恵まれないまま豊臣秀吉に圧倒され、切腹を命じられた。織田一族衰運の象徴的存在。

　神戸家は四方を同盟に守られる形になっている。そこで、徳川家とも同盟を結び、後方の安全を確保してから明智家討伐軍を編制しよう。

　神戸家は他の旧織田家臣の勢力に比べて、人材の点では一歩も二歩も劣る。数を揃えての包囲攻城戦が主体になるので、徴兵はこまめに行おう。幸い、岐阜城は石高が高い。しばらくすれば、万単位の軍を編制できるようになっているはず。このシナリオはとにかく他勢力に負けない速さが必要になってくる。東海から畿内にかけての城は石高が多い。ここを他の大名に押さえられてしまっては後々苦しいことになってくるので、明智家を片付けたら、すぐにでも尾張に攻め入るようにしたい。最初から石高の多い柴田家、徳川家との同盟だけは大切にし、他の同盟とは機を見てどんどん破棄してしまおう。余裕があれば岐阜城で鉄砲隊を編制するのもいい。

　尾張から近江にかけての領土を確保し、他国から流れてくる浪人を登用して兵力を蓄えていけば、すぐにでも柴田家、羽柴家並みの勢力にのし上がることができるはずだ。最終的には羽柴家に決戦を挑み、それに勝利すればもはや天下は獲ったも同然だ。

友好国と敵対国

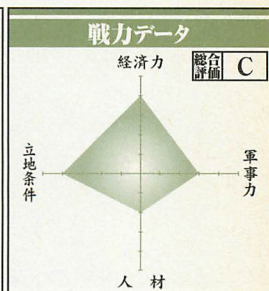
5	4	3	2	1
－	明智家 0 柴田家 100 北畠家 100 滝川家 100 蒲生家 100	－	－	－

	6	5	4	3	2	1
城	－	－	3	－	－	－
武将	－	－	8	－	－	－
猛将	－	－	2	－	－	－
能吏	－	－	0	－	－	－
外交	－	－	1	－	－	－
謀将	－	－	0	－	－	－
石高	－	－	52.7	－	－	－
兵士	－	－	0.92	－	－	－
姫数	－	－	3	－	－	－

戦力データ

神戸家史

　神戸家は伊勢の名族だったが、織田信長の前に屈し信長の三男信孝を養子に迎えた。戦国時代で重要なのは、この神戸信孝である。

　信孝は織田一族の有力部将として実父、信長に従い各地を転戦した後、四国討伐の総大将となるが、待機中に本能寺の変が起こり、急遽豊臣秀吉に従って明智光秀と戦った。

神戸家家紋
揚羽蝶

栄光ある
織田家の主筋も
盛者必衰の理
羽柴秀吉の前に
敗れ去る

家臣団

織田信包

戦闘	内政	外交	謀略
C	C	B	C

その外交力は同盟維持に打ってつけ。外交政策が重視される神戸家にとっては頼れる存在。

森長可

戦闘	内政	外交	謀略
B	D	C	D

「鬼武蔵」の異名を取った猛将。武力の高い武将が少ない神戸家にあって一人気を吐く存在。

福島家

剛勇無尽の福島正則 豊臣政権の双壁の一家

福島家は同盟国は多いが、ほとんどは一年以内に破棄されてしまう。その中でも三河の池田家は後背を守ってくれる存在だ。ここだけは早い時期から交流しておこう。開始直後、外交Aの近衛前久が二条城にいるので、急いで登用し、交流を任せよう。また、同じ二条城には風魔小太郎もいるので忘れないように登用しよう。不穏工作を使い、織田家→滝川家と攻め落としていくのだ。

当主である正則は武力が高く、兵種は鉄砲隊だ。絶対に知行は限界の二十五万石まで与えておこう。清洲城、岐阜城は併せて七十万石。石高は十分だ。尾張、美濃、三河を平定すれば三万程度の動員力を確保できる。後は豊臣家をどうするかだが、豊臣家は常に五万程度の軍を保有している。こちらも同等の戦力が揃えられるようになるまでは同盟を維持しておこう。豊臣家の肥大化が気になるなら、早い時期に北ノ庄城をこちらで押さえ、北陸方面への進出を不可能な状態にしてしまえばいい。

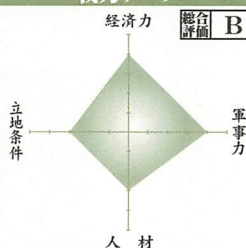
豊臣家と石高で対抗できるようになれば、天下統一も間近。畿内地方の諸城を落とし、天下分け目の決戦を挑もう。

福島正則

豪勇無双日本の張飛

気性が荒く、酒を愛した豪傑という点では中国の豪傑張飛に似ている。関ヶ原の合戦では先陣となり、暴風の如く戦うが、敵中突破を図る決死の島津軍には敢えて手を出さぬ思慮深さも見せている。

家譜

①正則（一五七七〜一六二四）

友好国と敵対国

5	4	3	2	1
浅野家 100	－	－	－	－
中村家 100				
堀尾家 100				
池田家 100				
加藤家 100				
豊臣家 100				

	6	5	4	3	2	1
城	－	2	－	－	－	－
武将	－	8	－	－	－	－
猛将	－	4	－	－	－	－
能吏	－	0	－	－	－	－
外交	－	0	－	－	－	－
謀将	－	0	－	－	－	－
石高	－	52	－	－	－	－
兵士	－	0.66	－	－	－	－
姫数	－	3	－	－	－	－

戦力データ

総合評価 B

経済力 / 軍事力 / 人材 / 立地条件

福島家史

福島家は猛将福島正則が一代で築いた家である。正則は寒村の桶屋の息子であったが、豊臣秀吉の遠縁にあたり、その縁から取り立てられた。豊臣家中では武名を轟かせていち早く大名になり、関ヶ原の合戦でも大功を立てた。しかし、豊臣家への忠誠心を警戒した徳川家に難癖をつけられ、時勢にも逆らえず断絶した。

福島家家紋
福島沢瀉

賤ヶ岳七本槍から
東海の大名へ
関ヶ原の戦いで
獅子奮迅するも
徳川家の奸計に陥る

家臣団

福島正頼

戦闘	内政	外交	謀略
B	C	C	C

福島家で唯一人の宿老。武勇に優れ、正則に次ぐ戦力を期待できる。鉄砲隊を所持。

可児才蔵

戦闘	内政	外交	謀略
A	E	E	E

数々の合戦で奮戦した豪勇の士。常に正則の側に置き、剣豪としての価値を発揮させよう。

浅井家

信長を追い詰めた武門の家 朝倉家との義に殉じる

どのシナリオでも百地三太夫の登用は絶対条件。シナリオ①なら松倉城に、それ以外なら伊賀上野城（日野城）にいる。ぜひ登用して、謀略家として活躍してもらおう。浅井家は百地さえ手に入れば石高の多い城から取っていくだけで、かなり楽に進められるはずだ。小谷城の強兵属性も嬉しい。

問題なのはシナリオ③。辺りを織田家に取り囲まれている。織田軍の動員力は四万以上ということを考えると、まさに危機的状況と言えるだろう。こちらが少しでも隙を見せれば、すぐに壊滅させられてしまう。このシナリオでは、とにかく城を空けないこと。最低でも五千以上は常に兵を置いておくことを心掛けよう。そして野戦を避け、不穏で城の士気を0にしてから攻めよう。当面の目標は岐阜城。岐阜城を奪った後は、兵がある程度貯まるのを待って観音寺城、清洲城に攻め込むようにしよう。そこまでくれば、こちらも織田家に対抗できるだけの軍が組織できるようになっているはず。上手くいけば岐阜城で兵を集めている間に、本能寺の変が起こる可能性もある。不倶戴天の敵である織田家を討ち、そのまま天下獲りを目指せ。

浅井長政

主家を追って雄飛

主家も同然の六角家を駆逐して北近江を制圧した浅井家の当主。織田信長に姉川の合戦で大敗した後も、広く諸国と同盟を結んで織田包囲網の一翼となり、織田家を苦しめて華々しく散った。

家譜

①久政（一五三九〜一五七三）
②長政（一五六一〜一六〇九）

友好国と敵対国

5	4	3	2	1
－	－	朝倉家 100 織田家 20 武田家 100	朝倉家 100	朝倉家 100

	6	5	4	3	2	1
城	1	－	－	1	1	1
武将	17	－	－	19	16	7
猛将	8	－	－	6	5	2
能吏	3	－	－	5	3	0
外交	0	－	－	3	0	0
謀将	3	－	－	3	2	1
石高	32	－	－	30	26.0	22.8
兵士	1.15	－	－	1	0.36	0.6
姫数	3	－	－	3	3	3

戦力データ

総合評価 C

浅井家史

近江守護京極家の家臣が独立して戦国大名となる。浅井久政の代には六角家の事実上の家臣となるが、その子、長政の代に再独立を果たし、六角家を駆逐する。

その後、織田信長と盟約を結ぶが後に対立、姉川の合戦で大敗するも最後まで頑強に抵抗した。滅亡はしたが徳川家の母系として血を残した。

浅井家家紋 三亀甲

織田政権の最初の死神 志破れ 愛姫を残して 小谷城に消ゆ

家臣団

海北綱親

戦闘	内政	外交	謀略
B	C	E	B

最初から身分が高く、非常に使い勝手がいい。戦場では総大将として使っていこう。

磯野員昌

戦闘	内政	外交	謀略
A	C	D	C

強兵属性を持つ小谷兵を与え、軍の先鋒を任せよう。勇猛な突撃は期待以上の効果だ。

関東を揺るがした名将 滝川一益の政権

滝川家

滝川家には謀略の使える人材がいない。シナリオ④なら日野城の百地三太夫、シナリオ⑤なら二条城の風魔小太郎を登用しよう。不穏を使った城攻めはこれからの戦略上、絶対に必要になってくる。

シナリオ④の場合、狙うのは明智家ではなく、北畠家だ。このシナリオの同盟関係はいまいち信用性に欠ける。安土城や佐和山城の石高は魅力的だが、多くの勢力に面しているので維持しづらい。その点清洲城ならば、徳川家と同盟を結んでいれば安泰。さらに柴田家との同盟も強化しつつ、神戸家の領土を狙おう。清洲城と岐阜城だけで石高は七十万石以上にのぼる。ここは必ず押さえたい。シナリオ⑤では武将が三人しかいない上に、みな凡庸。風魔小太郎は絶対に必要だ。さらに豊臣家と同盟を結び、小勢力を選んで侵攻しよう。とにかく最初のうちは野戦を避け、不穏で士気を0にした城だけを攻めるように。敵の軍が到着する前に落城に持ち込むのだ。

滝川家にとっての命綱は清洲城、岐阜城だ。豊富な石高を背景に大軍を組織し、東海から関東へと席捲しよう。三万程の兵力を揃えることができれば、天下は近い。

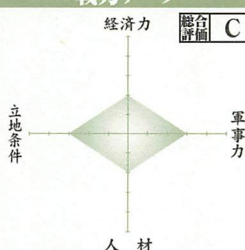
滝川一益

家譜

①一益（一五四一～一五八六）

②雄利（一五五九～一六一〇）

鉄甲船の指揮官

その多大な戦歴で特異なのは石山本願寺攻めでの鉄甲船の指揮である。本来、水軍の将ではなかったにも関わらず九鬼嘉隆と共に鉄甲船の指揮を命じられ、毛利水軍に大打撃を与えた。

友好国と敵対国

5	4	3	2	1
	明智家 0 柴田家 100 神戸家 100 北畠家 100	–	–	–

	6	5	4	3	2	1
城	–	1	3	–	–	–
武将	–	3	5	–	–	–
猛将	–	0	2	–	–	–
能吏	–	0	1	–	–	–
外交	–	0	0	–	–	–
謀将	–	0	1	–	–	–
石高	–	13.8	40.7	–	–	–
兵士	–	0.33	0.79	–	–	–
姫数	–	5	3	–	–	–

戦力データ

総合評価 C

経済力 / 軍事力 / 人材 / 立地条件

滝川家史

滝川一益は河内出身とも近江甲賀出身とも言われるが不祥。河内出身説によれば若くして鉄砲の修練を積んだことに、甲賀出身説によれば忍者の家柄ということになっている。

一益は織田信長に仕えて各地を転戦し功績が大きく、出世したが、織田信長横死後の勢力争いで豊臣秀吉に敗れ失意のうちに死去、家も絶えてしまった。

滝川家家紋
丸に竪木瓜

関東征討の任は名将、滝川一益
北条家と戦うも本能寺の変後
衰退の憂き目に

家臣団

滝川忠征

戦闘	内政	外交	謀略
C	B	C	D

武辺者の多い滝川家中で内政Bは立派。内政力を必要とする局面には彼の力を借りよう。

九鬼嘉隆

戦闘	内政	外交	謀略
B	C	E	C

鉄甲船を建造したことでも有名な水軍の将。戦闘が高いだけでなく、鉄砲隊でもある。

丹羽家

柴田家の領土を受け持った丹羽長秀の興した地

丹羽長秀

好機を逸した名将

丹羽長秀は織田信長の家臣団でも重鎮の一人であった。本能寺の変の直後、最も早く弔い合戦を挑める地点にいて天下も狙えたと言われるが、少々兵力や迅速さなどが足りなかった。

家譜

①長秀（一五五一〜一五八五）
②長重（一五八七〜一六三七）

まず、シナリオ④の場合は始まったらすぐに、長宗我部家との同盟を締結させること。さらに日野城にいる百地三太夫を登用し、謀略で雑賀衆を滅亡させよう。ここで武将の補充を行わなければ丹羽家に未来はない。雑賀孫市を見つけたら追いかけてでも登用すること。その後は進軍ルートを清洲城、岐阜城に定め、辺りの状況を見ながら攻め進むのがいいだろう。丹羽家は多方面の敵を相手にしなければならないので、できるだけ小勢力を倒しながら進めていくのが理想的だ。当主の丹羽長秀の寿命にも注意を払い、配下には姫を与えておくこと。

シナリオ⑤は、さらに苦しい状況が丹羽家を待っている。武将の質はさらに下がり、隣国も大国ばかりだ。豊臣家、前田家は今の丹羽家では相手にならない。豊臣家、前田家とは同盟を結び、織田家との同盟を破棄。郡上八幡城に攻め込もう。開始直後、二条城には風魔小太郎がいる。彼を登用しておけば、多少は楽に事を運べる。後は何とか岐阜城、清洲城を制圧してしまえば、石高も百万石を突破する。苦しい戦いになるだろうが、これ以外に丹羽家の命脈を保つ方法はない。

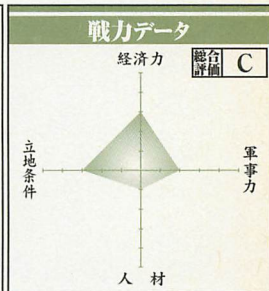
友好国と敵対国

5	4	3	2	1
織田家 100	明智家 0 羽柴家 100 池田家 100 蒲生家 100	－	－	－

	1	2	3	4	5	6
城	－	－	－	2	2	－
武将	－	－	－	7	9	－
猛将	－	－	－	2	0	－
能吏	－	－	－	1	0	－
外交	－	－	－	1	2	－
謀将	－	－	－	1	0	－
石高	－	－	－	41.7	30	－
兵士	－	－	－	0.48	0.56	－
姫数	－	－	－	3	3	－

戦力データ

総合評価 C

経済力 / 軍事力 / 人材 / 立地条件

丹羽家史

丹羽家は尾張守護斯波家の重臣だったが、織田信秀の勢力伸長により臣従。織田信長に仕えた丹羽長秀の代に主家と共に雄飛した。

主家没落後は豊臣秀吉に仕えるが、長秀の子、長重は巧妙に所領を減らされ、関ヶ原の合戦でも西軍に付いてしまい所領没収となる。だが、子の光重は大名に復帰して明治まで存続した。

丹羽家家紋 違棒

四国平定の任は仁将、丹羽長秀
本能寺の変より豊臣政権を支え
その功績第一等

家臣団

上田重安

戦闘	内政	外交	謀略
D	E	B	E

同盟の維持が課題になる場面で頼りになる武将。家中随一の外交手腕で丹羽家を守り切れ。

蜂屋頼隆

戦闘	内政	外交	謀略
B	D	E	E

総じて身分が低い家臣の多い丹羽家の中で、「戦闘B・重臣」と非常にありがたい存在。

その祖は梟雄、佐々木道誉
足利家のために忠節を尽くす

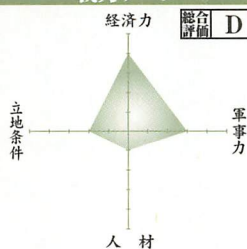
六角家

六角義賢

家譜
①義賢（一五三七〜一五九八）

天下まで王手の名門

六角義賢は上洛（京都入り）して徳政令を出すなど、一時は京の実権を握っていた。しかし、総合的な国力不足は否めず、天下を手中に治めきれないうちに次々と攻められついには消えていった。

経済力に恵まれた六角家だが、人材があまりに少なく兵力も弱いので、強敵に囲まれた環境ではかなり心細い。有能な浪人を素早く登用することが肝心だ。特に謀略に長けた人材は、野戦での戦果が期待できない六角家には不可欠。徴兵も、豊富な石高を使って何度も繰り返し、最低一万五千程の兵力を集めるように心がけたい。不穏工作のできる人材を得られないシナリオ①は特に苦しいが、幸い将軍家、北畠家とは同盟関係にあるので、さらに朝倉家とも同盟を固めれば、まずは安心して自国の強化に務められるだろう。四年後に観音寺城に石川五右衛門が登場するまで辛抱の一手だ。シナリオ②も基本的な状況は変わらないが、序盤で百地三太夫を獲得できれば西側への侵攻も早い段階で行うことができ、楽になるはず。シナリオ⑥では周辺勢力がさらに脅威となるので、他国に人を派遣してでも有能な人材をかき集めよう。日野城の百地三太夫、二条城の以心崇伝などがお勧めだ。強大な豊臣家、浅井家、朝倉家とは同盟を結んだ上で、手始めに不穏戦術を駆使して北畠家を倒せば畿内での状況は明るくなり、天下への道も具体的に見えてくるはずだ。

友好国と敵対国

5	4	3	2	1
–	–	–	将軍家 100 北畠家 100	将軍家 100 北畠家 100

	6	5	4	3	2	1
城	1	–	–	–	2	2
武将	8	–	–	–	9	6
猛将	1	–	–	–	2	1
能吏	3	–	–	–	2	2
外交	0	–	–	–	1	0
謀将	1	–	–	–	0	0
石高	32	–	–	–	42.0	37.5
兵士	1.15	–	–	–	0.70	1.08
姫数	4	–	–	–	3	3

戦力データ

総合評価 D

六角家史

近江源氏佐々木家の嫡流。戦国時代の六角家では、足利将軍家を助けて転戦した定頼、義賢父子が有名。
義賢は上洛して一時は京の実権を握るなどしたが、三好家、浅井家、織田家などに次々に攻め込まれて弱体化。最後は織田信長包囲網の一翼として活躍するが天運なく、敗走。再起を図るも病死して滅亡した。

六角家家紋 鶴丸

婆娑羅大名佐々木道誉の裔
足利を助け織田家と戦うも武運拙く滅亡

家臣団

石川五右衛門

戦闘	内政	外交	謀略
A	D	D	B

シナリオの①⑥に登場。百地には劣るが謀略の達人と言える。常に敵城に潜り込ませよう。

百地三太夫

戦闘	内政	外交	謀略
B	C	D	A

シナリオ②⑥における六角家躍進の最重要人材。高い謀略能力は敵国攻めには不可欠だ。

応仁の乱に衰退した足利の末裔 信長を相手に最後の輝きを放つ

[足利家] 将軍家

将軍義昭

足利最後の将軍

足利義昭は織田信長に奉じられて十五代将軍となった。後に織田信長と敵対、外交によって織田家包囲網を作ったが惜しくも失敗。晩年、天皇皇后の次に高い准三后の地位を得て隠居した。

家譜

①義晴（一五二七～一五五〇）
②義輝（一五五二～一六〇〇）
③義昭（一五五三～一五九七）

将軍家は豊富な石高を持つが、人材は極端に乏しい。そこで、どうやって有能な人物を集められるかが課題となる。特に百地三太夫の登用は足利幕府存亡の鍵を握る。

シナリオ①は、兵力も人材も少なく、厳しい状況だ。この状況を打開するために浅井家、朝倉家と同盟を結ぼう。こうして安全を確保しつつ一万五千の兵を集めれば、松永家を倒すことが可能。できれば松永久秀を捕虜にし、謀略要員として活用したい。

シナリオ②では、切支丹になりさえすれば鉄砲隊を編制できるようになる。しかし、時期が早すぎると同盟が次々と破られてしまい窮地に陥ることだろう。ここはまず、自国・他国の浪人を登用するのが先決だ。特に伊賀上野城の百地三太夫を、外交に長けた足利義昭を使って真っ先に捕まえよう。兵力の少ない将軍家にとって彼の謀略能力は必須だが、遅れると六角家に先を越されるので注意。

シナリオ③では城が一つしかないが、代わりに始めからなかなかの人材が揃っており、不穏工作を駆使すれば大国の織田家とも十分に渡り合える。かつての権勢を取り戻せる日も近づいていくはずだ。

戦力データ

総合評価　D

経済力 / 軍事力 / 人材 / 立地条件

	1	2	3	4	5	6
城	2	2	1	－	－	2
武将	9	12	6	－	－	22
猛将	0	1	0	－	－	1
能吏	1	1	1	－	－	1
外交	0	4	2	－	－	5
謀将	1	1	2	－	－	1
石高	30.5	30.0	38	－	－	36
兵士	0.54	0.40	0.97	－	－	1.02
姫数	4	4	5	－	－	5

友好国と敵対国

1	2	3	4	5
上杉家 100	上杉家 100	織田家 5	－	－
今川家 100	今川家 100	上杉家 100		
六角家 100	六角家 100	三好家 100		
波多野家 100	波多野家 100	本願寺 100		
		雑賀衆 100		

将軍家史

南北朝の騒乱で最終的に勝ち残った源氏の頭領、足利尊氏が開いた室町幕府の将軍家。三代将軍義満の代に最盛期を迎え、皇位簒奪の寸前までいった。

その後は有力大名を抑えられず、名前ばかりの将軍家に落ちぶれる。だが、最後の将軍義昭は精力的な外交で織田信長と戦い、一説には本能寺の変の黒幕説もある程である。

将軍家家紋　二引両

外交能力で築く信長包囲網
志破れ、力尽き
足利政権に
壮絶な幕を引く

家臣団

京極高次

戦闘	内政	外交	謀略
C	C	B	D

こちらは外交に優れた部将。将軍家の命脈を保つために、同盟維持に全力で働かせたい。

細川晴元

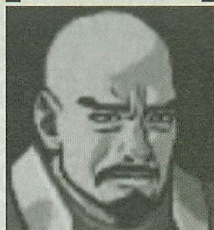
戦闘	内政	外交	謀略
C	B	C	B

将軍家の家老。人材の乏しい足利家中にあっての内政、謀略の高さはかなり貴重だ。

筒井家

巧みな外交で家を保った僧兵集団の統治者

筒井順慶

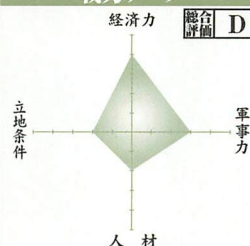
家譜

①順慶（一五六五～一五八四）
②定次（一五七八～一六一五）

実利に生きた怪僧

僧兵集団の頭領であり、名目上は僧侶である。事実、晩年には興福寺衆徒筆頭の法印僧都にまで登っている。しかし、その行動は現実主義的で、僧侶らしさは微塵も感じられない戦国の人である。

シナリオ④の筒井家近辺の状況は、畿内に旧織田家系の中小大名が乱立し、群雄割拠の様相を見せている。この状況を打開するためには謀略を張り巡らせる必要があるため、日野城の百地三太夫を配下にしておこう。それと並行して一万二千を目標に徴兵を行い、蒲生家→丹羽家→雑賀衆の順に攻め込むと一大勢力を築けるだろう。また、切支丹に入信し、多聞山城で鉄砲隊を編制する手も悪くない。明智家、羽柴家、柴田家の覇権争いに背を向けて小大名領を切り取り、百万石の大名を目指せ。

シナリオ⑤は一転、状況が厳しくなる。広大な豊臣領の中に孤立しており、これに牙をむけば滅亡は必至だ。そこで、最初の一手は豊臣家との同盟だ。同時に他国の浪人確保を行い、人材の充実を図る。二条城の風魔小太郎、近衛前久が謀略、外交の要員として不可欠で、兵力は七、八千程を目安に集めたい。それから小国の多い東側を、豊臣家の領土を超えて攻め込み、飛び石的に領土を集める。そして、豊臣家が取りこぼした小城をかき集めていくのだ。こうして百万石程を集めて、隙を窺ってから豊臣家の大領土を一気に平らげていこう。

戦力データ

総合評価 D

	1	2	3	4	5	6
城	–	–	–	1	1	–
武将	–	–	–	6	4	–
猛将	–	–	–	3	0	–
能吏	–	–	–	0	2	–
外交	–	–	–	2	1	–
謀将	–	–	–	2	0	–
石高	–	–	–	38	9.5	–
兵士	–	–	–	0.38	0.28	–
姫数	–	–	–	4	5	–

友好国と敵対国

1	2	3	4	5
–	–	–	明智家 30	

筒井家史

筒井家は大和興福寺の僧兵の頭領の一族である。

有名なのは筒井順慶で、父の順昭がほぼ平定していた大和一国を松永久秀の侵略によって二度も失ったものの、二度とも巧みな外交手腕を駆使して奪い返している。

山崎の合戦では、恩のある明智光秀を見捨てる戦国武将らしさも見せている。

筒井家家紋
剣梅鉢

洞ヶ峠を決め込み盟友光秀を見殺す大和の怪僧
巧みな外交で家の存続を守る

家臣団

島 左近

戦闘	内政	外交	謀略
A	C	B	B

シナリオ④で重臣として登場。能力が総じて高く、さまざまな局面での活躍が期待できる。

柳生宗厳

戦闘	内政	外交	謀略
A	E	E	C

柳生新陰流の創始者として有名な剣豪。常に主君の側におき、身を守らせよう。

最も過激な一向宗門徒
戦国最強鉄砲隊集団

雑賀衆

石高、兵糧、兵数において豊かとは言えない雑賀衆だが、強兵属性があるのが頼もしい。少ない兵数でも多勢を倒せるので、効率よく戦うことが肝要だ。
シナリオ①では、まず三好家と同盟を組んでから松永家を倒す。城が二つあれば、片方の城を空き城にしておき、敵を誘い込んで野戦で撃滅していこう。
シナリオ②では、最初から鉄砲隊がいる。ここで伊賀上野城の百地三太夫を獲得できれば、不穏と強襲で畿内の豊かな城を手に入れることができる。
シナリオ③は将軍家、本願寺、三好家、一向宗、武田家と同盟が組まれており、狙うべき敵は織田領のみだ。まずは西端の伊丹城を落として知行を増やしたい。その後は、織田家と睨み合いながら、西の諸大名を倒して国力を増やすのが安全だ。
混乱した状況のシナリオ④では、最寄りの丹羽家を最初に攻めておきたい。堺城、洲本城を手に入れれば、周辺国もうかつに攻められなくなる。
シナリオ⑥では、真っ先に豊臣家と同盟を結び、百地三太夫などの有能な浪人をかき集めよう。強敵がぶつかり合う畿内を避け、四国方面に進出してみるのもいいだろう。

雑賀孫市

謎の鉄砲戦術家

紀伊の土豪、鈴木佐太夫の子とされるが謎である。雑賀衆を率いて各地を転戦し、織田信長らを大いに悩ませた。最後は、切腹させられた、水戸家の家老になったなど諸説あり、これも謎である。

家譜
①佐太夫（一五二九～一五九二）
②孫市（一五四〇～一五九八）

戦力データ

総合評価 C

経済力
軍事力
人材
立地条件

	1	2	3	4	5	6
城	1	1	1	1	−	1
武将	2	3	5	4	−	5
猛将	2	3	3	3	−	3
能吏	0	0	0	0	−	0
外交	0	0	0	0	−	0
謀将	1	1	1	1	−	1
石高	23.7	23.7	23.7	23.7	−	23.7
兵士	0.63	0.41	0.89	0.44	−	0.83
姫数	3	3	2	2	−	3

友好国と敵対国

1	2	3	4	5
	本願寺 100	織田家 0 一向宗 200 本願寺 200 武田家 150 将軍家 150 三好家 150		−

雑賀衆史

雑賀（鈴木）孫市を筆頭とする紀州の土豪連合。石山本願寺門徒の集団でもあり、土豪の集団としては珍しく結束が固かった。雑賀衆は鉄砲傭兵としての側面が強く、鉄砲戦術では織田信長をも凌いだ。が、結束は次第に弱まり、各地に四散。一部は朝鮮出兵に際して「降倭」となり、朝鮮軍の先鋒として日本軍と戦ったとも言う。

雑賀衆家紋
三つ足烏

鉄砲隊なら
織田か雑賀か
時流に逆らい
織田家と抗争
反骨の気概示す

家臣団

鈴木佐大夫

戦闘	内政	外交	謀略
B	C	C	C

戦闘面が優れた主君だが、武将数が少ないので、どんな局面でも積極的に使っていこう。

鈴木重朝

戦闘	内政	外交	謀略
B	C	E	C

雑賀孫市とツートップを組ませたい猛将。身分も宿老なので、大部隊を任せることができる。

松永家

奸計、謀略、暗殺、破壊
最も危険な男の勢力

家譜

①久秀（一五一〇〜一五七七）

邪知暴虐の謀将

あの織田信長をして天下の大悪人と言わしめた奸知の将である。しかし、茶道に造詣の深い文化人という側面も持ち、織田信長垂涎の名茶器、平蜘蛛釜もろともに爆死して悪漢の意地を示した。

シナリオ①の松永家は、使える人材が主君の久秀しかいない。その謀略能力を活かすためにも、まずは浪人の登用だ。自国の宝蔵院胤栄だけでなく、他国の人材も数多く集めたい。それから三好家との同盟を盤石にし、徴兵に専念しよう。最初の敵は二つの城を持つ六角家と将軍家。どちらも周辺国に攻められやすいので、片方の城が攻められた隙に進出だ。

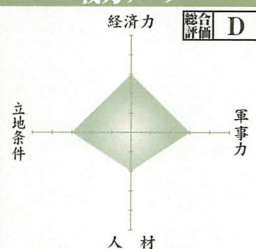
シナリオ②では武将の数は多いが、人材的にはまだ不安。観音寺城の蜂須賀正勝、伊賀上野城の百地三太夫などを素早く配下に組み入れよう。三好家、六角家と同盟を維持できれば、周囲を気にせず兵力増加に臨める。一万程の兵が揃ったら、北畠家や将軍家の領地を奪おう。やがて進出するであろう朝倉家、今川家と対抗するのに十分な知行を得るのだ。

シナリオ⑥は、多聞山城の石高もなかなか高く、かなりの人材も揃っている。ここに百地三太夫、朝山日乗らを加えて、豊臣家と同盟を結んでおけば安心だ。兵糧も豊富なので、二万近い兵も集められるだろう。蒲生家、北畠家と戦って八十万石以上手に入れたら、いよいよ浅井家や織田家などとの勝負だ。これを制すれば天下への道はぐっと近くなるだろ

友好国と敵対国

5	4	3	2	1
−	−	−	三好家 100	三好家 100

	6	5	4	3	2	1
城	1	−	−	−	1	1
武将	13	−	−	−	8	3
猛将	6	−	−	−	2	0
能吏	2	−	−	−	1	1
外交	2	−	−	−	0	0
謀将	5	−	−	−	2	1
石高	38	−	−	−	32.0	28.0
兵士	1.09	−	−	−	0.48	0.69
姫数	3	−	−	−	3	3

戦力データ

松永家史

摂津の土豪の出という説が有力だが不明。

松永家は久秀一代で大名にまで出世し、久秀の自爆という壮絶な最期によって絶えた家である。久秀は三好家に仕えて頭角を現し、主君や上位家臣三好三人衆らを倒し、足利将軍義輝をも殺害して雄飛した。織田信長に臣従するが、後に反逆し攻められて滅亡した。

松永家家紋　蔦

奸計、謀略の限りを尽くし大名にまで成り上がるも信貴山にて爆死

家臣団

松倉重信

戦闘	内政	外交	謀略
B	C	C	C

シナリオ②で唯一の、戦闘Bの部将。久秀の不穏工作の後は、彼に兵を与えて攻勢だ。

松永久通

戦闘	内政	外交	謀略
C	C	C	B

シナリオ②に登場する久秀の嫡男。平均的な武将だが、謀略の高さは父ゆずりか。

本願寺

一向宗の総本山　理想の仏国土を目指す

本願寺顕如

石山本願寺の怪僧

全国からの寄進と年貢による膨大な経済力を背景に織田信長と長年抗争した。だが、朝廷の斡旋で和議を結び、徹底抗戦を唱える嫡子、教如を義絶して退去。この義絶が本願寺分裂の原因となる。

家譜

①顕如（一五五九〜一五九二）

本願寺は人材、石高共に恵まれている。兵数が揃えば、大国と隣り合わせの状況も怖くはない。

シナリオ②では、二条城の朝山日乗、伊賀上野城の百地三太夫などを登用して、さらに人材の充実を図ろう。三好家と同盟を結べば、自国の強化に専念できる。同盟を破られても交流は保っておいた方がいい。一万の兵が集まったら、松永家、将軍家と攻め込んで、領土を広げよう。城を三つ持ったら一気に攻勢だ。本願寺顕如と百地を同時に別の国で不穏工作に当て、二国を同時に侵攻することも可能だ。

シナリオ③は、織田家の存在が脅威。兵数は八万近くあり、不穏工作も効きにくい。これに対抗するには、織田家の周辺国を侵攻し続け、織田領を囲い込むという手がある。まず、毛利家と同盟し、周辺国から浪人を可能な限り多く登用する。それから豊富な石高を後ろ盾として徴兵し続け、大軍を形成しよう。兵が一万を越えたら、まずは伊丹城を落とし、赤松家、波多野家、一色家に侵攻して石高を百万石に増加させるのだ。朝倉家まで倒せれば、いよいよ信長打倒が具体的となる。中部・畿内を本願寺領で占め、天下獲得のための盤石の体制を築こう。

戦力データ

総合評価　C

経済力
軍事力
人材
立地条件

	1	2	3	4	5	6
城	－	1	1	－	－	－
武将	－	4	6	－	－	－
猛将	－	3	5	－	－	－
能吏	－	1	1	－	－	－
外交	－	2	3	－	－	－
謀将	－	2	2	－	－	－
石高	－	32.0	32	－	－	－
兵士	－	0.41	1.12	－	－	－
姫数	－	2	2	－	－	－

友好国と敵対国

1	2	3	4	5
－	一向宗 100 願証寺 100 将軍家 100 雑賀衆 100	織田家 0 一向宗 200 雑賀衆 200 武田家 150 将軍家 150 三好家 150	－	－

本願寺史

本願寺家紋　下り藤

南無阿弥陀仏の六字を唱え仏敵信長に徹底抗戦した大坂の宗教国家

本願寺は浄土真宗の開祖親鸞の子孫が代々血統によって継いできた法主の寺である。八代目蓮如の代から教勢を拡大し、畿内と北陸に勢力を張った。

畿内では十代目証如が事実上の城である大坂石山本願寺に本拠を移してから威勢を張り、雑賀衆とも組んで十一代目顕如の代には織田信長らを相手に激しい抗争を展開した。

家臣団

下間頼総

戦闘	内政	外交	謀略
B	C	B	D

戦闘だけでなく、外交にも秀でている家老。うまく使えば幅広い働きを見せてくれる。

下間頼廉

戦闘	内政	外交	謀略
A	D	D	B

家老。強兵を誇る本願寺の中でも一際優れた戦闘を持つ。戦線では常に活躍させたい。

明智家

悲劇の叛将が立てた政権 天下に桔梗の旗を翻す

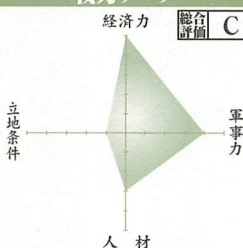
信長を謀殺した張本人であるだけに、シナリオ④の明智家の状況は厳しい。旧織田家重臣の大名たちに包囲されており、兵数が一万では心許ない。まずは豊富な石高に任せて、自国や周辺国の知行の高い浪人を数多く獲得しておこう。二条城の近衛前久、今川氏真、安土城の六角義治などの宿老だけでなく、謀略要員として日野城の百地三太夫も必要だ。丹波亀山城に潜伏している藤堂高虎も、早い段階で捕らえたい。それから三万程の兵を集めつつ、蒲生家、筒井家、丹羽家、池田家などに百地三太夫を放って、不穏工作を仕掛けよう。明智家は光秀以下、明智秀満、斉藤利三などの強者が揃っているので、その後の野戦は有利に展開できるはず。二条城に戦力の大半を集中させ、手薄になった城に敵を誘って迎撃する策がよい。兵力が五万を越えれば、もはや羽柴家、柴田家も脅威ではない。シナリオ⑥は、石高、兵糧は豊かとはいえないが、戦闘の人材はなかなかだし、浪人も強者揃いだ。まずは豊臣家と同盟を結んで、一万五千程の強兵の軍団を作り、他国へ攻め込もう。石高を八十万石近くに増やせれば、強豪との覇権争いも互角以上に展開できよう。

明智光秀

民衆思いの名将

相手が貧農であっても礼儀正しかったという礼節の将。山崎の合戦では、町を焼かないようにという朝廷からの要請に従って、あえて不利な地点で戦ったために惜敗したという説もある。

家譜

①光秀（一五四四〜一五八二）

友好国と敵対国

5	4	3	2	1
−	筒井家 80 羽柴家 20 長宗我部家 100 蒲生家 30 柴田家 30 滝川家 40 神戸家 40	−	−	−

	6	5	4	3	2	1
城	1	−	5	−	−	−
武将	9	−	14	−	−	−
猛将	5	−	7	−	−	−
能吏	1	−	1	−	−	−
外交	1	−	2	−	−	−
謀将	0	−	0	−	−	−
石高	25.4	−	128.4	−	−	−
兵士	0.94	−	1.26	−	−	−
姫数	3	−	2	−	−	−

戦力データ

明智家史

美濃源氏の名門土岐家の出身とされるが不祥。ただ、名門の出でなければ登用されなかった足利将軍家で重用されていたのは確かだ。足利将軍家と織田家の両方に仕える形で京都奉行などを務めた後、織田家随一の武将となるが、本能寺の変で反乱。織田信長らを討ち取って天下を取るも、山崎の合戦で敗れ、滅亡した。

明智家家紋
土岐桔梗

敵は本能寺にあり
魔王を滅ぼした
悩める名将
天下人となるも
山崎の地に滅ぶ

家臣団

斉藤利三

戦闘	内政	外交	謀略
B	D	E	D

明智家の重臣。家内では屈指の戦闘を誇る。可能な限りの知行を与えて働かせよう。

明智秀満

戦闘	内政	外交	謀略
B	C	D	D

明智家宿老にして光秀の娘婿。戦闘時には光秀の右腕として、大いに活躍させたい。

赤松家

室町大名有数の名門
家名再興の日は来るのか

常に大国と隣り合わせになる赤松家にとって、人材の少なさ、兵の弱さは致命的だ。まずは二十六万石の経済力を駆使して、自国増強に力を入れよう。

シナリオ①では、まず三好家と同盟を結ぶ。それから他国へ人を送り、浪人を数多く登用しよう。特に、内政に長けた二条城の今井宗久と、戦闘時に主君を守れる信貴山城の宝蔵院胤栄はぜひとも欲しい。姫路城内に潜入している宇喜多直家も必ず捕らえよう。それからは一五四三年八月の鉄砲伝来を目安に領内を発展させる。開墾、徴兵はもちろん、積極的に商業にも力を入れ、町のレベルを4にまで上げ、鉄砲隊の編制を目指したい。収穫時以外の税率を微税にしておけば、発展は促進される。兵力が二万程になったら、波多野家、浦上家と攻め込もう。

シナリオ②以降も基本的な戦術は変わらないが、町のレベルを3にまで上げれば、後は切支丹大名となるだけで鉄砲製造が可能になる。伊賀上野城（日野城）の百地三太夫を登用すれば、不穏工作も使えるので、比較的早く他国を攻められるはずだ。とにかく焦らずに一つずつ敵国を倒していけたら、必ず日本中が赤松家の領土に変わっていくだろう。

赤松義祐

家譜

①晴政（一五二九〜一五六二）
②義祐（一五五一〜一五七六）

衰運に抗した生涯

没落したとはいえ、赤松家の嫡流という血筋の良さを誇った。早くから織田信長の盛運を認めるなど先見の明にも恵まれていたが、よしみを通じる時機を読み切れなかったため、かえって損をした。

友好国と敵対国

1	2	3	4	5
			－	－

	1	2	3	4	5	6
城	1	1	1	－	－	1
武将	7	11	11	－	－	14
猛将	0	0	1	－	－	1
能吏	1	1	2	－	－	1
外交	1	1	0	－	－	2
謀将	1	1	2	－	－	1
石高	26.2	26.2	26.9	－	－	26.9
兵士	0.49	0.36	0.68	－	－	0.98
姫数	4	4	4	－	－	3

戦力データ

総合評価 D

経済力 / 軍事力 / 人材 / 立地条件

赤松家史

赤松家は鎌倉時代から活躍した名門で、室町幕府の重鎮となった時期もある。しかし、戦国時代には衰退著しく赤松義祐の代には織田家と結んだが、時機尚早で逆に零落の元となった。

豊臣政権時代、義祐の子、則房の代に一時的に盛り返すが、関ヶ原の合戦で西軍に付いてしまい、則房は自刃を余儀なくされて滅亡した。

赤松家家紋
左三つ巴

猛将、赤松円心の末裔の家
復興を図って自滅した
落日の名門

家臣団

黒田官兵衛

戦闘	内政	外交	謀略
B	A	C	A

シナリオ③では重臣として登場する。驚異的な謀略を有する。赤松家の救世主的存在だ。

小寺政職

戦闘	内政	外交	謀略
C	C	B	C

高い外交を持った重臣。頻繁に他国へ移動させて、素早く人材の確保に専念させよう。

宇喜多家

父は妖魔、子は正義漢 二代で築いた備前の小覇王

宇喜多直家

家譜

①直家（一五四五〜一五八二）
②忠家（一五五〇〜一六〇三）
③秀家（一五八九〜一六五五）

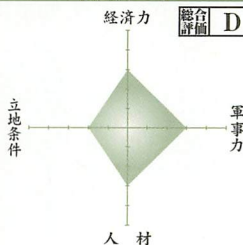
三備、美作の妖魔

謀略と暗殺で主君を倒して大名となった姦雄。機を見るに敏で、毛利家、織田家と巧みに結んで勢力を拡大した。暗殺と謀略を得意としており、戦わずして勝つことがほとんどであった。

シナリオ③は、謀略に長けた宇喜多直家が当主だ。戦闘面の人材も多く、積極的に攻め込める。毛利家や織田家と同盟したら、直家を周辺国に送り不穏工作に働かせよう。その間に徴兵だ。一万程集めたら、赤松家、波多野家を倒すのには十分。城を三つも持てれば、大国と十分に渡り合えるだろう。

シナリオ④の忠家は凡庸だ。家臣の戦闘力は高くても少々心許ない。まずは二条城の今井宗久、日野城の百地三太夫など、有能な人材を大勢配下に収めたい。毛利家、羽柴家とは同盟が結ばれているので、しばらくは焦らずに徴兵と商業の発展に力を入れよう。ただし、隣国の十河家は早めに倒しておき、長宗我部家の進出に備えるべきだ。

シナリオ⑤では、高い戦闘力を誇る秀家が当主。石高も高く、鉄砲隊もある。羽柴家、毛利家と同盟が結ばれているので、後は二条城の風魔小太郎を登用できれば、四国をどんどん制圧できるだろう。

シナリオ⑥では、まずは一万程の強兵軍団を作りあげよう。直家の不穏工作と秀家の戦闘力をうまくかみ合わせれば、周辺の小国は敵ではない。石高を豊富に奪い取って、居並ぶ大大名に勝負を挑もう。

友好国と敵対国

1	2	3	4	5
−	−	毛利家 100	羽柴家 100 毛利家 100	豊臣家 100 毛利家 100

	1	2	3	4	5	6
城	−	−	1	1	2	1
武将	−	−	15	13	6	18
猛将	−	−	4	5	4	7
能吏	−	−	4	3	0	4
外交	−	−	2	1	0	2
謀将	−	−	1	0	0	1
石高	−	−	19.2	20	37	24
兵士	−	−	0.65	0.39	0.64	0.83
姫数	−	−	3	3	3	3

戦力データ

総合評価 D

経済力 / 軍事力 / 人材 / 立地条件

宇喜多家史

備前の豪族の子孫。宇喜多直家は備前守護代浦上家の家臣であったが、浦上家を滅ぼして備前の実権を握った。最初は毛利家と、後には織田家と結んで備中、美作へと勢力を伸ばした。

直家の子、秀家は豊臣政権五大老の一人という政界の重鎮だったが、関ヶ原の合戦に敗れて島流しとなり、大名としての宇喜多家は滅亡した。

宇喜多家家紋
兒文字

暗殺、毒殺 主家簒奪 悪逆の限りを尽くして 備前の小覇王に

家臣団

明石全登

戦闘	内政	外交	謀略
B	D	C	C

熱心なキリシタン。強力な宇喜多軍勢を支える重要な家臣団の一人。常に前線に送りたい。

宇喜多秀家

戦闘	内政	外交	謀略
B	D	C	D

関ヶ原で西軍に属し、誰よりも勇敢に戦った若武者。福島正則の突撃をも跳ね返した人物。

尼子家

その滅亡後も毛利と戦った
中国三国志の一角

三つの城、三十万石を越える知行、戦闘力に優れた人材と、尼子家は好条件が揃っている大名だ。怖いのは、常に強敵が近くにいること。この状況下で勢力を拡大するためには、冷静な判断力が必要だ。

まずは大国との同盟が必須。三好家、毛利家、羽柴（豊臣）家とは親戚になるだけでなく、人を送って交流を深めておきたい。すでに嫌悪されている場合は、こちらから攻め込まないことだけを心がけよう。その後は、徴兵で一万五千程の兵力を集めて、宇喜多家、赤松家、山名家、波多野家などの中小大名を倒し、一気に知行を拡大したい。理想的な戦い方としては、一つの城に千程の兵を残し、隣の城に全ての武将と傭兵を移動させる。空になった城を狙って敵軍が攻めてきたら、その兵数の一・二倍程の兵数で出陣し、野戦を仕掛けるのだ。勝利したら、相手の国に残った兵数を調べ、その五倍以上の兵力を動員して、一気に強襲で落城させよう。

領土拡大の際には、敵国から挟み撃ちされないよう、海沿いの城を狙うのがお勧めだ。百万石以上の知行を得られれば、大国も恐るるに足らずだ。天下の晴れ舞台に躍り出て、尼子の名を知らしめよう。

尼子晴久

精鋭部隊を粛正

尼子家の全盛期は晴久の代。配下から宿敵大内家に鞍替えした毛利家を苦しめたが、横柄な振舞いの多かった精鋭新宮党を、毛利の策にはまり粛正して軍事力の低下を招き、衰退の原因を作った。

家譜

①晴久（一五三〇〜一五六〇）
②義久（一五五四〜一六一〇）

友好国と敵対国

5	4	3	2	1
–	–	–	毛利家 20	大内家 10

	1	2	3	4	5	6
城	3	3	–	–	–	3
武将	7	13	–	–	–	15
猛将	4	7	–	–	–	7
能吏	1	1	–	–	–	2
外交	0	0	–	–	–	0
謀将	0	0	–	–	–	1
石高	31.1	35.7	–	–	–	35.5
兵士	0.98	0.72	–	–	–	1.11
姫数	3	3	–	–	–	3

戦力データ

総合評価　C

経済力　軍事力　人材　立地条件

尼子家史

尼子家は足利尊氏の有力武将として活躍した佐々木道誉の子孫である。出雲守護京極家に仕えていたが、京極家は近江守護も兼ねていたため尼子家が出雲守護代になった。

戦国時代には六ヵ国の太守にまでなるが、毛利元就の策略にはまり、徹底抗戦するも大名としては滅亡する。子孫は毛利家の家臣となった。

尼子家家紋
七つ割平四つ目結

毛利家の好敵手
精強を誇る
山陰の雄も
元就の謀計に
乱起こり家破る

家臣団

山中鹿之介

戦闘	内政	外交	謀略
B	E	E	B

武力、謀略に優れた、屈指の勇将。反面内政、外交力は皆無なので、常に戦時要員にしよう。

尼子誠久

戦闘	内政	外交	謀略
B	C	C	E

シナリオ①の途中で、元服して登場する。尼子家血縁の中でも、秀でた戦闘力を誇る。

大内家

室町大名有数の大国 その衰亡は波乱の果てに

広大な領土と豊富な兵糧を有する大内家だが、兵の弱さと人材の乏しさが泣き所。大軍団を作って他国を侵略し、有能な人材を奪い取ることが急務だ。

五十九万石という恵まれた石高を持つシナリオ①では、すでに三村家、毛利家と同盟が結ばれている。三好家とも同盟し、領土の東側を安全にして、全軍を九州に集中させよう。隣接する大友家、少弐家には強い武将が揃っているので、三万近い兵数を徴兵し、物量作戦で一気に叩こう。滅ぼしたらすぐに人材を登用する。大友家の戸次鑑連、少弐家の少弐冬尚、竜造寺胤栄などの豪傑はぜひ配下に収めたい。

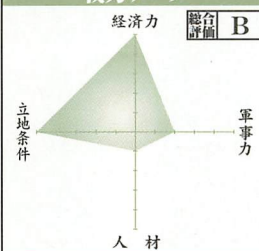
シナリオ⑥でも石高は四十一万石程あるが、人材の方はさらに乏しい。知行を振り分ける時は、使える武将に多く与えておこう。東の毛利家、尼子家とは同盟を結び、九州の人材を奪うことを目指したい。二万五千程の兵を集めたら、敵国を野戦に誘い込んで一気に滅ぼす。立花家の立花道雪、立花宗茂、黒田家の黒田官兵衛、黒田長政などを引き入れられれば、力と兵数を兼ね備えた軍団が形成できる。その武力でまずは西日本を平定したら、いよいよ東日本に攻め込み、日本制圧を図ろう。

大内義隆

中国の経済王

生まれながらにして中国地方七ヵ国の太守という恵まれた生まれ。若い頃は軍事にも意欲はあったが、後に貿易や工芸振興などの経済と文化以外には興味を失い、国の滅亡を招いてしまった。

家譜

①義隆（一五二三〜一五五一）

友好国と敵対国

5	4	3	2	1
－	－	－	－	毛利家 100 三村家 100 尼子家 10 少弐家 30 大友家 30

	6	5	4	3	2	1
城	4	－	－	－	－	6
武将	17	－	－	－	－	15
猛将	2	－	－	－	－	2
能吏	3	－	－	－	－	3
外交	1	－	－	－	－	1
謀将	2	－	－	－	－	3
石高	40.7	－	－	－	－	58.5
兵士	1.6	－	－	－	－	1.89
姫数	3	－	－	－	－	2

戦力データ

大内家史

七ヵ国を束ねた中国の盟主 毛利家の伸張と重臣の叛乱に衰退の道を歩む

百済王の子孫を称する。歴代、貿易で巨利を得つつ、全国を転戦。一時は足利幕府の実権を握るに至った。中央政界での影響力を失った後もむしろ経済的には栄え、義興の代には七ヵ国を領した。京から逃げてきた文化人により栄える。義興の子、義隆は工芸振興に功があったが、分家筆頭の陶晴賢に滅ぼされた。

大内家家紋
大内菱

家臣団

陶長房

戦闘	内政	外交	謀略
B	C	C	C

大内家の重臣。戦闘面で優れている。晴賢と共に知行を多く与えて、大軍を指揮させよう。

陶晴賢

戦闘	内政	外交	謀略
B	B	B	B

人材の少ない大内家の中で唯一の、全てにおいて有能な武将。序盤は大いに頼りたい。

三好家

細川家に取って代わる畿内第一の実力者

シナリオ①では七十五万石を誇る三好家だが、周囲は敵国に囲まれている。城の数の割に武将数も少なく安心はできない。まず松永家との同盟を盤石にしておいて、浪人を登用して武将を増やし、徴兵を重ねよう。兵力は大名が密集する畿内に面した城に集中させるべきだが、どの城にも一、二千の傭兵は控えさせないと危ない。三好長慶による不穏戦術はかなり有効なので、赤松家、浦上家辺りを素早く落とし、安全な領土を増やせ。シナリオ②は石高は減ったが、三好三人衆など有能な武将が増えた。戦闘要員に多くの知行を振り分けて強兵を増やそう。毛利家、本願寺、雑賀衆と同盟しておけば、隣接する敵対国の打倒に専念できる。シナリオ③ではさらに石高が下がる上に、謀略要員もいない。日野城の百地三太夫は必ず獲得しよう。徴兵で一万五千の軍隊を作ったら、同盟国の間を縫うように赤松家、宇喜多家などを攻め滅ぼすのだ。シナリオ⑥は、優秀な人材に見合う知行があまりにも乏しい。豊臣家、毛利家と同盟をしたら、長慶の不穏戦術をもって敵国を手早く侵略しよう。小大名を吸収して自国を増強することこそ、三好家が大大名となる一番の近道だ。

三好長慶

最後の室町大名

足利幕府の名門として阿波を本国とし、先祖代々の功績を見事に活かして八ヵ国の太守という大大名となった。戦国大名に脱皮する寸前までいったが、室町政権の枠組みを壊すには至らなかった。

家譜

①長慶（一五三八〜一五六四）
②長治（一五六九〜一六一二）

友好国と敵対国

1	2	3	4	5
松永家 100	松永家 100	将軍家 100 本願寺 100 雑賀衆 100	–	–

	1	2	3	4	5	6
城	6	5	4	–	–	3
武将	11	17	12	–	–	17
猛将	2	7	4	–	–	5
能吏	2	2	1	–	–	3
外交	2	2	1	–	–	3
謀将	1	1	0	–	–	2
石高	75.8	56.6	28.1	–	–	20
兵士	1.97	1.16	1.31	–	–	1.01
姫数	2	3	3	–	–	3

戦力データ

総合評価 B

経済力
軍事力
人材
立地条件

三好家史

清和源氏の庶流として阿波屈指の国人となり、四国と畿内に勢力を張った。しばしば中央政権の権力と絡むが、逆に攻められて窮地に陥ることも少なくなかった。長慶の代に全盛期を迎え、足利将軍家の地位をも左右したが、家臣の三好三人衆と松永久秀の台頭により次代には没落の一途をたどった。

三好家家紋
釘抜

応仁の乱、東軍細川家を倒して戦国に羽ばたくも奸人の台頭許し落日を迎える

家臣団

十河一存

戦闘	内政	外交	謀略
A	D	D	D

「鬼十河」の異名を持つ猛将。三好軍中最強の力を持つ。常に前線に置きたい戦力だ。

岩成友通

戦闘	内政	外交	謀略
B	D	E	D

いわゆる三好三人衆の一人。その武勇は三好家にとってなくてはならない存在と言える。

黒田家

神算鬼謀の軍師が築いた北九州の小大名

黒田官兵衛

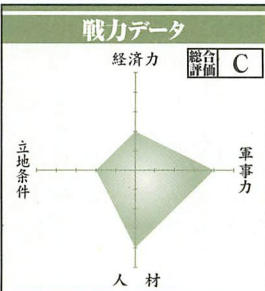
家譜

①官兵衛（一五六二〜一六〇四）

神謀鬼算の軍師

黒田官兵衛はよりにもよって主君の小寺政職に裏切られて荒木村重に幽閉され身体の自由を失う。しかし、幽閉に耐えたことが武名の代わりとなり、知略の才だけでも十分に世に恐れられた。

シナリオ⑤の黒田家は戦慣れした武将が揃っており、軍事力的には問題ない。しかし、周辺国との関係は険悪で、外交をおろそかにしていると、いきなり毛利家に攻め滅ぼされる可能性がある。自国で最も外交に優れた黒田長政を交流させて同盟しよう。豊臣家も先々に西進してくることを見越して同盟しておいた方がよい。東側の脅威を抑えてからは、九州制覇を目標に自国増強に臨もう。謀略に長けた黒田官兵衛は敵国の不穏工作に当て、士気を下げる間に徴兵。黒田家の戦力ならば、敵国と同数の兵力を持てば野戦には勝てる。ただし、出陣した隙に別の国に手薄になった自城を攻められないよう、どの城にも必ず二千程の兵は残しておきたい。北九州諸国を攻め滅ぼしたら、九州統一を賭けた島津家との一騎打ちとなる。これに勝てば石高は二百万石以上に膨れあがる。本州に攻めのぼるには十分だろう。

シナリオ⑥は、石高が十四万石とやや少ない。兵を揃えたら早急に他国へ攻め込んで知行を増やすことが必要だ。立花家、竜造寺家には戦闘に長けた武将が多いので、ぜひ仕官させよう。強兵の大群を編制できれば、本州の強豪らも物の数ではないだろう。

友好国と敵対国

5	4	3	2	1
豊臣家 100 加藤家 100	–	–	–	–

	6	5	4	3	2	1
城	1	2	–	–	–	–
武将	11	8	–	–	–	–
猛将	6	6	–	–	–	–
能吏	5	4	–	–	–	–
外交	1	1	–	–	–	–
謀将	3	3	–	–	–	–
石高	14	20.3	–	–	–	–
兵士	0.61	0.6	–	–	–	–
姫数	3	4	–	–	–	–

戦力データ

総合評価 C

黒田家史

近江源氏佐々木氏の子孫という名門だが、播磨に移住した頃は零落しきっていた。目薬の製造販売と低利金融で成功して一大勢力となり、豪族小寺家の筆頭家老にまでなる。

そして、官兵衛という天才を輩出して大名に成り上がった。彼の知謀は豊臣秀吉に警戒され早くに隠居したが、子の長政も将器であり筑前国主となった。

黒田家家紋　黒餅

太閤秀吉を最も警戒させた知謀の将の家　関ケ原に勇躍し大藩を授かる

家臣団

黒田長政

戦闘	内政	外交	謀略
B	B	A	B

全ての面で使える武将だが、特に外交面では貴重な人材。大国との交流に当てられる。

後藤又兵衛

戦闘	内政	外交	謀略
A	E	D	E

黒田家の重臣。家内随一の戦闘を誇り、前線で活躍する。史実では後に黒田家を出奔する。

竜造寺家

北九州の一角を占める火の国の強者

竜造寺家は主君の隆信以下、かなりの強者が揃っている。石高も豊富なので、他国への侵攻も比較的容易だろう。ただし、さらなる強国が付近に存在するので、同盟は必須だ。後は、隣接する中小大名を倒して国力を高めていこう。竜造寺長信の不穏戦術は有効だが、捕らえられる可能性も高い。その場合に備え、あらかじめ敵国の倍以上の兵数は募っておきたい。野戦と強襲で一気に城を落とすのだ。

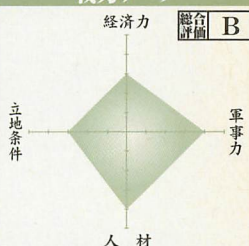
シナリオ②③での強国は大友家。友好度が低い場合も、鍋島直茂などを派遣して交流させ、必ず同盟を結んでおきたい。そして、最初に相良家を倒し知行を増やして、二万以上の兵数を集めて島津家の台頭に備えておこう。シナリオ④では石高が六十五万石にものぼり、大友家を凌いでいる。よって同盟すべきは毛利家だ。早いうちに立花家、阿蘇家などの小国を滅ぼして領土を広げ、毛利家、島津家との覇権争いを有利に展開しよう。岡城を落とせば騎馬隊が編成できる。シナリオ⑥は強豪がひしめく群雄割拠の状況だが、取る戦略は変わらない。九州全土を治められれば、日本西端から始まる天下への道のりも、そう長いものではなくなっているはずだ。

竜造寺隆信

家譜

①隆信（一五四五〜一五八四）

晩節を汚した東肥の鷹

幼くして出家していたが還俗して家督を継ぐ。「東肥の鷹」、「肥前の熊」などと渾名され、果敢な武将として五ヵ国を切り従えたが、晩年は酒に溺れ馬にも乗れぬ程肥満、島津軍に惨敗して戦死した。

友好国と敵対国

5	4	3	2	1
－	相良家 100	毛利家 100	毛利家 100	－

	6	5	4	3	2	1
城	3	－	4	2	2	－
武将	26	－	19	14	13	－
猛将	11	－	7	7	6	－
能吏	2	－	1	1	1	－
外交	7	－	4	3	3	－
謀将	4	－	3	3	3	－
石高	43.2	－	65.3	32.4	27.2	－
兵士	1.5	－	1.12	1.21	0.57	－
姫数	2	－	3	3	3	－

戦力データ

総合評価 B

経済力 軍事力 人材 立地条件

竜造寺家史

少弐家武将から五ヵ国の太守へ島津家と戦うも沖田畷に敗れ滅亡の道を歩む

竜造寺家家紋　十二日足

藤原秀郷の子孫とも言うが定かではない。少弐家の有力家臣だったが反旗を翻し、討伐されて一時は滅亡寸前までいった。その後、再起して今度は少弐家を倒し、隆信の代には五ヵ国を支配する太守となった。

しかし、隆信が島津家との決戦で敗死してからは実権が鍋島家に移り、家督を継ぐ者も絶えて滅亡した。

家臣団

百武賢兼

戦闘	内政	外交	謀略
A	D	C	C

竜造寺家四天王の一人。主君に匹敵する戦闘を有する重臣。他国侵略に起用したい。

鍋島直茂

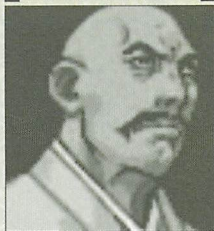
戦闘	内政	外交	謀略
B	A	B	B

全ての面において優れ、鉄砲隊まで持つ貴重な人材だ。どんな局面にでも使え頼もしい。

大友家

九州最大の版図を誇った
切支丹大名最強の国

大友宗麟

家譜
①義鑑（一五二八～一五四九）
②宗麟（一五四六～一五八七）

国崩しで頑強に抵抗

破天荒な性格で廃嫡寸前だったが、家督争いに勝利して六ヵ国の太守にして九州探題にまで出世する。信仰と女色に溺れ衰運を招くが、国崩し（大筒）で寄せ手の島津軍を散々に悩ませた。

シナリオ①の大友家にとって、倍以上の石高を持つ隣接国の大内家は何よりも怖い。人材の点でも、戦闘Sを誇る戸次鑑連以外には、優れた武将がほとんどいないので、生き延びるためには少弐家と同盟を組み、ある程度の兵数を募ってから、阿蘇家、伊東家と破盟してその知行を奪い取るしか手はないだろう。南九州で国力を高めてから大内家に勝負を挑もう。

シナリオ②以降は、当主の大友宗麟の外交が貴重になる。険悪な関係にある毛利家に真っ先に送って交流させれば、同盟も可能になる。領土の東側の安全を確保しつつ、豊富な石高を利用して傭兵を募り、まずは、北九州の制圧を目指そう。竜造寺家、立花家、相良家などは、相手の一・五倍の兵数さえ揃えれば、自国内に誘い込んでの野戦と、大軍での城攻めとで勝てる。滅ぼした国の有能な人材は逃さず登用し、軍団の武力強化を図ろう。南九州で勢力を広げる島津家と争うまでには、百万石の石高と、五万人近くの兵を揃えておきたい。九州の完全制圧を成し遂げたら、次はいよいよ本州の大名たちの領土を食らい尽くすのだ。

友好国と敵対国

1	2	3	4	5
阿蘇家 100	阿蘇家 100	伊東家 100	立花家 150	–
伊東家 100	伊東家 100		阿蘇家 100	
大内家 30				

	1	2	3	4	5	6
城	2	6	7	4	–	2
武将	14	28	35	16	–	29
猛将	2	5	8	5	–	5
能吏	3	7	8	3	–	7
外交	2	5	6	1	–	4
謀将	4	6	7	1	–	4
石高	26.2	75.2	96.1	54.6	–	34.2
兵士	0.71	1.51	2.54	1.09	–	1.11
姫数	3	2	2	3	–	3

戦力データ

総合評価 B

経済力
軍事力
人材
立地条件

大友家史

源頼朝の側近として活躍した公卿出身の大友能直を祖とする北九州の名門。
陰惨な家督争いの勝者が、切支丹大名として名高い宗麟だ。ローマへ少年使節団を派遣したことでも有名である。また、毛利元就相手に互角の謀略戦を演じた。晩年没落し、子の義統の代で滅亡するが、子孫は江戸幕府の旗本に取り立てられた。

大友家家紋　杏葉

豪勇と知謀を兼ね備えた戦国最大の切支丹大名九州三強の一角

家臣団

戸次鑑連

戦闘	内政	外交	謀略
S	C	D	B

すなわち立花道雪本人。極めて高い戦闘を持ち、兵力の弱い大友家にとって頼もしい存在。

角隈石宗

戦闘	内政	外交	謀略
C	B	B	B

人材の弱い大友家の中では、むしろ使える貴重な人材。主に内政、外交面で働かせたい。

鍋島家

竜造寺家を乗っ取った幕末四強の一つ佐賀藩の祖

鍋島家が登場するシナリオ⑤の九州は、島津家をはじめとして、大小の大名による小競り合いが繰り返される状況だ。その中での鍋島家は、三十八万石の知行と、鉄砲隊を含めた強い軍団を持つ、なかなかの裕福な大名と言えるだろう。だが、乱戦の続く九州で勝ち抜くには、まだまだ人材が足りない。

まずは島津家、毛利家と同盟を結んでおく。破盟を防ぐために、有馬晴信など、外交に長けた家臣を送り込むことも忘れてはならない。その上で、一万五千程の兵を集め、手始めに立花家を大群で押しつぶそう。倒したら、立花宗茂、吉弘統幸などの戦巧者を登用し、自軍の戦力を増強させるのだ。後は、一つの城をわざと手薄にしておいて、やって来る敵を一つずつ撃破していけばよい。できれば早いうちに黒田領まで押し進み、黒田官兵衛、母里太兵衛などの有能な武将を配下に収めておきたい。また、畿内方面の戦況次第では、思わぬ武将が九州に流れ込んでくることもあるので、浪人は見逃さずに調べておこう。島津家を凌駕する国力を持てたら、天下奪取への布石は盤石になったと言っても過言ではないだろう。

鍋島直茂

家譜

①直茂（一五五四〜一六一八）

救世主にして簒奪者

竜造寺家の危機を、何度も武力と外交で救った救世主。しかし、その裏では着々と野望実現のための布石を敷いておき、最後には事実上竜造寺家の家督を奪う形で独立した大名となった。

友好国と敵対国

5	4	3	2	1
	–	–	–	–

	6	5	4	3	2	1
城	–	2	–	–	–	–
武将	–	8	–	–	–	–
猛将	–	3	–	–	–	–
能吏	–	1	–	–	–	–
外交	–	3	–	–	–	–
謀将	–	1	–	–	–	–
石高	–	38	–	–	–	–
兵士	–	0.57	–	–	–	–
姫数	–	3	–	–	–	–

戦力データ

鍋島家史

鍋島家は少弐一族の出身と称するが定かではない。

独立した土豪だったが竜造寺家の伸長によって家臣団に組み込まれた。

しかし、直茂の代に竜造寺隆信が戦死すると家中の実権を握り、さらに中央政界と巧みに結んで地位を固めて独立し、大名になった。この簒奪劇を背景に怪談鍋島の猫騒動が生まれた。

鍋島家家紋　杏葉

無血の下剋上で竜造寺を簒奪した知将の家

幕末薩長土肥

肥は鍋島の末裔

家臣団

竜造寺高房

戦闘	内政	外交	謀略
B	E	E	E

戦場以外では全く使い物にならない存在と言える。とにかく常に前線で暴れさせよう。

鍋島勝茂

戦闘	内政	外交	謀略
B	C	C	D

直茂の長男で、鍋島家の武力の一翼を担う存在。鉄砲隊を持つので、兵を多数与えよう。

立花家

名将を二人輩出した大友家の分家

シナリオ④での立花家は、主君の道雪が圧倒的な武力を誇るが、三人の家臣が頼りない。道雪の戦闘を頼りにして他国の人材、知行を奪い取ることを目指そう。初めに狙うのは、人材の豊富な竜造寺家だ。竜造寺隆信や鍋島直茂などを配下に組み入れ、戦力を高めよう。その後は点在する小国を食いつぶして知行を増やすのだ。毛利家、島津家とは同盟が必要だが、いずれは戦うことを心がけ、三万以上の兵を集めておきたい。なお道雪は途中で病死するので、家臣の一人に嫁を与えておき、滅亡を防ごう。

立花宗茂が主君のシナリオ⑤は、石高が周辺国に劣る厳しい状況。豊臣家、島津家と同盟を結んでおき、じっくり徴兵を重ねて機を窺おう。一万五千の兵が揃ったら石高が豊富な小早川家を落とし、兵が二万を越えたら、人材に秀でた鍋島家を倒そう。それから大国の間を縫って小国を攻め滅ぼし、手勢を五万以上に増やして、島津家との戦いに備えるのだ。

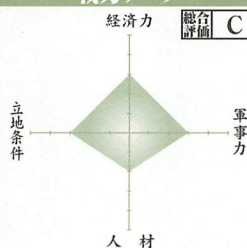
シナリオ⑥は、道雪・宗茂の二強が揃っており、最初の一年で可能な限り徴兵と開墾を行えば、力技でどんどん他国を攻められる。九州全土を制したら、最強の軍団を指揮して本州をも手中に治めよう。

立花宗茂

大友家の至宝

立花宗茂は立花道雪の養子。島津軍に立花城を攻められてよく守り、豊臣秀吉の九州平定の後、筑後柳川十三万石の領主となった。関ヶ原の合戦で西軍に付いて改易されるが実力で旧領を回復した。

家譜

①道雪（一五二九〜一五八五）
②宗茂（一五八三〜一六四二）

友好国と敵対国

5	4	3	2	1
	大友家 200	-	-	-

	6、	5	4	3	2	1
城	1	1	1	–	–	–
武将	9	6	4	–	–	–
猛将	3	3	1	–	–	–
能吏	1	1	0	–	–	–
外交	1	1	1	–	–	–
謀将	1	0	1	–	–	–
石高	24	17.5	22.5	–	–	–
兵士	0.88	0.37	0.4	–	–	–
姫数	3	4	4	–	–	–

戦力データ

立花家史

豊後大友家の支流。猛将高橋紹運の子、宗茂が養子に入って最盛期を迎えた。

宗茂は実父の紹運に匹敵する猛将で、島津の大軍を相手に奮戦して名を上げた。

関ヶ原の合戦で一時所領を失うが、旗本を経て大坂の陣に参戦、武功著しく旧領を回復した。島原の乱にも参陣して有馬城を攻略、子孫は明治まで存続した。

立花家家紋
祇園守

立花道雪
立花宗茂
二人の将帥を生み
九州の地に輝く

家臣団

高橋直次

戦闘	内政	外交	謀略
B	D	C	C

立花家の宿老。主君に次ぐ武力を誇り、鉄砲隊も持っている。立花家の中核を任せよう。

吉弘統幸

戦闘	内政	外交	謀略
B	D	E	C

立花家屈指の勇将。多くの戦果を上げさせて、大軍を率いられる身分にまで出世させたい。

加藤家

朝鮮大明を震撼させた勇士
豊臣政権の双璧の一家

加藤清正

家譜

①清正（一五七八〜一六一一）

豪将日本の関羽

朝鮮出兵の際の虎狩りで有名だが、これには虚構が混ざっている。しかし、勇猛果敢かつ忠誠心が厚く、しかも人情家という中国の豪将であり神として崇められる、関羽を彷彿とさせる豪傑である。

堅固な隈本（熊本）城を本城に持つ加藤家だが、強国が周囲を取り囲み、油断のできない状況下にある。あらかじめ大国と同盟を結び、なるべく早く小国を吸収して国力を高めることが、基本的な戦略だ。

シナリオ⑤では、島津家、鍋島家と同盟を結ぶ。念を入れて外交に長けた家臣を交流要員として派遣しておいた方がよい。徴兵は、全軍で一万ぐらいが目標。それから、小西家、早川家、太田家、高橋家などの小大名を、野戦と強襲で次々に叩きつぶすのだ。知行が余らないよう、浪人はなるべく多く登用しておこう。百万石近い領地を得られたら、四方八方から島津家を翻弄し、じわじわとその領地を奪う。

シナリオ⑥は、武将の数が十八人と多いが、なるべく主君の清正に多くの知行を振り分けておきたい。島津家、竜造寺家と同盟を結べたら、破盟されないうちに阿蘇家、伊東家、肝付家と攻め進んでいこう。謀略に長けた武将を二、三人送り込めば、不穏工作も可能になる。大友家の動きにも注意を払い、増やした領地を奪われないようにうまく牽制しよう。早いうちに九州の大国と肩を並べ、天下への挑戦権を巡る勝負に臨もう。

友好国と敵対国

5	4	3	2	1
	–	–	–	–

	6	5	4	3	2	1
城	2	2	–	–	–	–
武将	18	5	–	–	–	–
猛将	9	3	–	–	–	–
能吏	4	2	–	–	–	–
外交	4	1	–	–	–	–
媒将	3	1	–	–	–	–
石高	29	27.7	–	–	–	–
兵士	1.18	0.59	–	–	–	–
姫数	3	4	–	–	–	–

戦力データ

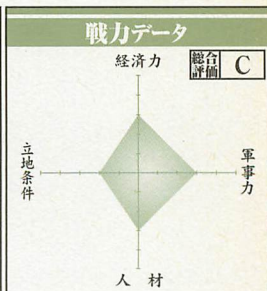
総合評価 C

経済力
軍事力
人材
立地条件

加藤家史

加藤清正が豊臣秀吉の親戚であることから取り立てられた。

清正は武勇で有名だが、内政に意を尽くし、また人情に厚い温厚な面も持っていた。朝鮮出兵の際に捕らえた朝鮮の二王子は、清正の死を知ると後を追って自殺してしまった程である。

清正の死後、豊臣家への忠誠心の高さを警戒した徳川家康によって改易されてしまった。

加藤家家紋
桔梗

李氏朝鮮
大明帝国を
震撼させた強豪
その運命は
豊臣家と共に

家臣団

森本儀太夫

戦闘	内政	外交	謀略
B	C	D	D

武将の少ないシナリオ⑤では貴重な戦力となる。敵国侵攻の際には、必ず連れていこう。

飯田覚兵衛

戦闘	内政	外交	謀略
B	D	C	B

戦闘に秀でた武将だが、謀略の能力もなかなかだ。敵国に送って不穏工作を仕掛けよう。

津軽家

	6	5	4	3	2	1
城	1	1	1	1	—	—
武将	5	3	4	4	—	—
石高	8.2	9	11	8.2	—	—
兵士	0.39	0.24	0.25	0.38	—	—
姫数	4	4	3	3	—	—

友好国と敵対国

5	4	3	2	1
	九戸家 100	九戸家 100	—	—

戦力データ

総合評価 D

蠣崎家

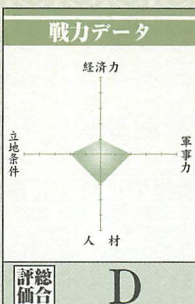
	6	5	4	3	2	1
城	1	1	1	1	1	1
武将	5	4	3	5	3	3
石高	8	6.4	6	5.6	5.2	5.2
兵士	0.44	0.21	0.16	0.26	0.14	0.24
姫数	3	4	3	3	3	3

友好国と敵対国

5	4	3	2	1

戦力データ

経済力 軍事力 人材 立地条件

総合評価 E

蠣崎家史

北方交易の支配者

祖先は諸説あって不祥。蝦夷地（北海道）渡島半島に割拠してアイヌとの交易を行っていた和人領主の一家だったが次第に他の和人領主を圧倒、アイヌとの交易をほぼ独占するに至った。豊臣秀吉、次いで徳川家康に商船に対する独占的な課税権を与えられて栄え、後に松前と改称した。米を生産しない大名としても有名。

津軽家史

豪放な族長

祖先は大浦家、久慈家、十三藤原家、南部家、源氏など諸説があってはっきりしない。津軽為信は藤原姓を称した。

陸奥国津軽郡を支配した大名で、本家の弘前津軽家の他に分家の黒石津軽家がある。

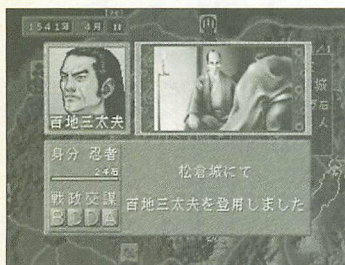
津軽為信の代に津軽一国を統一して津軽藩祖となった。為信は漆黒の顎鬚が胸まで垂れ、声は雷の如くであったと言う。

緊急コラム 姉小路を救え！

このゲームはなんと言っても、物量がモノを言う。千の精兵と万の惰兵だったら、惰兵が勝つのが世の宿命だ。そんな厳しい現実の中、精兵でもなければ石高も三万石。武将一人に総兵士数二千未満という冗談のような大名がいる。それがシナリオ①の姉小路家だ。

このコラムでは、そんな姉小路家にスポットを当てて、何とか一人前に成長させてみたい。

まずは、最初に百地三太夫を登用し、斎藤家、小笠原家、武田家、長尾家と同盟する。百地は富山城で不穏工作。税率を微税にして開墾に励み、百日待って富山城の士気を0にする。そして、動員して富山城に攻め込もう。野戦では兵数は互角以下だろうが、城の人気の差により姉小路軍は士気83、神保は47。徹底的に迎撃に徹して士気を保ちつつ戦えば勝てる。そして、攻城戦で富山城併合だ。

その後、神保家の遺臣を何が何でも確保し、畠山領→一向宗領を併合しよう。この時も遺臣は集めておくこと。余った人材は里見家滅亡を見越してその本城に配置し、その遺臣をも集めるのだ。

姉小路家を救うために存在するカリスマ忍者の登用に成功。さぁ、彼と共に突き進もう！

かくして姉小路王国成立。君も姉小路を見習い、この後に紹介される小大名を救ってみないか

九戸家

	6	5	4	3	2	1
城	—	—	1	1	—	—
武将	—	—	6	5	—	—
石高	—	—	7	6.2	—	—
兵士	—	—	0.22	0.32	—	—
姫数	—	—	3	3	—	—

友好国と敵対国

5	4	3	2	1
—	津軽家 100	津軽家 100	—	—

戦力データ

総合評価 D

九戸家史

豊臣秀吉に叛旗を翻す

南部家の一族で、本家に勝るとも劣らない勢力を保持しており、後に本家に背いた。

一五九一年に勢力拡大を図って争乱を起こすと、豊臣秀吉は自らに対する叛乱として六万の大軍を差し向けた。九戸政実は誘降の謀計にかかり降伏したが、見せしめとして城兵五千はなで斬りにされ、政実らも護送の途中に惨殺され滅亡した。

[安東家] 秋田家

	6	5	4	3	2	1
城	1	1	1	1	1	1
武将	5	4	6	3	2	3
石高	8	11	10	8	6.0	5.6
兵士	0.43	0.25	0.25	0.36	0.21	0.31
姫数	—	—	4	4	4	3

友好国と敵対国

5	4	3	2	1

戦力データ

総合評価 E

[安東家] 秋田家史

北辺の支配者

鎌倉、南北朝時代には安東と名乗る。安東家は北奥羽の豪族として長い歴史を持ち、蝦夷管領の代官として「蝦夷の沙汰」を行ったりしている。

秋田方面にも勢力を伸ばしたが、一時は南部家に追われて蝦夷に逃れた。後に本流は秋田県の檜山に戻り、檜山安東を名乗った後、秋田と改称して明治まで残る近世大名となった。

小野寺家

	6	5	4	3	2	1
城	1	1	1	1	1	1
武将	6	6	7	4	3	3
石高	7.4	10	9	7.4	6.0	5.6
兵士	0.37	0.25	0.24	0.35	0.20	0.26
姫数	4	3	3	4	3	3

友好国と敵対国

5	4	3	2	1
上杉家 100				

戦力データ

総合評価 D

小野寺家史

四散した武士団

藤原秀郷の子孫の武士団。景道、義道らが中心的人物。

小野寺義道は出羽横手城主で最上家、戸沢家、秋田家などと戦う。豊臣秀吉から所領三万石余を安堵された後も最上家と領地争いを繰り返した。

関ヶ原の合戦では西軍に付き、出羽国内で戦うが、西軍の敗退によって所領を没収され、一族は四散して事実上滅亡した。

大崎家

	6	5	4	3	2	1
城	1	—	1	1	1	1
武将	7	—	8	7	3	2
石高	10	—	10	9	6.0	6.0
兵士	0.5	—	0.3	0.45	0.26	0.32
姫数	4	—	4	4	4	4

友好国と敵対国

5	4	3	2	1
—				

戦力データ

経済力
軍事力
人材
立地条件

総合評価 E

大崎家史

家臣に慕われた領主

足利一門の斯波一族の出身。一三五四年、斯波家兼が室町幕府の陸奥国統治機関の長官、奥州管領として下向したのが始まりで、奥州探題として発展し、十五世紀頃までは奥州武士団の統率を行っていた。

その後は衰退し、最後は豊臣秀吉の小田原征伐に参陣せず滅亡。後に遺臣たちが新しい領主に対して叛乱を起こしている。

相馬家

	6	5	4	3	2	1
城	1	−	−	−	−	−
武将	9	−	−	−	−	−
石高	10	−	−	−	−	−
兵士	0.45	−	−	−	−	−
姫数	3	−	−	−	−	−

友好国と敵対国

5	4	3	2	1
-	-	-	-	-

相馬家史

平将門の末裔

桓武平氏、平将門の子孫を称する下総、陸奥の名門。

一五四〇年以降、伊達家と激しい抗争を繰り返した。一五九〇年には義胤が豊臣秀吉の小田原北条家攻略に参加した。

関ヶ原の合戦では、徳川家康に義胤の去就が疑われて危うい状況に陥るが、かろうじて改易を免れた。子孫は相馬中村藩六万石として明治まで続いた。

蒲生家

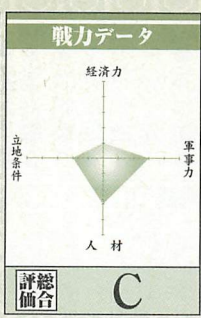
	6	5	4	3	2	1
城	1	1	1	−	−	−
武将	8	5	7	−	−	−
石高	15.3	16	10	−	−	−
兵士	0.65	0.35	0.27	−	−	−
姫数	4	4	4	−	−	−

友好国と敵対国

5	4	3	2	1
		-	-	-

戦力データ

経済力／軍事力／人材／立地条件

総合評価 C

蒲生家史

常に先頭に立った猛将

藤原秀郷の子孫を称する。織田信長に仕えた氏郷の武名が名高い。常に軍勢の先頭に立って戦い、織田信長から軽率すぎると叱責された程。豊臣時代に会津七十三万石に加増転封されたが、京から遠い会津からでは天下を望めぬと悔しがったと伝えられる。

子孫は大名として存続するも嗣子が絶えて断絶した。

宇都宮家

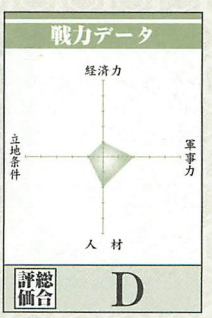
	6	5	4	3	2	1
城	1	−	1	1	1	1
武将	12	−	12	15	11	4
石高	13	−	15	13.5	12.0	10.0
兵士	0.57	−	0.35	0.6	0.3	0.4
姫数	4	−	4	3	3	4

友好国と敵対国

5	4	3	2	1
-	佐竹家 100	佐竹家 100 上杉家 100	佐竹家 100 上杉家 100	

戦力データ

経済力／軍事力／人材／立地条件

総合評価 D

宇都宮家史

時勢に翻弄された名門

宇都宮家は藤原鎌足の子孫を称し、下野一宮の神主を世襲して発展。鎌倉時代、南北朝争乱で歴史に残る活躍をしている。

しかし、戦国時代には一豪族にすぎなく、尚綱が戦死するとかなり衰退した。尚綱の子、広綱は北条家などの支援を得て再興するが、子孫はなまじ豊臣秀吉相手に奮戦したため、後に改易されてしまった。

結城家

	6	5	4	3	2	1
城	1	1	1	1	1	1
武将	12	5	9	9	9	8
石高	12.6	15	13.5	12.6	12.0	12.0
兵士	0.5	0.29	0.28	0.52	0.23	0.40
姫数	4	4	4	4	4	4

友好国と敵対国

5	4	3	2	1
徳川家 100				

戦力データ

経済力／軍事力／人材／立地条件

総合評価 D

結城家史

家康の子が発展させる

藤原秀郷の子孫。名門ではあるが運に恵まれず、長い歴史のほとんどは下総の小豪族としての苦労の歴史であった。

戦国時代になると、当主の晴朝を隠居させて、徳川家康の子で豊臣秀吉の養子だった秀康が継ぎ、関ヶ原の合戦では上杉景勝に対する備えの役目を務めた。関ヶ原の合戦の後、越前六十七万石の大名となった。

里見家

	6	5	4	3	2	1
城	2	―	1	1	2	2
武将	15	―	10	17	13	7
石高	22.3	―	15	14.1	23.7	17.9
兵士	0.71	―	0.29	0.56	0.41	0.58
姫数	4	―	3	4	3	3

友好国と敵対国

5	4	3	2	1
―	佐竹家 100	佐竹家 100		

総合評価 C

里見家史

里見八犬伝のモデル

清和源氏の新田一族出身。安房に土着して勢力を蓄えて、江戸湾水軍を擁した。

房総の袋小路からの脱出、飛躍を代々図るが北条家などと衝突して果たせず、水軍で北条領にゲリラ的攻撃を仕掛けたりしている。下総国府台で二度に渡って北条軍と激闘するも二度とも惜敗、ついに野望は果たせなかった。

[山内]上杉家

	6	5	4	3	2	1
城	―	―	―	―	―	3
武将	―	―	―	―	―	15
石高	―	―	―	―	―	34.1
兵士	―	―	―	―	―	1.23
姫数	―	―	―	―	―	2

友好国と敵対国

5	4	3	2	1
―	―	―	―	将軍家 100 長尾家 100

総合評価 C

[山内]上杉家史

凋落した関東の覇者

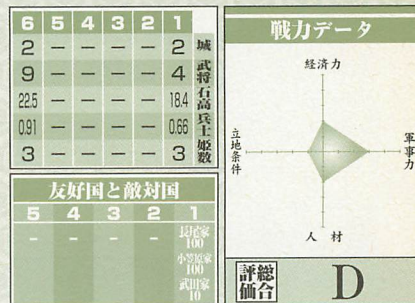
室町政権における関東管領職を奉じる名家。関東公方足利家の宰相のような位置にあり、後には関東公方以上の権威を誇った。内紛により山内上杉家と扇谷上杉家に分裂し、互いに覇権を競ったが、戦いは泥沼の様相を呈したまま両家とも衰弱してしまった。後に山内は長尾家に、扇谷は北条家に、それぞれ取って代わられていく。

村上家

	6	5	4	3	2	1
城	2	―	―	―	―	2
武将	9	―	―	―	―	4
石高	22.5	―	―	―	―	18.4
兵士	0.91	―	―	―	―	0.66
姫数	3	―	―	―	―	3

友好国と敵対国

5	4	3	2	1
―	―	―	―	長尾家 100 小笠原家 100 武田家 10

総合評価 D

村上家史

武田信玄の宿敵

清和源氏を称する。

信濃の国人領主の一家で、信濃守護と対抗できる勢力を蓄えていた。戦国時代の義清の代に海野家を攻略、戦国大名化し、武田信玄に対抗した。

上田原の合戦、戸石城の合戦などで武田勢相手に善戦するが本拠地葛尾城の陥落により越後の上杉謙信を頼った。しかし、本領復帰はかなわなかった。

小笠原家

	6	5	4	3	2	1
城	1	―	―	―	―	2
武将	7	―	―	―	―	5
石高	14	―	―	―	―	19.1
兵士	0.61	―	―	―	―	0.63
姫数	4	―	―	―	―	4

友好国と敵対国

5	4	3	2	1
―	―	―	―	村上家 100 今川家 30 武田家 10

総合評価 E

小笠原家史

苦難に耐えた信濃守護

小笠原家は甲斐源氏の出身で信濃守護であったが、信濃は小豪族が割拠して統一が困難であった。小笠原家が支配していた期間は非常に短い。

小笠原一族は多数に分裂したが、特に出世したのは府中小笠原家で、長時の代に武田信玄に敗れて上杉家を頼るが、後に豊臣家、次いで徳川家にも仕えて順調に出世した。

森家

	6	5	4	3	2	1
城	—	2	—	—	—	—
武将	—	5	—	—	—	—
石高	—	26.2	—	—	—	—
兵士	—	0.51	—	—	—	—
姫数	—	3	—	—	—	—

友好国と敵対国

5	4	3	2	1
	-	-	-	-

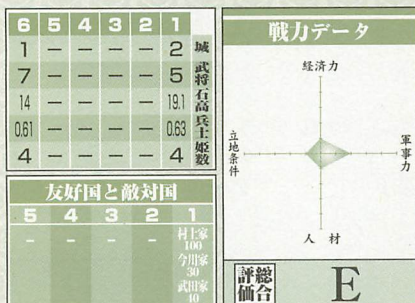
森家史

森蘭丸の一族

清和源氏と伝えられる。

可成の代に織田家の家臣となる。可成の子のうち、蘭丸は本能寺の変で戦死、長可は小牧長久手の合戦で豊臣方について戦死するが、忠政は信濃川中島十四万石弱を領する。

忠政は関ヶ原の合戦で東軍に付いて戦後、美作津山十九万石弱に加増された。子孫は改易されるもすぐに再興した。

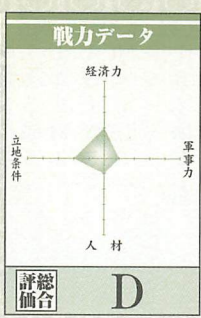
浅野家

	6	5	4	3	2	1
城	—	1	—	—	—	—
武将	—	2	—	—	—	—
石高	—	6.5	—	—	—	—
兵士	—	0.21	—	—	—	—
姫数	—	5	—	—	—	—

友好国と敵対国

5	4	3	2	1
池田家 100 / 伊達家 25 / 福島家 100 / 中村家 100 / 豊臣家 100 / 堀尾家 100	-	-	-	-

戦力データ

経済力 / 軍事力 / 人材 / 立地条件

総合評価 D

浅野家史

豊臣政権の重鎮

清和源氏の土岐一族の出身と称する。長政の代に織田家に仕え、豊臣秀吉とは相婿であったため豊臣政権で重きをなした。

長政は朝鮮出兵で功を立て、嫡子の幸長と共に甲斐二十一万石に移る。また、幸長は関ヶ原の合戦で功を立て、紀伊和歌山三十八万石弱に転封された。その後、幸長は嗣子を残さず、弟の長晟が家督を継いだ。

金森家

	6	5	4	3	2	1
城	—	1	—	—	—	—
武将	—	2	—	—	—	—
石高	—	4.5	—	—	—	—
兵士	—	0.18	—	—	—	—
姫数	—	5	—	—	—	—

友好国と敵対国

5	4	3	2	1
前田家 100	-	-	-	-

金森家史

飛騨平定の武功

美濃土岐一族の出身。

長近の代に織田信長、豊臣秀吉に仕え、一五八五年に飛騨を平定。翌年飛騨一国四万石弱を与えられる。

関ヶ原の合戦の後、可重が本領安堵を受けて代々飛騨高山藩主となる。

子孫は移封された後に失政を理由に改易されるが、特別扱いの旗本として再興した。

京極家

	6	5	4	3	2	1
城	—	1	—	—	—	—
武将	—	4	—	—	—	—
石高	—	11.1	—	—	—	—
兵士	—	0.25	—	—	—	—
姫数	—	5	—	—	—	—

友好国と敵対国

5	4	3	2	1
	-	-	-	-

京極家史

関ヶ原前日の武功

宇多源氏近江佐々木一族の出身。歴代室町幕府評定衆に列した名門中の名門。

戦国時代には衰退してはいたが、高次、高知兄弟が豊臣秀吉を頼って再興。

関ヶ原の合戦では東軍に付き、高知が岐阜城攻めに活躍、高次は大津城に籠って決戦前日まで西軍の大軍を引き付けるという大功を立てた。

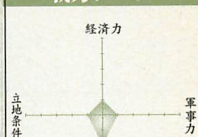
姉小路家

6	5	4	3	2	1	
1	−	1	1	1	1	城
6	−	4	3	4	1	武将
5	−	4.5	4	3.5	3.5	石高
0.29	−	0.19	0.26	0.18	0.19	兵士
5	−	3	5	5′	5	姫数

友好国と敵対国

5	4	3	2	1
−				

戦力データ

総合評価 E

姉小路家史

飛騨の名門

姉小路家は藤原一族の出身と伝えられる。

飛騨国司家で、世に言う三国司の一つ。応仁の乱の頃から小島家、小鷹利家、古河家の三家に分かれて互いに抗争した。後に北飛騨の江馬家に滅ぼされた古河家を南飛騨の三木良頼が継ぎ、その子の自綱が飛騨の大半を支配下に収めたが金森長近に討伐された。

木曾家

6	5	4	3	2	1	
1	−	−	−	−	−	城
6	−	−	−	−	−	武将
11.1	−	−	−	−	−	石高
0.47	−	−	−	−	−	兵士
4	−	−	−	−	−	姫数

友好国と敵対国

5	4	3	2	1
−	−	−	−	−

戦力データ

総合評価 D

木曾家史

山岳戦の荒武者

旭将軍源義仲の子孫を称するが不祥。木曾地方の土豪。

木曾義昌は武田信玄に攻撃されて降伏、武田信玄の娘を娶って一族になった。武田信玄の没後、武田家が著しく衰えたので織田信長に内通、武田勝頼の軍二万を鳥居峠に破った。伝統的に山岳戦に強かったと言われる。以後、織田信長、豊臣秀吉に臣従した。

神保家

6	5	4	3	2	1	
1	−	−	1	1	1	城
7	−	−	8	7	3	武将
20.1	−	−	20.1	19.5	16.5	石高
0.8	−	−	0.62	0.31	0.48	兵士
4	−	−	4	3	4	姫数

友好国と敵対国

5	4	3	2	1
−	−	上杉家 100		

戦力データ

総合評価 D

神保家史

時機を得なかった強豪

越中の武家。出自は不祥。惟宗姓を名乗る。一四四三年に神保国宗が越中守護代として見えるのが最初の資料。

長職の代になると富山に依り越後の上杉家と対抗するが、上杉謙信に屈服。家臣団の大半が上杉方に組みしたため、嫡子の長住は出奔。後年、織田信長の後援で富山城に復帰するが、最後は織田信長に追放された。

畠山家

6	5	4	3	2	1	
1	−	−	1	1	1	城
8	−	−	10	8	3	武将
12	−	−	13	12.0	9.0	石高
0.56	−	−	0.52	0.30	0.34	兵士
4	−	−	3	3	3	姫数

友好国と敵対国

5	4	3	2	1
−	−			

戦力データ

総合評価 D

畠山家史

再興できなかった名門

清和源氏足利一門の守護大名。嫡家は管領家という名門中の名門。畠山一族の家督争いが応仁の乱の一因となったと言われる。

しかし、応仁の乱後は、一族が四分五裂して衰退、戦国時代には零落しきっていた。高政の代には織田信長に臣従するが、子の昭高は家臣に殺された。能登畠山家も上杉謙信に制圧され、嫡流は江戸幕府の旗本になった。

一色家

6	5	4	3	2	1	
—	—	—	1	1	1	城
—	—	—	5	3	3	武将
—	—	—	12.7	12.7	12.7	石高
—	—	—	0.55	0.33	0.42	兵士
—	—	—	5	5	4	姫数

友好国と敵対国

5	4	3	2	1
–	–			

総合評価 E

一色家史

乱世に消えた名門

一色家は清和源氏足利一族の支流という名門で、室町幕府では四職家の一つとして幕政に参与する名門中の名門だった。

しかし戦国時代には衰退著しく、義道の代には織田家の攻撃をよく退けるも、謀略戦に敗れて本家は滅亡してしまった。

だが、数多あった分家からは多数が江戸幕府の幕臣に取り立てられている。

北畠家

6	5	4	3	2	1	
3	—	1	—	2	3	城
14	—	8	—	9	4	武将
38	—	40	—	25.5	33.9	石高
1.46	—	0.45	—	0.64	0.95	兵士
3	—	4	—	3	3	姫数

友好国と敵対国

5	4		3	2	1
–	滝川家 100 蒲生家 100	明智家 0 柴田家 100 神戸家 100	–	六角家 100	六角家 100

戦力データ：経済力／軍事力／人材／立地条件

総合評価 C

北畠家史

その祖は北畠親房

村上源氏の名門公卿から出て、南北朝時代には南朝側として奮戦した北畠家の子孫である。南朝滅亡後も伊勢国司として巧みに時代の波を乗り越えてきた。

戦国時代には零落していたが晴具、具教の二代で南伊勢を制圧、一時は最盛期の領土を復活するかに見えた。が、織田信長に敗れ服従した後に滅ぼされてしまった。

池田家

6	5	4	3	2	1	
—	2	1	—	—	—	城
—	6	7	—	—	—	武将
—	33.7	34	—	—	—	石高
—	0.49	0.43	—	—	—	兵士
—	4	3	—	—	—	姫数

友好国と敵対国

5	4		3	2	1
福島家 100	蒲生家 100	明智家 0 羽柴家 100 丹羽家 100	–	–	–

総合評価 C

池田家史

大楠公の末裔

源頼光の子孫と伝えるが定かではない。楠木正成の子孫という伝説もある。

恒利の代に織田信秀に仕えて運が開けた。恒利の子、恒輝は嫡子と共に小牧長久手の合戦で戦死し、次男の輝政が家督を継いだ。輝政は徳川家康の婿として大いに家を発展させ、「神君の婿」、「西国の将軍」などと呼ばれて威風を振るった。

中村家

6	5	4	3	2	1	
—	2	—	—	—	—	城
—	5	—	—	—	—	武将
—	36.5	—	—	—	—	石高
—	0.58	—	—	—	—	兵士
—	3	—	—	—	—	姫数

友好国と敵対国

5		4	3	2	1
福島家 100 豊臣家 100	浅野家 100 堀尾家 100 池田家 100	–	–	–	–

総合評価 D

中村家史

病床で迎えた関ヶ原

一政の子で通称、孫平次こと一氏の代に飛躍する。

豊臣秀吉に仕えて和泉岸和田城主となる。この頃では紀州の根来、雑賀一揆との戦いが有名。次いで豊臣秀吉の異父弟の豊臣秀次の配下に入り近江水口城主、駿河府中城主などを歴任する。

徳川家康の会津征伐には病気のため弟を代理に従軍させ、翌月病死。子孫は米子藩主。

堀尾家

	6	5	4	3	2	1
城	—	2	—	—	—	—
武将	—	5	—	—	—	—
石高	—	34.5	—	—	—	—
兵士	—	0.65	—	—	—	—
姫数	—	3	—	—	—	—

友好国と敵対国

5	4	3	2	1
福島家 100 豊臣家 100 浅野家 100 中村家 100 池田家 100	-	-	-	-

堀尾家史

生涯現役の武将

高階一族の出身で、尾張の豪族だった。

忠泰の代に織田信秀に仕え、その子の泰晴は織田信長に従って活躍した。

泰晴の子、吉晴は豊臣秀吉の家臣として各地を転戦。関ヶ原の合戦の後に隠居し、子の忠氏が出雲、隠岐二十四万石を領した。だが、忠氏が早世したため忠氏の子、忠晴を後見した。

富田家

	6	5	4	3	2	1
城	—	1	—	—	—	—
武将	—	5	—	—	—	—
石高	—	17.5	—	—	—	—
兵士	—	0.37	—	—	—	—
姫数	—	4	—	—	—	—

友好国と敵対国

5	4	3	2	1
	-	-	-	-

富田家史

伊勢で着実な出世

祖先は現在のところ不祥。信高が豊臣秀吉に仕えて、父の知信と連名で伊勢安濃二万石を与えられる。一五九九年に父の領地を加えて五万石を領した。

関ヶ原の合戦では東軍に属し、伊勢で二万石を加増、後に伊予宇和島十二万石に転封された。

しかし、後年罪を犯した親族を匿ったかどで改易されてしまい、滅亡。

願証寺

	6	5	4	3	2	1
城	—	—	—	—	1	—
武将	—	—	—	—	2	—
石高	—	—	—	—	11.2	—
兵士	—	—	—	—	0.31	—
姫数	—	—	—	—	2	—

友好国と敵対国

5	4	3	2	1
-	-	-	一向宗 100 本願寺 100	-

願証寺史

長島一向一揆

伊勢一帯を中心とした本願寺の団体で、信長に対して徹底抗戦を繰り広げた。本願寺蓮如の十三男、蓮淳の後裔。斎藤竜興など、各地の落ち武者を受け入れて巨大化。度重なる織田家の総攻撃を跳ね返した。この戦いで織田家の織田孫七を討ち取っている。しかし、最後には織田家の総攻撃を受け、滅亡。いわゆる「長島一向一揆」である。

細川家

	6	5	4	3	2	1
城	1	1	1	—	—	—
武将	5	5	4	—	—	—
石高	12.7	12.7	12.7	—	—	—
兵士	0.58	0.32	0.32	—	—	—
姫数	4	3	4	—	—	—

友好国と敵対国

5	4	3	2	1
豊臣家 100	明智家 30 羽柴家 100	-	-	-

細川家史

文芸によって生き残る

足利家の祖先である源義康の次男の子孫。七ヵ国を領する室町幕府の最有力大名だった。

戦国時代には、幕府ともども衰退していたが藤孝の代に織田家に鞍替えしてから発展した。関ヶ原の合戦では東軍に付いて西軍に攻められ危ういところであったが、和歌をはじめとした文芸の才能を惜しんだ皇室の勅命で助けられた。

山名家

	6	5	4	3	2	1
城	2	—	—	1	1	2
武将	17	—	—	13	12	5
石高	19	—	—	12.7	12.7	17.8
兵士	0.92	—	—	0.5	0.26	0.67
姫数	4	—	—	4	4	4

友好国と敵対国

5	4	3	2	1
-	-			

戦力データ

総合評価 D

山名家史

名門新田家の末裔

源氏の名門新田一族の出身。室町幕府で四職家の一家として十一ヵ国を領するが、戦国時代には零落。但馬の祐豊、因幡の豊国などがわずかに勢力をとどめるだけだった。

祐豊、豊国は毛利家と織田家の抗争に巻き込まれ、共に毛利家に降伏、臣従した。祐豊の子孫については不祥だが、豊国の子孫は明治まで残った。

波多野家

	6	5	4	3	2	1
城	—	—	—	1	1	1
武将	—	—	—	6	4	2
石高	—	—	—	22.1	22.1	22.1
兵士	—	—	—	0.82	0.38	0.59
姫数	—	—	—	4	3	4

友好国と敵対国

5	4	3	2	1
-	-		将軍家 100	将軍家 100

戦力データ

総合評価 C

波多野家史

織田信長を苦しめる

石見の土豪吉見一族の出身で越前、さらに丹波に移住した。一族からは鎌倉時代後期に六波羅探題の在京御家人、室町幕府の評定衆などを出した名門。

波多野秀治は織田信長と敵対し、名将明智光秀を大いに苦しめたが一五七九年に降伏、安土城下で磔にされて滅亡した。この時のゴタゴタが本能寺の変の遠因とする説もある。

浦上家

	6	5	4	3	2	1
城	—	—	—	—	1	1
武将	—	—	—	—	15	5
石高	—	—	—	—	18.7	16.2
兵士	—	—	—	—	0.37	0.44
姫数	—	—	—	—	3	4

友好国と敵対国

5	4	3	2	1
-	-	-		三村家 30

戦力データ

総合評価 D

浦上家史

家臣に追われる

紀一族の末裔と称する。応仁の乱の頃には没落していた主家、赤松家再興の中心的存在として活躍した。後に播磨、備前、美作に勢力を張る豪族として独立。宗景の代には尼子家、毛利家相手に互角の戦いを演じてよく所領を保った。

しかし、家臣の宇喜多直家の勢力が伸張し、それを抑えようとして反逆されて没落した。

三村家

	6	5	4	3	2	1
城	—	—	—	—	—	1
武将	—	—	—	—	—	2
石高	—	—	—	—	—	12.0
兵士	—	—	—	—	—	0.45
姫数	—	—	—	—	—	5

友好国と敵対国

5	4	3	2	1
-	-	-	-	毛利家 100 大内家 100 浦上家 30

戦力データ

総合評価 E

三村家史

暗殺された名将

先祖などは不詳。

三村家親は毛利元就に与して備中松山城の吉田義辰を攻撃。瞬く間に攻略に成功し、吉田義辰を敗走させた。義辰の一党、西郷勝清が抵抗を続けたが、これも追撃して捕虜とした。

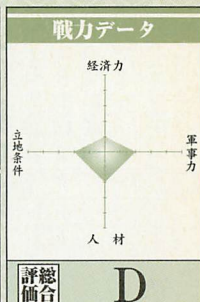
その後、備中松山城主となり宇喜多直家と敵対。強敵であることを知った宇喜多直家の謀略によって家臣に暗殺された。

河野家

	6	5	4	3	2	1
城	2	—	1	2	2	2
武将	18	—	13	15	15	7
石高	17.1	—	12	17.1	13.7	12.5
兵士	0.78	—	0.32	0.72	0.45	0.55
姫数	3	—	3	4	4	4

友好国と敵対国

5	4	3	2	1
-	毛利家 100	毛利家 100		

総合評価 D

河野家史

四国の水軍王

古代の豪族、越智一族の出身と伝えられる。元寇での武功で名高い伊予の豪族である。

配下に村上水軍を従え、周辺豪族のほとんどが反河野となってからも屈しなかった。しかし、村上水軍の一部である来島村上家に離反されると毛利家と結んで地位を維持した。

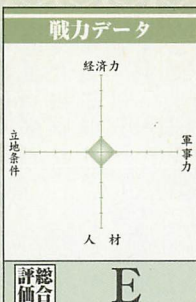
その後、豊臣秀吉の四国征伐に遭って滅亡した。

一条家

	6	5	4	3	2	1
城	1	—	—	1	1	1
武将	6	—	—	4	3	2
石高	5	—	—	4	3.0	3.0
兵士	0.29	—	—	0.22	0.17	0.20
姫数	4	—	—	5	5	5

友好国と敵対国

5	4	3	2	1
-	-			

総合評価 E

一条家史

土佐の公家大名

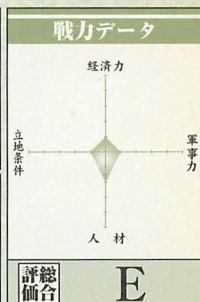
藤原北家出身の名門。本家は公卿筆頭五摂家の一家。応仁の乱に際して土佐に避難し、そのまま土着、大名化した。一条兼定は大友宗麟の娘を娶り、東土佐の安芸家と結んで長宗我部家を挟撃しようとするが失敗、逆に大友家に追放された。この時にキリシタンとなっている。後年、旧領復帰を図るも失敗。

十河家

	6	5	4	3	2	1
城	1	—	1	—	—	—
武将	4	—	3	—	—	—
石高	9	—	7.5	—	—	—
兵士	0.47	—	0.27	—	—	—
姫数	4	—	4	—	—	—

友好国と敵対国

5	4	3	2	1
-		-	-	-

総合評価 E

十河家史

鬼と呼ばれた勇将

十河家は讃岐の土豪の出身で阿波、讃岐などの守護に従って四国各地に進出した。室町時代になると細川家の畿内分国獲得と共に中央に進出した。

後に三好長慶の弟、一存が養子に入って家督を継ぎ、摂津江口の合戦で三好政長の軍を粉砕。「鬼十河」の異名を取った。

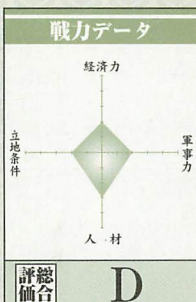
一存の後、存保が家督を継いだが長宗我部家に滅ぼされた。

蜂須賀家

	6	5	4	3	2	1
城	—	2	—	—	—	—
武将	—	5	—	—	—	—
石高	—	18.7	—	—	—	—
兵士	—	0.48	—	—	—	—
姫数	—	4	—	—	—	—

友好国と敵対国

5	4	3	2	1
豊臣家 100 生駒家 100	-	-	-	-

総合評価 D

蜂須賀家史

天下の世渡り上手

尾張守護斯波家の出身と称するが不祥。

正勝の代に織田信長、豊臣秀吉に仕え、毛利征伐の際に黄母衣衆となる。四国征伐の功績で阿波で十八万石弱を領し、徳島城主となる。

関ヶ原の合戦では西軍に付くも病気と称して出陣せず、嫡子の至鎮が東軍に属していたため無事であった。

生駒家

	6	5	4	3	2	1
城	—	1	—	—	—	—
武将	—	5	—	—	—	—
石高	—	7.5	—	—	—	—
兵士	—	0.27	—	—	—	—
姫数	—	4	—	—	—	—

友好国と敵対国

5	4	3	2	1
蜂須賀家 100 豊臣家 100	-	-	-	-

総合評価 D

生駒家史

豊臣政権の重鎮

先祖は不祥。

生駒親正の代に織田信長、豊臣秀吉に仕えて讃岐高松城主となる。豊臣政権では、五大老と五奉行の間を円滑にするための三中老に堀尾吉晴、中村一氏と共に任命されている。

関ヶ原の合戦では親正が西軍に、長男の一正は東軍に付き、親正は隠居を余儀なくされたが一正は讃岐一国を安堵された。

藤堂家

	6	5	4	3	2	1
城	—	2	—	—	—	—
武将	—	9	—	—	—	—
石高	—	22	—	—	—	—
兵士	—	0.51	—	—	—	—
姫数	—	4	—	—	—	—

友好国と敵対国

5	4	3	2	1
	-	-	-	-

総合評価 C

藤堂家史

城普請の名人

祖先は不祥。近江犬上郡の土豪の出身で八世景盛の代から藤堂を名乗ったと伝える。

虎高が機転の利く息子に、機転を象徴して自分の名を逆にして「高虎」と名付けたと言う。

高虎は時代を見る目に優れていて、織田家、豊臣家、徳川家と巧みに臣従して出世した。また、加藤清正と並ぶ城普請の名人として名を馳せた。

阿蘇家

	6	5	4	3	2	1
城	1	—	1	—	1	1
武将	5	—	4	—	4	2
石高	9	—	9.7	—	8.2	7.5
兵士	0.41	—	0.23	—	0.23	0.32
姫数	4	—	4	—	3	3

友好国と敵対国

5	4	3	2	1
-	大友家 100	-	大友家 100 伊東家 100	大友家 100

総合評価 E

阿蘇家史

武将にして神官

阿蘇家は日本でも有数の名門神社の大宮司の家である。

戦国時代には肥後の国人領主と化して無視できない勢力となったが、一族の家督争いが激しく、それぞれが周辺の大大名と結んで激烈な抗争を展開した。

大友家、竜造寺家、島津家の三大勢力を巧みに競わせて、一時は島津家の勢力を肥後から駆逐した惟将が特に有名である。

相良家

戦力データ

経済力 / 軍事力 / 人材 / 立地条件

	6	5	4	3	2	1
城	—	—	1	2	2	2
武将	—	—	5	7	8	4
石高	—	—	9.7	21	19.2	19.2
兵士	—	—	0.22	0.9	0.45	0.69
姫数	—	—	4	3	3	3

友好国と敵対国

5	4	3	2	1
-	竜造寺家 100			

総合評価 D

相良家史

海外貿易で巨利を得る

藤原南家の子孫と伝える。遠江出身。鎌倉時代に肥後人吉荘の地頭となり、時代が下ると戦国大名化した。

晴広とその子の義陽の代に海外貿易で栄えて最盛期を迎える。貿易相手は明などのアジア諸国だけでなく、遠く南蛮諸国にまで及んでいた。土着性の強い独特の分国法を残したことでも知られ、子孫は明治まで存続した。

伊東家

	1	2	3	4	5	6
城	2	2	2	—	—	2
武将	5	7	8	—	—	9
石高	11.0	11.0	12	—	—	12
兵士	0.61	0.44	0.68	—	—	0.68
姫数	3	3	3	—	—	4

友好国と敵対国

1	2	3	4	5
大友家 100	阿蘇家 100 大友家 100	大友家 100	-	-

戦力データ

総合評価 D

伊東家史

内政に失敗した名将

工藤一族。伊豆伊東の出身で各地に分散したが、中でも日向に下向した一族が有名。

日向で一大勢力となり、特に義祐の代に最盛期を迎えた。しかし、家中に贅沢の気風が蔓延して、しわ寄せが高い年貢となって民衆にのしかかった。そのため島津家との決戦で領民が島津勢の味方に付いてしまい大敗、一時滅亡の憂き目を見た。

肝付家

	1	2	3	4	5	6
城	1	1	1	—	—	1
武将	2	7	7	—	—	8
石高	12.0	13.0	14	—	—	14
兵士	0.38	0.24	0.56	—	—	0.57
姫数	4	3	4	—	—	4

友好国と敵対国

1	2	3	4	5
			-	-

戦力データ

総合評価 E

肝付家史

島津最大のライバル

「肝属」とも書く。大伴旅人の子孫を称する大隅の古豪。島津家最大のライバルとして長く威勢を張った。特に兼続の代には、日向の伊東家と連合して島津家を大いに苦しめるが、晩年になって反攻に遭い、本拠地高山城の落城によって落胆、自刃して果てた。

子孫は島津家の重臣となって長く続いた。

太田家

	1	2	3	4	5	6
城	—	—	—	—	1	—
武将	—	—	—	—	2	—
石高	—	—	—	—	12.7	—
兵士	—	—	—	—	0.26	—
姫数	—	—	—	—	5	—

友好国と敵対国

1	2	3	4	5
-	-	-	-	

戦力データ

経済力 / 軍事力 / 人材 / 立地条件

総合評価 E

太田家史

関ヶ原で再起を図る

太田家の先祖などは不詳。一吉は豊後臼杵城主。朝鮮出兵で小早川秀秋に属して奮戦するも、凱旋後に罪を着せられて改易。関ヶ原の合戦では再興を図って九州で挙兵し、中川秀成と戦う。関ヶ原の合戦後、黒田如水の命により自刃。

伊勢に逃れたが池田長吉、山岡道阿弥らに攻められ、殺されたとする説もある。

早川家

	1	2	3	4	5	6
城	—	—	—	—	1	—
武将	—	—	—	—	2	—
石高	—	—	—	—	23.7	—
兵士	—	—	—	—	0.3	—
姫数	—	—	—	—	5	—

友好国と敵対国

1	2	3	4	5
-	-	-	-	

戦力データ

総合評価 D

早川家史

歴史に消えた武将

先祖などは不詳。豊臣秀吉古参の部将として豊臣秀吉の馬廻衆を務め各地を転戦。以後は文官的な働きが多いが、朝鮮出兵にも従軍して活躍し、豊後国内に二万石を与えられた。

関ヶ原の合戦では、西軍に属して戦後改易となる。大坂の陣で大坂城に入城して戦死したとも、行方不明になったとも伝えられ、最期は不明である。

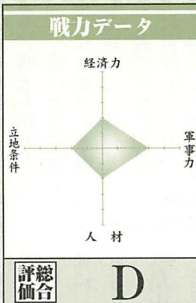
小早川家

6	5	4	3	2	1	
—	1	—	—	—	—	城
—	5	—	—	—	—	武将
—	26.1	—	—	—	—	石高
—	0.43	—	—	—	—	兵士
—	3	—	—	—	—	姫数

友好国と敵対国

5	4	3	2	1
毛利家 100 豊臣家 100	-	-	-	-

戦力データ

総合評価 D

小早川家史

瀬戸内海の要人

小早川家は小豪族ながら瀬戸内海の海運で経済力を蓄えた。戦国時代になると毛利元就の三男、隆景が養子に入り、毛利一族として発展した。隆景は、「天下の蓋」と言われた程器量の大きな人物だった。

隆景の後は豊臣秀吉の親戚の秀秋を養子に迎える。秀秋は関ヶ原の合戦で西軍から東軍に寝返り東軍大勝の原因となった。

高橋家

6	5	4	3	2	1	
—	1	—	—	—	—	城
—	2	—	—	—	—	武将
—	6.5	—	—	—	—	石高
—	0.21	—	—	—	—	兵士
—	5	—	—	—	—	姫数

友好国と敵対国

5	4	3	2	1
	-	-	-	-

戦力データ

総合評価 E

高橋家史

九州を転々とする

筑前の有力大名秋月種実の弟で、豊前小倉城主高橋鑑種の養子となったのが高橋元種。

鑑種が反大友家の兵を挙げて香春岳城を攻略すると城主となった。秋月種実、日田親永と同盟を結んで島津家の北上に対応。豊臣秀吉の九州征伐に遭うと、先兵の毛利勢相手に奮戦するも降服。戦後日向延岡に移封、子孫の一系は島津家の家臣となる。

少弐家

6	5	4	3	2	1	
—	—	—	—	—	3	城
—	—	—	—	—	7	武将
—	—	—	—	—	37.9	石高
—	—	—	—	—	0.94	兵士
—	—	—	—	—	3	姫数

友好国と敵対国

5	4	3	2	1
-	-	-	-	大内家 30

戦力データ

総合評価 C

少弐家史

元寇の英雄の後裔

平将門を討った藤原秀郷（俵藤太）の子孫を称す。その後裔少弐景資の元寇での活躍は有名。全盛期には北九州五ヵ国を領したが、戦国時代には肥前一国の国人領主筆頭というべき状態にあった。家臣の竜造寺家の謀反により一時は滅亡するが、再興。筑後、筑前をも影響下に収め、竜造寺家殲滅を図った。だが、逆に追い詰められ滅亡した。

小西家

6	5	4	3	2	1	
—	1	—	—	—	—	城
—	7	—	—	—	—	武将
—	5.2	—	—	—	—	石高
—	0.29	—	—	—	—	兵士
—	4	—	—	—	—	姫数

友好国と敵対国

5	4	3	2	1
豊臣家 100	-	-	-	-

戦力データ

経済力
軍事力
人材
立地条件

総合評価 D

小西家史

瀬戸内海の支配者

小西行長は、堺の商人、小西隆佐の子とされるが定かではない。文官のイメージが強いが海将として優れ、瀬戸内海の海運を宰領して功績が高かった。

また、陸将としても非凡で朝鮮出兵や関ヶ原の合戦で奮戦している。関ヶ原の合戦の後処刑されたが、ポルトガル王妃から贈られたマリア像を手に刑場に臨んだキリシタンでもあった。

南北朝名家列伝

戦国時代のほんの五十年前まで、日本を統治していた政権は足利幕府だ。ここでは、その政権を支えた数々の名門の家を紹介していく。栄枯盛衰の激しさが分かるはずだ。

細川家

足利一族出身。小領主に過ぎなかったが、足利尊氏に従って各地を転戦し、室町幕府における宰相格である三管領の一家にまで登り尽めた。領土は最大で九カ国を数え、室町大名の中でも最大級の国力を誇る。その中でも最も高名なのは、勝元と政元だろう。

弱冠十六歳で管領となった勝元は政略、医学、建築学に優れ、応仁の乱では東軍の総大将を務めた。兵数では劣勢だった東軍だが、勝元は政略によって上皇、天皇、足利将軍の支持を確保。五分五分の情勢を作り上げる。しかし、合戦中に山名宗全が病死すると、それを追うかのように勝元も倒れた。

その後、二十一歳の若さで継いだのが政元である。父親譲りの政略で次々と政敵を倒した政元は、管領として独裁に近い権力を持ち、応仁の乱で灰になった都の上に君臨した。その威権は「半将軍」「副将軍」とまでの異名を取った程である。生涯独身を通し、後には神秘主義に傾倒、修験道の修行に励んだ。そのことが老臣の不安を招き、二十八歳の若さで暗殺される。

政元の死後、細川家は幕府と共に衰退。三好家に取って代わられる。

斯波家

足利一族出身。南北朝の動乱の中で名将、斯波高経を出し、三管領の筆頭にまで上った。

斯波高経は知謀に優れ、足利尊氏に従って転戦し、越前守護となる。藤島の合戦では、三万騎を率いて来襲した南朝の英雄、新田義貞を討ち取るという功績を残した。その後、越前、尾張、遠江、山城の四ヵ国の守護に発展。

しかし、戦国期に入って越前は朝倉家に、尾張は織田家に、遠江は今川家によって滅ぼされてしまう。

畠山家

三管領の一家。鎌倉時代の名将、畠山重忠の末裔だが、足利家との婚姻関係のため、足利一門同様に扱われる。室町幕府前期に畠山国清が出て、足利尊氏の元で転戦した。

畠山国清は関東公方の執事として新田義興を謀殺するなど、北朝の名将として活躍。最大時には、河内、越中、能登、紀伊の四ヵ国を領する。その後、お家騒動が起こり、何とその乱れが応仁の乱にまで発展してしまう。応仁の乱終結後も同族争いを続けていたが、今度は山城の国一揆を誘発してしまい、国外退去。以降は衰亡に衰亡を重ね、かろうじて能登一国を確保した。

六角家（佐々木家）

南北朝時代、梟雄と呼ばれた佐々木道誉を出して、室町幕府四職家の一つにまで飛躍する。

佐々木道誉は政治、軍略に優れ、しばしば足利軍の先鋒を務めた。しかし、性格は奔放であること甚だしく、中先代の乱の際には足利軍の先鋒として北条家の残党を攻撃。しかし、次の局面では足利家の宿敵の新田義貞側に寝返り、足利・新田両軍が激突した箱根・竹の下の合戦では当初新田軍として出陣したが、戦闘後は足利軍の一員として祝賀の席にいるなど、反覆常なかった。当時隆盛を極めた「ばさら大名」（傾奇者の原型）の典型とされ、皇族が住んでいた妙法院を私怨から焼き討ちにし、流罪となるなど奇行も多かった。この時、郎党三百人に全て猿の皮の腰当てをさせて道々酒宴を催し、宿屋という宿屋を貸りて宴会をするなど、まったく反省の色を見せず、しかも結局配流先へも行かなかった形跡が見られる。

その後、四条畷の合戦で南朝の勇将、楠木正行を討ち取るなど功績を重ね、上総、近江、若狭、摂津、飛騨、出雲の大領を得ている。

その後、佐々木家は京極家や六角家、尼子家など小大名に分裂し、戦国期には将軍家を補佐したが、近江を浅井家

に奪われるなどして衰弱。織田信長によって滅ぼされた。

赤松家

四職家の一つ。南北朝時代、赤松円心入道を出し、大いに飛躍する。

赤松円心は軍略に優れ、足利尊氏、佐々木道誉と共に六波羅探題を滅ぼした。後醍醐帝による倒幕に最も功績の大きかった五将の中の一人にも数えられている。

しかし、その恩賞は元から持っていた播磨一国の安堵のみに留まった。これに不満を持った円心は、以後尊氏の元で各地を転戦することになる。その後も歴々の足利将軍の恩寵を受け、播磨、美作、備前の三ヵ国を授かった。

時代は変わり、六代将軍義教の世。義教は極めて有能な将軍だったが、関東公方を征伐し、有力守護を弾圧するなど、恐怖政治に近い独裁を行った。この義教を暗殺したのが、赤松満祐である。この事変は嘉吉の乱と呼ばれ、その代償として赤松家は滅亡した。戦国期の赤松家は、その再興後の姿であり、過去の声望は地に落ちている。

一色家

足利一族出身。四職家の一つ。南北朝時代に一色範氏を出した。

一色範氏は初代九州探題として少弐家、大友家、島津家の三強を味方に付け、南朝勢力と戦った。優勢な時期もあったが、結局は少弐家などの離反に遭い、徐々に衰退、京都に戻って丹後、若狭の二ヵ国の守護となった。

しかし、六代将軍足利義教によって時の当主、一色義貫が謀殺。以後は衰退の道を歩む。

山名家

一時期は四職家最強の国力を誇った名門の一つ。その衰退もまた急激だった。応仁の乱における西軍総帥、山名宗全が最も有名である。

山名宗全、本名は持豊。赤い顔をしていたため、「赤入道」とも呼ばれた。軍事的才能に恵まれており、山門攻撃で大いに戦功を挙げ、大和永享の乱でも活躍。嘉吉の乱が起こり義教が暗殺されると、弔い合戦とも言える赤松家追討軍の大将として謀反人、赤松満祐を誅した。この軍功によって備後、安芸、石見、伊賀、備前、美作、播磨七カ国の加増を得て、領土は十一カ国にも及ぶ。この数は日本六十六州の六分の一を占めることから「六分の一殿」と呼ばれ、室町幕府最大の領土を手にした。ここまでの一時代を築いた山名家の衰亡のきっかけは、言うまでもなく応仁の乱である。

宗全は西軍の総大将となり、細川勝元率いる東軍と泥沼の対決を繰り広げた。しかし、開戦の六年後に急死。その後を継いだ山名政豊は辛うじて但馬一国を保つだけに衰亡してしまう。往年の声望は遂に回復しなかった。

今川家

南北朝時代に名将、今川了俊を出し、飛躍する。

今川了俊は政治、謀略、軍事に優れていた他、『了俊歌学書』『歌林』などを残した歌人でもあった。一色家が失敗した後に九州探題となり、まず九州政局の中心である太宰府を掌握。少弐家、大友家、島津家の九州三強のうち、少弐家の当主を謀殺する。これに不安を感じた島津家に対しては、その領地の国人衆を扇動することによって勢いを削ぐことに成功。この時偶然、島津家の当主が死んだことにより、不可能と思われていた九州全土を掌握した。

しかし、その軍功に対して、幕府の恩賞は駿河一国のみという微増であった。その後、今川家は遠江の斯波家領を併合。義元の時代には三河も領国とし、黄金時代を迎えた。その全てが、桶狭間において消え去ってしまったのは周知の通りである。

北畠家

以上の家は、全て北朝の名門だが、北畠家は南朝の名門である。隆盛を極める北朝を尻目に、南朝勢力の盟主として戦った北畠親房と、その息子にして「花将軍」と渾名された青年、北畠顕家が特に有名である。

北畠親房は、後醍醐帝に忠誠を尽くし、『神皇正統記』を執筆して南朝方の正統性を主張。新田義貞、楠木正成を失った南朝の最後の光として徹底抗戦を続けた。

北畠顕家は十六歳で陸奥守に就任した天才児で、極めて優れた行政手腕を発揮し、奥羽の勢力をまとめ上げた。足利尊氏が後醍醐帝に反逆すると、これを誅殺するために奥羽五十四郡の兵三万を率いて南下。疾風迅雷の猛攻を見せ、鎌倉を突破し、近江に入国、京都を陥落させ、足利尊氏を遠く九州に追い払った。しかし、九州にて逆襲の兵を上げた尊氏によって阿部野合戦に倒れる。享年二十一歳だった。

その子孫も南朝の旗を守り、足利義満による南北合一後も度々反乱を起こした。しかし、戦国時代になってついに織田家に屈し、一族もろとも全滅に追いやられてしまう。

進め！真田十勇士

信濃の小豪族真田家。この小天地から天下を窺うには、どんな方策を使えばよいのか？

■徳川家打倒計画

真田家は信濃の小豪族である。しかし、史実では三方ヶ原、関ヶ原、大坂の陣と徳川家康が苦戦した、全ての戦場に参戦し、伝説的な戦果を生んだ。というわけで、その真田家の栄光をゲーム上でシミュレートしてみよう。

シナリオ⑤では、国力比約十一倍、兵力比約九倍という絶望的な格差のある両家。そこをいかに劇的に逆転するかが真田家の要点となる。以下、理想的な侵略ルートを記そう。

また、当然最初にすべきことは徳川家、そして前田家との同盟である。

■堀家、森家、上杉家を打倒

同盟をしたら、敵を堀家、森家の両家に定め、春日山城に昌幸、栃尾城に猿飛、小諸城に霧隠と海野を放ち、不穏工作をさせよう。それから百日後には士気が0になっているはず。同時に昌幸の知行を全て幸村に分け与える。同時に金子、藤田は前田家への交流担当だ。

不穏中の百日を利用して、他の十勇士は滅亡した大名をスカウトするため、近畿に向かおう。筒井家、滝川家、織田家らはいずれも豊臣軍の怒濤の進撃の前に滅びる運命にある。滅亡した瞬間に浪人を追いかけ、真田軍に招聘するのだ。例を挙げると、筒井定次、滝川雄利、富田信高、織田秀信らが欲しい人材だ。彼らは戦闘こそCだが、十五万石を与えれば四千五百の兵力を持てる。また、春日山城の士気が0になったら真田幸村で攻撃する。その際堀家との野戦になるが、士気が低く、精鋭の幸村鉄砲隊の敵ではない。

まずは人材集めだ。優秀な武将は何がなんでも登用しよう

春日山城を落としたら知行を全て昌幸にあてがおう。そして、昌幸、幸村の2トップを中核にして猿飛、霧隠らに不穏工作を命じ、栃尾城、会津若松城、二本松城、米沢城を攻略しよう。

■徳川百万石陥落策

さて、徳川家とは依然同盟をしている。今回のテストプレイの場合、この時点では徳川家の石高は二五六万石。動員兵力は五万五千を誇る。そこで、真田家のお家芸である奇襲作戦を用い徹底的な打撃を与えよう。

まず、厩橋城、河越城、八王子城、江戸城、小田原城の五城に真田親子と猿飛、霧隠、海野を指し向ける。百日を待って、全ての城の士気を0に調節し、真田親子は0にしたら剣豪と交代して、剣豪に士気0を維持させよう。もちろん、捕まったり負傷したりしたら、即座に交代要員を送るのだ。

最後に真田親子を筆頭に五つの軍団を編制し、先の五城の上に配置する。そして、同盟を破棄し、一気に五軍を攻め込ませ、同時に五城を陥落させるのだ。これで、真田家二二八万石、徳川家一五六万石。一気に戦力差を逆転できる。空城を狙えば後の四城は簡単に落とせるので、六文銭の旗が徳川領全てに翻る日も近い。

▶5城の上に5軍の配置が完了した。今まさに5城を陥落させようとしている場面。主力は八王子城にいる、徳川家康指揮下の4万だ。これを真っ先に倒してしまおう

◀次々に陥落させていき、最後に江戸城を落とす。この時、包囲した5軍のそれぞれに4千くらいの兵を持たせよう。でないと、逆襲されてしまうこともある

第三章　データベース

全武将、全城、全浪人、全イベントの詳細なデータを掲載している。武将の裏切りやすさ、死期、石高の上がりやすい城、各城のタイプ（火攻、水攻、干殺の効果に関わる）など、ゲームだけでは知り得ない多くの情報を知り、攻略の参考にして欲しい。

イラスト/井上智代

武将列伝

戦国時代を彩る猛将・知将を紹介する。彼らの業績を知ることは、戦国の世を知ることなのだ。

東北

独眼竜が飛翔する北の大地

南部家没落後は、伊達家と最上家が主導権を得た。伊達家飛翔の鍵はこの二臣が握る。

片倉景綱

内政A／謀略B

米沢八幡神主片倉景重の子とされ、母は伊達政宗の乳母と伝えられる。景綱は伊達政宗の徒小姓として仕え信頼を得、重用されるようになった。伊達家中では文武両面で活躍。豊臣秀吉や徳川家康が伊達家弱体化を狙い、景綱を独立の大名に取り立てようと何度も図るが、常に固辞し忠勤を尽くした。

伊達成実

戦闘A

伊達政宗の従兄。伊達家の主な合戦にはほとんどすべて従軍し、武功を立てる荒武者であった。葛西大崎一揆では蒲生氏郷の人質になって蒲生氏郷の伊達政宗に対する不信、さらには豊臣秀吉の伊達家に対する不信を解いている。朝鮮出兵にも参陣し戦功を上げたが、戦後一時高野山に出奔している。

関東

善主が統治する関八州

関東公方、関東管領を抑え、北条家が統治する。血族の結束により覇を唱えた。

北条綱成

戦闘A

今川家家臣福島正成の子であったが、父の正成が武田方の原友胤に討たれ家臣と共に小田原に逃亡。以後は北条氏綱に養育された。北条氏綱の側近として活躍、武功を認めた氏綱から娘を嫁に与えられて北条一門に列せられた。以後は河越夜戦などの戦場で活躍すると同時に、外交面でも活躍している。

北条幻庵

内政A／外交B

北条早雲の三男。長綱の庵号が幻庵。北条氏康の娘が嫁ぐ際に礼法などを認めた『北条幻庵覚書』で有名。箱根権現別当を継いでいたが後年還俗、北条家の初期の発展に尽くした。大変な長寿で、晩年は北条家の長老的な存在となり、北条一族を巧みに指導する。北条家発展の基盤を作った人物。

北条氏照

戦闘B

北条氏康の次男。兄を補佐して下総国府台の合戦、下総栗橋城の合戦など、北関東の特に下総での主な合戦にほとんど参加し、北関東方面攻略軍の隊長的な立場にあった。さらに下野南部にも侵入、小山家を駆逐してその領土も確保した。北条家が氏直の代になると評定衆筆頭となっている。

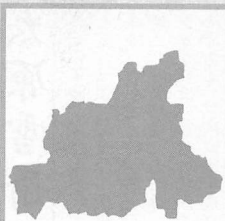
長野業正

戦闘A／謀略B

上野箕輪城主。関東管領上杉憲政の重臣として、弱体にして臆病な上杉憲政を支えた名将。武田信玄、北条氏康らと幾度も戦うが、決定的な打撃をこうむることは一度もなく、上野箕輪城も決して落城しなかった。しかし、病には勝てず一五六一年に病疫。その二年後に上野箕輪城も落城した。

中部

武田騎馬軍団の英傑

中部地方は武田家の手に。戦国最強の呼び声高い軍団を支えた名臣たちと、その後裔。

山県昌景

戦闘A

飯富虎昌の弟。武田信玄の近習から使番を経て侍大将、武将と出世した。兄の飯富虎昌が武田義信の謀反に連座した際の行動が見事であったため、武田信玄に忠誠を認められて、武田信虎の代に廃絶していた山県家の名跡を継いだ。赤備えの精鋭部隊の将として有名で、遺臣は徳川家の赤備えとなった。長篠の合戦で壮絶な戦死を遂げる。

高坂昌信

戦闘B／謀略B

大百姓春日大隈の子。武田信玄の奥近習から出世。武田家の衰退期の武将で、後に兵法書『甲陽軍鑑』を著す。

馬場信春

戦闘A／謀略B

工藤虎豊の次男。一時放浪していたが武田信玄に召し返され忠勤に励み、長篠の合戦では壮烈な戦死を遂げた。

真田幸村

戦闘A／謀略A

名将・真田昌幸の次男。正しくは信繁で、幸村というのは江戸中期頃の通俗軍記から発生した通称。父の武功の陰で目立たず、大坂の陣の前には無名に近かった。冬の陣では、大阪城の一角を「真田丸」として要塞化し、敵兵に壊滅的な打撃を与えた。夏の陣では伝説的な奇襲を仕掛けて、三方ヶ原以来初めて家康の本陣を潰走に追い込んだ。

北陸

軍事の国と芸術の国

越後には上杉謙信が現れ、軍神となる。越前は朝倉義景が芸術に溺れ、天機を失った。

柿崎景家

戦闘A

越後頸城郡地頭柿崎一族の当主。越後国人として上杉謙信の側近七人衆に列し、奉行などを務めている。長尾晴景と上杉謙信が対立した際には、上杉謙信の春日山城入りに功績が大きく、その後も越後統一に尽力。川中島の戦いでも先鋒として戦功を挙げる。晩年には上杉謙信三元老の一人となって、外交に尽力。越相同盟締結に功があった。

直江兼続

戦闘A／内政A

上杉景勝の名参謀越後与板城主樋口兼豊の子。上杉景勝の小姓だったが、断絶の危機に瀕した名門直江家を継いだ。朝鮮出兵にも従軍したが、城を落とした後書庫の文献を収集したという学者肌的な一面も持ち合わせている。関ヶ原の戦いにおいて、上杉景勝と石田三成による徳川家康挟撃の策が破れると上杉家存続のために奔走、活躍した。

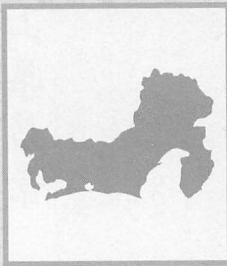
朝倉宗滴

戦闘B／内政B

朝倉孝景の末子。若くして出家して宗滴と号した。朝倉軍の軍奉行を務めて生涯に十二度の合戦に参加、そのほとんどが大勝するという名将であった。また、浅井家との同盟の立役者でもあり、七十九歳の高齢になっても引退せず、一向一揆の危険性を家中に訴え続けた。加賀一向一揆征伐の総大将として出陣したが、病に罹り帰国後没した。

東海

王気に満ちた大地

今川義元、織田信長、徳川家康と、戦国きっての野心家たちを生み出した地方。

太原雪斎

内政A／外交A

今川義元の軍師。父は庵原氏、母は興津氏とも言うが、父は今川氏親とする説もある。禅僧だが今川義元の教育係や軍師として名高い。これは、当時の禅寺は軍事研究、教育の場所でもあったためである。三国同盟を成立させるなど、外交面でも活躍したが信長の父、信秀を破った小豆坂合戦では巧妙な伏兵を用いて大勝を収めている。

本多正信

内政A／謀略A

本多忠勝の同族本多俊正の子。幼少より徳川家康に仕えるが、三河一向一揆で徳川家康に敵対したため一時は流浪の身となった。後に帰参して徳川家康、秀忠に仕え、幕府の基盤作りに尽力。

本多忠勝

戦闘A

先祖は豊後本多の出身。徳川四天王の一人に数えられる猛将で、大小五十七もの合戦に参加して激戦を何度も経験しながら、一度も負傷しなかった剛勇にして幸運な武将。忠節でも名高い。

榊原康政

戦闘A

榊原七郎右衛門の三男。徳川四天王の一人。関ヶ原の合戦では徳川軍本隊である徳川秀忠勢に従軍。徳川家康に対して、徳川秀忠の遅参を弁護。陳謝に務めて徳川秀忠に感謝されている。

森蘭丸

戦闘C／外交C

森可成の三男。名は成利と伝えられる。大柄な美丈夫で文武に優れ、織田信長の覚えめでたく常に側近にあった。長谷川お竹らと共に奏者として活躍するが本能寺の変で力戦の末に戦死した。

佐久間盛政

戦闘B

佐久間盛次の嫡男。母は柴田勝家の妹。織田信長に仕えて玄蕃丞と名乗り、「鬼玄蕃」と呼ばれた猛将。柴田勝家配下で一向一揆の襲撃を受けた際には、奮戦して優勢な一揆勢を潰走させた。

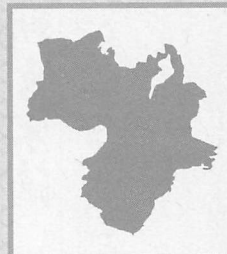
竹中半兵衛

戦闘B／謀略A

竹中重元の長子。斎藤龍興に仕えたが病弱なため同僚に侮られ、怒って十数名で稲葉山城を乗っ取ったことで有名。後に秀吉に仕え、黒田官兵衛の親友に。戦術の天才だったが惜しくも早世。

畿内

崇き理想への挑戦者

浅井家の遺臣たちは豊臣家の経営に参加。未来は西か東か。結論は運命の戦場、関ヶ原へ。

石田三成

内政A／外交B

豊臣家五奉行筆頭。関ヶ原西軍の事実上の指揮官。近江坂田郡の土豪で浅井久政の家臣であった石田正継の子と伝えられる。寺に奉公に出されていたのを豊臣秀吉に見出され仕官。文吏として辣腕を振るった。しかし、厳正すぎる性格が災いして豊臣家中の家臣団対立の一方の主役となり、関ヶ原の合戦ではそこを突かれて敗北し、刑死。

島左近

戦闘A／謀略B

石田三成の軍師。筒井順慶、筒井定次、豊臣秀長、豊臣秀保と転々として主君運に恵まれなかったが逸材として名高く、最後は石田三成に高禄で召し抱えられた。だが、関ヶ原の合戦直前の軍議で献策を主君の石田三成に退けられてしまい敗北を覚悟したという。この合戦で石田軍の先鋒として奮戦するも、鉄砲隊の一斉射撃を受け戦死する。

大谷吉継

戦闘B／内政A

大友宗麟の家臣大谷盛治の子ともいうが定かではない。豊臣秀吉に小姓として仕え頭角を現し、後の秀吉に百万の軍勢を預けてみたいと言わしめた。病気で皮膚が崩れ、ほとんど盲目となりながらも関ヶ原の合戦に出陣。藤堂高虎勢に大打撃を与える。小早川勢が寝返った後も決死の反撃でよく防いだが、裏切りが相次いだために敗退、自刃した。

中国

三つ巴の大地・中国

中国の覇者・大内家の衰退により、毛利家と尼子家が台頭。風雲の大地に智将の眼が光る。

吉川元春

戦闘A

毛利元就の次男で、山陰方面に勢力を張っていた鬼吉川こと吉川家の内乱に乗じ養嗣子に入れられた。主に毛利一族の山陰経略に活躍したが、山陽方面などでも主要な合戦には参陣することが多かった。有名な厳島合戦では本陣を率いて奮戦。拙速を尊ぶ猛将で、生涯に七十六戦し六十四勝したと言われている。九州征伐の途上病没した。

小早川隆景

内政A／謀略A

毛利元就の三男。幼少時、吉川元春と雪合戦をした際、突撃一手の元春に一度は完敗したが、二度目には伏兵を用いて勝利したという。成人後は元春と共に毛利の柱石として活躍。本能寺の変後、復讐戦にはやる羽柴家との同盟を主張して毛利家の本領安堵に成功した。朝鮮出兵の際には碧蹄館の戦いで明将・李如松の大軍を破っている。

陶晴賢

戦闘B／謀略B

陶家は名門大内家の筆頭格の分家とされ、長門、周防の守護である大内家の周防守護代を代々務めた。晴賢は大内家中では武断派の筆頭で、主君大内義隆が文芸、工芸振興などに熱中して武力を疎かにしがちなのを憂い、諫言するが聞き入れられず謀叛に踏み切り、大内義隆を倒した。その後毛利家と厳島に戦い、敗北を喫して自刃。

山中鹿之助

戦闘B／謀略B

鹿介ともいう。名は幸盛。尼子家の家臣であったが、主家が毛利家に降服すると京に逃れ、主家の一族を奉じて決起。毛利一族相手に連戦連敗するも、頑強に抵抗を続けた後殺害された。

後藤又兵衛

戦闘A

最初黒田官兵衛に敵対したが、才覚を見込まれて官兵衛の子、長政の教育係として召し出された。後に黒田長政と不和になり浪人し、大坂の陣で入城。剛勇無双の働きを見せ、華々しく戦死した。

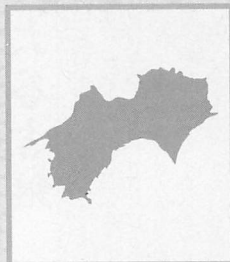
明石全登

戦闘B

宇喜多家の家臣。宇喜多秀家の代に入り家中に騒動があり、多くの家臣が離れた後も忠勤を務めた。関ヶ原の合戦後、行方不明に。大坂の陣に切支丹を率いて入城、奮戦するが最期は不詳である。

土佐の荒鷲の狩場

四国

四国は長宗我部家の飛躍により統一の方向に。その集団は優秀な血族と勇将に支えられる。

福留親政

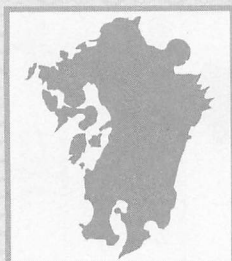
戦闘B

祖父以来、長宗我部家の家臣。長宗我部第一の猛将と言われた。度々の戦功により長宗我部元親から二十一回も感状を与えられ、元親の一字を与えられて親政と名乗った。また、長宗我部家の家紋七鳩酢草から一つを減じた六鳩酢草紋の使用を許された。長宗我部家の重臣として重きをなしたが、伊予攻略戦において武辺者らしく戦場に散る。

長宗我部盛親

戦闘B

長宗我部元親の四男。嫡男の信親が戦死してしまったため家督を継いだが、その際に陰惨な内紛を引き起こした。関ヶ原で西軍に付いたために危機に陥り、内紛の再燃で兄を殺害したため滅亡。大坂の陣では一浪人として入城し、十余年の鬱積を晴らす大奮戦を見せるが敗走、刑死した。死のまぎわまで長宗我部家の再興を夢見たと伝えられる。

猛き尚武の大地

九州

強豪の三家が三つ巴の様相を呈する。大友家、竜造寺家、島津家の知将、猛将が集う。

高橋紹運

戦闘A

大友家三家老の一人吉弘鑑理の次男で、後に高橋家を継いだ。衰退期に入った大友家をよく支え、特に島津軍を迎え撃った岩屋城合戦は名高い。城兵全てが討死したという状況で、紹運は全ての降伏勧告をはねのけ、敵味方の見守る中で立ち腹を切って果てた。しかし、この奮戦によって島津軍の北上が止まり、かろうじて大友家は助かった。

立花道雪

戦闘S／謀略B

大友家の家臣。戸次鑑連と名乗っていたが、大友宗麟から立花城の城督に命じられ、立花家の家督を継がせられた。士卒の心を掴むことに巧みで、誰もが道雪のために死ぬことを誓ったと言う。毛利家が九州に進出してくると激しい戦闘を繰り広げ、多々良浜合戦では多々良川を越えて進軍してきた毛利勢を散々に蹴散らし、圧勝している。

立花宗茂

戦闘A／内政B

大友家二大名将を父親に持つ男。子を成さなかった立花道雪が、その僚友高橋紹運に懇願し「大友家のために」と押し切って得た紹運の実子。筑後奪回戦、立花山城籠城、岩屋城攻防戦、戸次川合戦、碧蹄館の戦いなどで凄まじい戦果を挙げ、「東の本多忠勝、西の立花宗茂」と並び称された。関ヶ原では西軍に付き、家康を大いに畏怖させた。

島津義弘

戦闘A／外交A

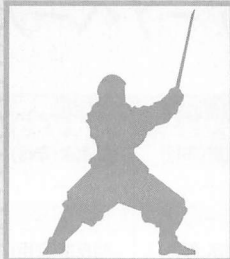
名高い島津四兄弟の次男で、勇猛果敢さでは兄弟一と言われる。島津家の九州平定戦では連戦連勝し、豊臣秀吉の大軍に遭うまでは、ほぼ無敗だった。朝鮮出兵の際に泗川の合戦で、二十万の明軍を与力武将の部隊を含めた三万の兵で潰走させ、後には朝鮮の名海将李舜臣も海戦で討ち取った。関ヶ原では敗北後、壮絶な退却戦を成功させている。

忍者

混乱と破壊を司る者

忍者とは間諜のスペシャリストのこと。その静かなる力は陰で歴史を動かしたと言う。

服部半蔵

謀略A

代々半蔵を名乗るが著名なのは徳川家康に仕えて伊賀同心二百名を支配した正成。伊賀同心は忍者で、服部半蔵は伊賀忍者の頭領と俗に言われるが、むしろ徳川親衛隊的な存在と思われる。「鬼半蔵」と呼ばれた槍の名手であり、半蔵の屋敷のあった場所が江戸城半蔵門。その後、服部家は子孫正就の代に失脚したが伊賀組は残った。

風魔小太郎

謀略A

風間、風摩とも書く。相州乱波の首領と言われるが実在は疑問視されている。足柄山近くの風間谷に割拠した半農半武の風間一族が北条家の奇襲部隊として活躍したのが元と言われるが不詳。北条家滅亡後は盗賊集団化したとも言われ、小太郎は盗賊として刑死したようだが定かではない。黄瀬川合戦で武田軍を撹乱して勝利に貢献したとされる。

猿飛佐助

謀略A

架空の人物で、甲賀流忍術の名人。真田十勇士の一人などとされるがモデルすら存在しない。戦前の立川文庫や戦後の杉浦茂の漫画によって有名となったが、真田十勇士自体が架空である。戸沢白雲斎に忍術を習い、修行をしているうちに土地の豪族真田家に仕官。真田幸村に従って大坂城に入城し、諜報撹乱に活躍するも討死したとされる。

剣豪

剣に生きる武士

剣豪とは独力で強者への道を歩む者のことを言う。その必殺の剣は多くの大名を魅了した。

宮本武蔵

戦闘A

戦国後期の伝説的な剣士。巌流島の戦いは有名。実在は間違いないが逸話の多くは後世の虚構らしい。出身地も播磨説と美作説がある。父は新免無二斎と言われるが不詳。二天一流剣法の祖で、五輪書と兵法三十五箇条を残している。晩年は熊本城主細川忠利の客分となる。書画彫刻にも才能を発揮。書画の特徴から左利きであったと推測される。

柳生宗厳

戦闘A

号は石舟斎。大和添上郡柳生郷の豪族。香取新十郎に新当流剣術を、宝蔵院胤栄に槍術を学ぶ。後年さらに上泉伊勢守に入門して新陰流の皆伝を受け、無刀取りの秘術を考案。徳川家康をはじめ、多くの大名を門下にした。京で五男宗矩と共に無刀取りを徳川家康に披露し、関ヶ原の合戦では、畿内の情報を偵察して徳川家康に報告した。

前田慶次

戦闘S

小説や漫画で爽快な印象が強いが、ほとんどは創作。滝川益氏の子で前田利家の長兄、利久の養子となる。前田家の家督を利家と争って織田信長の命により辞退、以後は傾き者として生涯を過ごす。短期間仕官しては浪人に戻ることの繰り返しだったが、晩年には前田利家に仕え、また後に一時上杉家の客分となり、関ヶ原の合戦を戦った。

武将データベース

全1321名の武将を五十音順に紹介。軍師属性や忠臣属性など、マスクデータも全て公開する。

所属大名と身分					
シナリオ1	シナリオ2	シナリオ3	シナリオ4	シナリオ5	シナリオ6
朝倉家(奉行)	朝倉家(奉行)	朝倉家(奉行)	−	−	朝倉家(奉行)
−	−	−	−	丹羽家(与力)	−
−	−	−	−	丹羽家(与力)	−
相良家(部将)	相良家(部将)	相良家(重臣)	−	−	加藤家(部将)
波多野家(地侍)	波多野家(地侍)	波多野家(組頭)	羽柴家(地侍)	豊臣家(地侍)	浪人(地侍)
波多野家(部将)	波多野家(重臣)	波多野家(重臣)	−	−	浪人(部将)
−	波多野家(組頭)	波多野家(部将)	−	−	−
浅井家(家老)	浅井家(家老)	浅井家(家老)	−	−	浅井家(家老)
−	−	−	−	豊臣家(部将)	−
−	織田家(馬廻)	織田家(馬廻)	−	−	−
浦上家(奉行)	浦上家(奉行)	宇喜多家(重臣)	宇喜多家(重臣)	宇喜多家(奉行)	宇喜多家(部将)
浦上家(地侍)	浦上家(地侍)	宇喜多家(地侍)	宇喜多家(組頭)	宇喜多家(重臣)	宇喜多家(地侍)
−	尼子家(重臣)	−	−	−	−
赤松家(宿老)	赤松家(宿老)	赤松家(宿老)	浪人(宿老)	蜂須賀家(与力)	−
赤松家(宿老)	赤松家(宿老)	赤松家(宿老)	羽柴家(組頭)	−	赤松家(宿老)
赤松家(主君)	−	−	−	−	赤松家(主君)
赤松家(宿老)	赤松家(宿老)	−	−	−	赤松家(宿老)
赤松家(宿老)	赤松家(主君)	赤松家(主君)	−	−	赤松家(宿老)
尼子家(部将)	尼子家(重臣)	毛利家(組頭)	毛利家(重臣)	毛利家(重臣)	尼子家(部将)
大内家(与力)	大友家(与力)	大友家(与力)	立花家(与力)	−	立花家(組頭)
大内家(与力)	大友家(与力)	大友家(与力)	立花家(与力)	高橋家(与力)	立花家(与力)
大内家(与力)	−	−	−	−	立花家(組頭)
−	一条家(馬廻)	一条家(馬廻)	長宗我部家(地侍)	長宗我部家(地侍)	−
武田家(組頭)	武田家(重臣)	武田家(奉行)	−	−	武田家(部将)
斎藤家(地侍)	斎藤家(組頭)	織田家(組頭)	明智家(宿老)	−	明智家(宿老)
斎藤家(組頭)	斎藤家(部将)	織田家(重臣)	明智家(主君)	−	明智家(主君)
斎藤家(部将)	斎藤家(与力)	−	−	−	明智家(家老)
浅井家(宿老)	浅井家(宿老)	浅井家(宿老)	−	−	浅井家(宿老)
浅井家(宿老)	浅井家(宿老)	浅井家(主君)	−	−	浅井家(主君)
浅井家(主君)	浅井家(主君)	浅井家(宿老)	−	−	浅井家(宿老)
浅井家(宿老)	浅井家(宿老)	浪人(地侍)	浪人(宿老)	生駒家(組頭)	浅井家(宿老)
朝倉家(宿老)	朝倉家(宿老)	朝倉家(宿老)	−	−	朝倉家(宿老)
朝倉家(宿老)	朝倉家(宿老)	朝倉家(宿老)	浪人(宿老)	−	朝倉家(宿老)
朝倉家(宿老)	−	−	−	−	朝倉家(宿老)
朝倉家(宿老)	朝倉家(宿老)	朝倉家(宿老)	−	−	朝倉家(宿老)
朝倉家(宿老)	朝倉家(宿老)	朝倉家(宿老)	浪人(宿老)	−	朝倉家(宿老)
朝倉家(宿老)	朝倉家(宿老)	朝倉家(宿老)	−	−	朝倉家(宿老)
朝倉家(宿老)	朝倉家(宿老)	朝倉家(宿老)	浪人(宿老)	−	朝倉家(宿老)

※まだ仕官していない人物は①父親がいる武将は仕官、②所属するはずの大名が生き残っていれば仕官。それ以外は浪人となる。なお、仕官してきた場合はデータと同じ身分だが、登用した場合は身分は地侍から始まる。　※生没年の没年は目安の数字で、必ずしもその年に病死するわけではない。

表の見方 「能力値」の中のA＋とは、経験によって上昇しやすい能力。また（軍）が付いている能力は軍師。仕える大名のその能力を１つ分上げる。「忠臣」は◎→○→△→×の順に不義理になる。また、「所属大名と身分」に記載されている武将は、仕官年を超えなければ登場しない。

	武将名	別名	能力値				仕官年	生没年	忠臣
			戦闘	内政	外交	謀略			
あ	青木景康	―	D	B	C	C	1531	1515～1579	○
	青木一矩	―	C	C	D	D	1552	1536～1600	○
	青山宗勝	―	C	C	C	C	1581	1565～1629	○
	赤池長任	―	B	C	C	C	1543	1527～1576	○
	赤井忠家	―	B	E	E	D	1565	1549～1605	△
	赤井直正	―	B	C	D	C	1545	1529～1578	△
	赤井幸家	―	C	C	C	C	1549	1533～1597	△
	赤尾清綱	―	C	D	E	C	1528	1512～1573	△
	赤座直保	―	C	D	D	C	1588	1572～1636	△
	赤座永兼	―	C	C	D	D	1546	1530～1594	○
	明石景親	―	C	D	D	C	1551	1535～1599	○
	明石全登	―	B	D	C	C	1579	1563～1622	△
	赤穴久清	―	B	D	D	C	1547	1531～1595	△
	赤松則英	―	C	D	D	D	1595	1579～1628	◎
	赤松則房	―	D	C	B	C	1573	1557～1598	◎
	赤松晴政	―	C	B	C	C	1529	1513～1562	◎
	赤松政秀	―	C	C	D	C	1524	1508～1572	◎
	赤松義祐	―	C	C	C	C	1551	1535～1576	◎
	秋上久家	―	B	D	C	C	1547	1531～1605	△
	秋月種実	―	C	C	C	C	1561	1545～1596	○
	秋月種長	―	C	C	B	C	1583	1567～1614	○
	秋月文種	―	C	C	D	C	1526	1510～1557	○
	秋利康次	―	D	D	C	D	1589	1573～1637	○
	秋山信友	―	B	B	C	C	1547	1531～1575	○
	明智秀満	―	B	C	D	D	1553	1537～1596	○
	明智光秀	―	B+	A+	B+	C	1544	1528～1582	×
	明智光安	―	C	D	C	C	1513	1497～1566	○
	浅井輝政	―	C	C	C	C	1584	1568～1632	◎
	浅井長政	―	A	C	C	B	1561	1545～1609	◎
	浅井久政	―	C	D	D	D	1539	1523～1573	◎
	浅井井頼	―	B	C	C	D	1586	1570～1634	○
	朝倉景鏡	―	C	C	B	C	1533	1517～1581	○
	朝倉景氏	―	C	C	C	C	1548	1532～1596	◎
	朝倉景隆	―	C	C	C	C	1503	1487～1566	◎
	朝倉景健	―	B	C	E	D	1545	1529～1575	◎
	朝倉景綱	―	D	D	D	E	1546	1530～1594	○
	朝倉景紀	―	B	C	C	C	1520	1504～1573	◎
	朝倉景盛	―	D	D	C	D	1533	1517～1585	○

所属大名と身分					
シナリオ1	シナリオ2	シナリオ3	シナリオ4	シナリオ5	シナリオ6
朝倉家(宿老)	朝倉家(宿老)	朝倉家(宿老)	−	−	朝倉家(宿老)
朝倉家(主君)	−	−	−	−	朝倉家(宿老)
朝倉家(宿老)	−	−	−	−	朝倉家(主君)
北条家(地侍)	北条家(地侍)	北条家(地侍)	北条家(地侍)	浪人(地侍)	北条家(地侍)
朝倉家(宿老)	朝倉家(主君)	朝倉家(主君)	−	−	朝倉家(宿老)
−	−	−	−	浅野家(家老)	−
浪人(地侍)	浪人(地侍)	織田家(地侍)	羽柴家(奉行)	浅野家(宿老)	豊臣家(重臣)
−	−	−	−	浅野家(宿老)	−
浪人(地侍)	浪人(地侍)	織田家(馬廻)	羽柴家(地侍)	浅野家(主君)	−
今川家(奉行)	今川家(奉行)	武田家(組頭)	−	−	今川家(部将)
今川家(奉行)	今川家(奉行)	武田家(組頭)	−	−	今川家(部将)
今川家(与力)	−	−	−	−	今川家(家老)
−	浅井家(地侍)	浅井家(地侍)	柴田家(地侍)	−	−
浅井家(部将)	浅井家(部将)	浅井家(部将)	−	−	浅井家(部将)
浪人(地侍)	浪人(地侍)	浪人(地侍)	−	−	浪人(地侍)
安東家(重臣)	安東家(重臣)	安東家(部将)	安東家(重臣)	−	秋田家(重臣)
武田家(組頭)	武田家(重臣)	武田家(重臣)	−	−	武田家(組頭)
安東家(重臣)	安東家(重臣)	安東家(重臣)	安東家(家老)	−	秋田家(重臣)
結城家(宿老)	−	−	−	−	−
結城家(宿老)	−	−	−	−	結城家(与力)
将軍家(宿老)	将軍家(宿老)	将軍家(主君)	毛利家(与力)	−	足利家(主君)
結城家(重臣)	北条家(重臣)	北条家(与力)	北条家(与力)	−	−
将軍家(宿老)	将軍家(主君)	−	−	−	足利家(剣豪)
将軍家(主君)	−	−	−	−	足利家(宿老)
長尾家(部将)	上杉家(部将)	上杉家(部将)	上杉家(部将)	上杉家(部将)	上杉家(部将)
村上家(地侍)	武田家(組頭)	−	−	−	村上家(組頭)
村上家(部将)	武田家(部将)	−	−	−	村上家(部将)
葦名家(主君)	葦名家(主君)	葦名家(主君)	−	−	葦名家(主君)
−	葦名家(宿老)	葦名家(宿老)	葦名家(宿老)	佐竹家(与力)	−
葦名家(宿老)	葦名家(宿老)	葦名家(宿老)	−	−	葦名家(宿老)
葦名家(宿老)	葦名家(宿老)	葦名家(宿老)	葦名家(主君)	−	葦名家(宿老)
阿蘇家(宿老)	阿蘇家(宿老)	大友家(組頭)	阿蘇家(宿老)	−	阿蘇家(宿老)
阿蘇家(主君)	阿蘇家(主君)	大友家(与力)	阿蘇家(主君)	−	阿蘇家(主君)
阿蘇家(宿老)	阿蘇家(宿老)	大友家(地侍)	阿蘇家(宿老)	−	阿蘇家(宿老)
毛利家(部将)	−	−	−	毛利家(部将)	毛利家(馬廻)
三好家(組頭)	三好家(組頭)	三好家(組頭)	−	−	三好家(組頭)
三好家(組頭)	三好家(重臣)	−	−	−	三好家(組頭)
浅井家(部将)	浅井家(重臣)	浅井家(重臣)	明智家(重臣)	−	浅井家(部将)
武田家(組頭)	武田家(奉行)	武田家(奉行)	−	−	武田家(組頭)
−	−	武田家(剣豪)	真田家(剣豪)	真田家(剣豪)	真田家(剣豪)
武田家(宿老)	武田家(家老)	武田家(家老)	−	−	武田家(家老)
姉小路家(主君)	姉小路家(主君)	−	−	−	姉小路家(宿老)
姉小路家(宿老)	姉小路家(宿老)	姉小路家(主君)	姉小路家(主君)	−	姉小路家(主君)

あ

武将名	別名	能力値				仕官年	生没年	忠臣
		戦闘	内政	外交	謀略			
朝倉景行	—	B	D	E	D	1514	1498～1573	◎
朝倉孝景	—	C	C	C	B	1509	1493～1556	◎
朝倉宗滴	—	B	B	B	B	1493	1477～1555	◎
朝倉政元	—	D	D	D	E	1562	1546～1629	△
朝倉義景	—	E	B	B	D	1549	1533～1573	◎
浅野忠吉	—	C	C	C	C	1562	1546～1621	○
浅野長政	—	C	C	E	C	1563	1547～1611	○
浅野長晟	—	C	C	C	C	1602	1586～1632	○
浅野幸長	—	B	C	C	C	1592	1576～1613	○
朝比奈信置	—	C	D	D	D	1544	1528～1582	△
朝比奈泰朝	—	C	C	D	C	1552	1536～1605	△
朝比奈泰能	—	B	C	D	C	1531	1515～1557	○
浅見景親	—	C	C	C	C	1552	1536～1600	○
浅見対馬守	—	C	D	C	D	1532	1516～1580	△
朝山日乗	—	E	E	B	D	1529	1513～1577	○
浅利勝頼	—	C	D	D	C	1564	1548～1612	○
浅利信種	—	B	E	E	E	1540	1524～1588	◎
浅利則祐	—	D	C	D	C	1538	1522～1586	○
足利藤氏	—	E	E	C	E	1550	1534～1566	△
足利晴氏	—	E	C	C	D	1524	1508～1560	△
足利義昭	—	E	E	S	C	1553	1537～1597	△
足利義氏	—	E	E	D	E	1557	1541～1583	△
足利義輝	—	B	D	B	D	1552	1536～1600	◎
足利義晴	—	D	D	D	D	1527	1511～1550	◎
鯵坂長実	—	B	C	C	D	1567	1551～1615	○
蘆田信蕃	—	C	C	B	D	1560	1544～1608	○
蘆田信守	—	C	C	C	C	1540	1524～1575	○
葦名盛氏	—	C	D	C	B	1537	1521～1580	◎
葦名盛重	—	C	D	E	D	1591	1575～1631	◎
葦名盛興	—	C	C	C	C	1563	1547～1575	◎
葦名盛隆	—	C	C	C	C	1577	1561～1584	◎
阿蘇惟賢	—	D	B	C	C	1544	1528～1592	△
阿蘇惟将	—	C	C	B	D	1541	1525～1583	×
阿蘇惟光	—	D	D	D	D	1583	1567～1616	△
阿曾沼元秀	—	C	C	C	C	1572	1556～1620	○
安宅信康	—	C	D	C	E	1563	1547～1596	△
安宅冬康	—	C	C	D	C	1542	1526～1575	△
阿閉貞征	—	C	C	D	C	1547	1531～1595	△
跡部勝資	—	D	C	B	B	1536	1520～1584	○
穴山小助	—	B	D	D	C	1583	1567～1641	○
穴山梅雪	—	B	C	C	C	1556	1540～1604	△
姉小路良頼	—	C	C	C	C	1520	1504～1573	◎
姉小路頼綱	—	B	C	B	B	1556	1540～1587	×

所属大名と身分					
シナリオ1	シナリオ2	シナリオ3	シナリオ4	シナリオ5	シナリオ6
今川家(部将)	今川家(重臣)	浪人(地侍)	徳川家(地侍)	−	今川家(地侍)
長尾家(部将)	上杉家(部将)	上杉家(部将)	上杉家(部将)	上杉家(部将)	上杉家(部将)
尼子家(宿老)	尼子家(宿老)	浪人(与力)	−	−	尼子家(宿老)
尼子家(宿老)	−	−	−	−	尼子家(宿老)
−	尼子家(宿老)	−	−	−	−
尼子家(主君)	−	−	−	−	尼子家(主君)
尼子家(宿老)	−	−	−	−	尼子家(宿老)
尼子家(宿老)	尼子家(主君)	−	−	−	尼子家(宿老)
今川家(組頭)	今川家(部将)	武田家(部将)	北条家(部将)	浪人(組頭)	今川家(組頭)
今川家(重臣)	今川家(与力)	−	−	−	今川家(重臣)
大内家(部将)	毛利家(部将)	毛利家(部将)	−	−	大内家(部将)
毛利家(宿老)	−	−	−	毛利家(重臣)	毛利家(部将)
浅井家(家老)	浅井家(家老)	浅井家(家老)	−	−	浅井家(家老)
武田家(重臣)	−	−	−	−	武田家(重臣)
長尾家(部将)	上杉家(部将)	上杉家(部将)	上杉家(部将)	上杉家(部将)	上杉家(部将)
三好家(部将)	三好家(部将)	織田家(部将)	浪人(部将)	−	豊臣家(部将)
−	−	−	−	堀尾家(与力)	−
赤松家(地侍)	−	−	−	生駒家(与力)	赤松家(地侍)
少弐家(与力)	竜造寺家(与力)	竜造寺家(与力)	竜造寺家(与力)	鍋島家(与力)	竜造寺家(与力)
少弐家(与力)	竜造寺家(与力)	竜造寺家(与力)	−	−	竜造寺家(組頭)
将軍家(部将)	将軍家(部将)	織田家(部将)	−	−	足利家(部将)
毛利家(部将)	毛利家(部将)	毛利家(部将)	毛利家(部将)	−	毛利家(部将)
毛利家(奉行)	毛利家(部将)	毛利家(奉行)	毛利家(奉行)	毛利家(奉行)	毛利家(奉行)
安東家(宿老)	−	−	−	−	秋田家(主君)
安東家(主君)	−	−	−	−	−
安東家(宿老)	安東家(宿老)	安東家(宿老)	安東家(宿老)	秋田家(主君)	秋田家(宿老)
安東家(宿老)	安東家(主君)	安東家(主君)	安東家(主君)	−	秋田家(宿老)
斎藤家(重臣)	斎藤家(重臣)	織田家(与力)	−	−	斎藤家(奉行)
上杉家(組頭)	武田家(組頭)	武田家(組頭)	−	−	長野家(組頭)
上杉家(部将)	上杉家(部将)	−	−	−	長野家(部将)
浅井家(地侍)	浅井家(地侍)	浅井家(地侍)	浪人(地侍)	京極家(地侍)	−
肝付家(家老)	肝付家(家老)	肝付家(家老)	−	−	肝付家(家老)
−	−	−	浪人(地侍)	加藤家(重臣)	加藤家(家老)
今川家(地侍)	浪人(地侍)	徳川家(重臣)	徳川家(重臣)	徳川家(奉行)	徳川家(重臣)
−	北畠家(部将)	−	−	−	−
−	浅井家(組頭)	織田家(組頭)	明智家(組頭)	−	−
−	−	−	池田家(部将)	池田家(組頭)	−
−	−	−	−	豊臣家(組頭)	−
−	島津家(組頭)	島津家(組頭)	島津家(組頭)	島津家(組頭)	−
織田家(地侍)	織田家(部将)	織田家(部将)	池田家(主君)	−	織田家(重臣)
織田家(地侍)	織田家(組頭)	織田家(組頭)	池田家(宿老)	池田家(主君)	織田家(地侍)
三好家(重臣)	−	−	−	−	三好家(重臣)
−	−	−	−	池田家(宿老)	−

	武将名	別名	能力値				仕官年	生没年	忠臣
			戦闘	内政	外交	謀略			
あ	安倍元真	―	B	D	D	C	1529	1513～1587	○
	甘粕長重	―	C	B	C	B	1577	1561～1610	○
	尼子勝久	―	C	C	C	D	1569	1553～1617	◎
	尼子国久	―	B	C	C	D	1506	1490～1559	◎
	尼子倫久	―	B	D	C	D	1560	1544～1623	○
	尼子晴久	―	B	B	D	D	1530	1514～1560	◎
	尼子誠久	―	B	C	C	E	1542	1526～1554	◎
	尼子義久	―	C	C	E	C	1554	1538～1610	◎
	天野景貫	―	C	D	C	E	1555	1539～1603	○
	天野景泰	―	D	D	C	C	1530	1514～1568	○
	天野隆重	―	C	C	D	C	1519	1503～1584	○
	天野元政	―	C	C	C	C	1575	1559～1609	◎
	雨森弥兵衛	―	C	C	C	E	1535	1519～1578	○
	甘利虎泰	―	B	C	C	C	1516	1500～1570	○
	鮎川盛長	―	B	D	E	B	1557	1541～1605	○
	荒木村重	―	B	C	D	C	1551	1535～1586	×
	有馬豊氏	―	C	C	C	C	1585	1569～1642	○
	有馬則頼	―	C	C	C	C	1549	1533～1602	△
	有馬晴信	―	C	C	B	C	1583	1567～1612	×
	有馬義貞	―	C	C	C	C	1537	1521～1576	△
	粟屋勝久	―	C	D	D	C	1538	1522～1576	△
	粟屋元種	―	C	E	C	C	1538	1522～1591	○
	安国寺恵瓊	―	D	C	A	B	1553	1537～1600	○
	安東舜季	秋田舜季	C	B	C	D	1530	1514～1563	◎
	安東定季	―	B	C	C	C	1515	1499～1553	◎
	安東実季	秋田実季	C	C	D	C	1592	1576～1645	◎
	安東愛季	―	C	B	C	C	1555	1539～1588	◎
	安藤守就	―	C	D	C	B	1519	1503～1592	○
	安中景繁	―	C	C	C	C	1541	1525～1589	○
	安中久繁	―	C	D	D	C	1526	1510～1564	○
	安養寺氏種	―	C	C	C	C	1558	1542～1606	○
	安楽兼清	―	D	C	D	D	1542	1526～1590	○
い	飯田覚兵衛	―	B	D	C	B	1581	1565～1634	○
	井伊直政	―	B	B	C	C	1577	1561～1602	○
	家城主水	―	C	C	C	C	1555	1539～1603	△
	猪飼野昇貞	―	C	D	C	D	1553	1537～1601	○
	伊木忠次	―	C	C	C	C	1556	1540～1604	○
	生熊長勝	―	C	D	D	D	1576	1560～1624	○
	池田貞秀	―	B	D	E	E	1578	1562～1619	○
	池田恒興	―	B	C	D	D	1552	1536～1600	○
	池田輝政	―	B	B	C	C	1580	1564～1613	○
	池田長正	―	C	C	D	C	1538	1522～1563	△
	池田長吉	―	C	C	C	C	1586	1570～1614	○

所属大名と身分					
シナリオ1	シナリオ2	シナリオ3	シナリオ4	シナリオ5	シナリオ6
織田家(地侍)	ー	ー	池田家(宿老)	ー	ー
ー	ー	ー	ー	生駒家(宿老)	ー
浪人(地侍)	松永家(組頭)	織田家(組頭)	羽柴家(与力)	生駒家(主君)	斎藤家(地侍)
今川家(部将)	松平家(奉行)	徳川家(家老)	徳川家(家老)	ー	徳川家(奉行)
浪人(忍者)	ー	ー	ー	ー	六角家(忍者)
ー	ー	ー	ー	織田家(与力)	ー
南部家(宿老)	南部家(宿老)	南部家(宿老)	ー	ー	南部家(家老)
今川家(部将)	松平家(重臣)	徳川家(組頭)	徳川家(重臣)	森家(与力)	徳川家(部将)
ー	ー	徳川家(組頭)	ー	徳川家(部将)	ー
ー	ー	ー	ー	豊臣家(組頭)	ー
浪人(地侍)	ー	浪人(組頭)	羽柴家(地侍)	豊臣家(組頭)	豊臣家(地侍)
浪人(地侍)	浪人(地侍)	浪人(地侍)	羽柴家(組頭)	豊臣家(家老)	豊臣家(奉行)
ー	ー	浪人(組頭)	浪人(地侍)	ー	ー
ー	伊達家(部将)	伊達家(部将)	伊達家(部将)	伊達家(部将)	ー
島津家(重臣)	ー	ー	ー	ー	島津家(家老)
島津家(家老)	ー	ー	ー	ー	島津家(部将)
島津家(家老)	島津家(重臣)	島津家(重臣)	島津家(家老)	島津家(家老)	島津家(重臣)
ー	島津家(家老)	島津家(家老)	島津家(家老)	島津家(重臣)	ー
島津家(家老)	島津家(重臣)	島津家(重臣)	島津家(家老)	島津家(家老)	島津家(部将)
浪人(地侍)	浪人(地侍)	浪人(地侍)	浪人(地侍)	浪人(地侍)	浪人(地侍)
伊達家(部将)	伊達家(部将)	伊達家(部将)	伊達家(部将)	伊達家(重臣)	伊達家(部将)
北条家(奉行)	北条家(奉行)	北条家(奉行)	北条家(奉行)	ー	北条家(奉行)
島津家(家老)	島津家(家老)	島津家(家老)	島津家(部将)	島津家(部将)	島津家(部将)
島津家(家老)	島津家(部将)	島津家(重臣)	島津家(家老)	ー	島津家(部将)
浅井家(重臣)	浅井家(重臣)	浅井家(重臣)	ー	ー	浅井家(重臣)
武田家(家老)	ー	ー	ー	ー	武田家(重臣)
今川家(地侍)	松平家(部将)	徳川家(部将)	徳川家(部将)	徳川家(部将)	徳川家(地侍)
北条家(重臣)	北条家(重臣)	北条家(奉行)	北条家(奉行)	豊臣家(部将)	北条家(奉行)
三好家(組頭)	三好家(組頭)	織田家(組頭)	ー	ー	豊臣家(組頭)
今川家(組頭)	今川家(組頭)	武田家(組頭)	徳川家(組頭)	ー	今川家(組頭)
ー	里見家(家老)	里見家(家老)	ー	ー	ー
毛利家(奉行)	毛利家(重臣)	毛利家(奉行)	毛利家(奉行)	ー	毛利家(重臣)
ー	一条家(宿老)	一条家(宿老)	ー	ー	ー
一条家(宿老)	一条家(主君)	一条家(主君)	浪人(与力)	ー	一条家(宿老)
武田家(宿老)	武田家(宿老)	武田家(宿老)	ー	ー	武田家(家老)
一条家(主君)	ー	ー	ー	ー	一条家(主君)
ー	一条家(宿老)	一条家(宿老)	浪人(与力)	ー	ー
一条家(宿老)	一条家(家老)	一条家(家老)	浪人(部将)	ー	一条家(宿老)
肝付家(部将)	肝付家(部将)	肝付家(部将)	ー	ー	肝付家(部将)
ー	ー	ー	ー	福島家(与力)	ー
大友家(重臣)	大友家(重臣)	大友家(重臣)	大友家(重臣)	ー	大友家(重臣)
大友家(重臣)	大友家(重臣)	大友家(部将)	大友家(部将)	ー	大友家(部将)
斎藤家(組頭)	ー	浪人(地侍)	羽柴家(馬廻)	福島家(部将)	斎藤家(組頭)

武将名	別名	能力値				仕官年	生没年	忠臣
		戦闘	内政	外交	謀略			
池田元助	—	B	D	E	D	1575	1559〜1623	○
生駒一正	—	B	D	D	C	1571	1555〜1610	△
生駒親正	—	C	C	C	C	1542	1526〜1603	○
石川数正	—	B	C	C	B	1549	1533〜1592	×
石川五右衛門	—	A	D	D	B	1546	1530〜1579	△
石川貞清	—	C	C	D	E	1577	1561〜1625	○
石川高信	—	C	D	C	B	1515	1499〜1580	○
石川康長	—	C	C	C	C	1567	1551〜1607	○
石川康通	—	C	C	C	C	1570	1554〜1607	○
石川頼明	—	B	E	D	E	1576	1560〜1624	○
石田正澄	—	D	B	C	C	1574	1558〜1600	○
石田三成	—	C	A	B	C	1576	1560〜1619	○
石橋義忠	—	C	C	D	D	1553	1537〜1601	○
石母田景頼	—	C	B	C	C	1567	1551〜1615	○
伊集院忠朗	—	C	C	B	C	1516	1500〜1559	△
伊集院忠倉	—	B	D	D	D	1539	1523〜1562	△
伊集院忠棟	—	C	C	B	B	1559	1543〜1607	△
伊集院忠真	—	C	C	C	C	1585	1569〜1633	×
伊集院久治	—	B	D	E	C	1550	1534〜1607	△
以心崇伝	—	E	E	C	A	1585	1569〜1633	○
泉田重光	—	C	C	C	C	1556	1540〜1604	○
伊勢貞運	—	C	C	D	D	1553	1537〜1601	○
伊勢貞成	—	B	C	E	E	1580	1564〜1628	○
伊勢貞真	—	B	C	C	D	1545	1529〜1593	○
磯野員昌	—	A	C	D	C	1541	1525〜1574	△
板垣信方	—	B	B	B	C	1516	1500〜1564	○
板倉勝重	—	C	B	C	B	1561	1545〜1624	○
板部岡江雪斎	—	C	B	E	D	1553	1537〜1609	△
伊丹親興	—	C	C	C	C	1526	1510〜1574	△
伊丹康直	—	D	D	D	E	1539	1523〜1596	○
市川玄東斎	—	D	C	B	C	1532	1516〜1580	△
市川経好	—	E	B	D	C	1549	1533〜1582	○
一条内政	—	C	D	E	C	1573	1557〜1580	△
一条兼定	—	D	E	E	D	1559	1543〜1585	◎
一条信龍	—	C	C	C	C	1544	1528〜1582	◎
一条房基	—	C	C	B	D	1538	1522〜1571	◎
一条政親	—	C	D	D	D	1593	1577〜1641	△
一条康政	—	D	C	D	D	1565	1549〜1613	○
伊地知重秀	—	C	C	D	D	1544	1528〜1580	△
市橋長勝	—	B	D	D	C	1573	1557〜1620	○
一万田鑑実	—	B	D	C	C	1550	1534〜1598	○
一万田鎮実	—	C	C	C	D	1571	1555〜1619	○
一柳直盛	—	C	C	C	C	1580	1564〜1636	○

所属大名と身分					
シナリオ1	シナリオ2	シナリオ3	シナリオ4	シナリオ5	シナリオ6
浪人(地侍)	―	浪人(地侍)	羽柴家(部将)	―	斎藤家(地侍)
―	―	―	―	中村家(重臣)	―
一色家(宿老)	一色家(宿老)	一色家(宿老)	―	―	浪人(宿老)
一色家(宿老)	一色家(宿老)	一色家(宿老)	―	―	浪人(宿老)
一色家(主君)	一色家(主君)	一色家(主君)	―	―	浪人(宿老)
里見家(組頭)	里見家(組頭)	里見家(組頭)	里見家(部将)	―	里見家(組頭)
伊達家(重臣)	伊達家(重臣)	伊達家(馬廻)	伊達家(組頭)	―	伊達家(部将)
―	伊東家(宿老)	伊東家(宿老)	浪人(宿老)	島津家(組頭)	―
伊東家(宿老)	伊東家(宿老)	伊東家(宿老)	浪人(宿老)	島津家(与力)	伊東家(宿老)
伊東家(宿老)	伊東家(宿老)	伊東家(宿老)	―	―	伊東家(宿老)
―	―	―	―	豊臣家(組頭)	―
伊東家(宿老)	伊東家(宿老)	伊東家(宿老)	浪人(宿老)	―	伊東家(宿老)
伊東家(主君)	伊東家(主君)	伊東家(主君)	浪人(宿老)	―	伊東家(主君)
伊東家(宿老)	伊東家(宿老)	―	―	―	伊東家(宿老)
今川家(地侍)	松平家(部将)	徳川家(部将)	徳川家(部将)	徳川家(部将)	徳川家(地侍)
一色家(組頭)	一色家(与力)	一色家(与力)	浪人(与力)	浪人(組頭)	浪人(組頭)
一色家(重臣)	一色家(重臣)	―	―	―	浪人(与力)
斎藤家(組頭)	斎藤家(組頭)	織田家(組頭)	神戸家(部将)	織田家(与力)	斎藤家(組頭)
―	―	―	―	小早川家(家老)	―
斎藤家(重臣)	斎藤家(重臣)	織田家(重臣)	神戸家(家老)	―	斎藤家(奉行)
葦名家(与力)	葦名家(与力)	葦名家(与力)	葦名家(与力)	―	葦名家(与力)
葦名家(組頭)	葦名家(組頭)	葦名家(組頭)	葦名家(部将)	浪人(組頭)	葦名家(組頭)
―	―	―	―	黒田家(重臣)	黒田家(部将)
―	織田家(馬廻)	織田家(馬廻)	―	―	―
北条家(組頭)	北条家(組頭)	北条家(組頭)	北条家(組頭)	―	北条家(組頭)
将軍家(組頭)	―	浪人(組頭)	―	―	足利家(組頭)
島津家(組頭)	島津家(組頭)	島津家(組頭)	島津家(組頭)	島津家(組頭)	島津家(組頭)
宇都宮家(家老)	宇都宮家(家老)	宇都宮家(家老)	宇都宮家(家老)	―	宇都宮家(家老)
浪人(地侍)	浪人(地侍)	浪人(地侍)	浪人(地侍)	―	浪人(地侍)
―	―	浪人(地侍)	浪人(地侍)	浪人(地侍)	―
―	―	―	―	前田家(部将)	―
今川家(宿老)	今川家(宿老)	浪人(地侍)	浪人(宿老)	徳川家(与力)	今川家(宿老)
今川家(主君)	今川家(主君)	―	―	―	今川家(主君)
武田家(組頭)	武田家(奉行)	武田家(奉行)	―	―	武田家(組頭)
島津家(与力)	島津家(与力)	島津家(組頭)	島津家(組頭)	島津家(部将)	島津家(組頭)
長尾家(重臣)	上杉家(重臣)	上杉家(重臣)	上杉家(重臣)	―	上杉家(重臣)
―	上杉家(部将)	上杉家(部将)	上杉家(部将)	―	―
葦名家(与力)	葦名家(与力)	葦名家(与力)	葦名家(与力)	―	相馬家(与力)
葦名家(与力)	佐竹家(与力)	佐竹家(与力)	佐竹家(与力)	佐竹家(与力)	相馬家(部将)
葦名家(与力)	佐竹家(与力)	佐竹家(与力)	佐竹家(与力)	―	相馬家(組頭)
三好家(重臣)	三好家(家老)	三好家(家老)	―	―	三好家(重臣)
相良家(奉行)	相良家(奉行)	相良家(奉行)	相良家(奉行)	小西家(部将)	加藤家(組頭)
相良家(重臣)	相良家(奉行)	相良家(奉行)	相良家(奉行)	小西家(奉行)	加藤家(部将)

い

武将名	別名	能力値				仕官年	生没年	忠臣
		戦闘	内政	外交	謀略			
一柳直末	―	C	C	C	C	1562	1546～1610	○
一色頼母	―	C	C	E	D	1581	1565～1626	○
一色義清	―	C	C	B	C	1565	1549～1613	◎
一色義定	―	B	C	C	D	1572	1556～1620	◎
一色義道	―	C	C	C	E	1534	1518～1579	◎
逸見信時	―	C	C	C	D	1566	1550～1600	△
伊東重信	―	C	C	C	C	1569	1553～1617	○
伊東祐勝	―	C	D	C	D	1586	1570～1634	◎
伊東祐兵	―	C	C	C	C	1575	1559～1600	◎
伊東祐基	―	C	C	C	C	1535	1519～1583	◎
伊藤長弘	―	B	E	E	D	1576	1560～1624	○
伊東義賢	―	D	C	E	C	1584	1568～1594	◎
伊東義祐	―	C	C	C	C	1528	1512～1585	◎
伊東義益	―	B	C	D	C	1562	1546～1569	◎
伊奈忠次	―	E	B	C	C	1566	1550～1609	○
稲富祐直	―	A	C	C	C	1568	1552～1611	○
稲富祐秀	―	B	D	C	C	1521	1505～1564	○
稲葉貞通	―	C	C	D	C	1562	1546～1603	○
稲葉正成	―	C	C	C	C	1587	1571～1628	○
稲葉一鉄	―	B	C	C	C	1531	1515～1588	△
猪苗代盛国	―	C	D	C	C	1542	1526～1590	△
猪苗代盛胤	―	C	D	C	D	1577	1561～1615	○
井上之房	―	B	B	C	D	1570	1554～1634	○
猪子高就	―	C	C	D	D	1546	1530～1594	○
猪俣邦憲	―	C	C	D	C	1572	1556～1620	○
茨木長隆	―	D	C	D	C	1532	1516～1580	△
指宿忠政	―	C	C	C	D	1558	1542～1625	○
今泉高光	―	D	C	C	D	1551	1535～1599	○
今井宗久	―	E	A	C	E	1536	1520～1593	○
今井宗薫	―	D	D	E	E	1568	1552～1627	○
今枝重直	―	C	C	C	C	1570	1554～1627	○
今川氏真	―	E	C	C	E	1554	1538～1614	△
今川義元	―	C	S	B	C	1535	1519～1588	◎
今福浄閑	―	D	B	B	C	1536	1520～1584	○
入来院重時	―	C	C	C	C	1561	1545～1609	○
色部顕長	―	B	D	D	C	1539	1523～1587	○
色部長実	―	C	C	C	D	1544	1528～1592	○
岩城重隆	―	C	C	D	C	1530	1514～1583	△
岩城親隆	―	C	C	C	C	1553	1537～1606	△
岩城常隆	―	D	D	C	C	1583	1567～1596	△
岩成友通	―	B	D	E	D	1533	1517～1581	○
犬童頼兄	―	C	C	B	C	1584	1568～1655	○
犬童頼安	―	B	C	D	B	1537	1521～1606	○

所属大名と身分					
シナリオ1	シナリオ2	シナリオ3	シナリオ4	シナリオ5	シナリオ6
朝倉家(部将)	朝倉家(部将)	朝倉家(部将)	―	―	朝倉家(部将)
朝倉家(重臣)	朝倉家(重臣)	―	―	―	朝倉家(重臣)
上杉家(宿老)	上杉家(重臣)	北条家(与力)	上杉家(重臣)	―	長野家(部将)
上杉家(主君)	上杉家(宿老)	上杉家(宿老)	―	―	長野家(与力)
―	―	―	丹羽家(組頭)	丹羽家(家老)	―
上杉家(部将)	上杉家(部将)	北条家(部将)	―	―	長野家(部将)
相良家(奉行)	―	―	―	―	加藤家(部将)
相良家(部将)	相良家(部将)	―	―	―	加藤家(組頭)
朝倉家(奉行)	朝倉家(奉行)	朝倉家(奉行)	―	―	朝倉家(奉行)
赤松家(地侍)	赤松家(地侍)	赤松家(地侍)	―	―	赤松家(地侍)
浦上家(部将)	浦上家(与力)	宇喜多家(宿老)	宇喜多家(主君)	宇喜多家(宿老)	宇喜多家(宿老)
浦上家(重臣)	浦上家(重臣)	宇喜多家(主君)	―	―	宇喜多家(主君)
浦上家(部将)	浦上家(与力)	宇喜多家(宿老)	宇喜多家(宿老)	宇喜多家(主君)	宇喜多家(宿老)
長尾家(家老)	上杉家(家老)	―	―	―	上杉家(奉行)
長尾家(重臣)	上杉家(家老)	上杉家(家老)	―	―	上杉家(奉行)
最上家(部将)	最上家(宿老)	―	―	―	最上家(家老)
斎藤家(重臣)	斎藤家(重臣)	―	―	―	斎藤家(奉行)
最上家(部将)	最上家(部将)	最上家(部将)	最上家(重臣)	最上家(重臣)	最上家(部将)
最上家(家老)	最上家(家老)	最上家(家老)	―	―	最上家(部将)
斎藤家(組頭)	―	―	―	滝川家(与力)	斎藤家(組頭)
大崎家(部将)	大崎家(部将)	大崎家(部将)	大崎家(部将)	―	大崎家(部将)
尼子家(部将)	尼子家(家老)	―	―	―	尼子家(重臣)
大友家(家老)	大友家(家老)	―	―	―	大友家(部将)
大友家(家老)	大友家(部将)	大友家(家老)	―	―	大友家(家老)
宇都宮家(与力)	宇都宮家(宿老)	宇都宮家(宿老)	宇都宮家(主君)	浪人(与力)	宇都宮家(宿老)
河野家(部将)	河野家(部将)	河野家(部将)	―	―	河野家(部将)
宇都宮家(主君)	宇都宮家(主君)	―	―	―	宇都宮家(宿老)
宇都宮家(宿老)	宇都宮家(宿老)	宇都宮家(主君)	―	―	宇都宮家(主君)
今川家(重臣)	今川家(重臣)	―	―	―	今川家(部将)
今川家(重臣)	今川家(重臣)	―	―	―	今川家(重臣)
―	佐竹家(地侍)	佐竹家(地侍)	佐竹家(地侍)	佐竹家(地侍)	―
尼子家(重臣)	尼子家(家老)	―	―	―	尼子家(重臣)
浦上家(宿老)	浦上家(馬廻)	浪人(馬廻)	浪人(馬廻)	浪人(馬廻)	浪人(与力)
赤松家(宿老)	浦上家(宿老)	―	―	―	浪人(与力)
―	浦上家(馬廻)	浪人(馬廻)	浪人(馬廻)	浪人(馬廻)	―
浦上家(宿老)	浦上家(宿老)	―	―	―	浪人(与力)
浦上家(主君)	浦上家(主君)	浪人(宿老)	―	―	浪人(与力)
―	島津家(部将)	島津家(部将)	島津家(部将)	―	―
―	―	武田家(剣豪)	真田家(剣豪)	真田家(剣豪)	真田家(剣豪)
島津家(部将)	島津家(部将)	島津家(部将)	島津家(部将)	―	島津家(部将)
姉小路家(重臣)	姉小路家(重臣)	姉小路家(重臣)	姉小路家(重臣)	―	姉小路家(重臣)
姉小路家(宿老)	武田家(地侍)	武田家(地侍)	浪人(地侍)	―	姉小路家(部将)
大内家(奉行)	―	―	―	―	―

	武将名	別名	能力値				仕官年	生没年	忠臣
			戦闘	内政	外交	謀略			
い	印牧能信	―	C	D	C	C	1550	1534～1598	○
	印牧美満	―	C	C	D	C	1521	1505～1569	○
う	上杉憲勝	―	D	D	C	E	1541	1525～1589	○
	上杉憲政	―	E	D	C	E	1539	1523～1579	◎
	上田重安	―	D	E	B	E	1577	1561～1650	○
	上田朝直	―	C	B	C	C	1510	1494～1582	△
	上村頼興	―	C	C	C	C	1506	1490～1557	○
	上村頼孝	―	D	D	E	C	1536	1520～1584	○
	魚住景固	―	D	C	C	D	1529	1513～1574	○
	魚住吉長	―	C	C	D	D	1540	1524～1578	○
	宇喜多忠家	―	C	C	D	C	1550	1534～1603	◎
	宇喜多直家	―	C	A	B	A+	1545	1529～1581	×
	宇喜多秀家	―	B	D	C	D	1589	1573～1655	◎
	宇佐美定満	―	C	C	B	A(軍)	1503	1487～1564	○
	宇佐美定行	―	B(軍)	B	D	C(軍)	1527	1511～1575	○
	氏家定直	―	C	B	B	C	1526	1510～1572	○
	氏家卜全	―	B	C	D	D	1531	1515～1571	△
	氏家光氏	―	B	D	C	C	1567	1551～1615	○
	氏家守棟	―	C	C	C	C	1548	1532～1581	○
	氏家行広	―	C	C	C	C	1562	1546～1615	○
	氏家吉継	―	C	D	D	C	1543	1527～1591	△
	牛尾幸清	―	B	C	C	C	1516	1500～1574	△
	臼杵鑑続	―	C	C	B	D	1530	1514～1571	○
	臼杵鑑速	―	C	B	D	C	1554	1538～1574	○
	宇都宮国綱	―	C	B	D	C	1584	1568～1607	◎
	宇都宮豊綱	―	C	D	D	D	1529	1513～1577	△
	宇都宮尚綱	―	B	D	C	C	1528	1512～1576	◎
	宇都宮広綱	―	C	C	D	B	1559	1543～1580	◎
	鵜殿長照	―	D	C	C	D	1547	1531～1562	○
	鵜殿長持	―	C	C	D	C	1530	1514～1578	○
	梅津政景	―	C	A	D	C	1597	1581～1633	○
	宇山久兼	―	C	C	D	C	1521	1505～1565	△
	浦上景行	―	C	D	C	D	1564	1548～1631	○
	浦上清宗	―	C	C	B	C	1556	1540～1589	○
	浦上成宗	―	C	D	C	C	1586	1570～1634	△
	浦上政宗	―	C	C	C	C	1524	1508～1566	○
	浦上宗景	―	C	C	C	B	1526	1510～1579	○
	上井覚兼	―	D	B	C	C	1561	1545～1589	○
	海野六郎	―	B	C	E	A	1584	1568～1642	○
え	頴娃久虎	―	B	E	C	C	1574	1558～1587	○
	江間輝盛	―	C	D	C	B	1551	1535～1594	×
	江間信盛	―	D	D	C	D	1557	1541～1605	△
	江良房栄	―	B	C	C	B	1524	1508～1572	○

所属大名と身分					
シナリオ1	シナリオ2	シナリオ3	シナリオ4	シナリオ5	シナリオ6
少弐家(部将)	竜造寺家(奉行)	竜造寺家(重臣)	竜造寺家(奉行)	―	竜造寺家(重臣)
少弐家(部将)	竜造寺家(宿老)	竜造寺家(重臣)	竜造寺家(重臣)	―	竜造寺家(重臣)
浅井家(部将)	浅井家(部将)	―	―	―	浅井家(部将)
伊達家(家老)	伊達家(家老)	伊達家(組頭)	伊達家(部将)	伊達家(重臣)	伊達家(重臣)
伊達家(家老)	伊達家(家老)	伊達家(部将)	伊達家(家老)	―	伊達家(家老)
赤松家(組頭)	赤松家(組頭)	赤松家(組頭)	―	―	赤松家(組頭)
北条家(与力)	―	―	―	―	北条家(与力)
河野家(家老)	河野家(家老)	河野家(家老)	河野家(家老)	―	河野家(家老)
伊達家(与力)	伊達家(与力)	伊達家(与力)	伊達家(与力)	伊達家(与力)	伊達家(与力)
大内家(宿老)	―	―	―	―	大内家(宿老)
大内家(主君)	―	―	―	―	大内家(主君)
大内家(宿老)	―	―	―	―	大内家(宿老)
南部家(与力)	南部家(重臣)	津軽家(主君)	津軽家(主君)	津軽家(主君)	津軽家(主君)
南部家(与力)	南部家(与力)	―	―	―	津軽家(宿老)
南部家(与力)	南部家(与力)	津軽家(宿老)	津軽家(宿老)	津軽家(宿老)	―
今川家(組頭)	松平家(重臣)	徳川家(重臣)	徳川家(重臣)	徳川家(重臣)	徳川家(部将)
今川家(地侍)	松平家(地侍)	徳川家(地侍)	徳川家(部将)	徳川家(重臣)	徳川家(地侍)
―	―	徳川家(重臣)	―	徳川家(部将)	―
今川家(組頭)	松平家(重臣)	徳川家(重臣)	徳川家(重臣)	―	徳川家(部将)
―	―	―	―	徳川家(部将)	武田家(地侍)
長尾家(組頭)	上杉家(組頭)	武田家(部将)	―	―	上杉家(組頭)
大崎家(宿老)	大崎家(宿老)	大崎家(主君)	大崎家(主君)	上杉家(組頭)	大崎家(宿老)
大崎家(主君)	大崎家(主君)	大崎家(宿老)	―	―	大崎家(主君)
大崎家(宿老)	大崎家(組頭)	大崎家(家老)	大崎家(宿老)	―	大崎家(宿老)
―	―	―	丹羽家(組頭)	豊臣家(組頭)	―
―	―	―	徳川家(部将)	―	―
北条家(宿老)	北条家(宿老)	北条家(宿老)	北条家(部将)	―	北条家(宿老)
山名家(部将)	山名家(部将)	山名家(部将)	浪人(部将)	―	山名家(部将)
―	―	―	安東家(部将)	秋田家(重臣)	―
織田家(地侍)	―	―	―	太田家(主君)	―
上杉家(与力)	佐竹家(与力)	佐竹家(与力)	佐竹家(与力)	―	北条家(宿老)
―	―	―	―	前田家(重臣)	―
浪人(地侍)	浪人(地侍)	浪人(地侍)	羽柴家(部将)	豊臣家(重臣)	豊臣家(部将)
北条家(与力)	里見家(与力)	―	―	―	北条家(宿老)
浦上家(奉行)	浦上家(奉行)	宇喜多家(部将)	―	―	宇喜多家(部将)
―	佐竹家(地侍)	佐竹家(地侍)	佐竹家(部将)	佐竹家(部将)	―
佐竹家(組頭)	佐竹家(組頭)	佐竹家(組頭)	佐竹家(重臣)	佐竹家(重臣)	佐竹家(組頭)
大友家(主君)	―	―	―	―	大友家(宿老)
大友家(宿老)	大友家(主君)	大友家(主君)	大友家(主君)	―	大友家(主君)
大友家(宿老)	大友家(宿老)	大友家(宿老)	大友家(宿老)	浪人(宿老)	大友家(宿老)
三好家(部将)	三好家(部将)	三好家(重臣)	―	―	三好家(部将)
河野家(部将)	河野家(部将)	―	―	―	河野家(部将)
河野家(家老)	河野家(家老)	河野家(家老)	河野家(家老)	―	河野家(家老)

	武将名	別名	能力値				仕官年	生没年	忠臣
			戦闘	内政	外交	謀略			
え	江里口信常	ー	B	E	C	E	1562	1546～1610	○
	円城寺信胤	ー	C	C	D	C	1562	1546～1610	○
	遠藤直経	ー	B	E	C	C	1550	1534～1570	○
	遠藤宗信	ー	E	B	C	C	1572	1556～1620	○
	遠藤基信	ー	E	A	C	C	1548	1532～1585	○
お	淡河定範	ー	C	C	C	C	1573	1557～1621	△
	大石定久	ー	C	C	C	C	1520	1504～1563	○
	大祝安勝	ー	D	C	D	D	1548	1532～1596	△
	大内定綱	ー	B	B	B	B	1572	1556～1620	△
	大内輝弘	ー	C	D	C	B	1536	1520～1569	◎
	大内義隆	ー	D	C	C	D	1523	1507～1551	◎
	大内義長	ー	E	D	D	E	1546	1530～1557	◎
	大浦為信	津軽為信	B	B	B	A	1566	1550～1606	○
	大浦為則	ー	C	E	C	C	1539	1523～1567	◎
	大浦信牧	津軽信牧	C	B	C	C	1600	1584～1643	○
	大久保忠佐	ー	B	E	D	D	1554	1538～1614	○
	大久保忠隣	ー	C	B	D	C	1569	1553～1628	△
	大久保忠常	ー	C	C	C	C	1593	1577～1616	○
	大久保忠世	ー	B	C	D	C	1548	1532～1594	○
	大久保長安	ー	E	S	D	C	1561	1545～1613	○
	大熊朝秀	ー	B	C	C	D	1535	1519～1588	△
	大崎義隆	ー	D	D	E	E	1564	1548～1603	×
	大崎義直	ー	D	E	D	D	1539	1523～1577	×
	大崎義政	ー	C	C	C	C	1566	1550～1600	△
	大島光義	ー	B	D	C	D	1581	1565～1622	○
	大須賀康高	ー	B	D	D	D	1543	1527～1589	○
	太田氏房	ー	C	D	E	D	1581	1565～1592	◎
	大田垣輝延	ー	D	C	C	D	1551	1535～1599	△
	大高胡斎	ー	B	C	D	C	1574	1558～1622	○
	太田一吉	ー	C	C	C	D	1569	1553～1617	△
	太田資正	ー	B	D	C	C	1538	1522～1591	○
	太田長知	ー	B	C	E	C	1569	1553～1617	○
	大谷吉継	ー	B(軍)	A	B	B	1575	1559～1600	○
	太田康資	ー	B	C	E	C	1532	1516～1566	△
	太田原長時	ー	C	C	C	C	1532	1516～1580	○
	大塚隆通	ー	C	D	C	C	1572	1556～1620	○
	大塚親成	ー	C	C	D	E	1552	1536～1605	△
	大友義鑑	ー	C	B	C	C	1528	1512～1549	◎
	大友宗麟	ー	C	A	S	B	1546	1530～1587	◎
	大友義統	ー	C	C	E	C	1574	1558～1610	◎
	大西覚養	ー	C	C	C	C	1539	1523～1587	△
	大野利直	ー	C	C	D	C	1509	1493～1580	△
	大野直昌	ー	D	B	C	D	1546	1530～1594	△

所属大名と身分

シナリオ1	シナリオ2	シナリオ3	シナリオ4	シナリオ5	シナリオ6
浪人(地侍)	ー	浪人(地侍)	羽柴家(地侍)	豊臣家(重臣)	豊臣家(地侍)
ー	ー	ー	ー	豊臣家(重臣)	ー
今川家(重臣)	今川家(家老)	ー	ー	ー	今川家(部将)
ー	北条家(組頭)	北条家(組頭)	北条家(部将)	ー	ー
ー	北条家(組頭)	北条家(馬廻)	北条家(組頭)	浪人(組頭)	ー
少弐家(与力)	竜造寺家(与力)	竜造寺家(与力)	竜造寺家(与力)	ー	竜造寺家(組頭)
ー	竜造寺家(与力)	ー	ー	ー	ー
少弐家(与力)	竜造寺家(与力)	竜造寺家(与力)	竜造寺家(与力)	鍋島家(与力)	竜造寺家(与力)
小笠原家(宿老)	ー	ー	浪人(地侍)	ー	小笠原家(宿老)
小笠原家(宿老)	上杉家(組頭)	ー	上杉家(組頭)	ー	小笠原家(宿老)
小笠原家(宿老)	ー	ー	ー	ー	小笠原家(宿老)
小笠原家(主君)	上杉家(与力)	上杉家(与力)	ー	ー	小笠原家(主君)
今川家(地侍)	ー	徳川家(組頭)	ー	徳川家(組頭)	ー
小笠原家(剣豪)	武田家(剣豪)	徳川家(剣豪)	徳川家(剣豪)	徳川家(剣豪)	小笠原家(剣豪)
織田家(馬廻)	織田家(馬廻)	織田家(馬廻)	ー	ー	織田家(馬廻)
浦上家(馬廻)	浦上家(馬廻)	宇喜多家(奉行)	宇喜多家(奉行)	ー	宇喜多家(重臣)
今川家(地侍)	ー	徳川家(組頭)	ー	徳川家(組頭)	徳川家(地侍)
今川家(組頭)	今川家(奉行)	武田家(組頭)	徳川家(組頭)	ー	今川家(組頭)
今川家(部将)	今川家(部将)	武田家(部将)	ー	ー	今川家(部将)
ー	里見家(組頭)	里見家(組頭)	里見家(部将)	ー	ー
佐竹家(家老)	佐竹家(家老)	佐竹家(重臣)	佐竹家(家老)	ー	佐竹家(重臣)
一向宗(家老)	赤松家(家老)	赤松家(家老)	浪人(家老)	ー	一向宗(部将)
佐竹家(家老)	佐竹家(家老)	佐竹家(家老)	ー	ー	佐竹家(家老)
浦上家(馬廻)	浦上家(馬廻)	宇喜多家(馬廻)	宇喜多家(馬廻)	宇喜多家(馬廻)	宇喜多家(馬廻)
里見家(重臣)	里見家(重臣)	里見家(重臣)	ー	ー	里見家(重臣)
里見家(与力)	里見家(組頭)	里見家(与力)	里見家(与力)	ー	里見家(部将)
里見家(与力)	里見家(組頭)	里見家(与力)	里見家(与力)	ー	里見家(部将)
ー	ー	ー	ー	滝川家(与力)	ー
相良家(組頭)	相良家(組頭)	相良家(部将)	相良家(重臣)	小西家(重臣)	加藤家(組頭)
ー	里見家(組頭)	里見家(組頭)	里見家(組頭)	徳川家(組頭)	ー
浅井家(組頭)	浅井家(組頭)	浅井家(組頭)	明智家(部将)	藤堂家(部将)	浅井家(組頭)
ー	波多野家(組頭)	波多野家(組頭)	浪人(組頭)	浪人(組頭)	ー
今川家(部将)	今川家(部将)	武田家(部将)	徳川家(部将)	徳川家(部将)	徳川家(部将)
ー	織田家(組頭)	織田家(部将)	柴田家(部将)	前田家(奉行)	織田家(部将)
北畠家(重臣)	北畠家(重臣)	ー	北畠家(重臣)	ー	北畠家(重臣)
ー	ー	ー	ー	丹羽家(組頭)	ー
浦上家(部将)	浦上家(部将)	宇喜多家(家老)	宇喜多家(家老)	ー	宇喜多家(重臣)
浦上家(組頭)	浦上家(組頭)	宇喜多家(組頭)	宇喜多家(組頭)	ー	宇喜多家(組頭)
結城家(与力)	結城家(与力)	結城家(与力)	結城家(与力)	ー	結城家(与力)
織田家(宿老)	織田家(宿老)	織田家(宿老)	浪人(宿老)	浪人(宿老)	織田家(家老)
織田家(宿老)	織田家(宿老)	織田家(宿老)	北畠家(主君)	豊臣家(部将)	織田家(宿老)
織田家(宿老)	織田家(宿老)	織田家(宿老)	神戸家(宿老)	豊臣家(部将)	織田家(家老)
織田家(宿老)	ー	ー	ー	豊臣家(組頭)	ー

	武将名	別名	能力値				仕官年	生没年	忠臣
			戦闘	内政	外交	謀略			
お	大野治長	ー	D	C	C	C	1584	1568〜1615	○
	大野治房	ー	C	B	D	D	1587	1571〜1635	○
	大原資良	ー	C	D	C	C	1528	1512〜1576	○
	大藤式部	ー	C	E	E	D	1550	1534〜1598	○
	大藤信興	ー	C	D	E	E	1571	1555〜1619	○
	大村純忠	ー	C	D	D	C	1549	1533〜1587	△
	大村純前	ー	C	C	C	C	1518	1502〜1566	△
	大村喜前	ー	C	D	B	C	1585	1569〜1616	△
	小笠原貞種	ー	D	D	D	C	1544	1528〜1592	△
	小笠原貞慶	ー	C	C	C	C	1562	1546〜1595	△
	小笠原長隆	ー	C	C	C	E	1525	1509〜1573	△
	小笠原長時	ー	C	C	D	C	1530	1514〜1583	△
	小笠原信之	ー	C	C	C	C	1585	1569〜1633	○
	小笠原秀政	ー	B	E	E	E	1583	1567〜1626	△
	岡田重善	ー	B	C	C	D	1543	1527〜1583	○
	岡利勝	ー	C	B	B	C	1546	1530〜1592	△
	岡部長盛	ー	B	D	D	C	1584	1568〜1632	○
	岡部正綱	ー	C	C	C	C	1558	1542〜1583	○
	岡部元信	ー	B	D	C	E	1561	1545〜1609	○
	岡本氏元	ー	C	D	D	D	1566	1550〜1600	△
	岡本顕逸	ー	D	C	B	C	1546	1530〜1594	○
	岡本周登	ー	D	C	D	D	1545	1529〜1593	○
	岡本禅哲	ー	D	B	A	C	1525	1509〜1583	○
	岡本秀広	ー	B	C	E	D	1561	1545〜1609	△
	岡本通輔	ー	C	C	C	C	1532	1516〜1580	△
	岡本元悦	ー	B	D	C	E	1556	1540〜1604	△
	岡本安泰	ー	C	C	D	C	1552	1536〜1600	△
	岡本良勝	ー	C	C	C	C	1560	1544〜1608	○
	岡本頼氏	ー	B	E	C	C	1553	1537〜1606	○
	岡本頼元	ー	C	D	C	C	1572	1556〜1620	△
	小川祐忠	ー	B	D	C	D	1553	1537〜1601	△
	荻野直義	ー	C	C	D	D	1587	1571〜1635	△
	奥平信昌	ー	C	D	E	C	1571	1555〜1615	△
	奥村永福	ー	B	C	C	C	1558	1542〜1624	○
	奥山常陸介	ー	C	D	D	C	1552	1536〜1595	△
	奥山正之	ー	D	D	C	E	1597	1581〜1645	○
	長船貞親	ー	C	B	C	C	1544	1528〜1592	△
	長船綱直	ー	C	B	E	D	1570	1554〜1618	△
	小田氏治	ー	B	D	C	D	1547	1531〜1590	△
	織田有楽斎	ー	C	C	B	D	1563	1547〜1621	○
	織田信雄	北畠信雄	D	C	E	E	1574	1558〜1618	△
	織田信包	ー	C	C	B	C	1559	1543〜1614	◎
	織田信高	ー	C	E	D	D	1586	1570〜1602	○

所属大名と身分					
シナリオ1	シナリオ2	シナリオ3	シナリオ4	シナリオ5	シナリオ6
織田家(宿老)	織田家(宿老)	織田家(宿老)	神戸家(主君)	－	織田家(宿老)
織田家(宿老)	織田家(宿老)	織田家(宿老)	－	－	織田家(宿老)
織田家(宿老)	織田家(主君)	織田家(主君)	－	－	織田家(主君)
織田家(主君)	－	－	－	－	織田家(宿老)
織田家(宿老)	織田家(宿老)	織田家(宿老)	－	－	織田家(家老)
織田家(宿老)	－	－	－	－	織田家(家老)
織田家(宿老)	－	－	－	－	織田家(宿老)
－	－	－	－	丹羽家(与力)	－
織田家(宿老)	織田家(宿老)	織田家(宿老)	浪人(宿老)	織田家(主君)	織田家(宿老)
結城家(与力)	－	－	－	－	－
結城家(組頭)	結城家(組頭)	結城家(組頭)	結城家(部将)	結城家(部将)	－
松永家(与力)	松永家(与力)	－	－	－	松永家(部将)
松永家(与力)	松永家(与力)	－	－	－	松永家(部将)
伊達家(部将)	伊達家(部将)	伊達家(部将)	伊達家(部将)	伊達家(重臣)	伊達家(部将)
伊達家(重臣)	伊達家(重臣)	伊達家(重臣)	伊達家(家老)	－	伊達家(重臣)
佐竹家(家老)	佐竹家(家老)	佐竹家(重臣)	佐竹家(家老)	佐竹家(家老)	佐竹家(家老)
－	－	浪人(地侍)	羽柴家(地侍)	豊臣家(部将)	－
－	佐竹家(地侍)	佐竹家(地侍)	佐竹家(部将)	佐竹家(部将)	－
－	佐竹家(組頭)	佐竹家(組頭)	佐竹家(重臣)	佐竹家(重臣)	－
佐竹家(部将)	佐竹家(部将)	佐竹家(部将)	佐竹家(重臣)	－	佐竹家(部将)
小野寺家(主君)	小野寺家(主君)	小野寺家(主君)	小野寺家(主君)	－	小野寺家(主君)
小野寺家(宿老)	小野寺家(宿老)	小野寺家(宿老)	小野寺家(宿老)	－	小野寺家(宿老)
小野寺家(宿老)	小野寺家(宿老)	小野寺家(宿老)	小野寺家(宿老)	小野寺家(宿老)	－
小野寺家(宿老)	小野寺家(宿老)	小野寺家(宿老)	小野寺家(宿老)	小野寺家(主君)	小野寺家(宿老)
上杉家(部将)	武田家(部将)	武田家(重臣)	北条家(部将)	－	長野家(部将)
上杉家(与力)	上杉家(与力)	－	－	－	長野家(与力)
武田家(組頭)	武田家(組頭)	武田家(組頭)	－	－	武田家(組頭)
北畠家(組頭)	北畠家(与力)	徳川家(与力)	徳川家(与力)	－	北畠家(組頭)
武田家(重臣)	武田家(家老)	－	－	－	武田家(重臣)
結城家(宿老)	結城家(宿老)	結城家(宿老)	－	－	結城家(家老)
武田家(組頭)	武田家(家老)	武田家(家老)	－	－	武田家(部将)
武田家(組頭)	武田家(与力)	武田家(与力)	－	－	武田家(組頭)
－	武田家(組頭)	武田家(組頭)	－	－	－
阿蘇家(重臣)	阿蘇家(家老)	大友家(部将)	阿蘇家(重臣)	－	阿蘇家(家老)
阿蘇家(部将)	阿蘇家(部将)	大友家(組頭)	阿蘇家(部将)	－	阿蘇家(部将)
三好家(部将)	三好家(部将)	三好家(部将)	－	－	三好家(部将)
浅井家(家老)	浅井家(家老)	浅井家(家老)	－	－	浅井家(家老)
三好家(部将)	三好家(部将)	三好家(部将)	－	－	十河家(部将)
長尾家(重臣)	上杉家(重臣)	上杉家(重臣)	－	－	上杉家(重臣)
－	蛎崎家(宿老)	蛎崎家(宿老)	蛎崎家(宿老)	蛎崎家(宿老)	－
蛎崎家(主君)	蛎崎家(主君)	蛎崎家(主君)	－	－	蛎崎家(宿老)
長尾家(部将)	上杉家(部将)	上杉家(部将)	－	－	上杉家(部将)
蛎崎家(宿老)	蛎崎家(宿老)	蛎崎家(宿老)	蛎崎家(宿老)	－	－

	武将名	別名	能力値				仕官年	生没年	忠臣
			戦闘	内政	外交	謀略			
お	織田信孝	神戸信孝	C	C	C	C	1574	1558～1622	○
	織田信忠	―	C	B	E	C	1573	1557～1626	◎
	織田信長	―	A	A+	A+	B+	1550	1534～1598	×
	織田信秀	―	B	C	B	C	1526	1510～1551	◎
	織田信広	―	C	D	D	B	1540	1524～1588	○
	織田信光	―	B	C	C	C	1534	1518～1582	◎
	織田信行	―	C	C	C	D	1551	1535～1604	△
	織田秀雄	―	D	D	D	D	1599	1583～1610	△
	織田秀信	―	C	B	C	C	1596	1580～1644	◎
	小田政治	―	C	D	E	C	1508	1492～1561	△
	小田守治	―	C	E	D	C	1573	1557～1621	△
	越智家広	―	D	C	D	D	1524	1508～1567	△
	越智家増	―	D	D	D	D	1534	1518～1577	△
	鬼庭綱元	―	C	C	C	C	1565	1549～1640	○
	鬼庭良直	―	A	D	D	C	1529	1513～1585	○
	小貫頼久	―	C	B	B	C	1555	1539～1603	○
	小野木重次	―	C	C	D	C	1578	1562～1611	○
	小野崎従道	―	C	C	C	C	1574	1558～1622	△
	小野崎通隆	―	C	C	C	C	1552	1536～1600	△
	小野崎義昌	―	C	C	D	C	1552	1536～1600	○
	小野寺景道	―	B	D	C	D	1540	1524～1596	◎
	小野寺茂道	―	C	D	E	E	1581	1565～1629	◎
	小野寺康道	―	B	E	E	C	1593	1577～1641	◎
	小野寺義道	―	B	D	E	D	1578	1562～1631	◎
	小幡信貞	―	B	C	B	C	1542	1526～1590	△
	小幡憲重	―	C	D	C	C	1533	1517～1581	○
	小幡昌盛	―	B	C	E	D	1550	1534～1582	○
	小浜景隆	―	C	D	D	D	1554	1538～1597	△
	飯富虎昌	―	A	D	C	C	1519	1503～1565	○
	小山高朝	―	D	C	D	D	1524	1508～1577	○
	小山田信茂	―	B	C	D	C	1555	1539～1603	○
	小山田昌行	―	C	C	C	D	1558	1542～1606	○
	小山田昌貞	―	C	C	D	D	1561	1545～1609	○
か	甲斐宗運	―	B	B	C	B	1531	1515～1583	○
	甲斐親英	―	C	C	C	D	1554	1538～1597	○
	海部友光	―	D	C	D	D	1536	1520～1584	○
	海北綱親	―	B	C	E	B	1524	1508～1573	○
	香川元景	―	D	D	C	D	1541	1525～1574	△
	柿崎景家	―	A	E	C	D	1527	1511～1575	△
	蠣崎公広	―	C	C	C	C	1612	1596～1665	◎
	蠣崎季広	―	C	C	B	C	1523	1507～1578	◎
	柿崎晴家	―	B	D	C	D	1551	1535～1599	△
	蠣崎正広	―	E	C	C	B	1562	1546～1586	○

所属大名と身分					
シナリオ1	シナリオ2	シナリオ3	シナリオ4	シナリオ5	シナリオ6
蛎崎家(宿老)	蛎崎家(宿老)	蛎崎家(宿老)	蛎崎家(主君)	蛎崎家(主君)	蛎崎家(主君)
―	―	―	―	蛎崎家(宿老)	―
浪人(地侍)	―	―	―	早川家(与力)	豊臣家(地侍)
山名家(奉行)	山名家(奉行)	―	―	―	山名家(奉行)
山名家(組頭)	―	―	―	豊臣家(組頭)	山名家(組頭)
山名家(組頭)	山名家(重臣)	山名家(奉行)	羽柴家(組頭)	―	山名家(組頭)
―	―	武田家(剣豪)	真田家(剣豪)	真田家(剣豪)	真田家(剣豪)
伊達家(与力)	伊達家(与力)	伊達家(与力)	大崎家(与力)	―	伊達家(与力)
―	北条家(組頭)	北条家(馬廻)	北条家(組頭)	浪人(組頭)	―
―	北条家(重臣)	北条家(重臣)	北条家(重臣)	浪人(組頭)	―
上杉家(組頭)	佐竹家(組頭)	佐竹家(部将)	佐竹家(重臣)	佐竹家(重臣)	北条家(部将)
浪人(地侍)	―	―	―	豊臣家(組頭)	豊臣家(地侍)
―	―	―	安東家(重臣)	秋田家(重臣)	―
―	伊達家(与力)	伊達家(与力)	伊達家(与力)	伊達家(与力)	―
一条家(組頭)	―	―	長宗我部家(組頭)	―	一条家(組頭)
浪人(地侍)	―	浅井家(地侍)	羽柴家(組頭)	豊臣家(家老)	豊臣家(地侍)
伊達家(重臣)	伊達家(重臣)	伊達家(重臣)	伊達家(重臣)	伊達家(家老)	伊達家(奉行)
―	伊達家(重臣)	伊達家(重臣)	伊達家(重臣)	伊達家(重臣)	―
毛利家(部将)	毛利家(部将)	毛利家(部将)	毛利家(組頭)	毛利家(部将)	毛利家(部将)
長尾家(組頭)	上杉家(組頭)	上杉家(組頭)	―	―	上杉家(組頭)
今川家(重臣)	今川家(家老)	―	―	―	今川家(家老)
浪人(地侍)	浪人(地侍)	浪人(地侍)	羽柴家(組頭)	加藤家(主君)	加藤家(主君)
―	―	―	―	藤堂家(与力)	―
里見家(組頭)	里見家(部将)	里見家(部将)	里見家(部将)	徳川家(組頭)	里見家(組頭)
―	里見家(組頭)	里見家(組頭)	里見家(組頭)	徳川家(組頭)	―
―	―	―	―	加藤家(家老)	加藤家(宿老)
浪人(地侍)	浪人(地侍)	浪人(地侍)	羽柴家(馬廻)	藤堂家(与力)	豊臣家(部将)
葦名家(家老)	葦名家(家老)	葦名家(家老)	葦名家(家老)	―	葦名家(重臣)
―	―	―	―	金森家(宿老)	―
織田家(馬廻)	織田家(組頭)	織田家(組頭)	柴田家(重臣)	金森家(主君)	織田家(馬廻)
―	―	―	―	金森家(宿老)	―
斎藤家(剣豪)	浪人(剣豪)	織田家(剣豪)	明智家(剣豪)	福島家(剣豪)	斎藤家(剣豪)
上杉家(与力)	上杉家(与力)	―	上杉家(与力)	―	長野家(与力)
―	―	―	真田家(組頭)	真田家(組頭)	―
―	神保家(部将)	神保家(部将)	浪人(部将)	―	―
島津家(重臣)	島津家(重臣)	島津家(部将)	島津家(部将)	島津家(重臣)	島津家(重臣)
少弐家(部将)	大友家(与力)	大友家(部将)	竜造寺家(与力)	―	竜造寺家(組頭)
少弐家(与力)	大友家(与力)	大友家(与力)	―	―	竜造寺家(与力)
―	大友家(与力)	大友家(組頭)	竜造寺家(与力)	浪人(与力)	―
少弐家(部将)	大友家(与力)	大友家(部将)	竜造寺家(与力)	―	竜造寺家(組頭)
上杉家(剣豪)	上杉家(剣豪)	上杉家(剣豪)	―	―	長野家(剣豪)
山名家(与力)	―	浪人(地侍)	羽柴家(部将)	筒井家(与力)	山名家(与力)
六角家(地侍)	六角家(馬廻)	織田家(馬廻)	蒲生家(宿老)	―	蒲生家(主君)

武将名	別名	能力値				仕官年	生没年	忠臣
		戦闘	内政	外交	謀略			
か 蠣崎慶広	―	C	B	C	C	1565	1549～1616	◎
蠣崎由広	―	C	C	C	C	1610	1594～1658	◎
垣見一直	―	B	C	D	E	1576	1560～1624	○
垣屋続成	―	E	C	C	B	1496	1480～1570	△
垣屋恒総	―	C	D	D	C	1576	1560～1624	○
垣屋光成	―	C	C	D	C	1534	1518～1592	△
筧十蔵	―	B	D	C	C	1587	1571～1645	○
葛西晴信	―	D	D	D	B	1550	1534～1593	×
笠原康明	―	D	C	C	C	1571	1555～1619	○
笠原康勝	―	C	D	C	D	1552	1536～1600	△
梶原政景	―	B	C	C	D	1561	1545～1614	○
糟屋武則	―	B	E	C	D	1576	1560～1624	○
嘉成重盛	―	B	C	D	B	1555	1539～1603	○
片平親綱	―	C	C	C	C	1578	1562～1626	△
片岡光綱	―	C	D	C	E	1549	1533～1592	△
片桐且元	―	C	C	B	C	1572	1556～1615	○
片倉景綱	―	B	A	C	B	1573	1557～1615	○
片倉重長	―	B	C	C	C	1601	1585～1659	○
堅田元慶	―	C	C	C	C	1582	1566～1625	○
加地春綱	―	C	C	C	B	1529	1513～1577	○
葛山氏元	―	C	D	C	C	1539	1523～1587	○
加藤清正	―	A+	B+	C	C	1578	1562～1611	○
加藤貞泰	―	B	C	B	C	1596	1580～1623	○
加藤信景	―	C	D	E	D	1566	1550～1614	△
加藤弘景	―	C	C	C	D	1586	1570～1634	△
加藤正方	―	D	A	B	E	1596	1580～1648	○
加藤嘉明	―	B	C	C	C	1579	1563～1631	○
金上盛備	―	C	B	B	D	1543	1527～1589	○
金森重近	―	E	C	B	C	1600	1584～1656	○
金森長近	―	C	C	D	C	1540	1524～1608	△
金森可重	―	C	C	B	C	1574	1558～1615	○
可児才蔵	―	A	E	E	E	1571	1555～1613	△
金井秀景	―	D	C	C	D	1544	1528～1590	○
金子家清	―	C	C	C	D	1575	1559～1623	△
狩野宣久	―	D	C	C	D	1544	1528～1592	○
樺山久高	―	B	C	D	D	1572	1556～1635	○
蒲池鑑広	―	C	C	D	D	1545	1529～1598	×
蒲池鑑盛	―	B	C	C	B	1535	1519～1578	△
蒲池鎮運	―	C	C	C	C	1560	1544～1613	△
蒲池鎮並	―	C	C	B	C	1547	1531～1600	△
上泉信綱	―	A+	E	C	C	1524	1508～1573	○
亀井茲矩	―	C	B	B	C	1573	1557～1612	○
蒲生氏郷	―	B+	B+	C	B	1572	1556～1594	○

所属大名と身分					
シナリオ1	シナリオ2	シナリオ3	シナリオ4	シナリオ5	シナリオ6
六角家(組頭)	六角家(与力)	織田家(部将)	蒲生家(主君)	ー	蒲生家(宿老)
六角家(与力)	六角家(与力)	ー	ー	ー	蒲生家(宿老)
ー	ー	ー	蒲生家(重臣)	浪人(重臣)	蒲生家(重臣)
ー	ー	ー	蒲生家(重臣)	浪人(重臣)	蒲生家(重臣)
ー	ー	ー	蒲生家(部将)	豊臣家(部将)	蒲生家(部将)
ー	ー	ー	ー	蒲生家(宿老)	ー
六角家(地侍)	六角家(馬廻)	織田家(馬廻)	蒲生家(宿老)	蒲生家(主君)	蒲生家(宿老)
ー	ー	ー	蒲生家(重臣)	浪人(重臣)	蒲生家(重臣)
朝倉家(奉行)	朝倉家(奉行)	朝倉家(奉行)	ー	ー	朝倉家(奉行)
島津家(家老)	島津家(部将)	島津家(重臣)	ー	ー	島津家(部将)
武田家(宿老)	武田家(家老)	武田家(家老)	ー	ー	武田家(部将)
斎藤家(組頭)	織田家(組頭)	織田家(部将)	ー	ー	斎藤家(部将)
長尾家(重臣)	上杉家(重臣)	上杉家(重臣)	北条家(重臣)	ー	上杉家(重臣)
長尾家(重臣)	上杉家(部将)	上杉家(部将)	ー	ー	上杉家(部将)
北畠家(地侍)	願証寺(宿老)	ー	ー	ー	一向宗(重臣)
北畠家(地侍)	願証寺(主君)	浪人(宿老)	ー	ー	ー
一向宗(主君)	一向宗(主君)	ー	浪人(家老)	ー	ー
北畠家(家老)	北畠家(家老)	ー	神戸家(宿老)	ー	北畠家(重臣)
大内家(与力)	大友家(与力)	大友家(組頭)	大友家(与力)	ー	黒田家(組頭)
大内家(与力)	大友家(与力)	大友家(与力)	大友家(与力)	ー	黒田家(与力)
大内家(部将)	大友家(与力)	大友家(部将)	大友家(与力)	ー	黒田家(組頭)
島津家(家老)	島津家(部将)	島津家(重臣)	島津家(家老)	ー	島津家(重臣)
松永家(組頭)	ー	ー	ー	豊臣家(組頭)	松永家(組頭)
小笠原家(部将)	武田家(与力)	武田家(与力)	徳川家(部将)	ー	木曾家(主君)
小笠原家(与力)	武田家(与力)	ー	ー	ー	木曾家(宿老)
大友家(与力)	伊東家(与力)	伊東家(与力)	大友家(与力)	ー	大友家(与力)
伊東家(与力)	伊東家(与力)	伊東家(与力)	大友家(与力)	ー	伊東家(与力)
長尾家(組頭)	上杉家(組頭)	上杉家(組頭)	ー	ー	上杉家(組頭)
長尾家(重臣)	上杉家(重臣)	上杉家(重臣)	上杉家(重臣)	ー	上杉家(重臣)
一向宗(宿老)	赤松家(重臣)	赤松家(家老)	浪人(宿老)	ー	一向宗(重臣)
北畠家(宿老)	北畠家(主君)	ー	ー	ー	北畠家(主君)
北畠家(宿老)	北畠家(宿老)	ー	ー	ー	北畠家(宿老)
北畠家(主君)	ー	ー	ー	ー	北畠家(宿老)
毛利家(部将)	毛利家(部将)	毛利家(部将)	ー	ー	毛利家(部将)
毛利家(宿老)	毛利家(宿老)	毛利家(宿老)	毛利家(重臣)	毛利家(家老)	毛利家(重臣)
毛利家(宿老)	毛利家(宿老)	毛利家(重臣)	毛利家(重臣)	ー	毛利家(重臣)
毛利家(宿老)	毛利家(宿老)	毛利家(宿老)	毛利家(宿老)	ー	毛利家(宿老)
ー	ー	浪人(地侍)	羽柴家(地侍)	丹羽家(与力)	ー
ー	ー	ー	ー	豊臣家(部将)	ー
ー	ー	ー	ー	丹羽家(与力)	ー
ー	ー	ー	ー	豊臣家(部将)	ー
少弐家(組頭)	竜造寺家(奉行)	竜造寺家(奉行)	竜造寺家(奉行)	ー	竜造寺家(重臣)
ー	宇都宮家(家老)	宇都宮家(家老)	宇都宮家(部将)	浪人(組頭)	ー

	武将名	別名	能力値				仕官年	生没年	忠臣
			戦闘	内政	外交	謀略			
か	蒲生賢秀	ー	C	B	B	C	1550	1534〜1584	○
	蒲生定秀	ー	B	C	D	C	1524	1508〜1579	○
	蒲生郷成	ー	C	C	C	C	1566	1550〜1614	△
	蒲生郷安	ー	C	B	C	C	1570	1554〜1618	△
	蒲生郷舎	ー	A	C	E	D	1580	1564〜1628	○
	蒲生秀成	ー	C	C	C	C	1566	1550〜1614	○
	蒲生秀行	ー	C	D	D	D	1599	1583〜1612	○
	蒲生頼郷	ー	C	C	D	D	1571	1555〜1619	○
	河合吉統	ー	C	C	C	C	1526	1510〜1574	○
	川上久郎	ー	C	C	C	B	1552	1536〜1600	○
	川窪信実	ー	C	C	D	D	1560	1544〜1608	◎
	河尻秀隆	ー	B	C	D	D	1541	1525〜1582	○
	河田重親	ー	B	C	B	C	1537	1521〜1585	○
	河田長親	ー	C	C	C	B	1559	1543〜1581	○
	願証寺證意	ー	D	C	C	D	1553	1537〜1571	◎
	願証寺證恵	ー	C	B	D	D	1510	1494〜1574	◎
	願得寺兼俊	ー	D	B	C	C	1508	1492〜1583	◎
	神戸具盛	ー	D	C	C	D	1540	1524〜1583	△
き	城井鎮房	ー	C	C	D	C	1552	1536〜1588	△
	城井長房	ー	C	C	C	D	1522	1506〜1588	△
	城井房統	ー	D	B	C	D	1539	1523〜1597	△
	喜入季久	ー	C	C	C	C	1548	1532〜1588	○
	岸田忠氏	ー	C	D	C	D	1567	1551〜1615	○
	木曾義昌	ー	D	C	D	B	1554	1538〜1595	×
	木曾義康	ー	C	C	D	C	1530	1514〜1578	△
	北郷忠虎	ー	C	C	C	C	1572	1556〜1594	△
	北郷時久	ー	B	D	C	C	1546	1530〜1596	△
	北条景広	ー	C	C	B	C	1562	1546〜1610	○
	北条高広	ー	A	B	D	C	1532	1516〜1585	△
	喜多野柏阿	ー	D	B	C	C	1537	1521〜1585	○
	北畠具教	ー	B	C	C	C	1544	1528〜1578	◎
	北畠具房	ー	C	C	C	C	1563	1547〜1580	◎
	北畠晴具	ー	B	C	C	C	1519	1503〜1563	△
	吉川経家	ー	B	C	B	C	1563	1547〜1581	○
	吉川広家	ー	C	B	B	C	1577	1561〜1625	△
	吉川元長	ー	B	C	C	C	1564	1548〜1587	○
	吉川元春	ー	A	C	C	C	1546	1530〜1586	◎
	木下勝俊	ー	D	D	B	E	1583	1567〜1646	○
	木下重堅	ー	B	D	E	E	1576	1560〜1624	○
	木下利房	ー	C	C	D	D	1589	1573〜1637	○
	木下延重	ー	B	E	D	E	1576	1560〜1624	○
	木下昌直	ー	B	E	D	C	1540	1524〜1588	○
	君島高親	ー	D	D	C	D	1571	1555〜1619	○

所属大名と身分					
シナリオ1	シナリオ2	シナリオ3	シナリオ4	シナリオ5	シナリオ6
大友家(重臣)	大友家(重臣)	大友家(重臣)	―	―	大友家(重臣)
―	―	―	―	豊臣家(組頭)	―
―	―	―	明智家(組頭)	―	明智家(組頭)
肝付家(宿老)	肝付家(宿老)	肝付家(主君)	―	―	肝付家(宿老)
肝付家(主君)	―	―	―	―	―
肝付家(宿老)	肝付家(宿老)	肝付家(宿老)	島津家(与力)	島津家(与力)	肝付家(宿老)
肝付家(宿老)	肝付家(主君)	―	―	―	肝付家(主君)
将軍家(部将)	将軍家(部将)	織田家(部将)	浪人(部将)	京極家(宿老)	足利家(部将)
将軍家(組頭)	将軍家(部将)	織田家(部将)	浪人(部将)	京極家(主君)	足利家(組頭)
将軍家(部将)	将軍家(部将)	織田家(部将)	―	―	足利家(部将)
北条家(宿老)	北条家(重臣)	北条家(重臣)	北条家(重臣)	徳川家(部将)	北条家(重臣)
長宗我部家(宿老)	長宗我部家(宿老)	長宗我部家(宿老)	―	―	長宗我部家(家老)
―	―	武田家(忍者)	真田家(忍者)	真田家(忍者)	真田家(忍者)
北畠家(地侍)	―	―	滝川家(地侍)	富田家(与力)	北畠家(地侍)
北畠家(部将)	北畠家(与力)	織田家(与力)	滝川家(重臣)	浪人(重臣)	北畠家(部将)
―	―	九戸家(与力)	九戸家(与力)	―	―
―	―	九戸家(与力)	九戸家(与力)	―	―
―	大崎家(組頭)	大崎家(組頭)	大崎家(組頭)	―	―
大友家(組頭)	大友家(重臣)	大友家(重臣)	大友家(重臣)	―	大友家(組頭)
毛利家(家老)	―	―	―	毛利家(家老)	毛利家(組頭)
毛利家(重臣)	毛利家(重臣)	毛利家(重臣)	―	―	毛利家(重臣)
将軍家(部将)	―	―	―	―	足利家(部将)
将軍家(組頭)	将軍家(部将)	織田家(部将)	明智家(部将)	豊臣家(部将)	足利家(組頭)
毛利家(重臣)	―	―	―	毛利家(重臣)	毛利家(組頭)
南部家(与力)	南部家(部将)	九戸家(宿老)	九戸家(宿老)	―	南部家(与力)
―	―	―	九戸家(宿老)	―	―
南部家(与力)	南部家(与力)	九戸家(主君)	九戸家(主君)	―	南部家(与力)
―	葦名家(地侍)	葦名家(地侍)	葦名家(地侍)	―	―
毛利家(部将)	毛利家(部将)	毛利家(部将)	毛利家(部将)	毛利家(部将)	毛利家(部将)
上杉家(組頭)	上杉家(組頭)	上杉家(組頭)	上杉家(組頭)	―	長野家(組頭)
村上家(部将)	武田家(部将)	武田家(部将)	浪人(部将)	―	村上家(部将)
武田家(組頭)	武田家(組頭)	武田家(部将)	浪人(家老)	―	―
―	―	―	―	黒田家(重臣)	黒田家(部将)
―	河野家(部将)	河野家(部将)	河野家(部将)	藤堂家(与力)	―
河野家(部将)	河野家(部将)	河野家(部将)	河野家(部将)	―	河野家(部将)
河野家(部将)	河野家(部将)	―	―	―	河野家(部将)
佐竹家(家老)	佐竹家(家老)	佐竹家(重臣)	佐竹家(家老)	佐竹家(家老)	佐竹家(家老)
赤松家(組頭)	赤松家(組頭)	赤松家(組頭)	羽柴家(奉行)	黒田家(主君)	黒田家(主君)
長尾家(重臣)	上杉家(重臣)	上杉家(重臣)	―	―	上杉家(部将)
大崎家(部将)	大崎家(部将)	大崎家(部将)	大崎家(部将)	―	大崎家(部将)
河野家(家老)	河野家(家老)	河野家(部将)	河野家(部将)	長宗我部家(組頭)	河野家(家老)
―	―	―	―	黒田家(家老)	黒田家(家老)
―	―	―	―	黒田家(家老)	黒田家(家老)

	武将名	別名	能力値 戦闘	内政	外交	謀略	仕官年	生没年	忠臣
き	木村鎮秀	—	C	C	C	C	1546	1530〜1594	○
	木村秀望	—	C	E	D	C	1576	1560〜1624	○
	木村吉清	—	C	E	D	C	1550	1534〜1598	△
	肝付兼亮	—	C	D	C	C	1572	1556〜1573	◎
	肝付兼続	—	C	C	C	C	1527	1511〜1566	◎
	肝付兼護	—	C	C	C	C	1575	1559〜1618	◎
	肝付良兼	—	C	C	E	C	1551	1535〜1571	◎
	京極高次	—	C	C	B	D	1579	1563〜1609	△
	京極高知	—	E	C	C	C	1586	1570〜1619	△
	京極高吉	—	C	C	C	C	1524	1508〜1581	△
	吉良氏朝	—	E	C	B	D	1559	1543〜1603	○
	吉良親貞	—	B	C	D	C	1557	1541〜1576	○
	霧隠才蔵	—	A	E	D	B	1588	1572〜1646	○
く	九鬼守隆	—	D	C	C	C	1589	1573〜1631	△
	九鬼嘉隆	—	B	C	E	C	1558	1542〜1600	○
	櫛引清長	—	B	C	D	D	1559	1543〜1607	△
	久慈政則	—	C	D	C	D	1560	1544〜1608	△
	葛岡信隆	—	C	C	C	C	1566	1550〜1600	△
	朽網鑑康	—	C	C	D	C	1534	1518〜1586	△
	口羽春良	—	C	C	C	C	1572	1556〜1620	○
	口羽通良	—	C	B	C	C	1527	1511〜1582	○
	朽木晴綱	—	D	D	D	D	1534	1518〜1582	△
	朽木元綱	—	C	D	B	C	1565	1549〜1632	△
	国司元蔵	—	C	C	C	C	1572	1556〜1620	○
	九戸実親	—	C	E	E	D	1573	1557〜1621	◎
	九戸実紀	—	B	D	E	D	1554	1538〜1602	○
	九戸政実	—	A	D	D	B	1552	1536〜1600	◎
	隈井晴時	—	C	C	C	C	1586	1570〜1634	△
	熊谷元直	—	C	B	C	D	1571	1555〜1605	○
	倉賀野直行	—	E	C	E	C	1543	1527〜1596	△
	栗田永寿	—	C	C	B	D	1546	1530〜1594	○
	栗原詮冬	—	C	C	C	C	1548	1532〜1596	○
	栗山利安	—	B	C	C	E	1567	1551〜1631	○
	来島長親	—	C	E	C	D	1598	1582〜1612	△
	来島通総	—	C	E	C	D	1577	1561〜1620	△
	来島通康	—	C	C	D	C	1535	1519〜1567	○
	車斯忠	—	C	C	C	A	1554	1538〜1602	○
	黒田官兵衛	—	B(軍)	A+(軍)	C	A+	1562	1546〜1604	×
	黒川清実	—	C	C	C	B	1532	1516〜1580	○
	黒川晴氏	—	C	D	C	C	1539	1523〜1599	△
	黒川道博	—	D	D	D	D	1564	1548〜1612	△
	黒田修理助	—	C	C	C	B	1577	1561〜1612	○
	黒田図書助	—	C	B	C	C	1580	1564〜1609	○

所属大名と身分					
シナリオ1	シナリオ2	シナリオ3	シナリオ4	シナリオ5	シナリオ6
赤松家(地侍)	赤松家(組頭)	赤松家(組頭)	羽柴家(組頭)	黒田家(宿老)	黒田家(宿老)
赤松家(重臣)	赤松家(与力)	―	―	―	赤松家(重臣)
伊達家(重臣)	伊達家(重臣)	伊達家(重臣)	伊達家(重臣)	伊達家(重臣)	伊達家(重臣)
―	長宗我部家(組頭)	長宗我部家(組頭)	長宗我部家(重臣)	―	―
長宗我部家(家老)	長宗我部家(組頭)	長宗我部家(馬廻)	長宗我部家(組頭)	長宗我部家(家老)	長宗我部家(部将)
織田家(地侍)	―	―	―	富田家(与力)	豊臣家(地侍)
―	肝付家(家老)	肝付家(家老)	―	―	―
―	―	―	―	生駒家(与力)	―
将軍家(重臣)	将軍家(重臣)	―	浪人(重臣)	―	足利家(重臣)
武田家(馬廻)	武田家(奉行)	武田家(家老)	―	―	武田家(奉行)
長宗我部家(宿老)	長宗我部家(宿老)	長宗我部家(宿老)	長宗我部家(宿老)	―	長宗我部家(家老)
河野家(宿老)	河野家(宿老)	河野家(宿老)	河野家(主君)	―	河野家(主君)
河野家(宿老)	河野家(宿老)	河野家(主君)	―	―	河野家(宿老)
―	河野家(宿老)	河野家(宿老)	河野家(宿老)	長宗我部家(与力)	―
河野家(主君)	河野家(主君)	―	―	―	河野家(宿老)
河野家(宿老)	河野家(宿老)	河野家(宿老)	河野家(宿老)	長宗我部家(与力)	河野家(宿老)
―	―	―	―	豊臣家(組頭)	―
伊達家(家老)	伊達家(家老)	伊達家(重臣)	伊達家(重臣)	伊達家(重臣)	伊達家(重臣)
浦上家(奉行)	浦上家(奉行)	宇喜多家(部将)	宇喜多家(部将)	―	宇喜多家(部将)
長尾家(馬廻)	上杉家(馬廻)	上杉家(部将)	―	―	上杉家(馬廻)
―	神保家(部将)	神保家(奉行)	―	―	―
島津家(家老)	島津家(部将)	島津家(重臣)	島津家(重臣)	島津家(家老)	島津家(部将)
―	―	―	―	蛎崎家(家老)	―
毛利家(与力)	毛利家(与力)	毛利家(与力)	―	―	毛利家(与力)
毛利家(与力)	毛利家(組頭)	毛利家(部将)	毛利家(部将)	毛利家(与力)	毛利家(与力)
北畠家(重臣)	北畠家(宿老)	―	北畠家(与力)	織田家(家老)	北畠家(家老)
―	北畠家(宿老)	―	北畠家(与力)	織田家(与力)	―
赤松家(重臣)	赤松家(重臣)	―	―	―	赤松家(重臣)
六角家(重臣)	―	―	―	―	六角家(重臣)
伊達家(奉行)	伊達家(奉行)	伊達家(奉行)	伊達家(重臣)	伊達家(奉行)	伊達家(重臣)
浪人(地侍)	浪人(地侍)	浪人(地侍)	浪人(地侍)	黒田家(奉行)	黒田家(重臣)
―	―	浪人(地侍)	羽柴家(地侍)	小西家(宿老)	―
浪人(地侍)	浪人(地侍)	浪人(地侍)	羽柴家(部将)	小西家(主君)	豊臣家(奉行)
浪人(宿老)	浪人(宿老)	浪人(宿老)	浪人(宿老)	浪人(宿老)	浪人(宿老)
毛利家(宿老)	毛利家(宿老)	毛利家(宿老)	毛利家(宿老)	―	毛利家(宿老)
毛利家(宿老)	毛利家(宿老)	毛利家(宿老)	毛利家(宿老)	小早川家(主君)	豊臣家(重臣)
毛利家(宿老)	毛利家(宿老)	毛利家(宿老)	毛利家(宿老)	毛利家(家老)	毛利家(重臣)
―	―	浅井家(組頭)	―	―	―
浅井家(組頭)	浅井家(組頭)	浅井家(組頭)	浪人(組頭)	京極家(重臣)	浅井家(組頭)
―	―	―	―	豊臣家(組頭)	―
武田家(組頭)	武田家(部将)	武田家(重臣)	徳川家(組頭)	―	武田家(組頭)
―	佐竹家(地侍)	佐竹家(地侍)	佐竹家(地侍)	佐竹家(地侍)	―
―	武田家(地侍)	武田家(地侍)	浪人(地侍)	―	―

	武将名	別名	能力値				仕官年	生没年	忠臣
			戦闘	内政	外交	謀略			
く	黒田長政	―	B(軍)	B(軍)	A	B	1584	1568～1623	△
	黒田職高	―	C	C	C	C	1538	1522～1571	○
	桑折宗長	―	C	C	C	C	1548	1532～1601	○
	桑名親勝	―	C	C	D	C	1557	1541～1605	○
	桑名吉成	―	C	D	C	C	1568	1552～1616	○
	桑山重晴	―	C	C	C	C	1558	1542～1606	○
け	検見崎兼泰	―	D	C	C	D	1532	1516～1580	○
こ	小出秀家	―	C	C	C	C	1583	1567～1603	○
	香西元成	―	C	C	D	E	1536	1520～1584	△
	高坂昌信	―	B	C	B	B	1543	1527～1578	○
	香宗我部親泰	―	C	C	B	C	1559	1543～1593	◎
	河野通直	―	B	C	C	D	1575	1559～1587	◎
	河野通宣	―	C	D	C	C	1536	1520～1581	◎
	河野通軌	―	C	C	C	C	1586	1570～1634	◎
	河野通存	―	C	C	C	C	1523	1507～1566	◎
	河野通吉	―	D	C	B	C	1551	1535～1599	◎
	郡宗保	―	B	E	C	D	1562	1546～1615	○
	国分盛重	―	C	D	C	D	1570	1554～1618	○
	小嶋一頼	―	D	C	C	C	1545	1529～1593	○
	小島貞興	―	A	E	E	E	1534	1518～1582	○
	小島職鎮	―	D	C	C	D	1533	1517～1576	△
	五代友喜	―	C	C	C	D	1555	1539～1626	○
	小平季遠	―	C	B	D	C	1581	1565～1629	○
	児玉就方	―	C	D	E	C	1529	1513～1586	○
	児玉就英	―	C	D	D	D	1559	1543～1607	○
	木造具政	―	C	C	D	C	1556	1540～1599	△
	木造具康	―	D	C	D	D	1565	1549～1598	△
	小寺政職	―	C	C	B	C	1531	1515～1574	○
	後藤賢豊	―	C	B	C	C	1530	1514～1563	○
	後藤信康	―	B	D	C	C	1574	1558～1622	△
	後藤又兵衛	―	A	E	D	E	1576	1560～1624	△
	小西行景	―	C	C	D	C	1581	1565～1629	○
	小西行長	―	C	B	B	C	1572	1556～1620	○
	近衛前久	―	D	E	A	E	1552	1536～1612	△
	小早川隆景	―	C	A	B	A	1549	1533～1602	◎
	小早川秀秋	―	C	C	C	D	1598	1582～1602	×
	小早川秀包	―	B	C	C	D	1583	1567～1601	◎
	小堀政一	―	E	A	A	D	1595	1579～1647	○
	小堀政次	―	C	B	C	C	1556	1540～1604	○
	駒井重勝	―	C	C	C	C	1576	1560～1624	○
	駒井昌直	―	C	C	C	C	1547	1531～1595	○
	小峰正成	―	C	C	C	C	1587	1571～1635	△
	小宮山昌照	―	C	D	D	E	1552	1536～1600	○

所属大名と身分					
シナリオ1	シナリオ2	シナリオ3	シナリオ4	シナリオ5	シナリオ6
武田家(組頭)	武田家(部将)	武田家(部将)	－	－	武田家(組頭)
－	－	－	－	堀家(部将)	－
－	北条家(部将)	北条家(部将)	北条家(部将)	浪人(組頭)	－
－	－	－	－	蛎崎家(家老)	－
河野家(与力)	河野家(与力)	河野家(与力)	河野家(与力)	－	河野家(与力)
雑賀衆(宿老)	雑賀衆(宿老)	雑賀衆(宿老)	雑賀衆(主君)	－	雑賀衆(主君)
大友家(部将)	大友家(部将)	大友家(部将)	－	－	大友家(部将)
斎藤家(宿老)	斎藤家(宿老)	朝倉家(与力)	－	－	斎藤家(宿老)
斎藤家(主君)	－	－	－	－	斎藤家(主君)
斎藤家(地侍)	斎藤家(組頭)	織田家(組頭)	明智家(家老)	－	明智家(重臣)
－	－	－	－	加藤家(組頭)	加藤家(組頭)
長尾家(重臣)	上杉家(重臣)	上杉家(奉行)	上杉家(奉行)	－	上杉家(重臣)
斎藤家(宿老)	斎藤家(主君)	－	－	－	斎藤家(宿老)
大友家(重臣)	大友家(重臣)	大友家(重臣)	大友家(重臣)	藤堂家(重臣)	大友家(重臣)
大友家(重臣)	大友家(奉行)	大友家(家老)	－	－	大友家(重臣)
武田家(組頭)	武田家(組頭)	武田家(組頭)	－	－	武田家(組頭)
今川家(部将)	松平家(重臣)	徳川家(重臣)	徳川家(重臣)	徳川家(部将)	徳川家(部将)
－	－	徳川家(部将)	－	徳川家(部将)	－
今川家(部将)	松平家(奉行)	徳川家(家老)	徳川家(家老)	－	徳川家(奉行)
里見家(重臣)	里見家(重臣)	里見家(重臣)	－	－	里見家(重臣)
今川家(組頭)	松平家(家老)	－	－	－	徳川家(部将)
今川家(地侍)	松平家(地侍)	徳川家(重臣)	徳川家(重臣)	徳川家(奉行)	徳川家(重臣)
大内家(奉行)	－	－	－	－	大内家(重臣)
相良家(宿老)	相良家(宿老)	相良家(宿老)	相良家(主君)	－	加藤家(与力)
相良家(主君)	－	－	－	－	加藤家(組頭)
相良家(宿老)	相良家(主君)	相良家(主君)	－	－	加藤家(与力)
相良家(宿老)	相良家(宿老)	相良家(宿老)	－	－	加藤家(組頭)
相良家(宿老)	相良家(宿老)	相良家(宿老)	相良家(宿老)	小西家(与力)	加藤家(与力)
織田家(重臣)	織田家(家老)	織田家(家老)	－	－	織田家(重臣)
織田家(地侍)	織田家(地侍)	織田家(組頭)	柴田家(重臣)	－	織田家(地侍)
－	－	－	柴田家(重臣)	－	－
－	伊達家(部将)	伊達家(部将)	伊達家(部将)	伊達家(部将)	－
－	－	－	南部家(家老)	南部家(部将)	－
最上家(部将)	最上家(部将)	最上家(部将)	最上家(部将)	最上家(部将)	最上家(部将)
赤松家(剣豪)	朝倉家(剣豪)	朝倉家(剣豪)	浪人(剣豪)	浪人(剣豪)	赤松家(剣豪)
尼子家(部将)	尼子家(奉行)	毛利家(組頭)	毛利家(重臣)	－	尼子家(部将)
－	葦名家(奉行)	葦名家(奉行)	葦名家(奉行)	－	－
－	葦名家(奉行)	葦名家(部将)	葦名家(重臣)	－	－
佐竹家(宿老)	佐竹家(主君)	－	－	－	佐竹家(宿老)
佐竹家(主君)	－	－	－	－	佐竹家(宿老)
佐竹家(宿老)	佐竹家(宿老)	佐竹家(宿老)	－	－	佐竹家(宿老)
佐竹家(宿老)	佐竹家(宿老)	佐竹家(宿老)	－	－	佐竹家(宿老)
佐竹家(宿老)	佐竹家(宿老)	佐竹家(宿老)	－	－	佐竹家(宿老)

	武将名	別名	能力値 戦闘	内政	外交	謀略	仕官年	生没年	忠臣
こ	小宮山昌友	―	C	D	C	D	1548	1532～1596	○
	近藤重勝	―	C	C	C	C	1569	1553～1604	△
	近藤綱秀	―	C	C	B	D	1556	1540～1604	○
	近藤義武	―	C	C	B	D	1590	1574～1638	○
さ	西園寺公広	―	D	D	C	D	1549	1533～1597	×
	雑賀孫市	―	A	D	C	B	1540	1524～1598	○
	斎藤鎮実	―	B	D	D	D	1536	1520～1578	○
	斎藤龍興	―	C	D	E	E	1564	1548～1612	△
	斎藤道三	―	B	C	B	A	1510	1494～1623	◎
	斎藤利三	―	B	D	E	D	1550	1534～1598	○
	斎藤利宗	―	B	D	E	E	1583	1567～1531	○
	斎藤朝信	―	B	C	C	B	1541	1525～1594	○
	斎藤義龍	―	B	C	C	C	1543	1527～1561	◎
	佐伯惟定	―	B	D	C	C	1583	1567～1618	○
	佐伯惟教	―	C	C	C	B	1536	1520～1579	○
	三枝守友	―	B	D	D	D	1553	1537～1575	○
	酒井家次	―	B	C	C	C	1580	1564～1618	○
	酒井重忠	―	B	C	D	C	1565	1549～1615	○
	酒井忠次	―	C	C	B	C	1543	1527～1596	○
	酒井敏房	―	B	D	C	D	1532	1516～1580	△
	酒井正親	―	B	C	D	C	1537	1521～1570	○
	榊原康政	―	A	C	D	D	1564	1548～1606	○
	相良武任	―	E	B	C	D	1512	1496～1551	△
	相良忠房	―	C	C	B	D	1578	1562～1585	◎
	相良晴広	―	C	C	C	C	1529	1513～1555	○
	相良義陽	―	B	C	D	C	1560	1544～1608	◎
	相良頼貞	―	C	D	D	C	1560	1544～1608	△
	相良頼房	―	C	B	C	C	1590	1574～1636	◎
	佐久間信盛	―	C	B	C	D	1541	1525～1582	○
	佐久間盛政	―	B	D	C	D	1569	1553～1617	○
	佐久間安政	―	C	C	B	C	1571	1555～1627	○
	桜田資親	―	C	C	C	C	1566	1550～1614	○
	桜庭直綱	―	B	C	D	D	1589	1573～1620	○
	鮭延秀綱	―	B	D	B	C	1578	1562～1631	○
	佐々木巌流	―	B	D	D	D	1575	1559～1620	○
	佐世清宗	―	D	B	C	C	1543	1527～1594	△
	佐瀬常雄	―	D	C	C	D	1584	1568～1632	○
	佐瀬常藤	―	D	C	D	D	1563	1547～1611	○
	佐竹義昭	―	B	C	C	C	1547	1531～1565	◎
	佐竹義篤	―	B	C	C	D	1523	1507～1545	◎
	佐竹義堅	―	C	B	C	C	1527	1511～1575	◎
	佐竹義廉	―	C	C	C	C	1530	1514～1583	◎
	佐竹義里	―	C	C	C	B	1532	1516～1575	◎

所属大名と身分					
シナリオ1	シナリオ2	シナリオ3	シナリオ4	シナリオ5	シナリオ6
佐竹家(宿老)	佐竹家(宿老)	佐竹家(主君)	佐竹家(主君)	佐竹家(主君)	佐竹家(主君)
佐竹家(宿老)	佐竹家(宿老)	佐竹家(宿老)	佐竹家(宿老)	―	佐竹家(宿老)
佐竹家(宿老)	佐竹家(宿老)	佐竹家(宿老)	佐竹家(宿老)	佐竹家(宿老)	佐竹家(宿老)
佐竹家(宿老)	佐竹家(宿老)	佐竹家(宿老)	佐竹家(宿老)	佐竹家(宿老)	佐竹家(宿老)
佐竹家(宿老)	佐竹家(宿老)	佐竹家(宿老)	佐竹家(宿老)	佐竹家(宿老)	佐竹家(宿老)
―	佐竹家(宿老)	佐竹家(宿老)	佐竹家(宿老)	佐竹家(宿老)	―
織田家(地侍)	織田家(部将)	織田家(部将)	柴田家(家老)	―	織田家(部将)
斎藤家(地侍)	織田家(馬廻)	織田家(馬廻)	浪人(馬廻)	―	斎藤家(地侍)
大友家(家老)	伊東家(家老)	伊東家(家老)	―	―	大友家(組頭)
―	里見家(宿老)	里見家(宿老)	里見家(宿老)	徳川家(組頭)	―
里見家(主君)	里見家(主君)	里見家(主君)	―	―	―
里見家(宿老)	里見家(宿老)	里見家(宿老)	―	―	里見家(主君)
里見家(与力)	里見家(宿老)	里見家(宿老)	里見家(宿老)	徳川家(与力)	里見家(宿老)
里見家(宿老)	里見家(宿老)	里見家(宿老)	里見家(主君)	―	里見家(宿老)
―	武田家(馬廻)	武田家(馬廻)	真田家(部将)	真田家(宿老)	真田家(宿老)
―	武田家(組頭)	武田家(組頭)	徳川家(組頭)	徳川家(部将)	真田家(宿老)
浪人(地侍)	武田家(部将)	武田家(部将)	―	―	真田家(宿老)
浪人(地侍)	武田家(組頭)	武田家(組頭)	真田家(宿老)	徳川家(与力)	真田家(宿老)
―	武田家(部将)	武田家(部将)	―	―	真田家(宿老)
浪人(地侍)	武田家(組頭)	武田家(組頭)	真田家(主君)	真田家(主君)	真田家(宿老)
浪人(組頭)	武田家(重臣)	武田家(重臣)	―	―	真田家(宿老)
浪人(地侍)	武田家(馬廻)	武田家(馬廻)	真田家(宿老)	真田家(宿老)	真田家(主君)
宇都宮家(与力)	―	―	―	蒲生家(与力)	宇都宮家(与力)
上杉家(与力)	上杉家(与力)	上杉家(与力)	―	―	―
―	―	武田家(忍者)	真田家(忍者)	真田家(忍者)	真田家(忍者)
島津家(組頭)	島津家(組頭)	島津家(重臣)	島津家(重臣)	―	島津家(組頭)
長尾家(宿老)	上杉家(家老)	上杉家(家老)	浪人(宿老)	―	上杉家(部将)
宇都宮家(組頭)	宇都宮家(組頭)	宇都宮家(組頭)	宇都宮家(家老)	―	宇都宮家(組頭)
姉小路家(組頭)	上杉家(地侍)	上杉家(地侍)	浪人(地侍)	―	姉小路家(組頭)
―	大友家(部将)	大友家(部将)	大友家(部将)	浪人(部将)	―
大友家(部将)	大友家(重臣)	大友家(重臣)	大友家(重臣)	―	大友家(重臣)
毛利家(家老)	毛利家(家老)	毛利家(家老)	毛利家(家老)	―	毛利家(重臣)
毛利家(家老)	―	―	―	毛利家(家老)	毛利家(組頭)
佐竹家(部将)	佐竹家(部将)	佐竹家(部将)	佐竹家(部将)	―	佐竹家(部将)
三好家(部将)	三好家(部将)	三好家(部将)	十河家(部将)	―	三好家(部将)
―	―	九戸家(与力)	九戸家(与力)	―	―
一向宗(重臣)	一向宗(家老)	一向宗(家老)	浪人(家老)	浪人(地侍)	一向宗(奉行)
三好家(重臣)	三好家(家老)	三好家(家老)	―	―	三好家(重臣)
織田家(家老)	織田家(家老)	織田家(家老)	柴田家(主君)	―	織田家(奉行)
―	―	―	柴田家(宿老)	―	―
織田家(地侍)	―	織田家(組頭)	柴田家(宿老)	―	―
―	―	―	柴田家(宿老)	―	―
―	―	―	柴田家(宿老)	―	―

	武将名	別名	能力値				仕官年	生没年	忠臣
			戦闘	内政	外交	謀略			
さ	佐竹義重	―	A	C	A	B	1563	1547～1612	◎
	佐竹義喬	―	C	C	C	C	1547	1531～1585	◎
	佐竹義宣	―	B	B	C	B	1586	1570～1633	◎
	佐竹義久	―	B	B	B	C	1553	1537～1601	◎
	佐竹義昌	―	C	C	C	C	1554	1538～1602	◎
	佐竹義種	―	C	C	B	B	1573	1557～1621	◎
	佐々成政	―	B	D	E	C	1555	1539～1603	○
	佐藤秀方	―	C	C	D	D	1546	1530～1594	○
	佐土原佐摂	―	C	C	C	C	1544	1528～1592	○
	里見忠義	―	C	D	D	C	1605	1589～1653	△
	里見義尭	―	B	C	C	B	1528	1512～1574	△
	里見義弘	―	B	C	B	D	1546	1530～1578	△
	里見義康	―	C	C	E	C	1589	1573～1603	△
	里見義頼	―	B	C	C	C	1559	1543～1587	△
	真田大助	―	B	C	D	D	1618	1602～1666	○
	真田信尹	―	C	E	C	C	1566	1550～1620	○
	真田信綱	―	B	C	E	C	1553	1537～1601	○
	真田信幸	―	B	B	B	C	1582	1566～1658	○
	真田昌輝	―	B	D	D	D	1559	1543～1610	○
	真田昌幸	―	B(軍)	B	A	A+(軍)	1563	1547～1616	△
	真田幸隆	―	C	C	C	B	1529	1513～1574	△
	真田幸村	―	A+(軍)	C	B(軍)	A+	1583	1567～1631	○
	佐野政綱	―	C	C	C	C	1582	1566～1622	○
	佐野昌綱	―	B	D	D	C	1526	1510～1574	△
	猿飛佐助	―	A	E	D	A	1583	1567～1641	○
	猿渡信光	―	A	E	D	D	1548	1532～1591	○
	三本寺定長	―	B	D	D	D	1546	1530～1594	◎
し	塩谷義孝	―	C	E	C	C	1540	1524～1583	○
	塩屋秋貞	―	D	D	C	D	1558	1542～1606	△
	志賀親次	―	B	C	D	C	1572	1556～1605	○
	志賀親守	―	C	D	C	C	1537	1521～1590	○
	宍戸隆家	―	B	B	C	C	1534	1518～1592	○
	宍戸元次	―	C	C	C	C	1564	1548～1612	○
	宍戸義利	―	C	C	C	C	1542	1526～1590	△
	七条兼仲	―	B	D	D	D	1551	1535～1593	○
	七戸家国	―	C	D	D	C	1558	1542～1606	△
	七里頼周	―	B	C	C	B	1558	1542～1616	○
	篠原長房	―	D	B	B	C	1527	1511～1575	○
	柴田勝家	―	A	C	C	C	1537	1521～1583	○
	柴田勝敏	―	C	D	E	D	1567	1551～1615	△
	柴田勝豊	―	C	D	C	C	1570	1554～1618	○
	柴田勝政	―	B	C	D	C	1574	1558～1622	○
	柴田勝全	―	B	D	D	C	1571	1555～1619	○

所属大名と身分					
シナリオ1	シナリオ2	シナリオ3	シナリオ4	シナリオ5	シナリオ6
長尾家(部将)	上杉家(部将)	上杉家(部将)	−	−	上杉家(部将)
長尾家(与力)	上杉家(与力)	上杉家(与力)	−	−	上杉家(与力)
織田家(宿老)	織田家(与力)	−	−	−	−
織田家(宿老)	−	−	−	−	−
浪人(地侍)	浪人(地侍)	浪人(地侍)	筒井家(重臣)	豊臣家(部将)	松永家(地侍)
島津家(宿老)	島津家(宿老)	島津家(宿老)	島津家(宿老)	−	島津家(宿老)
島津家(宿老)	−	−	−	−	島津家(宿老)
島津家(主君)	島津家(主君)	−	−	−	島津家(主君)
島津家(宿老)	島津家(宿老)	島津家(宿老)	島津家(宿老)	島津家(宿老)	島津家(宿老)
島津家(宿老)	島津家(宿老)	島津家(宿老)	島津家(宿老)	−	島津家(宿老)
島津家(宿老)	島津家(宿老)	島津家(宿老)	島津家(宿老)	島津家(宿老)	島津家(宿老)
島津家(宿老)	島津家(宿老)	島津家(主君)	島津家(主君)	島津家(主君)	島津家(宿老)
島津家(宿老)	島津家(宿老)	島津家(宿老)	島津家(宿老)	島津家(宿老)	島津家(宿老)
浦上家(重臣)	浦上家(重臣)	宇喜多家(重臣)	−	−	宇喜多家(組頭)
毛利家(組頭)	−	−	−	小早川家(家老)	毛利家(組頭)
−	−	−	細川家(部将)	細川家(組頭)	細川家(組頭)
宇都宮家(組頭)	宇都宮家(家老)	宇都宮家(家老)	宇都宮家(家老)	浪人(組頭)	宇都宮家(組頭)
毛利家(与力)	毛利家(与力)	毛利家(与力)	−	−	毛利家(与力)
北条家(重臣)	北条家(重臣)	北条家(重臣)	北条家(家老)	−	北条家(重臣)
最上家(重臣)	最上家(部将)	最上家(部将)	最上家(部将)	最上家(重臣)	最上家(重臣)
織田家(馬廻)	織田家(馬廻)	織田家(馬廻)	北畠家(部将)	浪人(組頭)	織田家(馬廻)
蛎崎家(重臣)	蛎崎家(重臣)	蛎崎家(重臣)	蛎崎家(重臣)	−	蛎崎家(重臣)
蛎崎家(重臣)	蛎崎家(重臣)	−	−	−	蛎崎家(重臣)
−	武田家(組頭)	武田家(組頭)	浪人(組頭)	−	−
−	一向宗(家老)	一向宗(部将)	−	−	−
浪人(家老)	本願寺(家老)	本願寺(家老)	−	−	一向宗(重臣)
−	一向宗(重臣)	一向宗(重臣)	−	−	−
一向宗(家老)	一向宗(家老)	一向宗(主君)	−	−	一向宗(家老)
−	−	本願寺(家老)	−	−	−
−	本願寺(家老)	本願寺(家老)	−	−	−
浪人(家老)	本願寺(家老)	本願寺(家老)	−	−	一向宗(家老)
武田家(組頭)	武田家(組頭)	武田家(組頭)	徳川家(組頭)	徳川家(組頭)	武田家(組頭)
−	上杉家(宿老)	上杉家(家老)	上杉家(家老)	浪人(与力)	−
少弐家(主君)	−	−	−	−	竜造寺家(与力)
少弐家(宿老)	−	−	−	−	竜造寺家(組頭)
三村家(部将)	毛利家(部将)	−	毛利家(部将)	−	毛利家(馬廻)
伊達家(宿老)	伊達家(宿老)	伊達家(重臣)	伊達家(重臣)	伊達家(奉行)	伊達家(重臣)
三好家(部将)	三好家(部将)	三好家(部将)	−	−	三好家(部将)
浅井家(部将)	六角家(部将)	−	羽柴家(部将)	豊臣家(部将)	浅井家(部将)
六角家(部将)	六角家(部将)	織田家(部将)	浪人(部将)	−	六角家(部将)
神保家(家老)	神保家(家老)	神保家(家老)	浪人(家老)	−	神保家(家老)
−	神保家(宿老)	神保家(宿老)	浪人(宿老)	−	−
神保家(宿老)	神保家(宿老)	神保家(家老)	浪人(宿老)	−	神保家(宿老)

武将名	別名	能力値				仕官年	生没年	忠臣
		戦闘	内政	外交	謀略			
し 新発田重家	―	B	D	E	C	1562	1546～1580	×
新発田長敦	―	C	B	B	C	1532	1516～1580	○
斯波義銀	―	D	D	D	D	1554	1538～1597	△
斯波義統	―	D	D	D	D	1527	1511～1560	○
島左近	―	A(軍)	C	B	B	1566	1550～1614	○
島津家久	―	A	C	D	D	1563	1547～1587	◎
島津勝久	―	C	D	D	D	1519	1503～1567	◎
島津貴久	―	B	B	B	C	1530	1514～1570	◎
島津忠恒	―	B	B	B	E	1594	1578～1638	◎
島津歳久	―	C	C	D	B	1553	1537～1592	◎
島津豊久	―	B	C	C	C	1586	1570～1634	◎
島津義久	―	B	A	B	C	1549	1533～1611	◎
島津義弘	―	A	C	A	C	1551	1535～1619	◎
島村宗政	―	C	D	C	C	1529	1513～1577	○
清水景治	―	C	C	C	C	1572	1556～1620	○
志水清之	―	C	C	C	C	1570	1554～1618	○
清水高信	―	D	C	C	D	1556	1540～1604	○
清水宗治	―	C	B	C	C	1553	1537～1582	○
清水康英	―	B	E	D	C	1548	1532～1591	○
志村光安	―	A	C	E	B	1572	1556～1609	○
下方貞清	―	B	C	D	D	1543	1527～1606	○
下国重季	―	C	C	C	C	1561	1545～1614	○
下国師季	―	C	C	C	C	1520	1504～1568	○
下曽根信辰	―	C	C	D	C	1541	1525～1589	○
下間仲之	―	C	C	B	D	1570	1554～1618	○
下間仲孝	―	B	C	C	C	1567	1551～1616	○
下間頼俊	―	D	B	C	C	1556	1540～1604	○
下間頼照	―	B	D	D	D	1540	1524～1575	○
下間頼総	―	B	C	B	D	1535	1519～1583	○
下間頼竜	―	E	C	B	D	1530	1514～1580	○
下間頼廉	―	A	D	D	B	1553	1537～1626	○
城景茂	―	C	D	D	C	1562	1546～1610	○
上条政繁	―	B	C	B	C	1567	1551～1620	×
少弐冬尚	―	B	C	C	C	1536	1520～1589	◎
少弐政興	―	C	B	C	C	1544	1528～1597	◎
庄元祐	―	C	D	C	D	1548	1532～1596	○
白石宗実	―	B	C	C	C	1569	1553～1599	○
新開実綱	―	D	C	D	D	1546	1530～1594	△
新庄直頼	―	B	D	D	E	1554	1538～1612	△
進藤賢盛	―	C	C	C	C	1542	1526～1590	○
神保覚広	―	D	D	C	D	1555	1539～1603	○
神保長国	―	D	D	D	D	1576	1560～1624	◎
神保長住	―	C	C	D	E	1570	1554～1583	×

所属大名と身分					
シナリオ1	シナリオ2	シナリオ3	シナリオ4	シナリオ5	シナリオ6
神保家(宿老)	神保家(宿老)	神保家(宿老)	浪人(宿老)	―	神保家(宿老)
神保家(宿老)	神保家(宿老)	神保家(宿老)	柴田家(与力)	―	神保家(主君)
神保家(主君)	神保家(主君)	神保家(主君)	―	―	神保家(宿老)
毛利家(宿老)	毛利家(宿老)	毛利家(宿老)	毛利家(重臣)	―	毛利家(部将)
大内家(重臣)	―	―	―	―	大内家(重臣)
大内家(家老)	―	―	―	―	大内家(家老)
―	上杉家(馬廻)	上杉家(馬廻)	上杉家(馬廻)	上杉家(馬廻)	―
今川家(部将)	今川家(部将)	武田家(部将)	―	―	徳川家(組頭)
今川家(部将)	今川家(部将)	―	徳川家(部将)	徳川家(部将)	徳川家(部将)
結城家(組頭)	結城家(組頭)	結城家(組頭)	結城家(家老)	―	結城家(組頭)
大内家(重臣)	―	―	―	―	大内家(重臣)
大内家(家老)	―	―	―	―	大内家(家老)
毛利家(部将)	―	―	―	毛利家(部将)	毛利家(馬廻)
毛利家(与力)	毛利家(与力)	毛利家(与力)	―	―	毛利家(与力)
雑賀衆(主君)	雑賀衆(主君)	雑賀衆(主君)	雑賀衆(宿老)	―	雑賀衆(宿老)
雑賀衆(宿老)	雑賀衆(宿老)	雑賀衆(宿老)	雑賀衆(宿老)	―	雑賀衆(宿老)
―	武田家(部将)	武田家(部将)	真田家(部将)	―	真田家(部将)
―	―	―	上杉家(組頭)	上杉家(馬廻)	―
村上家(地侍)	武田家(部将)	武田家(部将)	上杉家(部将)	上杉家(部将)	村上家(部将)
小笠原家(与力)	―	―	―	―	小笠原家(与力)
小笠原家(与力)	武田家(部将)	武田家(地侍)	徳川家(部将)	徳川家(部将)	小笠原家(与力)
―	―	―	―	徳川家(部将)	―
伊達家(部将)	伊達家(部将)	伊達家(部将)	伊達家(部将)	伊達家(部将)	伊達家(部将)
北畠家(部将)	北畠家(地侍)	織田家(地侍)	北畠家(部将)	森家(部将)	北畠家(部将)
今川家(宿老)	今川家(家老)	―	―	―	今川家(家老)
北畠家(重臣)	北畠家(部将)	織田家(部将)	北畠家(重臣)	―	北畠家(重臣)
浪人(地侍)	―	―	―	森家(与力)	豊臣家(部将)
―	―	津軽家(与力)	津軽家(与力)	―	津軽家(与力)
葦名家(与力)	―	―	―	―	相馬家(宿老)
―	葦名家(与力)	葦名家(与力)	葦名家(与力)	上杉家(与力)	―
葦名家(与力)	葦名家(与力)	葦名家(与力)	葦名家(与力)	―	相馬家(主君)
葦名家(与力)	葦名家(与力)	葦名家(与力)	葦名家(部将)	上杉家(与力)	相馬家(宿老)
―	―	―	―	豊臣家(部将)	―
三好家(与力)	―	―	―	―	十河家(宿老)
三好家(宿老)	三好家(与力)	―	―	―	十河家(主君)
三好家(宿老)	三好家(与力)	三好家(与力)	十河家(主君)	―	十河家(宿老)
武田家(組頭)	武田家(組頭)	武田家(組頭)	―	―	武田家(組頭)
―	―	―	―	福島家(地侍)	―
今川家(家老)	―	―	―	―	今川家(家老)
北条家(組頭)	北条家(組頭)	北条家(組頭)	北条家(組頭)	福島家(組頭)	―
北条家(重臣)	北条家(家老)	北条家(家老)	北条家(家老)	―	北条家(家老)
山名家(奉行)	山名家(奉行)	山名家(奉行)	浪人(奉行)	―	山名家(奉行)
小野寺家(与力)	小野寺家(与力)	小野寺家(与力)	小野寺家(与力)	―	小野寺家(与力)

	武将名	別名	能力値				仕官年	生没年	忠臣
			戦闘	内政	外交	謀略			
す	神保長城	―	D	C	D	D	1573	1557～1621	◎
	神保氏張	―	C	C	D	C	1541	1526～1595	○
	神保長職	―	C	D	C	C	1528	1512～1576	△
	末次元康	―	C	C	C	C	1574	1558～1597	○
	陶長房	―	B	C	C	C	1554	1538～1602	×
	陶晴賢	―	B	B	B	B	1537	1521～1585	×
	菅名綱輔	―	C	D	C	C	1569	1553～1617	○
	菅沼定忠	―	C	C	C	C	1556	1540～1604	△
	菅沼定村	―	C	C	C	C	1564	1548～1612	△
	菅谷政貞	―	B	C	E	D	1534	1518～1592	△
	杉興運	―	C	C	C	C	1520	1504～1563	△
	杉重矩	―	C	C	E	C	1512	1496～1551	△
	杉原景保	―	C	C	C	C	1572	1556～1620	○
	杉原盛重	―	C	D	C	D	1536	1520～1581	△
	鈴木佐大夫	―	B	C	C	C	1529	1513～1592	◎
	鈴木重朝	―	B	C	E	C	1553	1537～1596	○
	鈴木重則	―	C	D	C	C	1563	1547～1676	○
	須田長義	―	B	C	D	C	1593	1577～1626	△
	須田満親	―	C	C	C	D	1564	1548～1617	△
	諏訪頼重	―	C	C	D	E	1536	1520～1584	○
	諏訪頼忠	―	E	C	C	C	1582	1566～1635	△
	諏訪頼水	―	C	B	C	D	1579	1563～1627	○
せ	瀬上景康	―	C	C	C	C	1575	1559～1623	○
	関一政	―	C	B	D	D	1578	1562～1621	△
	関口氏広	―	D	C	C	C	1536	1520～1584	○
	関盛信	―	D	C	C	D	1535	1519～1593	△
	仙石秀久	―	C	D	C	D	1568	1552～1614	○
	千徳政氏	―	B	D	D	C	1568	1552～1618	○
そ	相馬顕胤	―	B	C	E	D	1524	1508～1572	○
	相馬利胤	―	B	C	C	D	1597	1581～1625	○
	相馬盛胤	―	A	D	C	E	1545	1529～1601	△
	相馬義胤	―	B	D	B	E	1564	1548～1635	△
	宗義智	―	C	C	B	D	1584	1568～1615	○
	十河景滋	―	C	C	C	C	1529	1513～1562	○
	十河一存	―	A	D	D	D	1546	1530～1561	◎
	十河存保	―	B	C	D	C	1570	1554～1618	◎
	曽根昌世	―	B	B	C	C	1567	1551～1615	△
	祖父江法斎	―	C	C	C	C	1558	1542～1606	○
た	太原雪斎	―	C(軍)	A(軍)	A(軍)	B(軍)	1512	1496～1555	○
	大道寺直次	―	C	C	C	C	1587	1571～1651	○
	大道寺政繁	―	E	A	E	B	1549	1533～1590	○
	田結庄光保	―	D	C	C	D	1544	1528～1592	○
	大宝寺義氏	―	D	E	C	E	1565	1549～1613	△

所属大名と身分					
シナリオ1	シナリオ2	シナリオ3	シナリオ4	シナリオ5	シナリオ6
—	小野寺家(与力)	小野寺家(与力)	小野寺家(与力)	小野寺家(与力)	—
北条家(部将)	北条家(部将)	北条家(部将)	—	—	北条家(部将)
—	—	浪人(剣豪)	浪人(剣豪)	浪人(剣豪)	—
村上家(与力)	—	—	—	—	村上家(与力)
大友家(重臣)	大友家(重臣)	大友家(重臣)	—	—	立花家(部将)
朝倉家(組頭)	朝倉家(馬廻)	朝倉家(馬廻)	浪人(馬廻)	—	朝倉家(組頭)
大友家(部将)	大友家(部将)	大友家(部将)	大友家(重臣)	—	立花家(家老)
—	—	—	—	立花家(宿老)	—
大友家(部将)	大友家(組頭)	大友家(組頭)	島津家(組頭)	高橋家(主君)	立花家(組頭)
—	—	—	—	豊臣家(部将)	—
佐竹家(組頭)	佐竹家(組頭)	佐竹家(組頭)	佐竹家(組頭)	佐竹家(部将)	佐竹家(組頭)
佐竹家(部将)	佐竹家(部将)	佐竹家(部将)	—	—	佐竹家(部将)
結城家(重臣)	結城家(重臣)	結城家(重臣)	結城家(重臣)	—	結城家(重臣)
松永家(地侍)	浪人(地侍)	織田家(部将)	池田家(与力)	前田家(与力)	松永家(地侍)
—	松永家(部将)	—	筒井家(部将)	—	—
今川家(部将)	—	徳川家(重臣)	—	徳川家(重臣)	徳川家(部将)
—	—	—	滝川家(宿老)	徳川家(部将)	—
浪人(地侍)	織田家(部将)	織田家(重臣)	滝川家(主君)	—	織田家(重臣)
浪人(地侍)	—	—	—	滝川家(主君)	織田家(地侍)
—	—	—	滝川家(宿老)	浪人(組頭)	—
—	—	—	滝川家(宿老)	浪人(組頭)	—
大友家(部将)	—	—	—	—	大友家(組頭)
大友家(部将)	大友家(組頭)	大友家(部将)	—	—	大友家(部将)
大友家(重臣)	大友家(重臣)	大友家(重臣)	—	—	大友家(重臣)
武田家(宿老)	武田家(宿老)	武田家(宿老)	—	—	武田家(宿老)
山名家(部将)	山名家(部将)	山名家(部将)	—	—	山名家(部将)
武田家(宿老)	武田家(宿老)	武田家(宿老)	—	—	武田家(宿老)
武田家(宿老)	武田家(宿老)	武田家(宿老)	—	—	武田家(宿老)
武田家(宿老)	武田家(宿老)	—	—	—	武田家(宿老)
武田家(宿老)	武田家(宿老)	武田家(宿老)	—	—	武田家(宿老)
—	—	徳川家(部将)	—	徳川家(家老)	—
武田家(主君)	武田家(主君)	武田家(主君)	—	—	武田家(主君)
将軍家(部将)	朝倉家(部将)	織田家(部将)	明智家(部将)	—	足利家(部将)
将軍家(与力)	将軍家(与力)	—	—	—	足利家(与力)
武田家(宿老)	武田家(宿老)	—	—	—	武田家(宿老)
—	—	—	—	織田家(与力)	—
斎藤家(地侍)	斎藤家(地侍)	織田家(地侍)	神戸家(部将)	—	斎藤家(地侍)
斎藤家(部将)	斎藤家(部将)	—	—	—	斎藤家(部将)
斎藤家(組頭)	斎藤家(部将)	織田家(組頭)	—	—	斎藤家(重臣)
—	六角家(部将)	織田家(部将)	浪人(部将)	豊臣家(部将)	—
長尾家(部将)	上杉家(重臣)	上杉家(重臣)	—	—	上杉家(部将)
朝倉家(組頭)	朝倉家(地侍)	朝倉家(地侍)	浪人(地侍)	浪人(地侍)	朝倉家(組頭)
—	宇都宮家(組頭)	宇都宮家(組頭)	宇都宮家(部将)	—	—

武将名	別名	能力値				仕官年	生没年	忠臣
		戦闘	内政	外交	謀略			
大宝寺義勝	―	D	E	C	E	1586	1570～1634	△
高城胤辰	―	C	C	C	D	1517	1501～1565	○
高田又兵衛	―	B	D	C	C	1603	1587～1666	○
高梨政頼	―	C	D	C	C	1526	1510～1559	○
高橋鑑種	―	C	C	C	C	1536	1520～1579	△
高橋景業	―	C	D	D	D	1560	1544～1608	○
高橋紹運	―	A	C	C	C	1564	1548～1612	○
高橋直次	―	B	D	C	C	1586	1570～1617	○
高橋元種	―	C	D	C	D	1587	1571～1614	△
多賀秀種	―	C	C	C	C	1581	1565～1616	○
多賀谷重経	―	B	D	C	D	1572	1556～1618	△
多賀谷政経	―	B	D	D	C	1547	1531～1576	△
多賀谷政広	―	D	D	B	C	1548	1532～1591	○
高山重友	―	B	C	C	D	1568	1552～1614	○
高山友照	―	C	C	C	C	1551	1535～1596	△
高力清長	―	B	B	C	D	1546	1530～1604	○
滝川一時	―	C	D	D	D	1584	1568～1603	○
滝川一益	―	A	D	D	B	1541	1525～1586	○
滝川雄利	―	C	C	C	C	1559	1543～1610	○
滝川忠征	―	C	B	C	D	1574	1558～1635	○
滝川益重	―	C	D	D	D	1581	1565～1629	○
田北鑑生	―	C	C	C	C	1536	1520～1561	○
田北鎮周	―	C	C	D	D	1559	1543～1607	○
田北紹鉄	―	B	D	E	C	1555	1539～1603	△
武田勝頼	―	A+	C	B	B	1562	1546～1610	◎
武田高信	―	D	D	D	C	1544	1528～1578	△
武田信勝	―	B	C	D	D	1583	1567～1582	◎
武田信廉	―	C	C	C	C	1543	1527～1582	◎
武田信繁	―	B	B	B	B	1541	1525～1589	◎
武田信豊	―	B	E	C	C	1563	1547～1611	◎
武田信吉	―	C	C	C	C	1598	1583～1603	○
武田晴信	武田信玄	A	S	A	A	1537	1521～1573	◎
武田元明	―	C	C	C	D	1568	1552～1611	△
武田義統	―	D	C	D	C	1541	1525～1579	◎
武田義信	―	B	C	D	D	1554	1538～1567	◎
竹中重門	―	C	B	C	C	1589	1573～1631	△
竹中重矩	―	C	C	D	C	1562	1546～1582	○
竹中重元	―	C	D	C	A	1515	1499～1560	○
竹中半兵衛	―	B(軍)	B	B+	A+(軍)	1560	1544～1579	△
建部寿徳	―	C	C	C	C	1552	1536～1607	○
竹俣慶綱	―	C	B	C	C	1540	1524～1588	○
多胡宇右衛門	―	C	C	C	C	1554	1538～1602	△
多功綱継	―	B	D	C	C	1559	1543～1593	○

た

所属大名と身分					
シナリオ1	シナリオ2	シナリオ3	シナリオ4	シナリオ5	シナリオ6
―	宇都宮家(組頭)	宇都宮家(組頭)	宇都宮家(重臣)	―	―
山名家(部将)	山名家(部将)	山名家(部将)	浪人(部将)	―	山名家(部将)
宇都宮家(組頭)	宇都宮家(組頭)	宇都宮家(重臣)	―	―	宇都宮家(組頭)
尼子家(部将)	―	―	―	―	尼子家(部将)
大友家(組頭)	大友家(部将)	大友家(部将)	竜造寺家(部将)	―	大友家(部将)
大友家(重臣)	大友家(奉行)	大友家(家老)	立花家(主君)	―	立花家(主君)
大友家(部将)	大友家(部将)	大友家(部将)	立花家(部将)	立花家(主君)	立花家(宿老)
尼子家(重臣)	尼子家(重臣)	浪人(組頭)	毛利家(重臣)	毛利家(重臣)	尼子家(重臣)
最上家(家老)	最上家(家老)	最上家(重臣)	最上家(家老)	最上家(家老)	最上家(部将)
伊達家(宿老)	伊達家(宿老)	伊達家(宿老)	伊達家(宿老)	―	伊達家(宿老)
伊達家(宿老)	伊達家(宿老)	伊達家(宿老)	伊達家(宿老)	伊達家(宿老)	伊達家(宿老)
―	―	―	―	伊達家(宿老)	―
―	―	―	―	―	伊達家(宿老)
伊達家(宿老)	伊達家(宿老)	伊達家(宿老)	伊達家(主君)	―	伊達家(宿老)
伊達家(主君)	伊達家(主君)	伊達家(主君)	―	―	伊達家(宿老)
―	―	―	―	伊達家(宿老)	―
伊達家(宿老)	伊達家(宿老)	伊達家(宿老)	伊達家(宿老)	伊達家(主君)	伊達家(主君)
―	伊達家(部将)	伊達家(部将)	―	―	―
浪人(地侍)	浪人(地侍)	浅井家(地侍)	羽柴家(部将)	池田家(与力)	豊臣家(部将)
長宗我部家(重臣)	長宗我部家(家老)	長宗我部家(家老)	長宗我部家(家老)	長宗我部家(家老)	長宗我部家(重臣)
島津家(部将)	―	―	―	―	島津家(部将)
島津家(部将)	島津家(部将)	島津家(与力)	―	―	島津家(部将)
島津家(部将)	島津家(部将)	島津家(部将)	島津家(部将)	島津家(部将)	島津家(部将)
大友家(与力)	大友家(宿老)	大友家(宿老)	大友家(家老)	浪人(与力)	大友家(与力)
大友家(与力)	大友家(宿老)	大友家(宿老)	大友家(宿老)	立花家(与力)	大友家(与力)
大友家(与力)	大友家(宿老)	大友家(宿老)	大友家(宿老)	浪人(与力)	大友家(与力)
―	宇都宮家(部将)	宇都宮家(部将)	宇都宮家(部将)	浪人(組頭)	―
北畠家(部将)	―	―	―	織田家(部将)	北畠家(部将)
伊達家(与力)	伊達家(与力)	伊達家(与力)	伊達家(与力)	―	伊達家(与力)
伊達家(組頭)	伊達家(組頭)	伊達家(組頭)	伊達家(組頭)	伊達家(組頭)	伊達家(組頭)
北条家(部将)	北条家(部将)	北条家(部将)	北条家(部将)	―	北条家(部将)
長尾家(部将)	上杉家(部将)	上杉家(部将)	上杉家(部将)	―	上杉家(部将)
里見家(部将)	里見家(部将)	北条家(部将)	北条家(部将)	―	里見家(与力)
里見家(組頭)	里見家(組頭)	北条家(組頭)	北条家(組頭)	徳川家(組頭)	里見家(組頭)
―	―	―	―	―	木曽家(部将)
織田家(地侍)	織田家(馬廻)	織田家(馬廻)	―	―	―
―	畠山家(部将)	畠山家(組頭)	―	―	―
島津家(組頭)	島津家(組頭)	島津家(組頭)	島津家(組頭)	島津家(組頭)	島津家(組頭)
長宗我部家(主君)	―	―	―	―	長宗我部家(宿老)
長宗我部家(宿老)	長宗我部家(宿老)	長宗我部家(宿老)	長宗我部家(宿老)	―	長宗我部家(宿老)
長宗我部家(宿老)	長宗我部家(主君)	長宗我部家(主君)	長宗我部家(主君)	長宗我部家(主君)	長宗我部家(主君)
長宗我部家(宿老)	長宗我部家(宿老)	長宗我部家(宿老)	長宗我部家(宿老)	長宗我部家(宿老)	長宗我部家(宿老)
畠山家(家老)	畠山家(家老)	畠山家(家老)	―	―	畠山家(家老)

	武将名	別名	能力値				仕官年	生没年	忠臣
			戦闘	内政	外交	謀略			
た	多功綱賀	―	C	D	D	D	1542	1526～1595	○
	田公豊高	―	D	D	D	D	1539	1523～1587	△
	多功房興	―	B	D	D	C	1519	1503～1589	○
	多胡辰敬	―	C	C	C	C	1516	1500～1562	○
	田尻鑑種	―	C	C	D	D	1537	1521～1590	△
	立花道雪	戸次鑑連	S	C	D	B	1529	1513～1585	○
	立花宗茂	―	A	B	C	D	1583	1567～1642	○
	立原久綱	―	C	C	C	C	1547	1531～1613	○
	楯岡満茂	―	C	D	D	C	1561	1545～1604	○
	伊達実元	―	C	C	C	C	1543	1527～1587	◎
	伊達成実	―	A	B	C	C	1584	1568～1646	◎
	伊達忠宗	―	C	B	B	C	1615	1599～1658	◎
	伊達稙宗	―	B	D	B	C	1504	1488～1617	◎
	伊達輝宗	―	C	B	B	C	1560	1544～1608	◎
	伊達晴宗	―	B	B	C	C	1535	1519～1577	◎
	伊達秀宗	―	C	B	C	C	1607	1591～1658	◎
	伊達政宗	―	B+	A+	B+	A+	1583	1567～1636	◎
	田手宗時	―	C	D	C	D	1567	1551～1615	○
	田中吉政	―	C	B	C	C	1564	1548～1609	○
	谷忠澄	―	E	C	B	C	1550	1534～1600	○
	種子島恵時	―	B	C	B	E	1519	1503～1567	○
	種子島時尭	―	B	C	B	D	1544	1528～1579	○
	種子島久時	―	B	D	C	E	1584	1568～1611	○
	田原紹忍	―	C	B	C	C	1551	1535～1600	◎
	田原親家	―	C	C	C	C	1577	1561～1641	◎
	田原親盛	―	C	C	D	C	1583	1567～1643	◎
	玉生高宗	―	D	C	D	D	1561	1545～1609	○
	田丸直昌	―	C	C	C	C	1576	1560～1624	○
	田村清顕	―	C	C	B	C	1538	1522～1586	△
	田村宗顕	―	C	C	C	C	1584	1568～1632	△
	多米長宗	―	C	C	C	C	1561	1545～1609	○
ち	千坂景親	―	B	C	D	C	1544	1528～1592	○
	千葉胤富	―	E	C	C	C	1541	1525～1584	△
	千葉良胤	―	C	D	C	C	1573	1557～1607	○
	千村良重	―	B	E	D	C	1582	1566～1695	○
	中条家忠	―	B	D	D	D	1546	1530～1578	○
	長景連	―	C	D	D	E	1569	1553～1617	○
	長寿院盛淳	―	C	C	C	C	1563	1547～1611	○
	長宗我部国親	―	B	B	C	C	1520	1504～1560	◎
	長宗我部信親	―	B	C	C	C	1581	1565～1629	◎
	長宗我部元親	―	B	B	C	B	1555	1539～1599	◎
	長宗我部盛親	―	B	D	D	D	1591	1575～1634	◎
	長続連	―	C	C	C	C	1529	1513～1577	○

所属大名と身分					
シナリオ1	シナリオ2	シナリオ3	シナリオ4	シナリオ5	シナリオ6
畠山家(部将)	畠山家(重臣)	畠山家(重臣)	―	―	畠山家(部将)
畠山家(組頭)	畠山家(組頭)	畠山家(部将)	柴田家(組頭)	前田家(重臣)	畠山家(組頭)
浪人(剣豪)	島津家(剣豪)	―	―	―	島津家(剣豪)
―	―	―	―	津軽家(宿老)	―
少弐家(部将)	大友家(組頭)	大友家(組頭)	立花家(与力)	立花家(与力)	竜造寺家(部将)
―	武田家(組頭)	武田家(組頭)	徳川家(組頭)	―	―
―	―	―	―	前田家(重臣)	―
―	―	―	―	筒井家(与力)	―
伊東家(与力)	伊東家(与力)	伊東家(与力)	―	―	伊東家(与力)
武田家(組頭)	武田家(組頭)	武田家(部将)	―	―	武田家(部将)
浪人(地侍)	松永家(組頭)	―	筒井家(宿老)	筒井家(主君)	松永家(地侍)
浪人(組頭)	松永家(部将)	―	筒井家(主君)	―	松永家(与力)
一条家(組頭)	―	―	―	―	―
大友家(重臣)	大友家(奉行)	大友家(奉行)	―	―	大友家(奉行)
長宗我部家(重臣)	長宗我部家(重臣)	長宗我部家(重臣)	長宗我部家(重臣)	長宗我部家(重臣)	―
浪人(地侍)	―	―	羽柴家(馬廻)	筒井家(与力)	豊臣家(地侍)
神保家(重臣)	神保家(重臣)	神保家(重臣)	浪人(重臣)	―	神保家(重臣)
―	―	―	―	豊臣家(組頭)	―
―	一向宗(重臣)	一向宗(重臣)	―	―	―
―	―	―	―	徳川家(部将)	―
河野家(奉行)	河野家(奉行)	河野家(奉行)	河野家(奉行)	―	河野家(奉行)
島津家(組頭)	島津家(組頭)	島津家(組頭)	島津家(組頭)	島津家(組頭)	島津家(組頭)
―	島津家(剣豪)	島津家(剣豪)	島津家(剣豪)	島津家(剣豪)	―
浪人(地侍)	浪人(地侍)	浅井家(地侍)	羽柴家(部将)	藤堂家(主君)	豊臣家(部将)
―	―	―	―	藤堂家(宿老)	―
―	―	―	―	藤堂家(家老)	―
―	里見家(組頭)	里見家(組頭)	里見家(部将)	―	―
北条家(重臣)	北条家(重臣)	北条家(重臣)	―	―	北条家(重臣)
浦上家(馬廻)	浦上家(馬廻)	宇喜多家(重臣)	宇喜多家(重臣)	―	宇喜多家(重臣)
―	―	徳川家(組頭)	―	徳川家(組頭)	―
河野家(部将)	河野家(部将)	河野家(部将)	河野家(部将)	―	河野家(部将)
織田家(地侍)	―	織田家(地侍)	柴田家(部将)	福島家(与力)	織田家(地侍)
―	―	―	柴田家(重臣)	―	―
小野寺家(与力)	小野寺家(与力)	小野寺家(与力)	小野寺家(与力)	小野寺家(部将)	―
小野寺家(重臣)	小野寺家(重臣)	小野寺家(重臣)	小野寺家(重臣)	小野寺家(重臣)	―
小野寺家(重臣)	小野寺家(重臣)	小野寺家(重臣)	小野寺家(部将)	―	小野寺家(重臣)
織田家(地侍)	浪人(地侍)	織田家(馬廻)	丹羽家(部将)	豊臣家(部将)	―
―	―	―	―	浅野家(重臣)	―
―	―	―	―	織田家(家老)	―
―	―	雑賀衆(組頭)	浪人(地侍)	浪人(地侍)	―
雑賀衆(地侍)	―	雑賀衆(部将)	―	―	雑賀衆(地侍)
―	―	浅井家(地侍)	羽柴家(地侍)	豊臣家(組頭)	―
葦名家(組頭)	葦名家(奉行)	葦名家(奉行)	葦名家(奉行)	浪人(組頭)	葦名家(組頭)

	武将名	別名	能力値				仕官年	生没年	忠臣
			戦闘	内政	外交	謀略			
つ	長綱連	―	D	D	C	C	1557	1541～1605	○
	長連龍	―	C	C	C	C	1560	1544～1613	○
	塚原卜伝	―	A	E	E	E	1505	1489～1571	△
	津軽信建	―	C	C	C	C	1590	1574～1607	○
	筑紫広門	―	C	D	B	C	1572	1556～1623	○
	辻盛昌	―	C	D	D	D	1542	1526～1590	○
	津田重久	―	C	C	C	C	1565	1549～1634	○
	津田信成	―	C	C	C	C	1578	1562～1645	○
	土持親成	―	C	C	C	D	1539	1523～1587	△
	土屋昌次	―	B	C	D	D	1561	1545～1609	○
	筒井定次	―	C	C	D	C	1578	1562～1615	△
	筒井順慶	―	C	C	B	B	1565	1549～1584	△
	津野勝興	―	D	C	D	D	1539	1523～1592	○
	角隅石宗	―	C(軍)	B	B	B	1541	1525～1578	○
	津野親忠	―	C	D	C	E	1588	1572～1636	△
て	寺沢広高	―	C	B	D	C	1577	1561～1630	○
	寺島信鎮	―	D	C	C	D	1546	1530～1594	△
	寺田光吉	―	B	D	D	D	1576	1560～1624	○
と	土肥但馬	―	C	D	C	C	1558	1542～1606	○
	土井利勝	―	D	A	B	C	1589	1573～1644	○
	土居通周	―	D	C	D	D	1547	1531～1595	△
	東郷重虎	―	C	D	D	D	1591	1575～1639	○
	東郷重位	―	A	E	C	E	1588	1572～1651	○
	藤堂高虎	―	C	A	B	A	1572	1556～1630	×
	藤堂高吉	―	B	B	C	C	1597	1581～1670	○
	藤堂嘉清	―	D	B	C	C	1575	1559～1623	○
	東平安芸守	―	C	D	D	C	1566	1550～1600	△
	遠山綱景	―	C	C	D	C	1529	1513～1577	○
	戸川秀安	―	B	D	C	C	1549	1533～1592	△
	土岐定義	―	B	C	C	C	1590	1574～1638	○
	得居通年	―	C	E	C	D	1572	1556～1620	○
	徳永寿昌	―	C	C	D	C	1563	1547～1616	○
	徳山秀現	―	C	C	C	C	1561	1545～1606	○
	戸沢政盛	―	C	C	C	C	1592	1576～1645	○
	戸沢道盛	―	C	C	C	C	1540	1524～1604	○
	戸沢盛安	―	C	C	C	C	1579	1563～1627	○
	戸田勝成	―	C	C	D	C	1571	1555～1614	○
	戸田勝直	―	C	C	C	C	1561	1545～1628	△
	百々綱家	―	D	C	C	D	1564	1548～1609	○
	土橋重治	―	C	E	E	E	1573	1557～1621	△
	土橋守重	―	C	E	E	E	1558	1542～1616	△
	富田重政	―	B	C	C	C	1570	1554～1623	○
	富田将監	―	B	C	E	D	1585	1569～1638	○

所属大名と身分					
シナリオ1	シナリオ2	シナリオ3	シナリオ4	シナリオ5	シナリオ6
朝倉家(部将)	朝倉家(部将)	朝倉家(部将)	ー	ー	朝倉家(部将)
ー	ー	ー	ー	富田家(主君)	ー
北条家(重臣)	ー	ー	ー	ー	北条家(重臣)
ー	ー	徳川家(組頭)	ー	徳川家(部将)	ー
今川家(地侍)	松平家(重臣)	徳川家(重臣)	徳川家(重臣)	徳川家(重臣)	徳川家(重臣)
ー	北畠家(重臣)	ー	北畠家(重臣)	ー	ー
今川家(地侍)	ー	徳川家(重臣)	ー	徳川家(重臣)	徳川家(地侍)
大内家(組頭)	毛利家(組頭)	毛利家(組頭)	毛利家(組頭)	ー	大内家(組頭)
北条家(部将)	北条家(部将)	北条家(部将)	北条家(部将)	ー	北条家(部将)
武田家(組頭)	武田家(奉行)	武田家(家老)	ー	ー	武田家(奉行)
長尾家(宿老)	上杉家(馬廻)	上杉家(馬廻)	上杉家(奉行)	上杉家(宿老)	上杉家(奉行)
長尾家(重臣)	上杉家(奉行)	上杉家(奉行)	ー	ー	上杉家(重臣)
長尾家(部将)	上杉家(部将)	上杉家(部将)	ー	ー	上杉家(部将)
ー	ー	ー	南部家(家老)	南部家(家老)	ー
斎藤家(宿老)	斎藤家(宿老)	ー	ー	ー	斎藤家(家老)
ー	ー	ー	ー	豊臣家(組頭)	ー
長尾家(宿老)	上杉家(宿老)	上杉家(宿老)	上杉家(主君)	上杉家(主君)	上杉家(宿老)
長尾家(宿老)	上杉家(主君)	上杉家(主君)	ー	ー	上杉家(主君)
上杉家(与力)	上杉家(与力)	ー	ー	ー	長野家(与力)
長尾家(宿老)	上杉家(宿老)	上杉家(宿老)	ー	ー	上杉家(宿老)
上杉家(部将)	上杉家(部将)	上杉家(部将)	ー	ー	長野家(部将)
長尾家(主君)	ー	ー	ー	ー	上杉家(宿老)
長尾家(宿老)	上杉家(宿老)	ー	ー	ー	上杉家(家老)
三好家(組頭)	三好家(部将)	織田家(部将)	池田家(与力)	ー	豊臣家(組頭)
ー	ー	ー	ー	加藤家(与力)	ー
伊東家(重臣)	伊東家(重臣)	伊東家(重臣)	ー	ー	伊東家(重臣)
ー	佐竹家(組頭)	佐竹家(組頭)	佐竹家(組頭)	佐竹家(部将)	ー
ー	佐竹家(地侍)	佐竹家(地侍)	佐竹家(地侍)	佐竹家(地侍)	ー
武田家(組頭)	武田家(組頭)	武田家(組頭)	ー	ー	武田家(組頭)
ー	長宗我部家(組頭)	長宗我部家(組頭)	長宗我部家(組頭)	長宗我部家(組頭)	ー
長宗我部家(部将)	長宗我部家(部将)	長宗我部家(部将)	長宗我部家(部将)	長宗我部家(部将)	長宗我部家(部将)
伊達家(部将)	伊達家(部将)	伊達家(部将)	伊達家(部将)	伊達家(部将)	伊達家(部将)
長尾家(部将)	上杉家(部将)	上杉家(部将)	ー	ー	上杉家(部将)
長尾家(重臣)	上杉家(重臣)	上杉家(重臣)	ー	ー	上杉家(与力)
浅井家(部将)	浅井家(部将)	織田家(部将)	ー	ー	浅井家(部将)
北畠家(重臣)	北畠家(与力)	ー	ー	ー	北畠家(重臣)
上杉家(奉行)	上杉家(与力)	ー	ー	ー	長野家(主君)
上杉家(部将)	上杉家(部将)	ー	ー	ー	長野家(宿老)
伊達家(重臣)	伊達家(重臣)	伊達家(重臣)	ー	ー	伊達家(重臣)
六角家(部将)	六角家(部将)	織田家(部将)	ー	ー	六角家(部将)
浪人(地侍)	浪人(地侍)	織田家(地侍)	羽柴家(部将)	中村家(主君)	豊臣家(重臣)
ー	ー	ー	ー	中村家(宿老)	ー
ー	ー	ー	ー	中村家(宿老)	ー

	武将名	別名	能力値				仕官年	生没年	忠臣
			戦闘	内政	外交	謀略			
と	富田長繁	—	B	D	B	B	1568	1552～1616	△
	富田信高	—	C	C	C	C	1585	1569～1633	○
	富永直勝	—	C	C	C	C	1526	1510～1574	○
	鳥居忠政	—	C	B	C	C	1582	1566～1628	○
	鳥居元忠	—	B	C	D	C	1555	1539～1600	○
	鳥屋尾満栄	—	C	C	D	B	1546	1530～1594	△
な	内藤家長	—	B	D	E	E	1562	1546～1610	○
	内藤隆春	—	D	C	E	C	1544	1528～1600	○
	内藤綱秀	—	C	C	D	C	1567	1551～1615	○
	内藤昌豊	—	B	B	C	A	1540	1524～1593	○
	直江兼続	—	A(軍)	A	B	B(軍)	1576	1560～1619	○
	直江実綱	—	B	B	C	C	1523	1507～1577	○
	直江信綱	—	C	B	D	C	1566	1550～1581	○
	楢山義実	—	B	C	D	D	1566	1550～1603	○
	長井道利	—	C	C	C	B	1532	1516～1571	○
	中江直澄	—	C	C	C	C	1576	1560～1624	○
	長尾景勝	上杉景勝	B	B	B	C	1571	1555～1623	◎
	長尾景虎	上杉謙信	S+	B	B	C	1546	1530～1578	◎
	長尾景長	—	D	C	D	D	1543	1527～1569	○
	長尾景信	上杉景信	C	C	D	C	1543	1527～1578	○
	長尾憲景	—	D	C	B	C	1527	1511～1583	○
	長尾晴景	—	D	D	D	C	1527	1511～1544	◎
	長尾政景	—	B	C	D	C	1540	1524～1564	△
	中川清秀	—	C	D	D	D	1558	1542～1606	○
	中川秀成	—	C	D	C	D	1586	1570～1612	△
	長倉祐政	—	C	D	C	C	1532	1516～1580	○
	長倉義当	—	C	D	D	C	1569	1553～1617	○
	長倉義興	—	C	D	C	D	1589	1573～1637	○
	長坂光堅	—	D	C	B	C	1561	1545～1609	○
	中島重房	—	C	B	D	C	1583	1567～1631	○
	中島親吉	—	C	C	D	B	1559	1543～1607	○
	中島宗求	—	C	D	B	B	1570	1554～1618	○
	中条景泰	—	C	C	C	C	1570	1554～1618	○
	中条藤資	—	B	C	D	C	1507	1491～1574	○
	永田正貞	—	C	D	E	E	1532	1516～1580	○
	長野具藤	—	C	D	E	D	1567	1551～1600	△
	長野業正	—	A	C	C	B	1507	1491～1561	○
	長野業盛	—	B	D	D	D	1562	1546～1563	○
	中野宗時	—	E	C	B	C	1527	1511～1580	○
	永原重康	—	C	C	C	D	1532	1516～1580	○
	中村一氏	—	C	E	D	C	1563	1547～1600	○
	中村一忠	—	D	D	D	D	1606	1590～1609	○
	中村一栄	—	D	C	C	C	1566	1550～1614	○

所属大名と身分					
シナリオ1	シナリオ2	シナリオ3	シナリオ4	シナリオ5	シナリオ6
－	赤松家(組頭)	赤松家(組頭)	浪人(組頭)	浪人(組頭)	－
山名家(重臣)	山名家(重臣)	山名家(重臣)	－	－	山名家(重臣)
－	－	－	－	蒲生家(与力)	－
浪人(地侍)	浪人(地侍)	織田家(地侍)	羽柴家(部将)	豊臣家(家老)	豊臣家(部将)
少弐家(部将)	竜造寺家(宿老)	竜造寺家(宿老)	竜造寺家(宿老)	鍋島家(宿老)	竜造寺家(部将)
－	竜造寺家(宿老)	竜造寺家(宿老)	竜造寺家(宿老)	鍋島家(宿老)	－
少弐家(部将)	竜造寺家(宿老)	竜造寺家(宿老)	竜造寺家(宿老)	鍋島家(主君)	竜造寺家(家老)
－	姉小路家(宿老)	姉小路家(宿老)	姉小路家(宿老)	－	－
上杉家(部将)	上杉家(部将)	北条家(部将)	北条家(部将)	－	長野家(部将)
宇都宮家(与力)	－	－	－	蒲生家(与力)	宇都宮家(与力)
上杉家(与力)	上杉家(与力)	－	－	－	長野家(与力)
少弐家(組頭)	竜造寺家(重臣)	竜造寺家(重臣)	竜造寺家(重臣)	鍋島家(重臣)	竜造寺家(組頭)
少弐家(組頭)	竜造寺家(奉行)	竜造寺家(重臣)	竜造寺家(奉行)	－	竜造寺家(重臣)
大崎家(重臣)	大崎家(重臣)	大崎家(重臣)	大崎家(重臣)	伊達家(部将)	大崎家(重臣)
蛎崎家(重臣)	蛎崎家(重臣)	蛎崎家(重臣)	－	－	蛎崎家(重臣)
山名家(部将)	山名家(部将)	山名家(組頭)	羽柴家(馬廻)	豊臣家(部将)	山名家(馬廻)
山名家(部将)	山名家(部将)	山名家(部将)	羽柴家(部将)	－	山名家(部将)
赤松家(家老)	赤松家(家老)	赤松家(家老)	浪人(家老)	－	赤松家(家老)
南部家(宿老)	南部家(宿老)	南部家(宿老)	南部家(宿老)	南部家(宿老)	南部家(宿老)
南部家(宿老)	南部家(宿老)	南部家(宿老)	南部家(宿老)	南部家(宿老)	南部家(宿老)
南部家(宿老)	南部家(宿老)	南部家(宿老)	南部家(宿老)	南部家(主君)	南部家(宿老)
南部家(主君)	南部家(主君)	南部家(主君)	南部家(主君)	－	南部家(主君)
島津家(家老)	島津家(家老)	島津家(家老)	島津家(家老)	島津家(家老)	島津家(家老)
葦名家(宿老)	葦名家(与力)	葦名家(与力)	－	－	相馬家(与力)
－	－	－	－	織田家(与力)	－
今川家(組頭)	－	徳川家(組頭)	－	徳川家(組頭)	徳川家(組頭)
武田家(宿老)	武田家(宿老)	武田家(宿老)	－	－	武田家(家老)
小野寺家(家老)	小野寺家(家老)	小野寺家(家老)	小野寺家(家老)	－	－
－	－	津軽家(部将)	津軽家(部将)	－	津軽家(部将)
織田家(地侍)	織田家(組頭)	織田家(組頭)	丹羽家(部将)	丹羽家(主君)	－
織田家(組頭)	織田家(重臣)	織田家(重臣)	丹羽家(主君)	－	織田家(奉行)
－	織田家(地侍)	織田家(地侍)	丹羽家(部将)	丹羽家(宿老)	－
葦名家(与力)	葦名家(与力)	葦名家(与力)	－	－	相馬家(与力)
葦名家(与力)	葦名家(与力)	葦名家(与力)	葦名家(与力)	－	相馬家(部将)
畠山家(部将)	畠山家(重臣)	畠山家(重臣)	－	－	畠山家(部将)
畠山家(家老)	畠山家(家老)	畠山家(家老)	－	－	畠山家(家老)
南部家(部将)	南部家(組頭)	津軽家(重臣)	津軽家(重臣)	津軽家(重臣)	津軽家(部将)
一色家(与力)	一色家(与力)	一色家(与力)	浪人(与力)	－	浪人(与力)
肝付家(重臣)	肝付家(重臣)	－	－	－	肝付家(部将)
肝付家(部将)	肝付家(部将)	肝付家(部将)	－	－	肝付家(部将)
－	肝付家(部将)	肝付家(部将)	島津家(組頭)	島津家(与力)	－
－	－	武田家(剣豪)	真田家(剣豪)	真田家(剣豪)	真田家(剣豪)
織田家(地侍)	織田家(馬廻)	織田家(馬廻)	－	－	織田家(地侍)

	武将名	別名	能力値				仕官年	生没年	忠臣
			戦闘	内政	外交	謀略			
な	中村忠滋	—	C	C	C	C	1559	1543～1607	○
	中村春続	—	D	C	D	D	1558	1542～1601	△
	那須資景	—	C	C	C	C	1602	1586～1656	○
	長束正家	—	C	A	C	E	1571	1555～1600	○
	鍋島勝茂	—	B	C	C	D	1596	1580～1657	△
	鍋島忠茂	—	C	C	D	C	1600	1584～1648	△
	鍋島直茂	—	B	A+	B	B+	1554	1538～1618	△
	鍋山元綱	—	D	C	C	D	1580	1564～1628	○
	成田氏長	—	C	C	D	C	1558	1542～1595	△
	成田長忠	—	C	C	C	C	1568	1552～1616	○
	成田長泰	—	C	C	B	D	1524	1508～1567	○
	成富茂安	—	C	C	C	C	1576	1560～1639	○
	成松信勝	—	B	C	D	C	1559	1543～1607	○
	南条隆信	—	B	C	E	C	1577	1561～1625	○
	南条広継	—	C	C	C	C	1532	1516～1580	○
	南条元忠	—	D	C	D	D	1567	1551～1615	○
	南条元続	—	C	B	C	C	1543	1527～1591	△
	難波泰興	—	D	C	D	D	1548	1532～1596	○
	南部利直	—	E	B	C	B	1592	1576～1635	◎
	南部信愛	—	B	C	C	C	1539	1523～1612	×
	南部信直	—	C	B	C	C	1562	1546～1599	◎
	南部晴政	—	B	C	D	C	1533	1517～1582	◎
に	新納忠元	—	B	C	B	D	1540	1524～1610	○
	二階堂盛義	—	D	D	D	D	1547	1531～1581	◎
	西尾光教	—	C	C	C	C	1560	1544～1616	○
	西尾吉継	—	B	D	C	D	1546	1530～1606	○
	仁科盛信	—	A	C	C	D	1573	1557～1582	◎
	西野道房	—	C	C	B	D	1536	1520～1584	○
	乳井建清	—	B	C	D	C	1536	1520～1584	○
	丹羽長重	—	C	C	C	C	1587	1571～1637	○
	丹羽長秀	—	C	A	C	B	1551	1535～1585	○
	丹羽長正	—	E	D	C	C	1589	1573～1637	○
	二本松義国	—	E	D	C	D	1547	1531～1580	△
	二本松義継	—	D	D	D	C	1568	1552～1616	△
ぬ	温井景隆	—	D	C	D	C	1557	1541～1605	△
	温井続宗	—	D	C	C	D	1538	1522～1574	○
	沼田祐光	—	C	D	C	C	1563	1547～1616	○
	沼田統兼	—	D	D	C	C	1539	1523～1586	○
ね	禰寝清年	—	C	C	C	C	1532	1516～1570	△
	禰寝重長	—	E	C	C	C	1552	1536～1580	△
	禰寝重張	—	C	C	C	D	1582	1566～1629	△
	根津甚八	—	B	C	C	D	1580	1564～1638	○
	野々村正成	—	C	D	C	D	1555	1539～1603	○

所属大名と身分					
シナリオ1	シナリオ2	シナリオ3	シナリオ4	シナリオ5	シナリオ6
最上家(部将)	最上家(部将)	最上家(重臣)	最上家(家老)	最上家(家老)	最上家(部将)
毛利家(部将)	毛利家(部将)	毛利家(部将)	毛利家(部将)	－	毛利家(部将)
－	本願寺(与力)	本願寺(与力)	－	－	－
－	－	－	柴田家(部将)	－	－
北条家(部将)	北条家(部将)	北条家(部将)	北条家(部将)	－	北条家(部将)
宇都宮家(部将)	宇都宮家(部将)	－	－	－	－
宇都宮家(組頭)	宇都宮家(組頭)	宇都宮家(組頭)	宇都宮家(部将)	－	宇都宮家(部将)
北条家(組頭)	北条家(組頭)	北条家(組頭)	北条家(組頭)	浪人(組頭)	北条家(組頭)
浪人(地侍)	織田家(地侍)	織田家(地侍)	羽柴家(地侍)	－	豊臣家(宿老)
浪人(地侍)	織田家(馬廻)	織田家(組頭)	羽柴家(宿老)	－	豊臣家(宿老)
浪人(地侍)	織田家(組頭)	織田家(重臣)	羽柴家(主君)	－	豊臣家(主君)
浪人(地侍)	織田家(地侍)	織田家(地侍)	羽柴家(地侍)	豊臣家(主君)	豊臣家(宿老)
織田家(地侍)	浪人(地侍)	織田家(馬廻)	羽柴家(与力)	－	織田家(地侍)
伊達家(組頭)	伊達家(組頭)	伊達家(組頭)	伊達家(組頭)	伊達家(組頭)	伊達家(組頭)
将軍家(与力)	将軍家(与力)	将軍家(与力)	－	－	足利家(与力)
将軍家(重臣)	－	浪人(組頭)	浪人(組頭)	－	足利家(重臣)
将軍家(与力)	将軍家(重臣)	－	－	－	足利家(与力)
畠山家(主君)	畠山家(主君)	畠山家(主君)	－	－	畠山家(主君)
畠山家(宿老)	畠山家(宿老)	畠山家(宿老)	－	－	畠山家(宿老)
畠山家(宿老)	畠山家(宿老)	畠山家(宿老)	－	－	－
波多野家(主君)	－	－	－	－	－
波多野家(宿老)	波多野家(主君)	波多野家(主君)	－	－	浪人(宿老)
波多野家(宿老)	波多野家(宿老)	波多野家(宿老)	－	－	浪人(宿老)
浪人(地侍)	－	織田家(組頭)	羽柴家(組頭)	蜂須賀家(主君)	豊臣家(組頭)
浪人(地侍)	浪人(地侍)	織田家(組頭)	羽柴家(家老)	－	豊臣家(家老)
－	－	－	－	蜂須賀家(宿老)	－
南部家(部将)	南部家(組頭)	九戸家(部将)	南部家(与力)	南部家(与力)	南部家(部将)
織田家(組頭)	織田家(重臣)	織田家(重臣)	丹羽家(重臣)	－	織田家(部将)
－	斎藤家(馬廻)	浪人(組頭)	浪人(組頭)	－	－
今川家(忍者)	松平家(忍者)	徳川家(忍者)	徳川家(忍者)	－	徳川家(忍者)
浦上家(奉行)	浦上家(奉行)	宇喜多家(部将)	宇喜多家(部将)	－	宇喜多家(部将)
浦上家(馬廻)	浦上家(馬廻)	宇喜多家(家老)	宇喜多家(家老)	宇喜多家(家老)	宇喜多家(馬廻)
浦上家(部将)	浦上家(部将)	－	宇喜多家(部将)	浪人(部将)	宇喜多家(重臣)
－	浦上家(馬廻)	宇喜多家(部将)	－	－	－
武田家(重臣)	武田家(家老)	武田家(家老)	－	－	武田家(奉行)
少弐家(組頭)	竜造寺家(組頭)	浪人(組頭)	浪人(組頭)	－	竜造寺家(組頭)
河野家(重臣)	河野家(重臣)	河野家(組頭)	河野家(部将)	長宗我部家(組頭)	河野家(部将)
河野家(奉行)	河野家(奉行)	河野家(重臣)	河野家(奉行)	－	河野家(奉行)
伊達家(家老)	伊達家(家老)	伊達家(重臣)	伊達家(重臣)	－	伊達家(重臣)
－	－	－	－	早川家(主君)	－
－	武田家(地侍)	武田家(地侍)	徳川家(地侍)	徳川家(地侍)	－
－	－	－	－	蜂須賀家(重臣)	－
織田家(家老)	織田家(家老)	織田家(家老)	－	－	織田家(部将)

	武将名	別名	能力値				仕官年	生没年	忠臣
			戦闘	内政	外交	謀略			
の	延沢満延	―	B	E	C	D	1559	1543～1602	○
	乃美宗勝	―	C	E	C	C	1543	1527～1592	○
	野村一角	―	B	D	D	C	1559	1543～1607	○
は	拝郷家嘉	―	C	C	C	D	1578	1562～1626	○
	垪和氏続	―	C	C	C	E	1538	1522～1586	△
	芳賀高定	―	C	C	C	C	1543	1527～1566	○
	芳賀高継	―	E	B	B	C	1566	1550～1592	○
	垪和康忠	―	D	C	B	D	1553	1537～1601	○
	羽柴秀次	豊臣秀次	D	C	E	E	1584	1568～1595	△
	羽柴秀長	豊臣秀長	C	A	C	C	1556	1540～1591	○
	羽柴秀吉	豊臣秀吉	B+	A+	A+	A+	1552	1536～1598	○
	羽柴秀頼	豊臣秀頼	C	C	B	C	1609	1593～1662	○
	長谷川秀一	―	C	C	C	C	1575	1559～1594	○
	支倉常長	―	C	C	B	C	1587	1571～1622	○
	畠山昭高	―	C	C	C	D	1548	1532～1574	○
	畠山高政	―	C	C	C	E	1543	1527～1591	△
	畠山政尚	―	D	C	C	C	1542	1526～1575	△
	畠山義続	―	C	C	D	C	1534	1518～1590	◎
	畠山義綱	―	C	C	C	E	1552	1536～1595	◎
	畠山義慶	―	C	C	C	D	1574	1558～1607	◎
	波多野晴通	―	C	C	C	C	1528	1512～1561	◎
	波多野秀治	―	B	C	C	C	1554	1538～1579	◎
	波多野秀尚	―	C	C	C	C	1562	1546～1610	◎
	蜂須賀家政	―	C	B	C	B	1575	1559～1638	○
	蜂須賀正勝	―	B	C	C	B	1542	1526～1586	○
	蜂須賀至鎮	―	C	C	C	C	1602	1586～1620	○
	八戸政栄	―	C	D	C	D	1556	1540～1610	○
	蜂屋頼隆	―	B	D	E	E	1541	1525～1589	○
	服部友定	―	C	C	D	D	1551	1535～1599	○
	服部半蔵	―	A	C	D	A	1558	1542～1596	○
	服部久家	―	D	C	C	C	1549	1533～1597	○
	花房正幸	―	B	E	D	C	1540	1524～1605	△
	花房職秀	―	B	C	E	C	1565	1549～1616	○
	花房職之	―	B	C	E	C	1565	1549～1616	△
	馬場信春	―	A	B	C	B	1530	1514～1583	○
	馬場頼周	―	C	C	C	C	1531	1515～1584	△
	垣生盛国	―	D	C	D	D	1571	1555～1619	△
	垣生盛周	―	D	C	C	D	1549	1533～1597	△
	浜田景隆	―	C	C	C	C	1570	1554～1618	○
	早川長政	―	C	D	C	D	1576	1560～1624	△
	早川幸豊	―	C	B	D	C	1552	1536～1600	○
	林道感	―	C	A	C	C	1574	1558～1622	○
	林秀貞	―	D	B	C	B	1528	1512～1581	△

所属大名と身分					
シナリオ1	シナリオ2	シナリオ3	シナリオ4	シナリオ5	シナリオ6
ー	ー	ー	ー	豊臣家(部将)	ー
大内家(部将)	大友家(部将)	大友家(組頭)	立花家(部将)	立花家(部将)	立花家(組頭)
ー	ー	織田家(部将)	ー	ー	ー
里見家(部将)	里見家(部将)	北条家(部将)	ー	ー	里見家(部将)
伊達家(重臣)	伊達家(重臣)	伊達家(重臣)	伊達家(重臣)	伊達家(部将)	ー
伊達家(家老)	伊達家(家老)	伊達家(家老)	伊達家(重臣)	ー	伊達家(重臣)
武田家(重臣)	ー	ー	ー	ー	武田家(重臣)
ー	ー	ー	柴田家(部将)	ー	ー
武田家(組頭)	武田家(重臣)	武田家(奉行)	ー	ー	武田家(組頭)
ー	武田家(組頭)	武田家(組頭)	浪人(組頭)	ー	ー
ー	武田家(地侍)	武田家(地侍)	ー	ー	ー
葦名家(家老)	葦名家(家老)	葦名家(重臣)	葦名家(重臣)	伊達家(部将)	葦名家(家老)
葦名家(家老)	葦名家(家老)	葦名家(家老)	葦名家(家老)	ー	葦名家(家老)
ー	朝倉家(馬廻)	朝倉家(馬廻)	浪人(馬廻)	浪人(地侍)	ー
浪人(地侍)	ー	ー	浪人(地侍)	藤堂家(組頭)	豊臣家(地侍)
浦上家(奉行)	浦上家(奉行)	宇喜多家(部将)	宇喜多家(部将)	ー	宇喜多家(部将)
ー	ー	ー	南部家(部将)	南部家(重臣)	ー
長宗我部家(部将)	長宗我部家(重臣)	長宗我部家(重臣)	長宗我部家(家老)	ー	長宗我部家(重臣)
長宗我部家(部将)	長宗我部家(重臣)	長宗我部家(重臣)	ー	ー	長宗我部家(部将)
一向宗(家老)	赤松家(家老)	赤松家(家老)	浪人(家老)	ー	一向宗(部将)
織田家(地侍)	ー	浪人(地侍)	羽柴家(地侍)	ー	豊臣家(地侍)
ー	ー	浪人(地侍)	羽柴家(地侍)	ー	ー
斎藤家(地侍)	ー	浪人(地侍)	羽柴家(地侍)	ー	斎藤家(地侍)
ー	ー	ー	ー	森家(与力)	ー
少弐家(組頭)	竜造寺家(奉行)	竜造寺家(奉行)	竜造寺家(奉行)	ー	竜造寺家(重臣)
今川家(重臣)	ー	徳川家(重臣)	徳川家(重臣)	徳川家(重臣)	徳川家(部将)
河野家(奉行)	河野家(奉行)	河野家(家老)	ー	ー	河野家(奉行)
河野家(奉行)	河野家(重臣)	河野家(奉行)	河野家(奉行)	ー	河野家(部将)
一条家(重臣)	河野家(重臣)	河野家(重臣)	河野家(重臣)	長宗我部家(組頭)	一条家(重臣)
ー	ー	ー	ー	小早川家(家老)	ー
ー	上杉家(組頭)	上杉家(組頭)	上杉家(組頭)	上杉家(組頭)	ー
毛利家(重臣)	毛利家(重臣)	ー	ー	ー	毛利家(重臣)
毛利家(部将)	毛利家(部将)	毛利家(部将)	毛利家(部将)	毛利家(部将)	毛利家(部将)
小笠原家(部将)	武田家(部将)	武田家(部将)	ー	ー	木曾家(部将)
ー	葦名家(奉行)	葦名家(組頭)	葦名家(部将)	浪人(組頭)	ー
浪人(地侍)	ー	ー	ー	豊臣家(部将)	豊臣家(地侍)
織田家(重臣)	ー	ー	ー	ー	織田家(重臣)
織田家(重臣)	織田家(与力)	織田家(与力)	ー	ー	織田家(部将)
大内家(重臣)	ー	ー	ー	ー	大内家(重臣)
ー	上杉家(部将)	上杉家(部将)	上杉家(部将)	ー	ー
ー	北条家(忍者)	北条家(忍者)	北条家(忍者)	浪人(忍者)	北条家(忍者)
相良家(奉行)	相良家(奉行)	相良家(奉行)	相良家(家老)	ー	加藤家(部将)
浪人(地侍)	浪人(地侍)	浪人(地侍)	羽柴家(組頭)	福島家(主君)	豊臣家(重臣)

	武将名	別名	能力値 戦闘	内政	外交	謀略	仕官年	生没年	忠臣
は	速水守久	―	B	C	D	D	1569	1553～1617	○
	原田隆種	―	C	C	D	D	1572	1556～1605	△
	原田直政	―	B	C	C	D	1567	1551～1615	○
	原胤貞	―	C	C	C	C	1529	1513～1582	△
	原田宗資	―	C	C	C	C	1590	1574～1638	○
	原田宗時	―	C	C	C	C	1581	1565～1593	○
	原虎胤	―	B	D	C	C	1513	1497～1564	○
	原長頼	―	C	D	C	B	1568	1552～1616	○
	原昌胤	―	C	C	B	C	1541	1525～1589	○
	原昌弘	―	C	C	C	C	1565	1549～1613	○
	孕石元泰	―	C	D	D	C	1554	1538～1602	○
	針生盛信	―	C	C	B	C	1569	1553～1625	○
	針生盛幸	―	C	C	C	C	1537	1521～1585	○
	半田吉就	―	C	C	C	C	1552	1536～1600	○
	塙直之	―	B	E	E	E	1583	1567～1631	△
ひ	日笠頼房	―	C	C	C	C	1547	1531～1595	○
	東直義	―	C	B	C	C	1567	1551～1615	○
	久武親直	―	B	D	D	B	1555	1539～1598	○
	久武親信	―	B	E	C	C	1554	1538～1602	○
	久安職種	―	D	C	D	D	1549	1533～1597	○
	尾藤知宣	―	C	E	E	D	1566	1550～1614	○
	日根野高弘	―	D	C	C	C	1555	1539～1600	○
	日根野弘就	―	C	D	E	C	1531	1515～1602	△
	日根野吉明	―	D	D	D	D	1598	1587～1656	○
	百武賢兼	―	A	D	C	C	1552	1536～1600	○
	平岩親吉	―	C	B	B	D	1558	1542～1611	○
	平岡房実	―	B	C	D	D	1525	1509～1573	△
	平岡通資	―	C	C	C	D	1547	1531～1595	△
	平岡通房	―	C	C	D	D	1551	1535～1599	△
	平岡頼勝	―	C	B	B	C	1576	1560～1607	○
	平賀重資	―	C	C	C	C	1564	1548～1612	○
	平賀広相	―	C	D	C	E	1544	1528～1567	○
	平賀元相	―	C	C	D	C	1563	1547～1645	○
	平瀬義兼	―	D	C	E	C	1532	1516～1580	○
	平田輔範	―	D	C	C	C	1570	1554～1618	○
	平塚為広	―	B	D	D	D	1576	1560～1624	○
	平手政秀	―	C	B	B	D	1508	1492～1635	◎
	平手汎秀	―	B	D	E	E	1556	1540～1572	○
	弘中隆兼	―	C	C	D	C	1525	1509～1555	○
	琵琶島弥七	―	B	C	C	C	1549	1533～1597	○
ふ	風魔小太郎	―	B+	E	D	A	1553	1537～1616	△
	深水長智	―	D	B	B	B	1547	1531～1590	○
	福島正則	―	A	C	C	C	1577	1561～1624	○

所属大名と身分					
シナリオ1	シナリオ2	シナリオ3	シナリオ4	シナリオ5	シナリオ6
–	–	–	–	福島家(宿老)	–
長宗我部家(部将)	長宗我部家(重臣)	長宗我部家(重臣)	–	–	長宗我部家(部将)
長宗我部家(部将)	長宗我部家(部将)	長宗我部家(部将)	長宗我部家(部将)	–	長宗我部家(部将)
毛利家(重臣)	毛利家(家老)	毛利家(家老)	–	毛利家(家老)	毛利家(重臣)
–	–	–	–	豊臣家(部将)	–
毛利家(部将)	毛利家(部将)	毛利家(重臣)	毛利家(重臣)	–	毛利家(部将)
–	–	–	真田家(組頭)	真田家(組頭)	–
–	–	–	明智家(重臣)	–	明智家(重臣)
–	–	–	–	富田家(与力)	–
織田家(地侍)	–	織田家(地侍)	柴田家(部将)	前田家(与力)	–
斎藤家(組頭)	斎藤家(組頭)	織田家(組頭)	–	–	斎藤家(部将)
大友家(部将)	大友家(重臣)	–	–	–	大友家(重臣)
赤松家(組頭)	赤松家(組頭)	赤松家(組頭)	–	–	赤松家(組頭)
–	赤松家(組頭)	赤松家(組頭)	–	–	–
赤松家(部将)	赤松家(与力)	赤松家(与力)	–	–	赤松家(部将)
赤松家(部将)	–	–	–	–	赤松家(部将)
–	赤松家(組頭)	赤松家(組頭)	浪人(組頭)	豊臣家(組頭)	–
毛利家(宿老)	毛利家(宿老)	毛利家(重臣)	毛利家(重臣)	–	毛利家(部将)
北条家(宿老)	北条家(宿老)	北条家(宿老)	北条家(宿老)	徳川家(部将)	北条家(宿老)
北条家(宿老)	北条家(宿老)	北条家(宿老)	北条家(宿老)	–	北条家(宿老)
北条家(宿老)	北条家(宿老)	北条家(宿老)	–	–	北条家(宿老)
北条家(宿老)	北条家(宿老)	北条家(宿老)	北条家(宿老)	–	北条家(宿老)
北条家(宿老)	北条家(宿老)	北条家(宿老)	北条家(宿老)	–	北条家(宿老)
北条家(宿老)	北条家(宿老)	北条家(宿老)	北条家(宿老)	–	北条家(宿老)
北条家(宿老)	北条家(宿老)	北条家(宿老)	北条家(宿老)	–	北条家(宿老)
北条家(宿老)	北条家(宿老)	北条家(宿老)	北条家(宿老)	豊臣家(与力)	北条家(宿老)
北条家(宿老)	北条家(宿老)	上杉家(宿老)	–	–	北条家(宿老)
北条家(宿老)	北条家(宿老)	北条家(主君)	北条家(主君)	–	北条家(宿老)
北条家(宿老)	北条家(宿老)	北条家(宿老)	北条家(宿老)	–	北条家(宿老)
北条家(主君)	北条家(主君)	–	–	–	北条家(主君)
北条家(宿老)	北条家(宿老)	–	–	–	北条家(宿老)
北条家(宿老)	北条家(宿老)	北条家(宿老)	–	–	北条家(宿老)
浪人(剣豪)	–	–	浪人(剣豪)	浪人(剣豪)	松永家(剣豪)
武田家(組頭)	武田家(重臣)	武田家(重臣)	徳川家(部将)	–	武田家(組頭)
将軍家(重臣)	将軍家(家老)	将軍家(家老)	浪人(家老)	–	足利家(重臣)
長宗我部家(部将)	長宗我部家(部将)	長宗我部家(部将)	長宗我部家(重臣)	長宗我部家(重臣)	長宗我部家(部将)
将軍家(組頭)	将軍家(組頭)	織田家(組頭)	細川家(宿老)	細川家(宿老)	細川家(宿老)
–	将軍家(組頭)	織田家(組頭)	細川家(宿老)	細川家(宿老)	細川家(宿老)
三好家(与力)	三好家(重臣)	三好家(重臣)	十河家(重臣)	–	三好家(重臣)
将軍家(家老)	–	–	–	–	足利家(家老)
将軍家(重臣)	将軍家(与力)	織田家(与力)	細川家(主君)	細川家(主君)	細川家(主君)
–	–	–	–	堀尾家(宿老)	–
織田家(地侍)	浪人(地侍)	織田家(地侍)	羽柴家(重臣)	堀尾家(主君)	豊臣家(重臣)

	武将名	別名	能力値				仕官年	生没年	忠臣
			戦闘	内政	外交	謀略			
ふ	福島正頼	―	B	C	C	C	1589	1573～1633	○
	福留親政	―	B	D	E	D	1536	1520～1577	○
	福留儀重	―	C	D	D	D	1565	1549～1608	○
	福原貞俊	―	C	B	B	D	1526	1510～1589	○
	福原長堯	―	C	B	C	D	1576	1560～1624	○
	福原元俊	―	C	C	C	C	1556	1540～1591	○
	藤田信吉	―	C	D	C	C	1575	1559～1616	△
	藤田行政	―	C	C	D	C	1544	1528～1592	○
	古田重勝	―	C	C	C	C	1576	1560～1606	○
	不破直光	―	C	D	C	E	1568	1552～1616	△
	不破光治	―	C	C	D	C	1540	1524～1580	○
へ	戸次鑑載	―	C	B	C	C	1536	1520～1568	○
	別所賀相	―	C	D	E	B	1539	1523～1587	△
	別所友之	―	C	D	D	C	1576	1560～1624	△
	別所長治	―	C	C	C	C	1572	1556～1605	×
	別所就治	―	C	C	C	C	1517	1501～1563	○
	別所吉治	―	D	E	C	D	1587	1571～1635	△
ほ	穂井田元清	―	C	C	C	C	1567	1551～1597	○
	北条氏勝	―	B	D	D	C	1575	1559～1611	◎
	北条氏邦	―	B	B	C	B	1557	1541～1597	◎
	北条氏繁	―	B	D	D	C	1552	1536～1578	◎
	北条氏舜	―	C	C	C	D	1574	1558～1622	◎
	北条氏忠	―	C	C	C	D	1563	1547～1593	◎
	北条氏照	―	B	C	C	C	1556	1540～1590	◎
	北条氏直	―	C	C	C	B	1578	1562～1626	◎
	北条氏規	―	C	B	B	C	1561	1545～1600	◎
	北条氏秀	上杉景虎	B	C	C	C	1568	1552～1616	○
	北条氏政	―	C	A	A	C	1554	1538～1590	◎
	北条氏光	―	C	C	C	D	1566	1550～1590	◎
	北条氏康	―	A	A+	B	B	1531	1515～1571	◎
	北条幻庵	―	D	A	B	D	1509	1493～1589	◎
	北条綱成	―	A	D	C	C	1531	1515～1587	◎
	宝蔵院胤栄	―	B	E	E	E	1537	1521～1606	△
	保科正俊	―	C	E	C	C	1525	1509～1593	○
	細川昭元	―	C	C	C	C	1564	1548～1592	○
	細川定輔	―	C	C	C	C	1551	1535～1599	○
	細川忠興	―	B	B	C	B	1579	1563～1642	○
	細川忠隆	―	C	C	C	C	1596	1580～1639	○
	細川信之	―	D	D	C	D	1541	1525～1587	○
	細川晴元	―	C	B	C	B	1530	1514～1563	△
	細川幽斎	―	C	A	B	B	1550	1534～1610	△
	堀尾忠氏	―	C	D	D	D	1594	1578～1604	○
	堀尾吉晴	―	C	C	B	C	1560	1544～1611	○

所属大名と身分					
シナリオ1	シナリオ2	シナリオ3	シナリオ4	シナリオ5	シナリオ6
斎藤家(地侍)	ー	ー	ー	堀家(宿老)	ー
斎藤家(組頭)	ー	ー	ー	堀家(宿老)	斎藤家(組頭)
斎藤家(地侍)	ー	ー	ー	堀家(宿老)	斎藤家(地侍)
雑賀衆(部将)	ー	織田家(部将)	雑賀衆(部将)	浪人(部将)	雑賀衆(部将)
斎藤家(地侍)	浪人(地侍)	織田家(馬廻)	羽柴家(地侍)	堀家(主君)	斎藤家(地侍)
斎藤家(地侍)	浪人(地侍)	織田家(馬廻)	羽柴家(与力)	ー	斎藤家(部将)
浅井家(部将)	浅井家(与力)	織田家(与力)	浪人(与力)	ー	浅井家(部将)
浪人(宿老)	本願寺(宿老)	本願寺(宿老)	ー	ー	一向宗(宿老)
ー	ー	本願寺(宿老)	ー	ー	ー
浪人(宿老)	本願寺(主君)	本願寺(主君)	ー	ー	一向宗(主君)
ー	本願寺(宿老)	本願寺(宿老)	ー	ー	ー
ー	ー	ー	ー	ー	一向宗(宿老)
長尾家(重臣)	上杉家(重臣)	上杉家(重臣)	上杉家(重臣)	上杉家(家老)	上杉家(重臣)
ー	尼子家(部将)	ー	ー	ー	ー
長尾家(家老)	上杉家(家老)	上杉家(家老)	浪人(家老)	ー	上杉家(部将)
今川家(組頭)	松平家(重臣)	徳川家(重臣)	徳川家(重臣)	ー	徳川家(部将)
今川家(地侍)	松平家(地侍)	徳川家(重臣)	徳川家(重臣)	徳川家(奉行)	徳川家(重臣)
ー	ー	徳川家(組頭)	ー	徳川家(部将)	ー
ー	松平家(地侍)	徳川家(地侍)	徳川家(地侍)	徳川家(部将)	ー
今川家(地侍)	松平家(地侍)	徳川家(地侍)	徳川家(部将)	徳川家(部将)	徳川家(部将)
今川家(地侍)	松平家(地侍)	徳川家(重臣)	徳川家(重臣)	徳川家(奉行)	徳川家(奉行)
ー	ー	ー	羽柴家(地侍)	豊臣家(部将)	ー
織田家(剣豪)	織田家(剣豪)	織田家(剣豪)	柴田家(剣豪)	上杉家(剣豪)	織田家(剣豪)
織田家(地侍)	織田家(組頭)	織田家(部将)	浪人(組頭)	豊臣家(重臣)	織田家(部将)
ー	ー	ー	滝川家(部将)	ー	ー
織田家(地侍)	織田家(部将)	織田家(部将)	柴田家(家老)	前田家(主君)	織田家(重臣)
織田家(地侍)	織田家(組頭)	織田家(組頭)	柴田家(部将)	前田家(宿老)	織田家(地侍)
織田家(地侍)	織田家(馬廻)	織田家(馬廻)	柴田家(組頭)	前田家(宿老)	織田家(地侍)
浪人(地侍)	浪人(地侍)	織田家(組頭)	羽柴家(重臣)	ー	豊臣家(重臣)
朝倉家(部将)	朝倉家(部将)	朝倉家(重臣)	ー	ー	朝倉家(部将)
佐竹家(家老)	佐竹家(家老)	佐竹家(家老)	佐竹家(家老)	佐竹家(家老)	佐竹家(家老)
朝倉家(組頭)	朝倉家(組頭)	ー	ー	ー	朝倉家(組頭)
ー	ー	ー	ー	豊臣家(組頭)	ー
今川家(部将)	ー	徳川家(組頭)	ー	徳川家(部将)	徳川家(部将)
里見家(家老)	里見家(家老)	里見家(家老)	ー	ー	里見家(家老)
ー	里見家(組頭)	里見家(組頭)	里見家(組頭)	徳川家(組頭)	ー
里見家(与力)	里見家(重臣)	里見家(重臣)	ー	ー	里見家(部将)
里見家(組頭)	里見家(部将)	里見家(部将)	里見家(家老)	徳川家(組頭)	里見家(組頭)
浪人(地侍)	浪人(地侍)	浅井家(地侍)	羽柴家(部将)	豊臣家(家老)	豊臣家(部将)
ー	宇都宮家(部将)	宇都宮家(与力)	宇都宮家(重臣)	ー	ー
ー	ー	ー	ー	蜂須賀家(奉行)	ー
大内家(重臣)	毛利家(部将)	毛利家(部将)	毛利家(部将)	ー	大内家(重臣)
大内家(部将)	毛利家(部将)	毛利家(部将)	毛利家(組頭)	毛利家(部将)	大内家(部将)

	武将名	別名	能力値				仕官年	生没年	忠臣
			戦闘	内政	外交	謀略			
ほ	堀親良	―	C	C	C	C	1596	1580～1637	○
	堀直政	―	B	C	C	C	1563	1547～1608	○
	堀直寄	―	C	B	C	C	1593	1577～1639	○
	堀内氏善	―	C	E	D	C	1555	1539～1615	△
	堀秀治	―	C	C	C	C	1592	1576～1606	○
	堀秀政	―	B	B	C	C	1569	1553～1590	○
	堀秀村	―	C	B	D	B	1546	1530～1594	△
	本願寺教如	―	C	B	C	B	1574	1558～1619	◎
	本願寺顕尊	―	B	D	C	C	1580	1564～1599	○
	本願寺顕如	―	B	A	B	A	1559	1543～1592	◎
	本願寺准如	―	E	B	B	C	1593	1577～1630	◎
	本願寺証如	―	D	B	C	B	1532	1516～1645	○
	本庄繁長	―	A	C	C	E	1555	1539～1613	×
	本城常光	―	B	C	D	D	1551	1535～1599	△
	本庄秀綱	―	B	C	D	C	1549	1533～1597	○
	本多重次	―	C	C	C	C	1545	1529～1596	○
	本多忠勝	―	A	D	C	D	1564	1548～1610	○
	本多忠朝	―	C	C	C	C	1598	1582～1646	○
	本多忠政	―	B	C	C	D	1591	1575～1631	○
	本多正純	―	E	A	C	B	1581	1565～1637	○
	本多正信	―	D	A(軍)	B(軍)	A	1554	1538～1616	△
ま	舞兵庫	―	B	D	D	D	1581	1565～1629	○
	前田慶次	―	S	E	D	C	1558	1542～1612	△
	前田玄以	―	D	C	B	C	1555	1539～1602	○
	前田種利	―	C	D	C	D	1569	1553～1617	○
	前田利家	―	B	B	B	C	1554	1538～1599	○
	前田利長	―	C	B	B	C	1578	1562～1614	○
	前田利政	―	B	C	C	C	1592	1576～1635	○
	前野長康	―	B	C	C	D	1557	1541～1595	○
	前波吉継	―	C	C	D	C	1554	1538～1574	○
	真壁氏幹	―	A	D	E	D	1566	1550～1622	○
	真柄直隆	―	A	E	E	D	1545	1529～1570	○
	蒔田広定	―	C	D	B	E	1588	1572～1636	○
	牧野康成	―	B	D	E	D	1571	1555～1609	○
	正木時茂	―	A	C	C	C	1531	1515～1573	△
	正木時尭	―	C	D	C	D	1592	1576～1635	△
	正木時忠	―	B	D	C	B	1536	1520～1576	△
	正木頼忠	―	B	C	C	C	1567	1551～1622	△
	増田長盛	―	E	A	B	C	1561	1545～1615	○
	益子勝宗	―	C	C	D	D	1545	1529～1593	△
	益田一政	―	B	C	D	C	1576	1560～1624	○
	益田藤兼	―	C	C	C	C	1545	1529～1596	○
	益田元祥	―	C	A	D	D	1574	1558～1640	○

所属大名と身分					
シナリオ1	シナリオ2	シナリオ3	シナリオ4	シナリオ5	シナリオ6
織田家(奉行)	織田家(奉行)	織田家(奉行)	浪人(奉行)	―	織田家(重臣)
少弐家(与力)	竜造寺家(与力)	竜造寺家(部将)	竜造寺家(与力)	鍋島家(与力)	竜造寺家(組頭)
少弐家(与力)	竜造寺家(与力)	竜造寺家(与力)	竜造寺家(与力)	鍋島家(与力)	竜造寺家(与力)
―	―	―	―	豊臣家(組頭)	―
―	松永家(部将)	―	筒井家(重臣)	―	―
浪人(地侍)	松永家(部将)	徳川家(部将)	筒井家(部将)	徳川家(部将)	松永家(地侍)
―	―	―	―	堀尾家(与力)	―
―	松平家(宿老)	徳川家(宿老)	―	―	―
今川家(部将)	松平家(宿老)	徳川家(宿老)	徳川家(宿老)	徳川家(家老)	徳川家(家老)
今川家(部将)	松平家(宿老)	徳川家(宿老)	―	―	徳川家(宿老)
今川家(部将)	松平家(宿老)	徳川家(宿老)	徳川家(宿老)	徳川家(宿老)	徳川家(宿老)
今川家(部将)	松平家(宿老)	徳川家(宿老)	―	―	徳川家(宿老)
今川家(与力)	―	―	―	―	徳川家(家老)
今川家(部将)	松平家(主君)	徳川家(主君)	徳川家(主君)	徳川家(主君)	徳川家(主君)
―	―	徳川家(部将)	―	徳川家(部将)	―
北条家(家老)	北条家(家老)	北条家(家老)	北条家(家老)	―	北条家(家老)
―	―	―	明智家(部将)	―	明智家(部将)
尼子家(重臣)	尼子家(重臣)	浪人(地侍)	毛利家(重臣)	毛利家(重臣)	尼子家(部将)
北条家(重臣)	北条家(重臣)	北条家(重臣)	北条家(重臣)	結城家(重臣)	北条家(重臣)
北条家(重臣)	北条家(重臣)	北条家(重臣)	北条家(重臣)	―	北条家(重臣)
松永家(主君)	松永家(主君)	将軍家(与力)	―	―	松永家(主君)
松永家(宿老)	松永家(宿老)	将軍家(部将)	―	―	松永家(宿老)
畠山家(組頭)	畠山家(重臣)	畠山家(重臣)	―	―	―
―	―	―	―	小早川家(重臣)	―
長尾家(重臣)	上杉家(重臣)	上杉家(重臣)	上杉家(家老)	―	上杉家(重臣)
―	葦名家(奉行)	葦名家(奉行)	葦名家(奉行)	浪人(組頭)	―
相良家(剣豪)	相良家(剣豪)	相良家(剣豪)	相良家(剣豪)	小西家(剣豪)	加藤家(剣豪)
毛利家(重臣)	毛利家(重臣)	毛利家(組頭)	毛利家(部将)	―	毛利家(部将)
姉小路家(宿老)	姉小路家(宿老)	姉小路家(宿老)	姉小路家(宿老)	―	姉小路家(家老)
六角家(重臣)	六角家(奉行)	―	―	―	六角家(重臣)
―	尼子家(重臣)	―	―	―	―
神保家(重臣)	神保家(重臣)	神保家(重臣)	浪人(重臣)	―	神保家(重臣)
結城家(与力)	結城家(部将)	結城家(重臣)	結城家(重臣)	結城家(重臣)	結城家(与力)
結城家(重臣)	結城家(重臣)	結城家(家老)	―	―	―
結城家(重臣)	結城家(重臣)	結城家(家老)	結城家(家老)	―	―
今川家(組頭)	―	―	―	池田家(与力)	徳川家(組頭)
織田家(与力)	織田家(与力)	織田家(与力)	―	―	織田家(与力)
―	上杉家(部将)	上杉家(部将)	上杉家(部将)	上杉家(部将)	―
―	―	―	―	蛎崎家(組頭)	―
尼子家(与力)	尼子家(与力)	毛利家(部将)	毛利家(重臣)	―	尼子家(部将)
朝倉家(部将)	朝倉家(部将)	朝倉家(重臣)	―	―	朝倉家(部将)
―	―	―	明智家(重臣)	―	明智家(重臣)
織田家(地侍)	―	織田家(地侍)	丹羽家(重臣)	堀家(与力)	織田家(地侍)

	武将名	別名	能力値				仕官年	生没年	忠臣
			戦闘	内政	外交	謀略			
ま	松井友閑	ー	E	A	B	C	1544	1528〜1592	○
	松浦鎮信	ー	C	C	D	C	1565	1549〜1614	△
	松浦隆信	ー	C	D	C	D	1545	1529〜1599	△
	松浦秀任	ー	C	C	C	D	1576	1560〜1624	○
	松倉重信	ー	B	C	C	C	1557	1541〜1593	△
	松倉重政	ー	B	D	C	C	1584	1568〜1627	△
	松下重綱	ー	D	D	D	D	1595	1579〜1627	○
	松平重吉	ー	C	C	C	C	1514	1498〜1580	○
	松平忠吉	ー	B	C	C	C	1596	1580〜1609	◎
	松平信康	徳川信康	A	D	C	C	1575	1559〜1623	△
	松平秀忠	徳川秀忠	C	B	C	C	1595	1579〜1632	◎
	松平秀康	徳川秀康	B	C	C	C	1590	1574〜1607	○
	松平広忠	ー	C	B	C	B	1541	1526〜1590	◎
	松平元康	徳川家康	A	B	A	C+	1558	1542〜1616	◎
	松平康長	ー	C	C	C	C	1577	1561〜1625	○
	松田憲秀	ー	C	B	C	C	1542	1526〜1590	△
	松田政近	ー	B	D	D	C	1569	1553〜1617	○
	松田誠保	ー	D	C	C	D	1563	1547〜1621	○
	松田康郷	ー	A	D	C	C	1555	1539〜1598	○
	松田康長	ー	B	D	D	C	1553	1537〜1601	○
	松永久秀	ー	C	A	C	A	1526	1510〜1577	×
	松永久通	ー	C	C	C	B	1547	1531〜1595	×
	松波義親	ー	C	C	D	C	1566	1550〜1614	○
	松野主馬	ー	B	D	C	B	1587	1571〜1655	○
	松本景繁	ー	C	B	B	C	1538	1522〜1586	○
	松本行輔	ー	D	C	D	B	1585	1569〜1633	△
	丸目長恵	ー	A	E	C	D	1556	1540〜1629	○
み	三浦元忠	ー	D	C	D	D	1571	1555〜1596	○
	三木顕綱	ー	C	C	C	D	1559	1543〜1592	△
	三雲定持	ー	C	D	C	E	1534	1518〜1577	△
	三沢為清	ー	B	D	C	D	1552	1536〜1588	△
	水越職勝	ー	C	C	D	D	1540	1526〜1590	○
	水谷勝俊	ー	B	D	C	C	1558	1542〜1606	○
	水谷正吉	ー	C	C	C	C	1530	1514〜1578	○
	水谷正村	ー	B	D	C	E	1537	1521〜1598	○
	水野勝成	ー	C	C	C	C	1580	1564〜1651	△
	水野信元	ー	C	C	C	D	1536	1520〜1575	○
	水原親憲	ー	C	C	D	C	1562	1546〜1615	○
	三関広久	ー	C	D	C	C	1584	1568〜1632	○
	三刀屋久祐	ー	D	C	D	C	1534	1518〜1591	△
	溝江長逸	ー	C	D	D	D	1545	1529〜1593	○
	溝尾勝兵衛	ー	B	C	C	D	1568	1552〜1516	○
	溝口秀勝	ー	C	C	C	C	1564	1548〜1610	○

所属大名と身分					
シナリオ1	シナリオ2	シナリオ3	シナリオ4	シナリオ5	シナリオ6
宇都宮家(部将)	宇都宮家(部将)	宇都宮家(重臣)	―	―	―
宇都宮家(部将)	宇都宮家(部将)	宇都宮家(部将)	―	―	―
宇都宮家(与力)	宇都宮家(部将)	宇都宮家(部将)	宇都宮家(重臣)	蒲生家(与力)	宇都宮家(与力)
―	―	―	安東家(家老)	秋田家(家老)	―
―	―	―	南部家(部将)	南部家(重臣)	―
将軍家(重臣)	将軍家(重臣)	将軍家(重臣)	―	―	足利家(重臣)
宇都宮家(部将)	宇都宮家(部将)	宇都宮家(与力)	宇都宮家(部将)	―	宇都宮家(部将)
三村家(主君)	毛利家(与力)	―	―	―	毛利家(与力)
三村家(家老)	毛利家(部将)	毛利家(与力)	―	―	毛利家(組頭)
三村家(家老)	毛利家(組頭)	毛利家(組頭)	―	―	毛利家(組頭)
赤松家(組頭)	赤松家(組頭)	赤松家(組頭)	―	―	―
浅井家(重臣)	浅井家(部将)	浅井家(部将)	羽柴家(重臣)	―	浅井家(重臣)
―	―	―	―	豊臣家(部将)	―
浪人(剣豪)	浪人(剣豪)	浪人(剣豪)	浪人(剣豪)	宇喜多家(剣豪)	宇喜多家(剣豪)
―	―	―	真田家(剣豪)	真田家(剣豪)	真田家(剣豪)
―	―	―	真田家(剣豪)	真田家(剣豪)	真田家(剣豪)
三好家(主君)	三好家(主君)	―	―	―	三好家(主君)
三好家(宿老)	三好家(宿老)	三好家(主君)	―	―	三好家(宿老)
三好家(宿老)	三好家(宿老)	―	―	―	三好家(宿老)
三好家(宿老)	三好家(宿老)	織田家(与力)	浪人(地侍)	徳川家(地侍)	三好家(宿老)
三好家(宿老)	三好家(宿老)	三好家(宿老)	浪人(宿老)	豊臣家(与力)	三好家(宿老)
三好家(宿老)	―	―	―	―	三好家(宿老)
三好家(宿老)	―	―	―	―	三好家(宿老)
織田家(地侍)	織田家(奉行)	織田家(奉行)	―	―	織田家(重臣)
織田家(地侍)	―	―	―	前田家(重臣)	―
村上家(宿老)	上杉家(組頭)	上杉家(部将)	上杉家(部将)	上杉家(重臣)	村上家(宿老)
河野家(部将)	毛利家(与力)	毛利家(与力)	毛利家(与力)	毛利家(与力)	毛利家(部将)
織田家(地侍)	―	―	丹羽家(部将)	堀家(与力)	村上家(家老)
村上家(主君)	上杉家(与力)	―	―	―	村上家(主君)
河野家(部将)	河野家(与力)	河野家(与力)	―	―	毛利家(馬廻)
―	―	―	柴田家(組頭)	―	―
―	―	織田家(馬廻)	浪人(馬廻)	豊臣家(部将)	―
―	―	―	―	太田家(与力)	―
毛利家(宿老)	毛利家(宿老)	―	―	―	毛利家(宿老)
毛利家(宿老)	毛利家(宿老)	毛利家(主君)	毛利家(主君)	毛利家(主君)	毛利家(宿老)
―	織田家(馬廻)	織田家(馬廻)	浪人(馬廻)	―	―
―	毛利家(宿老)	毛利家(宿老)	毛利家(宿老)	毛利家(宿老)	―
毛利家(宿老)	毛利家(宿老)	毛利家(宿老)	毛利家(宿老)	毛利家(宿老)	毛利家(家老)
毛利家(主君)	毛利家(主君)	―	―	―	毛利家(主君)
毛利家(宿老)	―	―	―	毛利家(宿老)	毛利家(家老)
織田家(地侍)	織田家(馬廻)	織田家(馬廻)	―	―	織田家(地侍)
織田家(地侍)	―	―	―	豊臣家(部将)	織田家(地侍)
最上家(宿老)	最上家(宿老)	最上家(宿老)	最上家(宿老)	最上家(宿老)	―

	武将名	別名	能力値				仕官年	生没年	忠臣
			戦闘	内政	外交	謀略			
み	皆川俊宗	―	D	C	D	D	1541	1525～1573	△
	皆川広勝	―	C	C	C	C	1564	1548～1576	△
	皆川広照	―	B	C	D	E	1564	1548～1627	△
	湊種季	―	C	B	C	D	1571	1555～1619	○
	南盛義	―	C	C	D	C	1576	1560～1624	○
	三淵藤英	―	D	C	B	E	1546	1530～1594	○
	壬生義雄	―	C	D	D	C	1568	1552～1590	△
	三村家親	―	C	C	B	C	1524	1508～1566	○
	三村親成	―	D	C	C	C	1531	1515～1574	○
	三村元親	―	C	D	D	D	1553	1537～1575	△
	三宅治忠	―	C	C	C	C	1562	1546～1610	○
	宮部継潤	―	B	B	C	C	1542	1526～1599	△
	宮部長熙	―	C	C	C	C	1597	1581～1634	△
	宮本武蔵	―	A+	E	E	E	1600	1584～1645	△
	三好伊三	―	B	E	E	E	1587	1571～1645	○
	三好清海	―	A	E	E	E	1584	1568～1642	○
	三好長慶	―	C	A	B	A	1538	1522～1564	◎
	三好長治	―	C	C	C	C	1569	1553～1612	◎
	三好長逸	―	B	C	C	D	1529	1513～1582	◎
	三好政勝	―	B	D	C	E	1550	1534～1623	△
	三好政康	―	B	D	C	D	1544	1528～1615	◎
	三好義興	―	D	C	C	C	1558	1542～1563	△
	三好義賢	―	C	B	B	B	1543	1527～1562	◎
む	村井貞勝	―	E	B	A	C	1556	1540～1604	○
	村井長頼	―	C	B	C	C	1559	1543～1605	○
	村上国清	―	C	C	D	C	1560	1544～1603	○
	村上武吉	―	B	C	D	C	1547	1531～1600	△
	村上義明	―	C	C	C	C	1575	1559～1623	○
	村上義清	―	A	E	C	C	1519	1503～1572	○
	村上吉継	―	C	D	C	D	1530	1514～1578	△
め	毛受勝照	―	C	E	E	D	1575	1559～1608	△
も	毛利勝永	―	C	D	D	D	1591	1575～1615	○
	毛利高政	―	C	D	C	D	1575	1559～1628	△
	毛利隆元	―	C	B	C	B	1539	1523～1563	◎
	毛利輝元	―	C	B	D	D	1569	1553～1625	◎
	毛利長秀	―	C	D	D	C	1555	1539～1593	○
	毛利秀就	―	D	C	C	D	1611	1595～1651	◎
	毛利秀元	―	B	C	D	C	1595	1579～1650	○
	毛利元就	―	B	A	B	S	1513	1497～1571	◎
	毛利元康	―	B	B	C	D	1576	1560～1601	◎
	毛利良勝	―	C	C	D	D	1549	1533～1597	○
	毛利吉成	―	C	C	C	C	1563	1547～1611	○
	最上家親	―	C	C	C	C	1598	1582～1641	◎

所属大名と身分					
シナリオ1	シナリオ2	シナリオ3	シナリオ4	シナリオ5	シナリオ6
最上家(宿老)	最上家(宿老)	最上家(主君)	最上家(主君)	最上家(主君)	最上家(主君)
最上家(主君)	最上家(主君)	最上家(宿老)	最上家(宿老)	–	最上家(宿老)
–	–	–	–	最上家(宿老)	–
武田家(宿老)	武田家(宿老)	武田家(部将)	–	–	武田家(組頭)
–	–	武田家(剣豪)	真田家(剣豪)	真田家(剣豪)	真田家(剣豪)
波多野家(重臣)	波多野家(重臣)	波多野家(重臣)	–	–	浪人(部将)
浪人(忍者)	浪人(忍者)	浪人(地侍)	浪人(忍者)	–	浪人(忍者)
山名家(奉行)	山名家(奉行)	山名家(奉行)	–	–	山名家(奉行)
斎藤家(地侍)	斎藤家(地侍)	織田家(地侍)	神戸家(部将)	森家(主君)	斎藤家(地侍)
–	–	–	–	黒田家(重臣)	黒田家(重臣)
–	–	–	池田家(部将)	池田家(組頭)	–
斎藤家(部将)	斎藤家(組頭)	織田家(組頭)	神戸家(家老)	–	斎藤家(重臣)
–	–	–	–	加藤家(重臣)	加藤家(家老)
斎藤家(部将)	斎藤家(部将)	–	–	–	斎藤家(部将)
斎藤家(地侍)	斎藤家(馬廻)	織田家(馬廻)	–	–	斎藤家(地侍)
山名家(奉行)	山名家(奉行)	山名家(奉行)	浪人(奉行)	–	山名家(奉行)
–	松永家(剣豪)	–	筒井家(剣豪)	徳川家(剣豪)	–
浪人(剣豪)	松永家(剣豪)	–	筒井家(剣豪)	徳川家(剣豪)	松永家(剣豪)
浪人(剣豪)	松永家(剣豪)	浪人(剣豪)	筒井家(剣豪)	–	松永家(剣豪)
肝付家(家老)	肝付家(家老)	肝付家(家老)	–	–	肝付家(家老)
–	肝付家(重臣)	肝付家(重臣)	島津家(部将)	島津家(組頭)	–
–	–	–	真田家(家老)	–	真田家(部将)
伊達家(地侍)	伊達家(地侍)	伊達家(地侍)	伊達家(地侍)	伊達家(部将)	伊達家(地侍)
村上家(地侍)	武田家(地侍)	武田家(地侍)	浪人(地侍)	–	村上家(部将)
長尾家(部将)	上杉家(部将)	上杉家(部将)	–	–	上杉家(部将)
長尾家(重臣)	上杉家(重臣)	上杉家(重臣)	–	–	上杉家(重臣)
長尾家(組頭)	上杉家(組頭)	上杉家(組頭)	–	–	上杉家(組頭)
上杉家(部将)	上杉家(部将)	上杉家(部将)	結城家(家老)	–	長野家(部将)
織田家(馬廻)	織田家(馬廻)	織田家(馬廻)	–	–	織田家(馬廻)
–	–	–	–	中村家(重臣)	–
大崎家(組頭)	大崎家(組頭)	大崎家(組頭)	大崎家(組頭)	–	大崎家(組頭)
六角家(与力)	六角家(与力)	織田家(部将)	蒲生家(部将)	–	六角家(与力)
武田家(組頭)	武田家(奉行)	武田家(家老)	–	–	武田家(奉行)
–	結城家(与力)	結城家(与力)	結城家(与力)	結城家(与力)	–
結城家(重臣)	–	–	–	–	結城家(重臣)
結城家(重臣)	結城家(重臣)	結城家(重臣)	結城家(部将)	–	結城家(部将)
–	–	–	–	徳川家(組頭)	–
–	–	–	–	丹羽家(与力)	–
–	–	–	明智家(与力)	–	明智家(与力)
–	上杉家(馬廻)	上杉家(馬廻)	上杉家(馬廻)	上杉家(馬廻)	–
朝倉家(部将)	朝倉家(部将)	朝倉家(部将)	柴田家(部将)	前田家(部将)	朝倉家(部将)
伊東家(重臣)	伊東家(重臣)	伊東家(重臣)	–	–	伊東家(重臣)
–	島津家(家老)	島津家(家老)	島津家(家老)	島津家(部将)	–

	武将名	別名	能力値				仕官年	生没年	忠臣
			戦闘	内政	外交	謀略			
も	最上義光	—	B	C	B	A	1562	1546～1614	◎
	最上義守	—	C	E	D	C	1537	1521～1590	◎
	最上義康	—	B	C	C	E	1594	1578～1642	△
	望月信雅	—	C	D	D	D	1567	1551～1615	◎
	望月六郎	—	B	C	C	C	1576	1560～1634	○
	籾井教業	—	B	C	E	C	1541	1525～1584	○
	百地三太夫	—	B+	C	D	A	1536	1520～1589	○
	森下通与	—	C	C	C	C	1557	1541～1600	○
	森忠政	—	C	C	C	C	1584	1568～1637	○
	母里太兵衛	—	A	D	D	C	1572	1556～1615	○
	森寺忠勝	—	C	C	C	C	1558	1542～1606	○
	森長可	—	B	D	C	D	1574	1558～1622	○
	森本儀太夫	—	B	C	D	D	1581	1565～1634	○
	森可成	—	B	C	E	C	1539	1523～1582	○
	森蘭丸	—	C	C	C	C	1581	1565～1634	○
や	八木豊信	—	C	D	C	D	1549	1533～1597	△
	柳生利厳	—	A	D	E	C	1595	1579～1648	○
	柳生宗矩	—	B	B	C	B	1587	1571～1646	○
	柳生宗厳	—	A	E	E	C	1543	1527～1606	△
	薬丸兼政	—	D	C	D	C	1543	1527～1591	○
	薬丸兼持	—	D	D	D	D	1569	1553～1617	○
	矢沢頼綱	—	B	B	C	B	1543	1527～1591	○
	屋代景頼	—	B	C	C	C	1579	1563～1608	△
	屋代政国	—	C	C	D	D	1541	1525～1589	△
	安田顕元	—	B	D	D	C	1554	1538～1602	○
	安田景元	—	B	D	E	D	1530	1514～1578	○
	安田長秀	—	B	C	D	D	1531	1515～1579	○
	簗田晴助	—	D	D	C	C	1540	1524～1594	△
	簗田広正	—	C	D	C	B	1532	1516～1580	○
	藪内匠	—	B	D	D	C	1584	1568～1629	○
	谷地隆景	—	C	C	C	C	1566	1550～1600	△
	山岡景隆	—	C	B	C	C	1541	1525～1585	○
	山県昌景	—	A	C	C	C	1546	1530～1594	○
	山川朝貞	—	D	C	D	D	1607	1591～1620	○
	山川直貞	—	C	C	D	C	1528	1512～1560	○
	山川晴重	—	D	C	D	D	1582	1566～1593	○
	山口重政	—	C	D	B	C	1580	1564～1635	○
	山口正弘	—	C	D	D	D	1582	1566～1630	○
	山崎片家	—	C	D	C	C	1563	1547～1591	△
	山崎秀仙	—	C	C	B	D	1556	1540～1604	○
	山崎長徳	—	C	C	C	C	1556	1540～1609	△
	山田匡徳	—	C	C	D	C	1526	1510～1574	○
	山田有栄	—	C	C	C	C	1592	1576～1665	○

所属大名と身分					
シナリオ1	シナリオ2	シナリオ3	シナリオ4	シナリオ5	シナリオ6
島津家(家老)	島津家(部将)	島津家(重臣)	島津家(重臣)	島津家(家老)	島津家(重臣)
―	―	―	―	前田家(組頭)	―
―	―	―	―	蜂須賀家(重臣)	―
北条家(部将)	北条家(部将)	北条家(部将)	北条家(重臣)	徳川家(部将)	北条家(部将)
―	北条家(奉行)	北条家(奉行)	北条家(奉行)	―	―
山名家(主君)	山名家(主君)	山名家(主君)	―	―	山名家(主君)
山名家(宿老)	山名家(宿老)	山名家(宿老)	羽柴家(組頭)	豊臣家(組頭)	山名家(宿老)
山名家(宿老)	山名家(宿老)	山名家(宿老)	浪人(宿老)	豊臣家(与力)	山名家(宿老)
山名家(宿老)	―	―	―	―	山名家(宿老)
尼子家(重臣)	尼子家(家老)	浪人(地侍)	―	―	尼子家(奉行)
―	葦名家(組頭)	葦名家(組頭)	葦名家(部将)	浪人(組頭)	―
織田家(地侍)	浪人(地侍)	織田家(地侍)	羽柴家(馬廻)	堀尾家(与力)	豊臣家(部将)
―	最上家(宿老)	最上家(宿老)	最上家(宿老)	最上家(宿老)	―
―	―	―	―	―	木曽家(部将)
―	―	―	―	―	木曽家(部将)
浪人(地侍)	武田家(組頭)	―	―	―	武田家(地侍)
将軍家(重臣)	将軍家(重臣)	―	―	―	足利家(重臣)
長尾家(家老)	上杉家(奉行)	上杉家(家老)	―	―	上杉家(重臣)
今川家(重臣)	今川家(重臣)	―	―	―	今川家(部将)
今川家(重臣)	今川家(重臣)	―	―	―	今川家(重臣)
結城家(宿老)	結城家(宿老)	結城家(宿老)	結城家(宿老)	上杉家(部将)	結城家(宿老)
結城家(宿老)	結城家(主君)	結城家(主君)	結城家(主君)	結城家(宿老)	結城家(主君)
―	―	―	―	結城家(主君)	―
結城家(主君)	―	―	―	―	結城家(宿老)
―	佐竹家(地侍)	佐竹家(地侍)	佐竹家(地侍)	佐竹家(地侍)	―
―	伊達家(地侍)	伊達家(地侍)	伊達家(地侍)	伊達家(地侍)	―
畠山家(家老)	畠山家(家老)	畠山家(家老)	―	―	畠山家(家老)
将軍家(組頭)	―	浪人(組頭)	浪人(組頭)	―	足利家(組頭)
―	畠山家(重臣)	畠山家(重臣)	―	―	―
―	尼子家(部将)	―	―	―	―
上杉家(組頭)	―	―	―	徳川家(組頭)	長野家(組頭)
上杉家(与力)	―	―	―	―	長野家(与力)
―	―	武田家(剣豪)	真田家(剣豪)	真田家(剣豪)	真田家(剣豪)
佐竹家(組頭)	佐竹家(組頭)	佐竹家(組頭)	佐竹家(組頭)	―	佐竹家(組頭)
―	―	―	―	中村家(重臣)	―
尼子家(重臣)	尼子家(重臣)	―	―	―	尼子家(部将)
長尾家(馬廻)	上杉家(部将)	上杉家(部将)	―	―	上杉家(馬廻)
―	上杉家(部将)	上杉家(部将)	―	―	―
大友家(重臣)	大友家(重臣)	大友家(重臣)	―	―	大友家(重臣)
大友家(家老)	大友家(家老)	大友家(家老)	―	―	大友家(家老)
長宗我部家(重臣)	―	―	―	―	長宗我部家(重臣)
―	長宗我部家(部将)	長宗我部家(重臣)	長宗我部家(重臣)	―	―
―	里見家(組頭)	里見家(組頭)	里見家(部将)	―	―

	武将名	別名	能力値 戦闘	内政	外交	謀略	仕官年	生没年	忠臣
や	山田有信	―	B	C	C	D	1560	1544～1609	○
	山田正勝	―	C	C	C	C	1553	1537～1601	○
	山田宗重	―	B	C	D	C	1579	1563～1627	○
	山角定勝	―	C	D	E	C	1545	1529～1603	△
	山角康定	―	E	B	D	E	1542	1526～1590	○
	山名祐豊	―	C	B	C	C	1527	1511～1580	◎
	山名堯熙	―	C	C	C	D	1551	1535～1599	◎
	山名豊国	―	D	C	C	D	1564	1548～1626	◎
	山名豊定	―	C	C	C	C	1528	1512～1560	◎
	山中鹿之介	―	B	E	E	B	1561	1545～1604	○
	山内氏勝	―	C	C	C	C	1556	1540～1608	○
	山内一豊	―	C	C	C	C	1562	1546～1605	○
	山野辺義忠	―	C	C	C	C	1612	1596～1655	◎
	山村良勝	―	C	C	C	C	1579	1563～1692	○
	山村良候	―	D	B	B	D	1560	1544～1673	○
	山本勘助	―	A(軍)	D	D	A(軍)	1516	1500～1574	○
	山本忠朝	―	C	D	C	C	1530	1514～1568	△
	山吉豊守	―	C	B	B	C	1557	1541～1577	○
ゆ	由比正純	―	C	C	C	C	1551	1535～1594	○
	由比正信	―	C	C	C	C	1531	1515～1579	○
	結城朝勝	―	C	D	C	C	1585	1569～1628	◎
	結城晴朝	―	D	B	C	C	1549	1533～1614	◎
	結城秀康	―	B	D	C	C	1590	1574～1607	○
	結城政勝	―	C	C	C	D	1517	1501～1559	◎
	結城義顕	―	C	C	C	C	1583	1567～1613	△
	結城義綱	―	E	D	D	E	1603	1587～1634	△
	遊佐続光	―	C	D	C	B	1550	1534～1598	△
	遊佐信教	―	E	D	C	C	1542	1526～1585	△
	遊佐盛光	―	D	C	E	D	1574	1558～1622	△
	湯原春綱	―	C	C	D	C	1559	1543～1607	○
	由良国繁	―	C	C	C	C	1566	1550～1611	○
	由良成繁	―	C	C	C	C	1522	1506～1578	○
	由利鎌之助	―	B	C	E	C	1578	1562～1636	○
よ	横倉則幹	―	C	C	C	C	1547	1531～1595	△
	横田村詮	―	C	C	C	C	1566	1550～1614	○
	横道正光	―	B	D	D	C	1536	1520～1570	△
	吉江景資	―	C	B	D	C	1543	1527～1591	○
	吉江資堅	―	C	D	B	C	1553	1537～1601	○
	吉岡鑑興	―	C	C	D	D	1549	1533～1597	○
	吉岡長増	―	D	C	C	B	1528	1512～1573	○
	吉田重俊	―	B	C	C	C	1512	1496～1565	○
	吉田重康	―	C	D	E	D	1542	1526～1590	○
	吉田正林	―	C	C	D	C	1566	1550～1600	△

所属大名と身分					
シナリオ1	シナリオ2	シナリオ3	シナリオ4	シナリオ5	シナリオ6
—	—	—	—	—	長宗我部家(奉行)
長宗我部家(組頭)	長宗我部家(組頭)	長宗我部家(組頭)	長宗我部家(組頭)	長宗我部家(重臣)	長宗我部家(組頭)
大友家(家老)	大友家(家老)	—	—	—	大友家(部将)
大友家(家老)	大友家(部将)	大友家(家老)	—	—	大友家(家老)
大友家(部将)	大友家(家老)	大友家(家老)	大友家(部将)	立花家(部将)	大友家(部将)
大内家(重臣)	毛利家(部将)	毛利家(部将)	—	—	大内家(重臣)
—	毛利家(部将)	毛利家(部将)	毛利家(部将)	毛利家(部将)	—
大内家(部将)	毛利家(組頭)	毛利家(組頭)	毛利家(部将)	毛利家(部将)	大内家(部将)
大内家(部将)	毛利家(部将)	毛利家(与力)	—	—	大内家(部将)
—	武田家(組頭)	武田家(組頭)	徳川家(組頭)	—	—
—	—	武田家(部将)	—	—	—
武田家(組頭)	武田家(組頭)	武田家(組頭)	—	—	武田家(組頭)
—	—	—	細川家(部将)	細川家(組頭)	細川家(重臣)
一条家(組頭)	一条家(部将)	一条家(部将)	長宗我部家(部将)	—	一条家(組頭)
少弐家(部将)	竜造寺家(宿老)	竜造寺家(宿老)	竜造寺家(宿老)	—	竜造寺家(宿老)
少弐家(部将)	竜造寺家(主君)	竜造寺家(主君)	竜造寺家(主君)	—	竜造寺家(主君)
—	竜造寺家(宿老)	竜造寺家(宿老)	竜造寺家(宿老)	鍋島家(与力)	—
少弐家(部将)	—	—	—	—	竜造寺家(宿老)
少弐家(部将)	竜造寺家(宿老)	竜造寺家(宿老)	竜造寺家(宿老)	—	竜造寺家(宿老)
少弐家(部将)	竜造寺家(宿老)	竜造寺家(宿老)	竜造寺家(宿老)	—	竜造寺家(宿老)
—	竜造寺家(宿老)	竜造寺家(宿老)	竜造寺家(宿老)	—	—
伊達家(宿老)	伊達家(宿老)	伊達家(家老)	伊達家(家老)	伊達家(家老)	伊達家(家老)
大内家(重臣)	—	—	—	—	大内家(重臣)
小野寺家(与力)	小野寺家(与力)	小野寺家(与力)	小野寺家(与力)	小野寺家(与力)	小野寺家(与力)
六角家(主君)	六角家(主君)	浪人(宿老)	浪人(宿老)	—	六角家(主君)
六角家(宿老)	六角家(宿老)	—	浪人(宿老)	豊臣家(地侍)	六角家(宿老)
浪人(地侍)	浪人(地侍)	浅井家(地侍)	羽柴家(馬廻)	豊臣家(与力)	豊臣家(地侍)
北畠家(部将)	—	織田家(部将)	神戸家(部将)	富田家(与力)	北畠家(部将)
結城家(部将)	結城家(部将)	結城家(部将)	佐竹家(重臣)	佐竹家(重臣)	結城家(部将)
将軍家(重臣)	将軍家(重臣)	—	—	—	足利家(重臣)
—	浪人(地侍)	浪人(地侍)	羽柴家(馬廻)	豊臣家(部将)	—
毛利家(部将)	—	—	—	毛利家(部将)	毛利家(部将)
上杉家(部将)	上杉家(部将)	上杉家(部将)	北条家(部将)	—	長野家(部将)
伊達家(宿老)	伊達家(宿老)	伊達家(家老)	伊達家(家老)	—	伊達家(家老)

剣豪リスト

計23人

全剣豪一覧

大名の守り神として戦闘では欠かせない剣豪たち。彼らの戦闘補正は宿老相当、謀略補正は部将相当だ。

東郷重位
戦闘A

前田慶次
戦闘S

三好清海
戦闘A

望月六郎
戦闘B

その他の剣豪

穴山小助　戦闘B
海野六郎　戦闘B
小笠原秀政　戦闘B
筧十蔵　戦闘B
佐々木巌流　戦闘B
高田又兵衛　戦闘B
塚原卜伝　戦闘A
根津甚八　戦闘B
宝蔵院胤栄　戦闘B
丸目長恵　戦闘A
宮本武蔵　戦闘A
三好伊三　戦闘B
柳生利厳　戦闘A
柳生宗矩　戦闘B
由利鎌之助　戦闘B

	武将名	別名	能力値 戦闘	内政	外交	謀略	仕官年	生没年	忠臣
よ	吉田孝頼	―	B	B	C	B	1532	1516～1645	○
	吉田康俊	―	B	E	E	D	1581	1565～1634	○
	吉弘鑑理	―	C	C	D	C	1534	1518～1571	○
	吉弘鎮信	―	C	B	B	D	1548	1532～1596	○
	吉弘統幸	―	B	D	E	C	1578	1562～1626	○
	吉見隆頼	―	C	C	C	C	1527	1511～1590	○
	吉見広長	―	D	D	D	C	1598	1582～1618	△
	吉見広頼	―	C	C	C	C	1549	1533～1612	○
	吉見正頼	―	C	C	C	C	1529	1513～1588	○
	依田信蕃	―	C	B	B	C	1560	1544～1608	○
	依田信守	―	C	C	C	C	1540	1524～1575	○
	米倉重継	―	C	A	D	B	1542	1526～1575	○
	米田是政	―	C	C	C	C	1552	1536～1600	○
	依岡左京	―	C	C	C	D	1546	1530～1585	△
り	竜造寺家就	―	C	C	B	C	1540	1524～1583	◎
	竜造寺隆信	―	A+	C	B	B	1545	1529～1593	◎
	竜造寺高房	―	B	E	E	E	1600	1584～1633	◎
	竜造寺胤栄	―	B	C	C	C	1539	1523～1592	◎
	竜造寺長信	―	C	C	C	A	1558	1542～1603	◎
	竜造寺信周	―	B	C	C	C	1554	1538～1587	◎
	竜造寺政家	―	C	D	E	D	1582	1566～1607	◎
る	留守政景	―	C	C	D	D	1565	1549～1607	◎
れ	冷泉隆豊	―	C	C	C	C	1527	1511～1551	○
ろ	六郷政乗	―	D	D	C	E	1583	1567～1634	△
	六角義賢	―	C	C	D	D	1537	1521～1598	◎
	六角義治	―	C	B	C	D	1561	1545～1612	◎
わ	脇坂安治	―	C	D	C	C	1570	1554～1626	△
	分部光嘉	―	C	C	C	C	1568	1552～1601	○
	和田昭為	―	C	C	C	C	1559	1543～1602	△
	和田惟政	―	C	C	C	C	1546	1530～1571	△
	渡辺了	―	B	D	E	E	1578	1562～1640	○
	渡辺長	―	C	C	C	C	1549	1533～1612	○
	和田業繁	―	C	C	C	C	1539	1523～1587	○
	亘理元宗	―	C	D	C	E	1546	1530～1594	◎

忍者リスト

計6人

全忍者一覧

各シナリオで渋い働きを見せる忍者たち。忍者の謀略補正は、宿老相当である。ちなみに、戦闘補正は部将レベルにある。

霧隠才蔵
謀略B

百地三太夫
謀略A

服部半蔵
謀略A

石川五右衛門
謀略B

猿飛佐助
謀略A

風魔小太郎
謀略A

シナリオ別 浪人リスト

各シナリオの浪人がどの場所に、いつ出現するかを記した。

シナリオ1

仕官年／場所	浪人名	戦	内	外	謀
浪人(内城)	塚原卜伝	A	E	E	E
浪人(躑躅ヶ崎館)	山本勘助	A	D	D	A
浪人(二条城)	朝山日乗	E	E	B	D
浪人(躑躅ヶ崎館)	真田幸隆	C	C	C	B
浪人(松倉城)	百地三太夫	B	C	D	A
浪人(二条城)	今井宗久	E	A	C	E
浪人(信貴山城)	宝蔵院胤栄	B	E	E	E
浪人(那古屋城)	滝川一益	A	D	D	B
1542(稲葉山城)	生駒親正	C	C	C	C
1542(那古屋城)	蜂須賀正勝	B	C	C	B
1543(信貴山城)	柳生宗厳	A	E	E	C
1546(観音寺城)	石川五右衛門	A	D	D	B
1552(那古屋城)	羽柴秀吉	B	A	A	A
1552(二条城)	近衛前久	D	E	A	E
1553(石山城)	下間頼廉	A	D	D	B
1553(葛尾城)	真田信綱	B	C	E	C
1556(那古屋城)	羽柴秀長	C	A	C	C
1557(那古屋城)	前野長康	B	C	C	D
1559(石山城)	本願寺顕如	B	A	B	A
1559(那古屋城)	滝川雄利	C	C	C	C
1561(小谷城)	増田長盛	E	A	B	C

シナリオ2

仕官年／場所	浪人名	戦	内	外	謀
浪人(二条城)	朝山日乗	E	E	B	D
浪人(伊賀上野城)	百地三太夫	B	C	D	A
浪人(二条城)	今井宗久	E	A	C	E
浪人(観音寺城)	蜂須賀正勝	B	C	C	B
浪人(二条城)	近衛前久	D	E	A	E
浪人(観音寺城)	前野長康	B	C	C	D
浪人(清州城)	堀尾吉晴	C	C	B	C
1561(小谷城)	増田長盛	E	A	B	C
1562(清州城)	山内一豊	C	C	C	C
1563(清州城)	浅野長政	C	C	E	C
1563(清州城)	中村一氏	C	E	D	C
1564(小谷城)	田中吉政	C	B	C	C
1566(信貴山城)	島左近	A	C	B	B
1568(芥川城)	高山重友	B	C	C	D
1569(稲葉山城)	堀秀政	B	B	C	C
1570(小谷城)	脇坂安治	C	D	C	C
1571(稲葉山城)	可児才蔵	A	E	E	E
1571(稲葉山城)	戸田勝成	C	C	D	C
1571(観音寺城)	長束正家	C	A	C	E
1572(小谷城)	藤堂高虎	C	A	B	A
1572(姫路城)	小西行長	C	B	B	C
1575(観音寺城)	長谷川秀一	C	C	C	C
1575(府内城)	大谷吉継	B	A	B	B
1576(小谷城)	石田三成	C	A	B	C
1576(姫路城)	後藤又兵衛	A	E	D	E
1577(岡崎城)	井伊直政	B	B	C	C
1577(清州城)	福島正則	A	C	C	C
1578(小谷城)	渡辺了	B	D	E	E
1578(清州城)	加藤清正	A	B	C	C
1579(岡崎城)	加藤嘉明	B	C	C	C

シナリオ3

仕官年／場所	浪人名	戦	内	外	謀
浪人(長島城)	願証寺證恵	C	B	D	D
浪人(岡山城)	浦上宗景	C	C	C	B
浪人(二条城)	朝山日乗	E	E	B	D
浪人(駿府城)	安倍元真	B	D	D	C
浪人(長島城)	日根野弘就	C	D	E	C
浪人(二条城)	馬場頼周	C	C	C	C
浪人(伊丹城)	茨木長隆	D	C	D	C
浪人(二条城)	今井宗久	E	A	C	E
浪人(日野城)	百地三太夫	B	C	D	A
浪人(観音寺城)	六角義賢	C	C	D	D
浪人(伊丹城)	遊佐信教	E	D	C	C
浪人(伊丹城)	畠山高政	C	C	C	E
浪人(多聞山城)	柳生宗厳	A	E	E	C
浪人(二条城)	立原久綱	C	C	C	C
浪人(長島城)	服部友定	C	C	D	D
浪人(二条城)	近衛前久	D	E	A	E
浪人(長島城)	石橋義忠	C	C	D	D
浪人(浜松城)	今川氏真	E	C	C	E
浪人(清洲城)	日根野高弘	D	C	C	C
浪人(二条城)	山中鹿之助	B	E	E	B
浪人(岐阜城)	一柳直末	C	C	C	C
浪人(二条城)	松田誠保	D	C	C	D
浪人(岡山城)	浦上景行	C	D	C	D
浪人(小谷城)	尾藤知宣	C	E	E	D
浪人(多聞山城)	島左近	A	C	B	B
浪人(二条城)	今井宗薫	D	D	E	E
浪人(二条城)	尼子勝久	C	C	C	D
浪人(姫路城)	小西行長	C	B	B	C
1573(二条城)	亀井茲矩	C	B	B	C
1573(千代城)	片倉景綱	B	A	C	B
1574(小谷城)	石田正澄	D	B	C	C
1575(府内城)	大谷吉継	B	A	B	B
1576(姫路城)	後藤又兵衛	A	E	D	E
1576(小谷城)	石田三成	C	A	B	C
1577(清洲城)	福島正則	A	C	C	C
1578(清洲城)	小野木重次	C	C	D	C
1578(清洲城)	加藤清正	A	B	C	C
1578(小谷城)	渡辺了	B	D	E	E
1579(岡崎城)	加藤嘉明	B	C	C	C
1580(岐阜城)	一柳直盛	C	C	C	C
1581(姫路城)	小西行景	C	C	D	C
1583(清洲城)	木下勝俊	D	D	B	E
1584(清洲城)	大野治長	D	C	C	C
1585(二条城)	以心崇伝	E	E	C	A
1586(岡山城)	浦上成宗	C	D	C	C
1586(小谷城)	浅井井頼	B	C	C	D

シナリオ4

仕官年／場所	浪人名	戦	内	外	謀
浪人(金沢城)	願得寺兼俊	D	B	C	C
浪人(堺城)	伊東義祐	C	C	C	C
浪人(二条城)	馬場頼周	C	C	C	C
浪人(一乗谷城)	朝倉景盛	D	D	C	D
浪人(二条城)	今井宗久	E	A	C	E
浪人(日野城)	百地三太夫	B	C	D	A
浪人(二条城)	香西元成	C	C	D	E
浪人(姫路城)	喜多野柏阿	D	B	C	C
浪人(日野城)	六角義賢	C	C	D	D
浪人(多聞山城)	宝蔵院胤栄	B	E	E	E
浪人(朽木城)	沼田統兼	D	D	C	C
浪人(鳥取城)	田公豊高	D	D	D	D
浪人(海津城)	屋代政国	C	C	D	D
浪人(小諸城)	下曽根信辰	C	C	D	C
浪人(安土城)	進藤賢盛	C	C	C	C
浪人(有岡城)	遊佐信教	E	D	C	C
浪人(富山城)	水越職勝	C	C	D	D
浪人(有岡城)	畠山高政	C	C	C	E
浪人(堺城)	松井友閑	E	A	B	C
浪人(堺城)	三好政康	B	D	C	D
浪人(春日山城)	小笠原貞種	D	D	D	C
浪人(竹田城)	田結庄光保	D	C	C	D
浪人(富山城)	狩野宣久	D	C	C	D
浪人(姫路城)	岡本周登	D	C	D	D
浪人(一乗谷城)	朝倉景綱	D	D	D	E

※「仕官年/場所」の「浪人」とは、シナリオスタート時にすでに登場している武将です。
※ 浪人は、それぞれのシナリオ開始年から20年以内について掲載しています。

仕官年／場所	浪人名	戦	内	外	謀
浪人(厩橋城)	栟和康忠	D	C	B	D
浪人(二条城)	風魔小太郎	B	E	D	A
浪人(二条城)	多胡宇右衛門	C	C	C	C
浪人(和歌山城)	堀内氏善	C	E	D	C
浪人(小田原城)	天野景貫	C	D	C	E
浪人(宇都宮城)	清水高信	D	C	C	D
浪人(滝山城)	近藤綱秀	C	C	B	D
浪人(二本松城)	山内氏勝	C	C	C	C
浪人(金沢城)	七里頼周	B	C	C	B
浪人(安濃津城)	九鬼嘉隆	B	C	E	C
浪人(姫路城)	中村忠滋	C	C	C	C
浪人(県城)	蒲池鎮運	C	C	C	C
浪人(宇都宮城)	玉生高宗	D	C	D	D
浪人(二条城)	朝倉政元	D	D	D	E
浪人(大坂城)	織田有楽斎	C	C	B	D
浪人(岡山城)	浦上景行	C	D	C	D
浪人(水戸城)	花房職秀	B	C	E	C
浪人(二条城)	蒲生郷成	C	C	C	C
浪人(江戸城)	上条政繁	B	C	B	C
浪人(田辺城)	稲富祐直	A	C	C	C
浪人(二条城)	今井宗薫	D	D	E	E
浪人(会津若松城)	平田輔範	D	C	C	C
浪人(二条城)	蒲生郷安	C	B	C	C
浪人(厩橋城)	大藤信興	C	D	E	E
浪人(宇都宮城)	君島高親	D	D	C	D
浪人(小田原城)	笠原康明	D	C	C	C
浪人(二条城)	蒲生頼郷	C	C	D	D
浪人(臼杵城)	志賀親次	B	C	D	C
浪人(大坂城)	土橋重治	C	E	E	E
浪人(岐阜城)	滝川忠征	C	B	C	D
浪人(府内城)	大友義統	C	C	E	C
浪人(姫路城)	佐々木巌流	B	D	D	D
浪人(会津若松城)	猪苗代盛胤	C	D	C	D
浪人(二条城)	滝川益重	C	D	D	D
浪人(府内城)	田原親盛	C	C	D	C
浪人(江戸城)	宇都宮国綱	C	B	D	C
浪人(二条城)	以心崇伝	E	E	C	A
浪人(会津若松城)	松本行輔	D	C	D	B
浪人(会津若松城)	富田将監	B	C	E	D
浪人(岡山城)	浦上成宗	C	D	C	C
浪人(福知山城)	荻野直義	C	C	D	D
1603(大和郡山城)	高田又兵衛	B	D	C	C

シナリオ6

仕官年／場所	浪人名	戦	内	外	謀
浪人(田辺城)	稲富祐秀	B	D	C	C
浪人(岡山城)	浦上政宗	C	C	C	C
浪人(岡山城)	浦上宗景	C	C	C	B
浪人(二条城)	朝山日乗	E	E	B	D
浪人(田辺城)	一色義道	C	C	C	E
浪人(日野城)	百地三太夫	B	C	D	A
浪人(二条城)	今井宗久	E	A	C	E
浪人(田辺城)	沼田統兼	D	D	C	C
浪人(福知山城)	籾井教業	B	C	E	C
浪人(福知山城)	赤井直正	B	C	D	C
浪人(二条城)	近衛前久	D	E	A	E
浪人(丹波亀山城)	波多野秀治	B	C	C	C
浪人(岡山城)	浦上清宗	C	C	B	C
浪人(丹波亀山城)	波多野秀尚	C	C	C	C
浪人(岡山城)	浦上景行	C	D	C	D
浪人(丹波亀山城)	赤井忠家	B	E	E	D
浪人(田辺城)	一色義清	C	C	B	C
浪人(田辺城)	稲富祐直	A	C	C	C
浪人(田辺城)	一色義定	B	C	C	D
浪人(二条城)	以心崇伝	E	E	C	A

仕官年／場所	浪人名	戦	内	外	謀
浪人(小谷城)	堀秀村	C	B	D	B
浪人(海津城)	三本寺定長	B	D	D	D
浪人(海津城)	栗田永寿	C	C	B	D
浪人(郡上八幡城)	佐藤秀方	C	C	D	D
浪人(富山城)	寺島信鎮	D	C	C	D
浪人(一乗谷城)	朝倉景氏	C	C	C	C
浪人(姫路城)	難波泰興	D	C	D	D
浪人(躑躅ヶ崎館)	栗原詮冬	C	C	C	C
浪人(姫路城)	久安職種	D	C	D	D
浪人(厩橋城)	本庄秀綱	B	C	D	C
浪人(竹田城)	八木豊信	C	D	C	D
浪人(有岡城)	三好政勝	B	D	C	E
浪人(有岡城)	荒木村重	B	C	D	C
浪人(郡上八幡城)	服部友定	C	C	D	D
浪人(竹田城)	大田垣輝延	D	C	C	D
浪人(大野城)	半田吉就	C	C	C	C
浪人(二条城)	近衛前久	D	E	A	E
浪人(安土城)	建部寿徳	C	C	C	C
浪人(躑躅ヶ崎館)	小宮山昌照	C	D	D	E
浪人(長島城)	石橋義忠	C	C	D	D
浪人(一乗谷城)	多胡宇右衛門	C	C	C	C
浪人(二条城)	今川氏真	E	C	C	E
浪人(堺城)	毛利長秀	C	D	D	C
浪人(二条城)	前田玄以	D	C	B	C
浪人(富山城)	神保覚広	D	D	C	D
浪人(小谷城)	小堀政次	C	B	C	C
浪人(上原城)	江間信盛	D	D	C	D
浪人(小谷城)	安養寺氏種	C	C	C	C
浪人(金沢城)	七里頼周	B	C	C	B
浪人(富山城)	塩屋秋貞	D	D	C	D
浪人(中村城)	一条兼定	D	E	E	D
浪人(姫路城)	中村忠滋	C	C	C	C
浪人(一乗谷城)	高橋景業	C	D	D	D
浪人(安土城)	六角義治	C	B	C	D
浪人(堺城)	織田有楽斎	C	C	B	D
浪人(岡山城)	浦上景行	C	D	C	D
浪人(有岡城)	山名豊国	D	C	C	D
浪人(二条城)	細川昭元	C	C	C	C
浪人(中村城)	一条康政	D	C	D	D
浪人(躑躅ヶ崎館)	原昌弘	C	C	C	C
浪人(建部山城)	稲富祐直	A	C	C	C
浪人(二条城)	今井宗薫	D	D	E	E
浪人(富山城)	神保長住	C	C	D	E
浪人(堺城)	土橋重治	C	E	E	E
浪人(富山城)	神保長城	D	C	D	D
浪人(姫路城)	佐々木巌流	B	D	D	D
浪人(堺城)	伊東祐兵	C	C	C	C
浪人(姫路城)	後藤又兵衛	A	E	D	E
浪人(富山城)	神保長国	D	D	D	D
浪人(二条城)	京極高次	C	C	B	D
浪人(清洲城)	飯田覚兵衛	B	D	C	B
1583(清洲城)	塙直之	B	E	E	E
1584(堺城)	伊東義賢	D	C	E	C
1585(二条城)	以心崇伝	E	E	C	A
1586(岡山城)	浦上成宗	C	D	C	C
1586(小谷城)	浅井井頼	B	C	C	D
1586(二条城)	京極高知	E	C	C	C
1586(府内城)	伊東祐勝	C	D	C	D
1587(姫路城)	別所吉治	D	E	C	D
1587(福知山城)	荻野直義	C	C	D	D
1591(岐阜城)	毛利勝永	C	D	D	D
1593(中村城)	一条政親	C	D	D	D
1595(姫路城)	赤松則英	C	D	D	D
1596(岐阜城)	織田秀信	C	B	C	C
1600(岡山城)	宮本武蔵	A	E	E	E

シナリオ5

仕官年／場所	浪人名	戦	内	外	謀
浪人(大和郡山城)	宝蔵院胤栄	B	E	E	E
浪人(清洲城)	下方貞清	B	C	D	D
浪人(府内城)	田原紹忍	C	B	C	C
浪人(大野城)	半田吉就	C	C	C	C
浪人(二条城)	近衛前久	D	E	A	E
浪人(興国寺城)	笠原康勝	C	D	C	D

シナリオ 1 戦国乱世 国力データベース

地方	城名	石高	開発	町	城	タイプ	特産
畿内	長島城	9.7	40	2	3	水	
	亀山城	8	15	2	3	平山	
	安濃津城	16.2	40	2	3	平	
	朽木城	10.5	45	2	1	平山	
	小谷城	22.8	32	2	3	山	強
	観音寺城	28	45	3	3	山	
	日野城	9.5	70	2	3	平山	
	二条城	20	55	3	1	平	
	信貴山城	28	45	3	3	平	
	雑賀城	23.7	70	2	3	平山	強
	石山城	25.2	38	3	3	水	
	芥川城	28	45	3	3	山	
	八上城	22.1	60	2	3	山	
	建部山城	12.7	60	2	3	平	
中国	竹田城	8.1	29	2	2	山	金
	姫路城	26.2	50	2	3	平山	
	岩屋城	9.1	40	1	2	平山	
	岡山城	16.2	40	2	3	平山	
	鳥取城	9.7	40	2	3	山	
	月山富田城	16	55	2	3	山	
	赤穴城	6	35	1	2	山	
	三原城	12	35	2	2	水	
	吉田郡山城	19.5	40	2	3	山	
	山吹城	5	25	1	2	平山	金+
	富田若山城	11	40	2	3	山	
	山口城	13	40	3	2	平山	
四国	洲本城	3.2	40	1	1	平山	
	十河城	6.5	40	2	3	水	
	勝瑞城	9.7	40	2	3	平山	
	白地城	3.2	40	1	2	山	
	岡豊城	6	15	2	2	平山	強
	中村城	3	25	2	2	平山	
	湯築城	7.5	25	2	3	平山	
	黒瀬城	5	25	2	2	平山	
九州	門司城	6.5	40	2	1	水	
	中津城	8	37	2	3	平	
	府内城	18.7	50	3	2	平	
	臼杵城	7.5	25	1	2	平山	
	岡城	7.5	25	2	2	山	馬
	立花城	15	25	3	3	山	
	久留米城	13.7	30	2	3	平	
	佐嘉城	16.2	40	2	3	平	強
	玖島城	8	37	2	2	平山	
	隈本城	11	30	2	2	平山	強
	人吉城	8.2	30	2	2	山	強
	県城	5.5	30	2	2	平山	
	都於郡城	5.5	30	2	3	平	
	出水城	8.2	30	2	2	平山	強
	内城	13.2	35	3	3	平山	強
	高山城	12	35	2	2	平	強

地方	城名	石高	開発	町	城	タイプ	特産
東北	松前城	5.2	1	1	1	平山	
	浪岡城	5.4	2	1	2	平山	馬
	三戸城	5.4	2	1	2	山	馬
	高水寺城	5.6	3	1	2	平	馬
	檜山城	5.6	3	1	2	平山	馬
	横手城	5.6	3	1	2	平	馬
	山形城	8.1	12	1	2	平	馬
	岩出山城	6	5	1	3	山	金+、馬
	岩切城	5	3	1	2	平山	金、馬
	米沢城	8.1	9	2	3	平	馬
	二本松城	5.6	10	1	3	山	馬
	黒川城	7	10	2	3	平山	馬
関東	宇都宮城	10	15	2	3	平	
	水戸城	22	30	2	3	平	
	結城城	12	15	2	2	平	
	佐倉城	8	7	2	1	平	
	佐貫城	9.9	8	2	2	平山	
	沼田城	10.1	19	1	2	山	馬
	厩橋城	15	25	2	3	平	馬、強
	唐沢山城	9	20	2	2	山	
	河越城	13	25	2	2	平	
	江戸城	18	25	2	3	平	
	滝山城	11	25	1	2	平山	
	玉縄城	5	25	2	2	平	
	小田原城	12	25	3	4	平山	
北陸	新発田城	10.5	10	1	2	平	金、馬、強
	栃尾城	13.5	20	2	2	平山	馬、強
	春日山城	20	25	2	3	山	金+、馬、強
	葛尾城	8.1	20	1	3	水	馬、強
	小諸城	10.3	20	1	3	平山	馬、強
	松倉城	3.5	34	1	2	平山	馬
	富山城	16.5	30	2	3	平	
	七尾城	9	20	1	3	山	
	金沢御坊	18	35	2	3	平山	
	一乗谷館	18	35	3	2	山	
	大野城	6	35	1	2	平山	
	金ヶ崎城	12	35	2	2	山	
東海	躑躅ヶ崎館	16.5	30	2	1	平山	金+、馬、強
	林城	11	30	1	3	水	馬、強
	木曾福島城	8.1	29	1	2	山	馬、強
	興国寺城	7	39	2	2	平山	
	駿府城	23.2	58	3	2	平	金
	掛川城	8.1	29	2	3	平	
	曳馬城	11.2	20	2	3	水	
	長篠城	8.2	30	2	2	平山	強
	岡崎城	13.2	30	2	3	平	強
	那古屋城	24	23	3	3	平	
	岩村城	8	15	2	2	山	
	郡上八幡城	7.5	25	2	2	平山	
	稲葉山城	24	35	3	4	山	

※「石高」はスタート時の石高。「開発」は、その数値が高いと開墾上昇度が少なく、低いと高くなる。「タイプ」は城の属性。それぞれ火攻、水攻、干殺の効果と関係がある。「特産」は金+=5000石／月の金山、金=2500石／月の金山、馬=騎馬隊編制が可能、強=強兵属性。

シナリオ 2 群雄割拠 国力データベース

地方	城名	石高	開発	町	城	タイプ	特産
畿内	長島城	11.2	50	2	3	水	
	亀山城	8	15	2	3	平山	
	安濃津城	17.5	45	2	3	平	
	朽木城	10	42	2	1	平山	
	小谷城	26	40	2	3	山	強
	観音寺城	34	60	3	3	山	
	伊賀上野城	8	55	2	3	平山	
	二条城	20	55	3	1	平	
	信貴山城	32	55	3	3	平	
	雑賀城	23.7	70	2	3	平山	強
	石山本願寺	32	55	3	3	水	
	芥川城	34	60	3	3	山	
	八上城	22.1	60	2	3	山	
	建部山城	12.7	60	2	3	平	
中国	竹田城	12.7	60	2	2	山	金
	姫路城	26.2	50	2	3	平山	
	岩屋城	11	54	1	2	平山	
	岡山城	18.7	50	2	3	平山	
	鳥取城	9.7	40	2	3	山	
	月山富田城	15	50	2	3	山	
	赤穴城	6.5	40	1	2	山	
	三原城	13	40	2	2	水	
	吉田郡山城	20.1	42	2	3	山	
	山吹城	6	35	1	2	平山	金+
	富田若山城	12	46	2	3	山	
	山口城	11.6	33	2	2	平山	
四国	洲本城	3.2	40	1	1	平山	
	十河城	6.5	40	2	3	水	
	勝瑞城	9.7	40	2	3	平山	
	白地城	3.2	40	1	2	山	
	岡豊城	8.1	29	2	2	平山	強
	中村城	3	25	2	2	平山	
	湯築城	8.2	30	2	3	平山	
	黒瀬城	5.5	30	2	2	平山	
九州	門司城	6.5	40	2	1	水	
	中津城	9.1	45	2	3	平	
	府内城	21.2	60	3	3	平	
	臼杵城	8.2	30	1	2	平山	
	岡城	8.2	30	2	2	山	馬
	立花城	16.5	30	3	3	山	
	久留米城	13.7	30	2	3	平	
	佐嘉城	16.2	40	2	3	平	強
	玖島城	11	60	2	2	平山	
	隈本城	11	30	2	2	平山	強
	人吉城	8.2	30	2	2	山	強
	県城	5.5	30	2	2	平山	
	都於郡城	5.5	30	2	3	平	
	出水城	8.2	30	2	2	平山	強
	内城	15.1	44	3	3	平山	強
	高山城	13	40	2	2	平	強

地方	城名	石高	開発	町	城	タイプ	特産
東北	松前城	5.2	1	1	1	平山	
	浪岡城	5.6	3	1	2	平山	馬
	三戸城	5.6	3	1	2	山	馬
	高水寺城	5.6	3	1	2	平	馬
	檜山城	6	5	1	2	平山	馬
	横手城	6	5	1	2	平	馬
	山形城	10.1	21	1	2	平	馬
	岩出山城	6	5	1	3	山	金+、馬
	岩切城	8.1	20	1	3	平山	金、馬
	米沢城	9.1	13	2	3	平	馬
	二本松城	7	19	1	3	山	馬
	黒川城	9	20	2	3	平山	馬
関東	宇都宮城	12	23	2	3	平	
	水戸城	22	30	2	3	平	
	結城城	12	15	2	2	平	
	佐倉城	10.5	17	2	1	平	
	久留里城	13.2	19	2	2	平山	
	沼田城	8	10	1	2	山	馬
	厩橋城	15	25	2	3	平	馬、強
	唐沢山城	9	20	2	2	山	
	河越城	16.6	39	2	2	平	
	江戸城	18	25	2	3	平	
	滝山城	12.1	30	1	2	平山	
	玉縄城	5.5	30	2	2	平	
	小田原城	14.1	34	3	4	平山	
北陸	新発田城	10.5	10	1	2	平	金、馬、強
	栃尾城	12	15	2	2	平山	馬、強
	春日山城	22	30	3	3	山	金+、馬、強
	海津城	9.7	29	1	2	水	馬、強
	小諸城	9.6	17	1	3	平山	馬、強
	松倉城	3.5	34	1	2	平山	馬
	富山城	19.5	40	2	3	平	
	七尾城	12	35	1	3	山	
	金沢御坊	19.5	40	2	3	平山	
	一乗谷館	19.5	40	3	2	山	
	大野城	6.5	40	1	2	平山	
	金ヶ崎城	13	40	2	2	山	
東海	躑躅ヶ崎館	23	50	2	1	平山	金+、馬、強
	上原城	13	40	1	3	水	馬、強
	飯田城	10	42	1	2	山	馬、強
	興国寺城	9.7	64	2	2	平山	
	駿府城	22.4	55	3	2	平	金
	掛川城	9.7	40	2	3	平	
	曳馬城	11.2	20	2	3	水	
	長篠城	8.2	30	2	2	平山	強
	岡崎城	18	50	2	3	平	強
	清洲城	27.5	30	3	3	平	
	岩村城	8	15	2	2	山	
	郡上八幡城	8.2	30	2	2	平山	
	岐阜城	30	50	3	4	山	

※「石高」はスタート時の石高。「開発」は、その数値が高いと開墾上昇度が少なく、低いと高くなる。「タイプ」は城の属性。それぞれ火攻、水攻、干殺の効果と関係がある。「特産」は金+=5000石／月の金山、金=2500石／月の金山、馬=騎馬隊編制が可能、強=強兵属性。

シナリオ 3 信玄上洛 国力データベース

地方	城名	石高	開発	町	城	タイプ	特産
畿内	長島城	11.5	52	2	3	水	
	亀山城	10	25	2	3	平山	
	安濃津城	18	47	2	3	平	
	朽木城	10	42	2	1	平山	
	小谷城	30	50	2	3	山	強
	観音寺城	36	65	3	3	山	
	日野城	8	55	2	3	平山	
	二条城	24	71	3	2	平	
	多聞山城	38	70	3	3	平	
	雑賀城	23.7	70	4	3	平山	強
	石山本願寺	32	55	3	3	水	
	伊丹城	34	60	3	3	山	
	八上城	22.1	60	2	3	山	
	建部山城	12.7	60	2	3	平	
中国	竹田城	12.7	60	2	2	山	金
	姫路城	26.9	52	2	3	平山	
	岩屋城	12	61	1	2	平山	
	岡山城	19.2	52	2	3	平山	
	鳥取城	10	42	2	3	山	
	月山富田城	15	50	2	3	山	
	赤穴城	6.5	40	1	2	山	
	三原城	13	40	2	2	水	
	吉田郡山城	22.2	49	2	3	山	
	山吹城	8	55	1	2	平山	金+
	富田若山城	13	52	2	3	山	
	山口城	12.6	38	2	2	平山	
四国	洲本城	3.5	45	1	1	平山	
	十河城	7	45	2	3	水	
	勝瑞城	14.1	69	2	3	平山	
	白地城	3.5	45	1	2	山	
	岡豊城	11.1	49	2	2	平山	強
	中村城	4	42	2	2	平山	
	湯築城	11.1	49	2	3	平山	
	黒瀬城	6	35	2	2	平山	
九州	門司城	6.7	42	2	1	水	
	中津城	10	52	2	3	平	
	府内城	23.7	70	4	3	平	
	臼杵城	10.5	45	1	2	平山	
	岡城	9	35	2	2	山	馬
	立花城	21	45	3	3	山	
	久留米城	15.2	36	2	3	平	
	佐嘉城	20	55	2	3	平	強
	大村城	12.4	71	2	2	平山	
	隈本城	12	35	2	2	平山	強
	人吉城	9	35	2	2	山	強
	県城	6	35	2	2	平山	
	都於郡城	6	35	2	3	平	
	出水城	9.7	40	2	2	平山	強
	内城	16	48	3	3	平山	強
	高山城	14	45	2	2	平	強

地方	城名	石高	開発	町	城	タイプ	特産
東北	松前城	5.6	3	1	1	平山	
	浪岡城	8.2	16	1	2	平山	馬
	九戸城	6.2	6	1	2	山	馬
	高水寺城	7.8	14	1	2	平	馬
	檜山城	8	15	1	2	平山	馬
	横手城	7.4	12	1	2	平	馬
	山形城	11	25	1	2	平	馬
	岩出山城	9	20	1	3	山	金+、馬
	千代城	12	42	1	3	平山	金、馬
	米沢城	12	25	2	3	平	馬
	二本松城	8.3	27.5	1	3	山	馬
	黒川城	12	35	2	3	平山	馬
関東	宇都宮城	13.5	29	2	3	平	
	水戸城	25	38	2	3	平	
	結城城	12.6	17	2	2	平	
	佐倉城	11.2	20	2	1	平	
	久留里城	14.1	22	2	2	平山	
	沼田城	10.3	20	1	2	山	馬
	厩橋城	17.1	32	2	3	平	馬、強
	唐沢山城	10	25	2	2	山	
	河越城	18.2	45	2	2	平	
	江戸城	20.1	31	2	3	平	
	滝山城	13.2	35	1	2	平山	
	玉縄城	6	35	2	2	平	
	小田原城	15.1	38	3	5	平山	
北陸	新発田城	12	15	1	2	平	金、馬、強
	栃尾城	14.1	22	2	2	平山	馬、強
	春日山城	26	40	3	3	山	金+、馬、強
	上田城	11.3	38	1	2	水	馬、強
	小諸城	11.2	24	1	3	平山	馬、強
	松倉城	4	42	1	2	平山	馬
	富山城	20.1	42	2	3	平	
	七尾城	13	40	1	3	山	
	金沢御坊	23.1	52	2	3	平山	
	一乗谷館	21	45	3	2	山	
	大野城	7	45	1	2	平山	
	金ヶ崎城	14	45	2	2	山	
東海	躑躅ヶ崎館	23.1	52	2	1	平山	金+、馬、強
	上原城	14	45	1	3	水	馬、強
	飯田城	12	55	1	2	山	馬、強
	興国寺城	10.5	71	2	2	平山	
	駿府城	27.1	72	3	2	平	金
	掛川城	10.8	47	2	3	平	
	浜松城	23	67	2	3	水	
	長篠城	9.7	40	2	2	平山	強
	岡崎城	21.6	65	2	3	平	強
	清洲城	32.5	40	3	3	平	
	岩村城	9	20	2	2	山	
	郡上八幡城	9	35	2	2	平山	
	岐阜城	30.8	52	3	4	山	

※「石高」はスタート時の石高。「開発」は、その数値が高いと開墾上昇度が少なく、低いと高くなる。「タイプ」は城の属性。それぞれ火攻、水攻、干殺の効果と関係がある。「特産」は金+=5000石/月の金山、金=2500石/月の金山、馬=騎馬隊編制が可能、強=強兵属性。

シナリオ 4 本能寺の変 国力データベース

地方	城名	石高	開発	町	城	タイプ	特産
畿内	長島城	12	55	2	3	水	
	亀山城	10	25	2	3	平山	
	安濃津城	18.7	50	2	3	平	
	坂本城	17.1	89	2	3	平山	
	佐和山城	23.2	33	3	3	山	
	安土城	38	70	1	1	山	
	日野城	10	75	2	3	平山	
	二条城	26	79	3	2	平	
	多聞山城	38	70	3	3	平	
	雑賀城	23.7	70	2	3	平山	強
	堺城	38	70	4	2	水	
	有岡城	34	60	3	3	山	
	丹波亀山城	24.1	68	2	3	山	
	田辺城	12.7	60	2	3	平	
中国	竹田城	12.7	60	2	2	山	金
	姫路城	30	61	2	3	平山	
	岩屋城	12	61	1	2	平山	
	岡山城	20	55	2	3	平山	
	鳥取城	10.5	45	2	3	山	
	月山富田城	15	50	2	3	山	
	赤穴城	6.5	40	1	2	山	
	三原城	13	40	2	2	水	
	吉田郡山城	24	55	2	3	山	
	山吹城	9	65	1	2	平山	金+
	富田若山城	13	52	2	3	山	
	山口城	13	40	2	2	平山	
四国	洲本城	3.7	50	1	1	平山	
	十河城	7.5	50	2	3	水	
	勝瑞城	15	75	2	3	平山	
	白地城	3.7	50	1	2	山	
	岡豊城	13	62	2	2	平山	強
	中村城	4.2	46	1	2	平山	
	湯築城	12	55	2	3	平山	
	黒瀬城	6.5	40	2	2	平山	
九州	門司城	7	45	2	1	水	
	中津城	11.9	67	2	3	平	
	府内城	23	67	4	3	平	
	臼杵城	12.7	60	1	2	平山	
	岡城	9.7	40	2	2	山	馬
	立花城	22.5	50	3	3	山	
	久留米城	16.7	42	2	3	平	
	佐嘉城	23.7	70	2	3	平	強
	大村城	11.9	67	2	2	平山	
	隈本城	13	40	2	2	平山	強
	人吉城	9.7	40	2	2	山	強
	県城	6.5	40	2	2	平山	
	都於郡城	6.5	40	2	3	平	
	出水城	10	42	2	2	平山	強
	内城	18	57	4	3	平山	強
	高山城	15	50	2	2	平	強

地方	城名	石高	開発	町	城	タイプ	特産
東北	松前城	6	5	1	1	平山	
	浪岡城	11	30	1	2	平山	馬
	九戸城	7	10	1	2	山	馬
	高水寺城	10	25	1	2	平	馬
	檜山城	10	25	1	2	平山	馬
	横手城	9	20	1	2	平	馬
	山形城	14	39	1	2	平	馬
	岩出山城	10	25	1	3	山	金+、馬
	千代城	13.1	48	1	3	平山	金、馬
	米沢城	12	25	2	3	平	馬
	二本松城	9.1	32	1	3	山	馬
	黒川城	13	40	2	3	平山	馬
関東	宇都宮城	15	35	2	3	平	
	水戸城	28	45	2	3	平	
	結城城	13.5	20	2	2	平	
	佐倉城	11.2	20	2	2	平	
	久留里城	15	25	2	2	平山	
	沼田城	12.1	28	1	2	山	馬
	厩橋城	19.5	40	2	3	平	馬、強
	唐沢山城	11	30	2	2	山	
	河越城	19.5	50	2	2	平	
	江戸城	21.9	36	2	3	平	
	滝山城	11	25	1	2	平山	
	玉縄城	6.5	40	2	2	平	
	小田原城	15.1	38	3	5	平山	
北陸	新発田城	13.5	20	1	2	平	金、馬、強
	栃尾城	15	25	2	2	平山	馬、強
	春日山城	30	50	3	3	山	金+、馬、強
	上田城	12.7	46	1	2	水	馬、強
	小諸城	12.8	31	1	3	平山	馬、強
	松倉城	4.5	50	1	2	平山	馬
	富山城	21	45	2	3	平	
	七尾城	14	45	1	3	山	
	金沢城	24	55	2	3	平山	
	北ノ庄城	22.5	50	2	3	山	
	大野城	7.5	50	1	2	平山	
	敦賀城	12	35	2	2	山	
東海	府中城	21	45	2	1	平山	金、馬、強
	上原城	15	50	1	3	水	馬、強
	木曽福島城	12	55	1	2	山	馬、強
	興国寺城	9	57	2	2	平山	
	駿府城	24	61	3	3	平	金
	掛川城	12	55	2	3	平	
	浜松城	23.7	70	2	3	水	
	長篠城	9	35	2	2	平山	強
	岡崎城	21.1	63	2	3	平	強
	清洲城	40	55	4	3	平	
	岩村城	11	30	2	2	山	
	郡上八幡城	9.7	40	2	2	平山	
	岐阜城	32	55	4	4	山	

※「石高」はスタート時の石高。「開発」は、その数値が高いと開墾上昇度が少なく、低いと高くなる。「タイプ」は城の属性。それぞれ火攻、水攻、干殺の効果と関係がある。「特産」は金+=5000石／月の金山、金=2500石／月の金山、馬=騎馬隊編制が可能、強=強兵属性。

シナリオ 5 関ヶ原前夜 国力データベース

地方	城名	石高	開発	町	城	タイプ	特産
畿内	長島城	12	55	2	3	水	
	亀山城	13.8	44	2	3	平山	
	安濃津城	17.5	45	2	3	平	
	朽木城	11.1	49	2	1	平山	
	佐和山城	24	35	3	3	山	
	大津城	28	45	4	3	山	
	伊賀上野城	9.5	70	2	3	平山	
	二条城	24	71	3	2	平	
	大和郡山城	36	65	3	3	平	
	和歌山城	23	67	2	3	平山	
	大坂城	40	75	4	5	水	
	有岡城	26	40	3	3	山	
	福知山城	22.1	60	2	3	山	
	田辺城	12.7	60	2	3	平	
中国	竹田城	12.7	60	2	2	山	金
	姫路城	29.7	60	2	3	平山	
	岩屋城	13	68	1	2	平山	
	岡山城	24	71	2	3	平山	
	鳥取城	11.2	50	2	3	山	
	月山富田城	17	60	2	3	山	
	赤穴城	7.5	50	1	2	山	
	三原城	15	50	2	2	水	
	広島城	30	75	3	3	山	
	山吹城	10	75	2	2	平山	金+
	富田若山城	13	52	2	3	山	
	山口城	13	40	2	2	平山	
四国	洲本城	3.7	50	1	1	平山	
	高松城	7.5	50	2	3	水	
	徳島城	15	75	2	3	平山	
	大西城	3.7	50	1	2	山	
	浦戸城	16	82	2	3	平山	強
	中村城	4.2	46	1	2	平山	
	伊予松前城	13	62	2	3	平山	
	板島城	9	65	2	2	平山	
九州	小倉城	7.5	50	2	3	水	
	中津城	12.8	74	2	3	平	
	府内城	23.7	70	2	2	平	
	臼杵城	12.7	60	1	2	平山	
	岡城	9.7	40	2	2	山	馬
	名島城	26.1	62	3	3	山	
	柳川城	17.5	45	2	3	平	
	佐嘉城	25	75	2	3	平	強
	大村城	13	75	2	2	平山	
	隈本城	18	65	2	4	平山	強
	人吉城	16	82	2	2	山	強
	県城	6.5	40	2	2	平山	
	都於郡城	6.5	40	2	3	平	
	出水城	11.1	49	2	2	平山	強
	内城	16	48	3	3	平山	強
	高山城	15	50	2	2	平	強

地方	城名	石高	開発	町	城	タイプ	特産
東北	松前城	6.4	7	1	2	平山	
	浪岡城	9	20	2	2	平山	馬
	三戸城	7	10	1	2	山	馬
	盛岡城	11	30	1	3	平	馬
	檜山城	11	30	1	2	平山	馬
	横手城	10	25	1	2	平	馬
	山形城	16	48	2	3	平	馬
	岩出山城	17	60	1	3	山	金+、馬
	千代城	17.1	70	2	3	平山	金、馬
	米沢城	18	50	2	3	平	馬、強
	二本松城	15.2	70	1	3	山	馬
	会津若松城	19	70	2	3	平山	馬、強
関東	宇都宮城	16	39	2	3	平	
	水戸城	32	55	2	3	平	
	結城城	15	25	2	2	平	
	佐倉城	12	23	2	2	平	
	久留里城	15	25	2	2	平山	
	沼田城	12.1	28	1	2	山	馬
	厩橋城	19.5	40	2	3	平	馬、強
	唐沢山城	11	30	2	2	山	
	河越城	19.5	50	2	2	平	
	江戸城	25.2	45	3	4	平	
	八王子城	14.5	41	1	2	平山	
	玉縄城	6.5	40	2	2	平	
	小田原城	15.1	38	3	4	平山	
北陸	新発田城	12	15	1	2	平	金、馬、強
	栃尾城	13.2	19	2	2	平山	馬、強
	春日山城	20	25	3	3	山	金+、馬、強
	上田城	12.7	46	1	2	水	馬、強
	小諸城	11.2	24	1	3	平山	馬、強
	飛騨高山城	4.5	50	1	2	平山	馬
	富山城	24	55	2	3	平	
	七尾城	16	55	1	3	山	
	金沢城	26.1	62	2	3	平山	
	北ノ庄城	22.5	50	2	3	山	
	大野城	7.5	50	1	2	平山	
	敦賀城	15	50	2	2	山	
東海	甲府城	25.5	60	2	3	平山	金、馬、強
	高島城	15	50	1	3	水	馬、強
	飯田城	11.1	49	1	2	山	馬、強
	興国寺城	10.5	71	2	2	平山	
	駿府城	26	68	3	3	平	金
	掛川城	12	55	2	3	平	
	浜松城	22.5	65	2	3	水	
	吉田城	11.2	50	2	2	平山	強
	岡崎城	22.5	69	2	3	平	強
	清洲城	40	55	4	3	平	
	岩村城	13	40	2	2	山	
	郡上八幡城	9.7	40	2	2	平山	
	岐阜城	30	50	4	4	山	

※「石高」はスタート時の石高。「開発」は、その数値が高いと開墾上昇度が少なく、低いと高くなる。「タイプ」は城の属性。それぞれ火攻、水攻、干殺の効果と関係がある。「特産」は金+=5000石／月の金山、金=2500石／月の金山、馬=騎馬隊編制が可能、強=強兵属性。

シナリオ 6 戦国夢幻 国力データベース

地方	城名	石高	開発	町	城	タイプ	特産
畿内	長島城	9	35	2	3	水	
畿内	亀山城	13	40	2	3	平山	
畿内	安濃津城	16	39	3	3	平	
畿内	朽木城	12	55	2	1	平山	
畿内	小谷城	32	55	2	3	山	強
畿内	観音寺城	32	55	3	3	山	
畿内	日野城	15.3	77	2	3	平山	
畿内	二条城	24	71	4	2	平	
畿内	多聞山城	38	70	3	3	平	
畿内	雑賀城	23.7	70	4	3	平山	強
畿内	大坂城	38	70	4	4	水	
畿内	芥川城	34	60	3	3	山	
畿内	丹波亀山城	25.4	73	2	3	山	
畿内	田辺城	12.7	60	2	3	平	
中国	竹田城	9	35	2	2	山	金
中国	姫路城	26.9	52	2	3	平山	
中国	岩屋城	14	75	1	2	平山	
中国	岡山城	24	71	3	3	平山	
中国	鳥取城	10	42	2	3	山	
中国	月山富田城	15	50	2	3	山	
中国	赤穴城	6.5	40	1	2	山	
中国	三原城	13	40	2	2	水	
中国	広島城	25.5	60	3	3	山	
中国	山吹城	9	65	2	2	平山	金+
中国	富田若山城	11	40	2	3	山	
中国	山口城	14	45	3	3	平山	
四国	洲本城	3.5	45	1	1	平山	
四国	十河城	9	65	2	3	水	
四国	勝瑞城	13	62	2	3	平山	
四国	白地城	3.5	45	1	2	山	
四国	岡豊城	15.3	77	2	3	平山	強
四国	中村城	5	59	2	2	平山	
四国	湯築城	11.1	49	2	3	平山	
四国	黒瀬城	6	35	2	2	平山	
九州	門司城	6.7	42	2	1	水	
九州	中津城	14	83	2	3	平	
九州	府内城	23.7	70	4	3	平	
九州	臼杵城	10.5	45	2	2	平山	
九州	岡城	9	35	2	2	山	馬
九州	立花城	24	55	3	3	山	
九州	久留米城	15.2	36	2	3	平	
九州	佐嘉城	20	55	2	3	平	強
九州	玖島城	8	37	2	2	平山	
九州	熊本城	20	75	3	3	平山	強
九州	人吉城	9	35	2	2	山	強
九州	県城	6	35	2	2	平山	
九州	都於郡城	6	35	2	3	平	
九州	出水城	9.7	40	2	2	平山	強
九州	内城	18.7	60	4	3	平山	強
九州	高山城	14	45	2	2	平	強

地方	城名	石高	開発	町	城	タイプ	特産
東北	松前城	8	15	3	3	平山	
東北	浪岡城	8.2	16	1	2	平山	馬
東北	三戸城	6.2	6	1	2	山	馬
東北	盛岡城	10	25	3	3	平	馬
東北	秋田城	8	15	2	3	平山	馬
東北	横手城	7.4	12	2	2	平	馬
東北	山形城	15.1	44	3	3	平	馬
東北	岩出山城	10	25	1	3	山	金+、馬
東北	仙台城	17.1	70	4	3	平山	金、馬
東北	米沢城	12	25	2	3	平	馬
東北	二本松城	10	38	1	2	山	馬
東北	会津若松城	15	50	2	3	平山	馬
関東	宇都宮城	13	27	2	3	平	
関東	水戸城	24	35	2	3	平	
関東	結城城	12.6	17	2	2	平	
関東	佐倉城	11.2	20	2	2	平	
関東	久留里城	11.1	12	2	2	平山	
関東	沼田城	15.1	41	1	2	山	馬
関東	厩橋城	17.1	32	2	3	平	馬、強
関東	唐沢山城	10	25	2	2	山	
関東	河越城	13	25	2	2	平	
関東	江戸城	18	25	5	4	平	
関東	滝山城	11	25	1	2	平山	
関東	玉縄城	5	25	2	2	平	
関東	小田原城	12	25	3	5	平山	
北陸	新発田城	12	15	1	2	平	金、馬、強
北陸	栃尾城	12	15	2	2	平山	馬、強
北陸	春日山城	26	40	3	3	山	金+、馬、強
北陸	葛尾城	11.3	38	1	3	水	馬、強
北陸	砥石城	11.2	24	1	3	平山	馬、強
北陸	松倉城	5	59	3	2	平山	馬
北陸	富山城	20.1	42	2	3	平	
北陸	七尾城	12	35	1	3	山	
北陸	金沢御坊	24	55	3	3	平山	
北陸	一乗谷館	21	45	3	2	山	
北陸	大野城	7	45	2	2	平山	
北陸	金ヶ崎城	13	40	2	2	山	
東海	新府城	25.5	60	3	3	平山	金+、馬、強
東海	林城	14	45	1	3	水	馬、強
東海	木曽福島城	11.1	49	1	2	山	馬、強
東海	興国寺城	8	48	2	2	平山	
東海	駿府城	21	50	3	3	平	金
東海	掛川城	10.8	47	2	2	平	
東海	浜松城	17	43	2	3	水	
東海	長篠城	9.7	40	2	2	平山	強
東海	岡崎城	21.6	65	3	3	平	強
東海	清洲城	42	59	4	3	平	
東海	岩村城	9	20	2	2	山	
東海	郡上八幡城	9	35	2	2	平山	
東海	稲葉山城	24	35	3	4	山	

※「石高」はスタート時の石高。「開発」は、その数値が高いと開墾上昇度が少なく、低いと高くなる。「タイプ」は城の属性。それぞれ火攻、水攻、干殺の効果と関係がある。「特産」は金+=5000石／月の金山、金=2500石／月の金山、馬=騎馬隊編制が可能、強=強兵属性。

全国最大石高・特産品図

日本全土の各城の最高石高と金山、馬、強兵の産地を示したマップだ。特産品はシナリオによってあるなしが生じるので、ゲーム上で確認しよう。

最大石高地図

この地図で戦略を練れ！

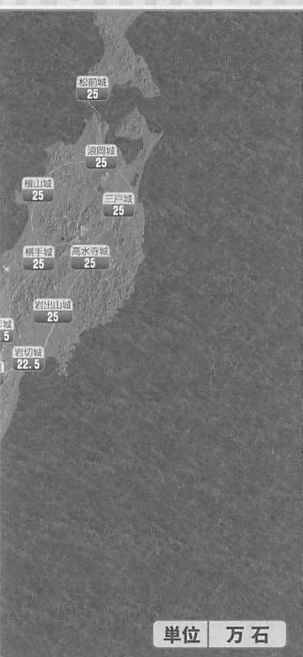
全国の最高石高を図示したマップだ。最高石高はシナリオに関わらず、常に一定。傾向としては、畿内、北陸、東海は比較的石高が高く、中国、四国はあまり高くない。攻め取って拠点にするなら、なるべく京に近い地方を優先するといいだろう。

最大石高ベスト10		
1	那古屋城	62.5万石
2	水戸城	50万石
2	春日山城	50万石
2	稲葉山城	50万石
2	小谷城	50万石
2	観音寺城	50万石
2	信貴山城	50万石
2	石山城	50万石
2	芥川城	50万石
10	江戸城	45万石

特産品分布地図

この地図で軍を強化しよう

全国の特産品を図示した地図だ。馬の産地は東北、北陸、中部地方。金山は南陸奥、越後、駿府、石見にある。強兵は上杉領、武田領、三河系の徳川領、九州に集中している。いずれも戦国史に轟く勇敢な兵の産地だ。必ず手に入れたい城と言える。

意外なのは九州の岡城。なんと九州なのに馬の産地だ。北陸、中部以西で馬の産地はここだけ。九州の大名でプレイするなら、絶対に押さえておきたい

●城の別名一覧

三戸城	(九戸城)	一乗谷館	(北ノ庄城)	観音寺城	(安土城)(大津城)	白地城	(大西城)
高水寺城	(盛岡城)	金ヶ崎城	(敦賀城)	日野城	(伊賀上野城)	岡豊城	(浦戸城)
木曾山城	(秋田城)	躑躅ヶ崎館	(府中城)(甲府城)(新府城)	信貴山城	(多聞山城)(大和郡山城)	湯築城	(伊予松前城)
岩切城	(千代城)(仙台城)	林城	(上原城)(高島城)	雑賀城	(和歌山城)	黒瀬城	(板島城)
黒川城	(会津若松城)	木曽福島城	(飯田城)	石山城	(石山本願寺)(堺城)(大阪城)	門司城	(小倉城)
佐貫城	(久留里城)	曳馬城	(浜松城)	芥川城	(伊丹城)(有岡城)	立花城	(名島城)
滝山城	(八王子城)	長篠城	(吉田城)	八上城	(丹波亀山城)(福知山城)	久留米城	(柳川城)
葛尾城	(海津城)(上田城)	那古屋城	(清洲城)	建部山城	(田辺城)	玖島城	(大村城)
小諸城	(砥石城)	稲葉山城	(岐阜城)	吉田郡山城	(広島城)	隈本城	(熊本城)
松倉城	(飛騨高山城)	朽木城	(坂本城)	十河城	(高松城)		
金沢御坊	(金沢城)	小谷城	(佐和山城)	勝瑞城	(徳島城)		

山吹城 12.5
赤穴城 12.5
月山富田城 25
鳥取城 18.75
七尾城 25
金沢御坊 37.5
富山城 37.5
春日山城 50
栃尾城 37.5
立花城 37.5
門司城 12.5
山口城 25
吉田郡山城 37.5
岩屋城 17.5
竹田城 18.75
建部山城 18.75
一乗谷館 37.5
金ヶ崎城 25
大野城 12.5
松倉城 7.5
砥尾城 22.5
沼田城 28.75
佐嘉城 31.25
久留米城 31.25
中津城 16.25
富田若山城 21.25
三原城 25
岡山城 31.25
姫路城 43.75
八上城 32.5
朽木城 18.75
小谷城 50
郡上八幡城 18.75
林城 25
小諸城 28.75
玖島城 16.25
府内城 31.25
湯築城 18.75
十河城 12.5
芥川城 50
二条城 31.25
観音寺城 50
稲葉山城 50
岩村城 25
木曽福島城 18.75
厩橋城 37.5
唐沢山城 25
隈本城 25
岡城 18.75
臼杵城 18.75
黒瀬城 12.5
白地城 6.25
洲本城 6.25
石山城 50
那古屋城 62.5
躑躅ヶ崎館 37.5
河越城 32.5
結城城 37.5
勝瑞城 18.75
雑賀城 31.25
岡崎城 30
長篠城 18.75
滝山城 27.5
江戸城 45
岡豊城 18.75
出水城 18.75
人吉城 18.75
県城 12.5
中村城 7.5
信貴山城 50
日野城 13.54
亀山城 25
安濃津城 31.25
長島城 18.75
曳馬城 31.25
掛川城 18.75
駿府城 35
興国寺城 13.75
玉縄城 12.5
佐貫城 37.5
小田原城 30
内城 27.5
都於郡城 12.5
高山城 25

データランキング

各能力の順位を、能力値と身分の両方を元にランク付けした。

内政能力

領国経営に秀でた名将たちが並ぶ。事実、彼らの統治した国はみな豊かだった。

甲斐を一等国にした凄腕の国主

順位	名前	能力	主な身分
1	武田信玄	S	主君
1	今川義元	S	主君
3	黒田官兵衛	A+(軍)	重臣、主君
4	織田信長	A+	主君
4	北条氏康	A+	主君
6	伊達政宗	A+	宿老、主君
6	鍋島直茂	A+	宿老、主君
8	豊臣秀吉	A+	重臣、主君
8	明智光秀	A+	重臣、主君
10	毛利元就	A	主君
10	本願寺顕如	A	主君
10	三好長慶	A	主君
10	松永久秀	A	主君
10	大友宗麟	A	主君
15	島津義久	A	宿老、主君
15	北条氏政	A	宿老、主君
17	小早川隆景	A	宿老
17	北条幻庵	A	宿老
19	直江兼続	A	馬廻、宿老
20	大久保長安	S	部将

戦闘能力

戦闘能力に＋（成長しやすい）が付いている謙信がトップ。これは誰もが納得だろう。

毘沙門天の化身。貫禄の1位だ

順位	名前	能力	主な身分
1	上杉謙信	S+	主君
2	立花道雪	S	家老、主君
3	真田幸村	A+(軍)	馬廻、宿老
4	竜造寺隆信	A+	主君
5	武田勝頼	A+	宿老
6	武田信玄	A	主君
6	織田信長	A	主君
6	北条氏康	A	主君
6	徳川家康	A	主君
6	浅井長政	A	主君
11	佐竹義重	A	宿老、主君
11	雑賀孫市	A	宿老、主君
13	柴田勝家	A	家老、主君
14	島津義弘	A	宿老
14	伊達成実	A	宿老
14	吉川元春	A	宿老
14	仁科盛信	A	宿老
14	北条綱成	A	宿老
14	島津家久	A	宿老
20	正木時茂	A	家老

謀略能力

謀略のランキングに主君は外し、武将時代の身分で比べた。一位は成長しやすさの差！

十勇士の親分。面目躍如だ！

順位	名前	能力	主な身分
1	真田幸村	A+	馬廻・宿老
2	竹中半兵衛	A+(軍)	組頭、重臣
3	真田昌幸	A+(軍)	組頭
4	宇佐美定満	A(軍)	家老
5	羽柴秀吉	A+	重臣
5	宇喜多直家	A+	重臣
7	黒田官兵衛	A+	組頭
8	服部半蔵	A	忍者
8	猿飛佐助	A	忍者
8	風魔小太郎	A	忍者
8	百地三太夫	A	忍者
8	小早川隆景	A	宿老
8	竜造寺長信	A	宿老
14	車斯忠	A	家老
15	内藤昌豊	A	奉行・家老
16	本多正信	A	重臣・奉行
17	石川五右衛門	B	忍者
17	霧隠才蔵	B	忍者
19	竹中重元	A	部将
20	藤堂高虎	A	地侍

※主君の謀略活動は危険性が高いので、ランキングから外してあります。

外交能力

九州にあって中央と外交を行った名将・宗麟と、信長包囲網を完成させた義昭がトップ。

最後の足利将軍。意地の1位獲得

順位	名前	能力	主な身分
1	大友宗麟	S	宿老、主君
1	足利義昭	S	宿老、主君
3	太原雪斎	A(軍)	家老
4	織田信長	A+	主君
5	豊臣秀吉	A+	重臣、主君
6	武田信玄	A	主君
6	徳川家康	A	主君
8	佐竹義重	A	宿老、主君
9	北条氏政	A	宿老、主君
10	真田昌幸	A	組頭、主君
11	近衛前久	A	宿老
11	島津義弘	A	宿老
13	黒田長政	A	組頭、宿老
14	岡本禅哲	A	家老
15	安国寺恵瓊	A	奉行
15	村井貞勝	A	奉行
17	小堀政一	A	組頭

その他のランキング

最夭折武将 武田信勝

十五歳

顔のことは触れないでください。昔の人ですから……

最長寿武将 平賀元相

九十八歳

能力は全てC以下。「のんきが一番」とか言ってそう！

最年少武将 真田大助

一六〇二年生

宋滴さんとは125歳違いですか……しかし、若いねぇ～

最長老武将 朝倉宋滴

一四七七年生

この頃は、まだまだ応仁の乱のまっ最中。戦国夜明け前驀進中

イベント発生条件

このゲームで発生する歴史イベントを紹介。一度は見ておきたい。

本能寺の変

シナリオ1～3

発生条件
- ・織田信長が主君の織田家の石高が300万石を越している
- ・家臣に明智光秀がいる
- ・織田家が二条城を持っている状態で、信長が二条城に入る

信長が死亡し、明智家が二条城を本拠地にすえて独立する。織田家でプレイしている場合は気を付けたい。

討伐令

シナリオ1～3

発生条件
- ・プレイヤー勢力が200万石以上ある状態
- ・将軍家と最初に交戦した後、少し後(最長1ヵ月後)に発動

これが発動されると、同盟関係にある大名以外の全大名との友好度が－30になる。将軍家を攻める前には同盟を結べる所とは同盟を結んでおくべきだ。

巌流島の決闘

シナリオ1～5

発生条件
- ・1612年1～3月の間に、宮本武蔵と佐々木巌流が存命
- ・1612年4月13日になる

武蔵60%、佐々木40%の勝率で決闘を行い、勝者は戦闘能力アップ。敗者は死亡する。

関東管領継承

シナリオ1

発生条件
- ・上杉家が滅亡した時、長尾景虎が長尾家の主君
- ・上杉憲政が主君

長尾景虎が上杉謙信と改名し、その他一部の長尾姓の人物も上杉姓に改められる。また、上杉憲政が長尾家の家臣（身分は与力）となる。

改名イベント

武将と城の名前はシナリオによって違うが、イベントによって変わることもある。攻略のひとくぎりとなるイベントが多いのが特徴だ。

武将
- ●**長尾景虎→上杉謙信:** 「関東管領継承」イベント後
- ●**武田晴信→武田信玄:** 1559年4月1日
- ●**松平→徳川:** 家康が松平家の主君で、城を2つ所持
- ●**羽柴→豊臣:** 秀吉が羽柴家の主君で、城を5つ所持

城
- ●**観音寺城→安土城:** 信長が観音寺城に本城を移す
- ●**稲葉山城→岐阜城:** 信長が稲葉山城を持っており、石高が200万石以上に
- ●**石山本願寺→大坂城:** 豊臣家が石山本願寺に本城を移す

三国同盟

シナリオ1

発生条件
- ・1554年3月20日まで武田家、北条家、今川家が存続
- ・1ヵ月以上それぞれが相互に交戦していない
- ・プレイヤーが武田、北条、今川の場合は発生しない

三国がそれぞれ同盟を結び、友好度が最大になる。シナリオ2では、最初から三国同盟の状態で始まる。

伝来イベント

鉄砲伝来はシナリオ①の二年後、キリスト教伝来は八年後、大筒伝来はシナリオ③の七年後である。それを見越して商業開発を行おう。

●鉄砲伝来
- ・1543年8月25日イベント発生
- →町規模4以上の城なら鉄砲隊が編制可能

●キリスト教伝来
- ・1549年8月15日イベント発生
- →「切支丹」コマンドが使用可能に

●大筒伝来
- ・1579年8月20日イベント発生
- →町規模5の城なら大筒隊が編制可能

三本の矢

シナリオ1～2

発生条件
- ・プレイヤーが毛利家 ・毎年1月1日に約20%の確率で発生
- ・毛利元就、毛利隆元、吉川元春、小早川隆景が毛利家におり、存命の状態である

隆元、元春、隆景の3人の能力値（戦闘、内政、外交、謀略）のどれかがランダムでアップする。

長良川の戦い

シナリオ1

発生条件
- ・1556年4月(5月・6月も)20日、斎藤道三が主君で軍団状態でない ・斎藤義龍がその家臣にいる
- ・プレイヤーが斎藤家の場合は発生しない

斎藤道三が死亡して、義龍が主君となる。織田家と斉藤家が同盟していれば、その同盟は破棄される。

制作作業担当者

編集・構成
柴田 洋彦（STUDIO HARD）

本文
兜木 励悟（レイ有限会社）
（協力／楝居 仁　歴史冒険クラブ　http://cyber.hard-jp.com/~rekibo）
長野 克昭、三浦 誠司、中島 理貴、柴田 洋彦（STUDIO HARD）

本文・カバーデザイン
森岡 利明（HYPER ZAP）

グラフィックデザイン
的野 明子（STUDIO HARD）

イラスト
井上 ちよ（STUDIO HARD）

マップ制作
白井 亜紀、保坂 繭（STUDIO HARD）

担当編集
木部 高広

<参考文献>平凡社日本史大事典／別冊歴史読本戦国武将207傑　新人物往来社／別冊太陽戦国百人　平凡社／戦国武将伝　白石一郎　文藝春秋／日本の戦乱・事変・騒動・総解説　自由国民社／戦国史事典　桑田忠親監修　秋田書店／華族誕生　浅見雅男　中央公論新社／新編日本武将列伝　桑田忠親　秋田書店／明智光秀のすべて　二木謙一編　新人物往来社／真田幸村のすべて　小林計一郎編　新人物往来社／島津義弘のすべて　三木靖編　新人物往来社／郷土史事典石川県　高沢裕一編　昌平社／本願寺・一向一揆の研究　吉川弘文館／石川県の歴史　下出積興　山川出版社／本願寺と一向一揆　辻川達夫　誠文堂新光社／石川県の歴史　若林喜三郎監修　北国出版社／一向一揆の研究　北西弘　春秋社／戦国合戦の虚実　鈴木眞哉　講談社／松平氏由緒書き　松平親氏公顕彰会／石川県大百科事典　芳井先一　北国出版社／フロイスの日本覚書　松田毅一、E・ヨリッセン　中央公論社／ヨーロッパ文化と日本文化　ルイス・フロイス、岡田章生訳注　岩波書店／日本の歴史10　永原慶二　中央公論社／日本の歴史11　杉山博　中央公論社／日本の歴史12　林屋辰三郎　中央公論社／日本の歴史13　辻達也　中央公論社／日本史こぼれ話　奈良本辰也ほか　角川書店／戦国の武将と城　井上宗和　角川書店／日本史資料　児玉幸多、菱刈隆永編　吉川弘文館／戦国百人一話　会田雄次　青人社／臨時増刊歴史と旅　日本合戦総覧　秋田書店／日本の名門100家　中嶋繁雄　河出書房新社／世界大百科事典　平凡社／弾左衛門風雲録　早瀬二朗　解放出版社／関ヶ原合戦　二木謙一　中央公論社／岩波日本史辞典　岩波書店／新版日本史辞典　朝尾直弘、宇野俊一、田中琢　角川書店／日本史総覧　新人物往来社／日本歴史大事典　小学館／國史大辞典　吉川弘文館／日本史大辞典　河出書房新社／新潮日本人名辞典　新潮社／新編日本史辞典　京大日本史辞典編纂会編　東京創元社／歴史読本臨時増刊決定版「忍者」のすべて　新人物往来社／戦国大名家臣団事典　山本大、小和田哲男編　新人物往来社

プレイステーション必勝法スペシャル

発行人　加納 将光
編集人　渡辺 匡志
発行所　株式会社 勁文社
〒164-0012 東京都中野区本町3丁目32番15号
TEL 03-3372-3291（営業）
振替 00190-8-13311番
印刷所　凸版印刷株式会社
製本所　明興製本工業株式会社

落丁、乱丁本は、当社にてお取り替えいたします。
発売日、定価はカバーに表示してあります。

ISBN4-7669-3845-3　C0076

第一章　システム紹介

・コマンド解説　・戦国指南

兵種ごとの攻撃力の違いや、武将の能力が向上する条件など、ゲームだけでは分からないマスクデータを一挙公開!

第二章　大名列伝

全大名の攻略を武将数、石高、兵士数のデータを元に充実解説!　また、歴史上の人物のエピソードも紹介してある

第三章　データベース

・武将列伝　・武将データベース
・シナリオ別浪人リスト
・国力データベース
・全国最大石高・特産品図
・データランキング
・イベント発生条件

全武将、全城、全浪人、全イベントを掲載。忠臣属性や能力値が上がりやすい武将、最大石高などマスクデータも公開!

人間五十年
下天のうちを比ぶれば
夢幻の如くなり
ひとたび生を得て
滅せぬもののあるべきか